白山市
差別のない街づくり
調査報告書

―「障害福祉に関する意識調査」―

金沢大学 受託研究 報告書

平成27年3月

田邊　浩

はしがき

本報告書は，白山市から委託された受託研究「白山市差別のない街づくり調査」の研究成果をとりまとめたものである．この調査研究は，白山市が策定を予定している「第４期白山市障害福祉計画」および「白山市差別のない街づくり事業」のための基礎資料とすることを目的として行われたものである．そのために，障害のある方々にご協力をいただき，そうした方々の意識や行動について調査を行った．ニーズをより正確に把握しようと，障害に応じて 4 つの調査票を用意するなど，工夫を試みた．

今回の調査はそれだけにとどまらず，広く市民を対象として，障害や差別に関する意見や考えを尋ねた調査も実施した．それというのも，いわゆる「障害者差別解消法」（「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」）が，平成 28 年 4 月からようやくにして施行されることになっているからである．この障害を理由とした差別に関する意識について調べていることが，今回の調査の大きな特徴といえる．しかし，なかなか難しいテーマであるだけに，今回の調査が成功したかは，いささか心もとないところもある．今後のためにも，本報告書に対して，厳しいご批判，ご叱正を賜れば幸いである．

調査にご協力いただきました多くのみなさまには，深く感謝申し上げたい．今回の調査は質問項目もやや多く，回答することがさぞ面倒だったことと思う．しかも，近年は，回収率の低下など，社会調査を実施することの難しさが深刻なものとなりつつある．しかし，調査ができなければ，人びとの行動や意識を知ることもできないし，社会のあり方を理解し，そうした社会の問題を解決し，よりよい社会の実現につながることがない．この研究が，多少なりとも，「差別のないまちづくり」という目的に貢献するものであることを願っている．

今回の調査研究が実現したのは，白山市障害福祉課のみなさまが調査の必要性を認められ，働きかけてくださったからである．心より御礼申し上げる．白山市障害福祉課との協働作業は 2011 年に実施した「発達障害と共生社会に関する意識調査」に続いて，これで 2 度めとなる．とくに今回の調査では，調査の過程で，調査につきもののいくつかの問題に直面することにもなった．しかし，これに懲りずに，こうした試みを続けてほしい．差別を解消するためには，とにかく人びとの考えを知り，そのうえで差別をなくすための活動を粘り強く続けるしかないからである．成果は着実にあがっていると思う．

この受託研究は，地域創造学類福祉マネジメントコースの平成 26 年度の「公共社会学ゼミ」において研究テーマとして取り上げた．ゼミでは，障害者福祉や差別に関する勉強から始め，社会調査法や社会統計学の知識も身につけながら，この研究に取り組んできた．調査も，結果として約 3000 人を対象とした大掛かりなものとなったので，作業も莫大なものとなった．調査データを収集してからは，パソコンで統計処理ソフトウェアを操りながら分析に格闘した．そうした一年間にわたる成果が，こうして報告書とまとまることになり，大変喜ばしく思う．ゼミ生のみなさんのがんばりを讃えたい．どうもありがとう．

平成２７年３月

田邊　浩

目　　次

はしがき　田邊　浩　i

第 Ⅰ 部　障害福祉に関する当事者の意識調査

第 1 章　障害福祉に関する意識調査の概要・・・・・・・・・・・・・・田邊　浩　1

第 2 章　身体障害のある人の意識と行動・・・・・・・・・・・・・・・・渡辺　健太郎　5

第 3 章　知的障害のある人の意識と行動・・・・・・・・・・・・・・・・窪内　綾　19

第 4 章　精神障害のある人の意識と行動・・・・・・・・・・・・・・・・岡本　惇太　41

第 5 章　障害のある児童の意識と行動・・・・・・・・・・・・・・・・・窪内　綾　59

第 Ⅱ 部　障害福祉に関する市民の意識調査

第 6 章　障害福祉に関する市民意識調査の概要・・・・・・・・・・田邊　浩　79

第 7 章　障害福祉に関する市民の意識・・・・・・・・・・・・・・・・・杜　林　83

第 Ⅲ 部　意識調査データの分析

第 8 章　障害のある人の地域生活について・・・・・・・・・・・・・・岡本　惇太　91

第 9 章　障害のある人とない人の障害観・・・・・・・・・・・・・・・・渡辺　健太郎　97

第 10 章　障害のある人とない人との関わり・・・・・・・・・・・・・・窪内　綾　105

資　　料

資料１　障害福祉に関する意識調査（身体障害のある人）

調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・

資料２　障害福祉に関する意識調査（知的障害のある人）

調査票・・・

第Ⅰ部　障害福祉に関する当事者の意識調査

第１章　障害福祉に関する意識調査の概要
–4 つの「障害福祉に関する意識調査」–

田邊　浩

1　調査の目的

今回の調査は，白山市が「第４次障害福祉計画」および「白山市差別のない街づくり事業」の基礎資料とすることを目的として実施されたものである．そのために，白山市にお住まいの，身体障害者手帳，療育手帳および精神障害者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方々を対象として,そうした方々のご意見やお考え,ご要望等をお尋ねしたものである.

2　調査の方法

2.1　調査対象者

調査の実施者は白山市であるが,金沢大学が委託され,多くの部分を金沢大学が担った.まず，調査対象者であるが，一口に障害のある人と言っても，障害の種類によっていろいろなことが大きく異なるはずである．たとえば，ニーズなども違っていて当然であろう．そこで，今回の調査では，そうしたことをより精密に把握するために，それぞれ異なった手帳をお持ちの方をそれぞれ母集団とし，単純無作為抽出法で対象者を抽出して，調査を実施した．すなわち，(1) 身体障害のある方，(2) 知的障害のある方，(3) 精神障害のある方，(4) 障害のある児童の 4 つに分け，それぞれに異なった調査票を用意した．障害のある児童は 18 歳未満であるが，その他の障害のある方では，18 歳以上 80 歳未満の方を対象とした.

調査の方法は，郵送法による調査票調査である．平成 26 年 10 月 2 日に発送し，締め切りを 10 月 14 日として依頼した. 10 月 15 日に督促状を送付し, 締め切りをとした 10 月 20 日として調査への協力をお願いした.

2.2　回収結果

障害のある方全体のサンプルサイズを 1500 として設計し，それぞれのサンプルサイズは分析のためにある程度の数を確保できるように考慮して,以下のようにした.すなわち,身体障害のある方は 809 名，知的障害のある方は 271 名，精神障害のある方は 281 名，そ

して障害のある児童は 139 名である．有効回収数および有効回収率は，表 1 のとおりである．いずれもほぼ 50%を越えてはいるが，身体障害のある方の回収率がとくに高くなっている．

表 1　回収結果

	身体障害	知的障害	精神障害	障害児
サンプルサイズ	809	271	281	139
有効回収数	500	148	139	83
有効回収率（%）	61.8	54.6	49.5	59.7

3　回答者の基本的属性

3.1　記入者

本調査は，やや特殊ではあるが，調査票への記入者について尋ねている．というのも，実際に，対象者ご本人が記入することが難しい場合が容易に想定できるからである．多くの自治体でなされている同様の調査において，ほぼこのような取り扱いがなされているので，この調査でもそれらに倣った．

結果は図 1 のとおりである．身体障害のある方では，ご本人が記入したとするのが 8 割以上である．また，精神障害のある方でも，4 分の 3 でご本人が記入している．対して，

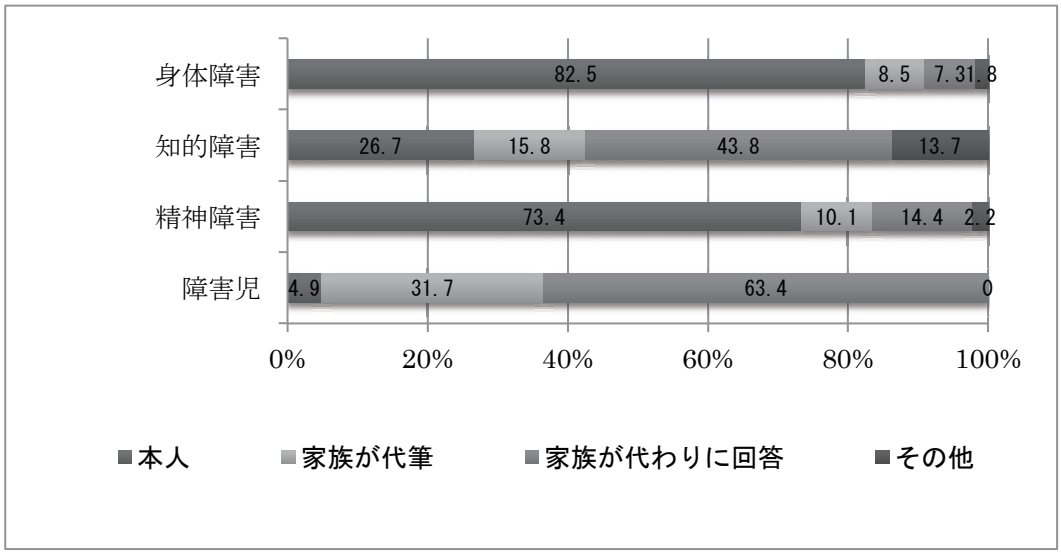

図 1　調査票記入者

知的障害のある方や障害児では，ご本人の記入はかなり少なくなっている．知的障害のある方と障害のある児童を対象とした調査票では，すべての漢字にルビをふるなどしたが，知的障害では，4 割を越える人が，本人に代わって家族が回答しているし，障害のある児童では，家族の代筆が 3 割，本人に代わっての家族の解答は 6 割を越えている．とくに障害のある児童では，かなり低い年齢も対象者に含めたため，このようなことはある程度やむを得ないことであった．

3.2　性別

つぎに，回答者の性別であるが，図 2 のとおりである．障害の種類によって，男女の比率にはかなりばらつきがみられる．知的障害のある方では女性が多くなっているが，それ以外の身体障害のある方，精神障害のある方，そして障害のある児童では，男性の方がかなり多くなっている．　とくに障害のある児童では男性が 3 分の 2 近くなっている．

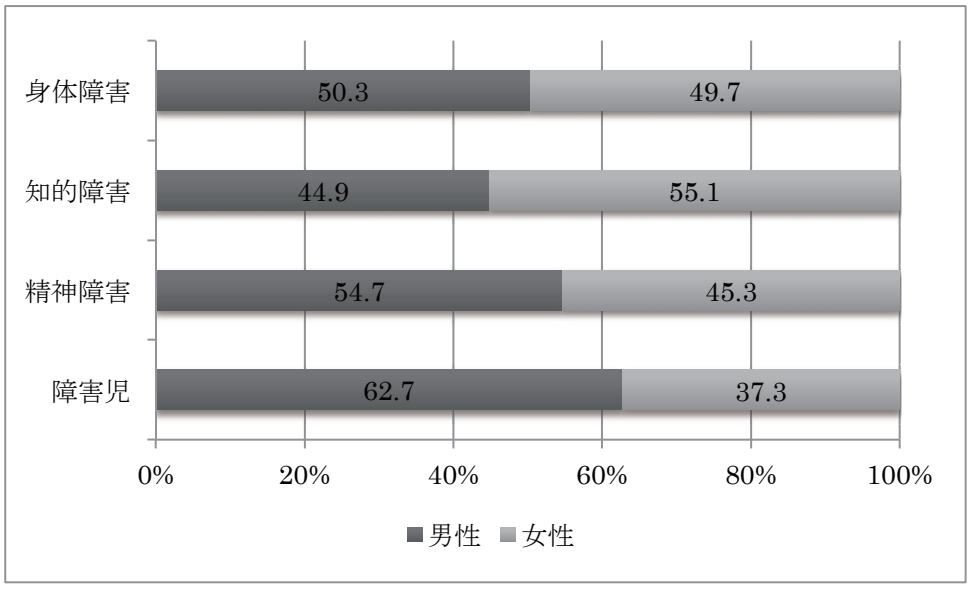

図 2　回答者の性別

3.3　回答者の年齢

障害のある児童は，18 歳未満が対象となっており，10 歳未満が 48%，10 歳から 18 歳未満が 52%となっている．それ以外では，18 歳以上 80 歳未満が対象となっているが，身体障害のある人で 60 代，70 代が顕著に多くなっている．年齢層では 20 代が 10%程度であり，他の年齢層より低くなっている（図 3）．もともとこの年代は他の年齢層に比較して人口も少なくはなっているが，若年層では回答してくれる人も少なくはなっている．

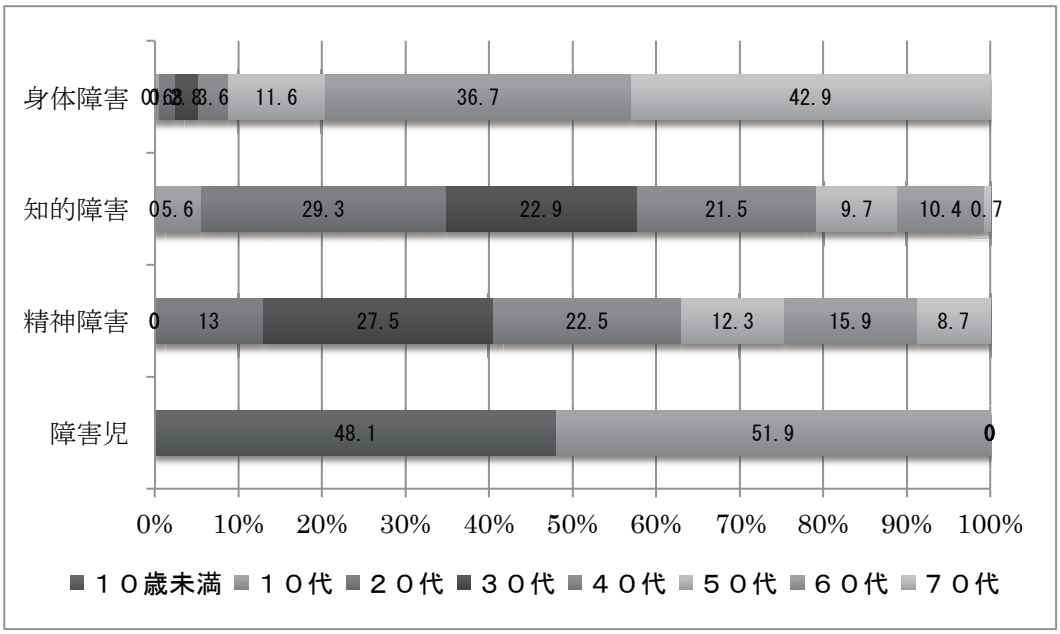

図 3　回答者の年齢層

3.4　回答者の居住地域

回答者のお住まいの地域についても確認した．これは障害によって大きな違いは見られず，6 割を越える人が松任地区，約 1 割が美川地区，ほぼ 2 割が鶴来地区となっている（図 4）．

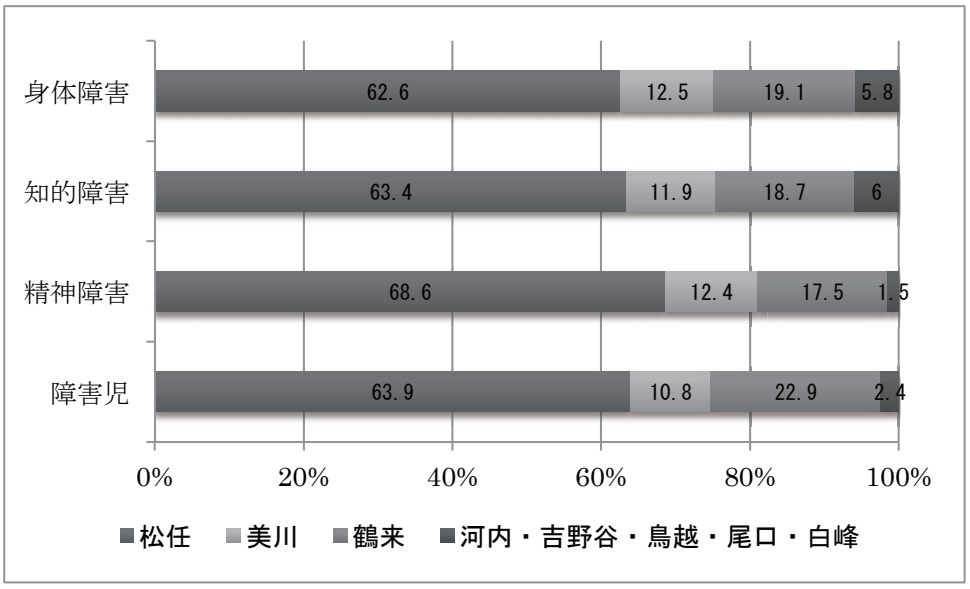

図 4　回答者の居住地域

第 2 章　身体障害のある人の意識と行動

渡辺　健太郎

1　回答者の属性について

本調査における回答者の性別の分布は，表 1 のようになった．回答者に占める割合は，男女それぞれ約 50%である．そのため，今回の調査結果から明らかになる傾向は，男女のどちらかに偏ったものではないといえる．

表 1　性別

	度数	%
男性	252	50.3
女性	249	49.7
合計（有効ケース）	501	100.0

表 2　年齢

	度数	%
10 代	3	0.6
20 代	9	1.8
30 代	14	2.8
40 代	18	3.6
50 代	58	11.6
60 代	183	36.5
70 代	211	42.2
80 代	4	0.8
合計（有効ケース）	500	100.0

身体障害をもつ人の年齢分布をみると（表 2)，「60 代」(36.5%）と「70 代」(42.2%）が，それぞれ白山市の身体障害をもつ人の 4 割近くを占めていることがわかる．このことから，白山市における身体障害をもつ人には高齢者が多いということがわかる．

表 3 からは，白山市における身体障害を持つ人のうち，仕事によって得られる 1 年間の収入が 100 万円未満の人は 29.2%であることがわかる．平成 25 年の国民生活基礎調査の結果では，1 年間の所得が 100 万円未満であった世帯は全体の 6.2%となっている．個人収入と世帯収入という違いがあるため単純な比較はできないが，白山市における身体障害をもつ人の収入は，比較的低いところに集中していると考えられる．

表 3　仕事によって得られる 1 年間の収入

	度数	%
なし	2	1.1
５０万円未満	11	6.2
５０～１００万円未満	41	23.0
１００～２００万円未満	36	20.2
２００～３００万円未満	23	12.9
３００～４００万円未満	19	10.7
４００～５００万円未満	6	3.4
５００～６００万円未満	6	3.4
６００～７００万円未満	22	12.4
７００～８００万円未満	1	0.6
８００～９００万円未満	2	1.1
９００～１０００万円未満	2	1.1
１０００万円以上	2	1.1
わからない	5	2.8
合計（有効ケース）	178	100.0

働いていない理由（表 4）については，「高齢のため」（41.4%）という理由が最も多く，次いで「病気のため」（22.5%），「重度の障害のため」（16.9%）という理由が続いた．白山市における身体障害をもつ人には，高齢者が多いために，高齢が理由で働くことができない人たちも多い一方で，その障害によって働くことが困難である状況が確認できる．

表 4　働いていない理由

	度数	%
働く所がないため	6	2.0
通勤が困難なため	3	1.0
自分にあった仕事がないため	13	4.2
高齢のため	127	41.4
病気のため	69	22.5
重度の障害のため	52	16.9
家事に専念しているため	23	7.5
その他	14	4.6
合計（有効ケース）	307	100.0

働きたいと回答している人は約 4 割であった（表 5）．また，「働きたいが，自分の心身の状況などを考えると難しい」と回答している人が 35.4%おり，障害や高齢によって，就労が困難になっている状況がうかがわれる．

表 5　今後働きたいと考えているか

	度数	%
働きたい	21	7.1
働きたいが，自分の心身の状況などを考えると難しい	104	35.4
働きたくない	61	20.7
働く必要がない	78	26.5
わからない	30	10.2
合計（有効ケース）	294	100.0

現在，仕事をしていない身体障害をもつ人 147 人のうち，38 人（25.9%）が，その他を除き，「パート・アルバイト・臨時雇い」という形での労働を希望していた（表 6）．こうした結果からは，一般に不安定な労働形態として否定的に語られがちな「パート・アルバイト・臨時雇い」という労働形態も，身体障害をもつ人にとっては，働きやすい労働形態であるのではないかと考えられる．

表 6　希望する労働形態

	度数	%
常勤	7	4.8
パート・アルバイト・臨時雇い	38	25.9
家の仕事	28	19.0
就労移行支援・就労継続支援・作業所など	12	8.2
内職	21	14.3
その他	41	27.9
合計（有効ケース）	147	100.0

2　主な支援者

表 7 から，白山市における身体障害をもつ人の 6 割は，配偶者が主な支援者であることがわかる．また，白山市における身体障害をもつ人にとっては，配偶者に次いで，子どもが主な支援者であることもわかる．これらの結果から，身体障害をもつ人にとっては，家族が主な支援者となっているといえるだろう．白山市における身体障害をもつ人の支援を考える際には，支援者としての家族の負担も考慮する必要があるのではないだろうか．

表 7　主な支援者

	度数	%
配偶者	286	59.0
子ども	75	15.5
子どもの配偶者	15	3.1
自分の父母	31	6.4
配偶者の父母	0	0
自分の兄弟姉妹	19	3.9
配偶者の兄弟姉妹	0	0
自分の祖父母	0	0
配偶者の祖父母	0	0
孫	4	0.8
支援者はいない	34	7.0
その他	21	4.3
合計（有効ケース）	485	100.0

3　相談先

表 8 から，白山市における身体障害をもつ人の主な相談先は家族であり，約 8 割の身体障害をもつ人が家族に相談をするということがわかる. そのほかの相談先としては, 親戚, 友人・知人，市役所，児童相談所などの行政機関，医師や看護師などの医療関係者が挙げられている．しかし，割合を見れば明らかなように，約 8 割の人が家族を相談先に選ぶ一方で，上記の相談先を選ぶ人は約 2 割から 3 割程度だ．やはり，相談相手としても家族の果たす機能は大きいようである.

先ほどの表 7 とあわせて考えると,「相談」にのることは，家族による支援の一つのあり方だとも考えられるのではないだろうか．ひとくちに「支援」といっても，介護などの物理的な意味での「支援」に加え，相談などの精神的な意味での「支援」も含まれているのだと考えられる.

表 8　相談先

	度数	%
家族	393	81.7
親戚	109	22.7
友人・知人	125	26.0
市役所，児童相談所などの行政機関	89	18.5
障害者団体，患者団体や家族会	9	1.9
民生委員・児童委員	27	5.6
障害者相談員	38	7.9
相談支援事業所	11	2.3
施設や作業所の職員	16	3.3
グループホームの世話人	8	1.7
居宅介護のヘルパー	19	4.0
発達相談センター	0	0
配偶者の兄弟姉妹	29	6.0
高齢者支援センター	25	5.2
社会福祉協議会	17	3.5
医師や看護師などの医療関係者	75	15.6
学校の先生	2	0.4
職場の人	14	2.9
障害者就業・生活支援センター	8	1.7
相談したいができない（しない）	25	5.2
悩みや困ったことはない	22	4.6
その他	8	1.7
合計（有効ケース）	481	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

4　身体障害をもつ人の困難について

外出するうえで「とくに困ることはない」人を除いたうえで，白山市における身体障害をもつ人の 26.5%が，外出の際に，道路や駅の段差や階段，障害物などで困っている（表

9）．また，17.8%の人は，「出入り口や階段，トイレなど建物が容易に利用できるよう改良されていない」ことに困っている．こうした困難は，移動に伴うものであるとまとめることができるだろう．

移動に伴う困難が，身体障害をもつ人に特有の困難だと考えるのならば，今回の調査結果から明らかになった，「身体障害をもつ人の目線」に立った，バリアフリー化が求められるだろう．

表 9　外出時の困難

	度数	%
バス・電車などが容易に利用できるよう改良されていない	72	15.3
乗り物や公共施設の案内表示がわかりにくい	37	7.8
道路や駅に段差や階段，障害物などが多い	125	26.5
出入り口や階段，トイレなど建物が用意に利用できるよう改良されていない	84	17.8
車などに危険を感じる	38	8.1
まわりが気にかかる	29	6.1
支援者がいないので外出できない	16	3.4
人とのコミュニケーションがとりにくい	28	5.9
ほとんど外出しないのでわからない	21	4.4
とくに困ることはない	235	49.9
その他	22	4.7
合計（有効ケース）	472	

*．%は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

最も多くの身体障害をもつ人（48.6%）が災害時に困ると考えているのは，「投薬や治療を受けられないこと」である（表 10）．しかし，災害時に予想される，投薬や治療以外の困難については，身体障害をもつ人に特有の困難が明らかとなった．身体障害をもつ人が安全なところまで，迅速に避難することができない状況や，避難所の設備について不安がある状況を，周囲の人に理解してもらえないとなると，困難はより深刻なものになると考えられる．

表 10　災害時の困難

	度数	%
投薬や治療を受けられない	233	48.6
補装具の使用が困難になる	59	12.3
補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	76	15.9
自分の状況が周囲の人に理解してもらえない	115	24.0
安全なところまで，迅速に避難することができない	229	47.8
被害状況，避難所の場所，物資の入手方法などの情報が入ってこない	83	17.3
周囲の人とコミュニケーションがとれない	54	11.3
避難所の設備について不安	196	40.9
家族の安否情報がとりづらい	81	16.9
救助を求めることができない	51	10.6
とくにない	84	17.5
その他	14	2.9
合計（有効ケース）	479	

*．%は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

白山市の身体障害をもつ人には，災害時に予想される固有の困難や不安がある一方，白山市が災害時に要援護者に対する支援を行うために，災害時要援護者マップを作成していることを知っている身体障害をもつ人は約 4 割にとどまった（表 11）．

表 11　災害時要援護者マップについて知っているか

	度数	%
知っている	198	40.7
知らない	288	59.3
合計（有効ケース）	485	100.0

白山市の災害時要援護者マップ作成に，現在は同意していないが，今後は同意するつもりだと回答した身体障害をもつ人は約 7 割いた（表 12）．災害時要援護者マップを知らな

い身体障害をもつ人が 6 割近くいることからも，今後は災害時要援護者マップを広く周知させることが求められるだろう．

表 12　マップ作成についての同意

	度数	%
同意するつもりはない	86	31.9
同意するつもりだ	184	68.1
合計（有効ケース）	270	100.0

5　暮らしやすくなるために，とくにしてほしいこと

白山市の 46.2%の身体障害をもつ人が，暮らしやすくなるためにとくにしてほしいと感じていることは，年金などの経済的な援助を増やすことである（表 13）．先ほど表 2 で確認をしたように，白山市における身体障害をもつ人の多くは，60 代から 70 代の高齢者である．こうした事情からも，年金などの経済的な援助が重要性を帯びているのだと考えられる．

表 13　暮らしやすくなるために，とくにしてほしいこと

	度数	%
毎日の生活の手助けがもっとほしい	28	6.1
外出の支援をしてほしい	48	10.5
障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい	88	19.3
障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい	67	14.7
一般企業で働くことが難しいので，就労支援施設などを増やしてほしい	24	5.3
ジョブコーチ制度を充実させてほしい	10	2.2
リハビリ訓練の場所を増やしてほしい	75	16.4
障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい	38	8.3
外出しやすい環境や交通機関の利便を図ってほしい	91	19.9
いつでもなんでも相談できる窓口を用意してほしい	108	23.6
いつでも何でも話し合える相談相手や仲間がほしい	52	11.4
年金などの経済的な援助を増やしてほしい	211	46.2
スポーツ・レクリエーション・教育・文化活動に対する援助をしてほしい	26	5.7
福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい	85	18.6
円滑なコミュニケーションができるように，障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい	48	10.5
とくにない	117	25.6
その他	15	3.3
合計（有効ケース）	457	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

6　差別について

表 14 からは, 82.2%の身体障害をもつ人は差別をされたことがないと感じている一方で, 割合では 17.8%の人が何らかの差別をされたことがあると感じていることがわかる.

表 14　差別をされたと感じたこと

	度数	%
ある	83	17.8
ない	383	82.2
合計（有効ケース）	466	100.0

差別を受けた分野については,「その他」を除き,「交通や建物のバリアフリー化」(20.0%)や「医療」(14.3%),「行政手続き」(11.4%) が目立った（表 15）．特に,「交通や建物のバリアフリー化」については，身体障害をもつ人に特有の差別的な状況があるのだと考えられる．

表 15　差別を受けた分野

	度数	%
医療	15	14.3
教育・療育	7	6.7
交通や建物のバリアフリー化	21	20.0
防災	7	6.7
情報バリアフリー	7	6.7
行政手続き	12	11.4
文化活動	6	5.7
政治参加	4	3.8
その他	31	29.5
合計（有効ケース）	105	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

7　雇用について

表 16 からは，障害のある人の雇用を促すためには，国や地方自治体からの助成金が必要だと考えている人が,白山市における身体障害をもつ人の約 8 割にのぼることがわかる．

こうした結果からは，障害のある人の雇用を促していく際には，民間の努力だけが必要なのではなく，公的な支援も必要だと考えられていることもわかる．

表 16　障害のある人の雇用を促すためには，国や地方自治体からの助成金が必要だ

	度数	%
そう思う	228	54.6
どちらかといえばそう思う	116	27.6
どちらともいえない	62	14.8
どちらかといえばそう思わない	5	1.2
そう思わない	9	2.1
合計（有効ケース）	420	100.0

表 17　企業は，障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備しなければならない

	度数	%
そう思う	177	43.4
どちらかといえばそう思う	141	34.6
どちらともいえない	83	20.3
どちらかといえばそう思わない	2	0.5
そう思わない	5	1.2
合計（有効ケース）	408	100.0

表 17 から，企業は障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備しなければならないと考えている人が，白山市における身体障害をもつ人の約 8 割にのぼるということがわかる．こうした結果からは，障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備することが，国だけの義務として考えられているのではなく，企業の義務としても考えられているということがわかる．

白山市における身体障害をもつ人のうち，障害のある人に特化した就労支援が必要であると考えている人は，約 7 割であった（表 18）．こうした結果からは，身体障害をもつ人に特有の困難に特化した就労支援が求められているとも考えられる．

表 18　障害のある人に特化した就労支援が必要である

	度数	%
そう思う	155	38.1
どちらかといえばそう思う	135	33.2
どちらともいえない	101	24.8
どちらかといえばそう思わない	9	2.2
そう思わない	7	1.7
合計（有効ケース）	407	100.0

8　政策について

障害のある人を支援するための政策として，最も重要なことに挙げられたのは「障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること」(35.2%) であった（表 19）．さきほどの表 13 においても，経済的な援助の重要性があらわれていた．

身体障害をもつ人の福祉を考えていくとき，身体障害をもつ人に対する差別は，見過ごすことができない（表 14）．今回の調査結果からは，身体障害をもつ人の福祉を論ずる際には，差別の解消に加え，経済的な支援も重要であるということが，あらためて明らかになったといえるだろう．

表 19　障害のある人を支援するための政策として，もっとも重要なこと

	度数	%
障害のある人の権利や尊厳を守ること	113	27.2
障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること	146	35.2
障害のある人に働く機会を提供したり，働きやすい環境を整えたりすること	85	20.5
障害のある人に世間並みの住居を提供すること	5	1.2
障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること	21	5.1
障害のある人をケアしている人を支援すること	45	10.8
合計（有効ケース）	415	100.0

白山市における身体障害をもつ人の約 8 割が，政府は，働きたいというすべての人に働く機会を提供すべきであると考えている（表 20）. 働きたいと考えているにもかかわらず，働くことができないような状況が，こうした傾向の背景にあるのではないだろうか.

表 20　政府は，働きたいというすべての人に働く機会を提供すべきである

	度数	%
そう思う	214	50.7
どちらかといえばそう思う	125	29.6
どちらともいえない	72	17.1
どちらかといえばそう思わない	6	1.4
そう思わない	5	1.2
合計（有効ケース）	422	100.0

参考文献

厚生労働省，2013，「平成 25 年　国民生活基礎調査の概況」(2015 年 3 月 16 日取得 http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa13/).

第 3 章　知的障害のある人の意識と行動

窪内　綾

1　回答者の属性

回答者の属性は以下のとおりである．まずこのアンケートの回答者は表 1 のとおり，半分近く，家族の方が本人に代わって回答している．知的障害の方に関しては，実際にご本人が回答することが困難である場合が多く，ある程度予想したとおりである．結果を見ていく際に，厳密にはこの点に注意する必要があるが，ここでは単純集計以上の分析はしていないので，まとめて集計をしている．

表 1　回答者

	度数	%
ご本人が記入	39	26.7
ご家族が代筆	23	15.8
ご家族がご本人に代わって回答	64	43.8
その他	20	13.7
合計	146	100.0

回答者の性別は表 2 のとおりで，女性の回答者が 55%程度，男性の回答者が 45%程度度と，女性の回答者の方がやや多い．よって，これからうかがえる結果は，女性の意見がやや強く反映されているといえるだろう．

表 2　回答者の性別

	度数	%
男性	66	44.9
女性	81	55.1
合計	147	100.0

回答者の住まいは表 2 のとおりである．約 6 割の回答者が松任地域の方々であり，次いで鶴来，美川が多くなっている．白山市でもとくに松任に，知的障害の方が多く住まわれていることがわかる．

表 3　お住まいの地域

	度数	%
松任	85	63.4
美川	16	11.9
鶴来	25	18.7
河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰	8	6.0
合計	134	100.0

表 4 は，回答者の年齢である．20 代の回答者が約 30%で一番多い．20～40 代を合わせると全体の約 7 割であるので，これからうかがえる結果は 20～40 代の方の意見が強く反映されているといえる．

表 4　年齢

	度数	%
10 代	8	5.6
20 代	42	29.3
30 代	33	22.9
40 代	31	21.5
50 代	14	9.7
60 代	15	10.4
70 代	1	0.7
合計	144	100.0

回答者の家族人数は表 5 のとおりで，4 人家族が 25%程度で一番多い．次いで 3 人家族が 21%程度で，一人暮らしと回答した人が 16%程度で 3 番目に多かった．一人暮らしの知的障害の方が 23 人もいたことは驚きである．

表 5　世帯人員数

	度数	%
1 人	23	16.2
2 人	12	8.5
3 人	31	21.8
4 人	36	25.4
5 人	18	12.7
6 人	11	7.7
7 人	10	7.0
9 人	1	0.7
合計	142	100.0

表 6　同居している家族

	度数	%
配偶者（夫・妻）	7	4.9
子ども	5	3.5
子どもの配偶者	0	0
自分の父母	101	71.1
配偶者の父母	4	2.8
自分の兄弟姉妹	67	47.2
配偶者の兄弟姉妹	0	0
自分の祖父母	27	19.0
配偶者の祖父母	0	0
孫	1	0.7
その他	16	11.3
あてはまる人はいない	17	12.0
合計	142	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

回答者の同居家族は表 6 のとおり， 親と暮らしている人が 71%程度と一番多い．このアンケートも，本人の親が代わりに回答，または代筆した可能性が高い．次に多いのが兄弟姉妹で半数近くである．

回答者の現在の住まいは表 7 のとおりで，一戸建て住宅が約 7 割である．次に多いのが，10%程度ではあるが，グループホーム・ケアホーム・福祉ホームであった．ほとんどの知的障害の方は施設を利用してないことがうかがえる．

表 7　住居形態

	度数	%
持ち家（一戸建て住宅）	101	68.7
持ち家（集合住宅）	0	0
市営・県営などの公的賃貸住宅	2	1.4
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	16	10.9
民間の借家・賃貸アパート・マンション	4	2.7
その他	24	16.3
合計	147	100.0

表 8　これからの生活をどこで送りたいですか

	度数	%
持ち家（一戸建て住宅）	66	46.2
持ち家（集合住宅[マンションなど]）	4	2.8
市営・県営などの公的賃貸住宅	2	1.4
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	34	23.8
民間の借家・賃貸アパート・マンション	5	3.5
入所施設	28	19.6
その他	4	2.8
合計	143	100.0

これからの生活をどこで送りたいかという質問でも，表 8 のとおり，一戸建て住宅がもっとも多かった．しかし，表 7 と比較すると減っており，施設で暮らしたいという回答が増えている．現在一戸建て住宅に住んでいる方の約 3 割が，将来は施設を利用したいと考えているようだ．

2　障害の種類，等級など

対象者の障害については以下のとおりである．まず療育手帳の判定のうちわけは表 9 のとおりであった．「B2」か「B2」かわからないと回答した方が 3 名いたため，その人は「B」と表記する．この表によると，重度の方が半数近くいることがわかる．

表 9　療育手帳の判定

	度数	%
A	65	46.1
B 1	44	31.2
B 2	29	20.6
B	3	2.1
合計	141	100.0

表 10　あなたが療育手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか

	度数	%
10 歳未満	33	26.4
10 代	57	45.6
20 代	19	15.2
30 代	11	8.8
40 代	4	3.2
50 代	1	0.8
合計	125	100.0

療育手帳を初めて取得した年齢は，表 10 のとおりで，約 7 割の人が 20 歳未満で取得している．療育手帳を取得したときの年齢が高い人がいるのは，療育手帳制度の成立が 1970 年代であることと関連がある可能性が高いと思われる．

身体障害者手帳については，持っているのは 2 割程度であり，その等級のうちわけは表 11 のとおり，1 級と回答した人が半数近くいた．半数以上の人が重い障害であることがわかる．

表 11　あなたの身体障害者手帳の等級は、総合等級では何級ですか

	度数	%
１級	15	48.4
２級	8	25.8
３級	5	16.1
４級	1	3.2
５級	1	3.2
６級	1	3.2
合計	31	100.0

表 12　あなたの障害はどのような障害ですか

	度数	%
視覚障害	6	18.8
聴覚障害、平衡機能障害	4	12.5
音声・言語機能障害、そしゃく機能障害	3	9.4
肢体不自由	22	68.8
内部障害	2	6.3
合計	32	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

その障害のうちわけは，表 12 のとおりで，肢体不自由が約 7 割で，次いで視覚障害が多かった．表 11 とあわせて考えると，重度の肢体不自由の方が半数近くいるのではないかと思われる．

表 13 ではその障害の原因をまとめた．この表によると，6 割が先天性である．表 11，表 12 とあわせて考えると，身体障害者手帳を持っている人の約半数が，生まれつき重度の肢体不自由であると考えられる．

表 13　障害の原因

	度数	%
交通事故	0	0
労働災害	0	0
その他の事故	4	13.3
先天性（生まれつき）	18	60.0
疾病	2	6.7
その他	6	20.0
合計	30	100.0

表 14　障害区分

	度数	%
区分 1	1	1.5
区分 2	6	9.1
区分 3	10	15.2
区分 4	14	21.2
区分 5	13	19.7
区分 6	16	24.2
わからない	6	9.1
合計	66	100.0

表は割愛するが，精神障害者保健福祉手帳については，持っている人は 1 人で，その等級は 1 級であった．難病（特定疾患）の認定を受けているのは 6 人と 4%程度であり，発達障害（自閉症，学習障害など）の診断を受けているのは 40 人と 30%程度であった．

障害支援区分の認定を受けている人は 68 人と約半数であった．その障害支援区分は表 14 のとおりである．区分 1 から区分 6 にかけて度数が高くなっているため，支援の度合が

高いと認定された人の方が多いことがわかる.

3　日常生活上の支援者

主な支援者に対して必要だと思われるケアやサポートがあるかという質問をしたところ,表 15 のとおりだが,「特にない」と回答した人が 2 割近くいた.「緊急時のサポート」「代わりに支援を頼めること」が約 15%ではあるが，他よりも多く，必要とされていることがうかがえる.

表 15　主な支援者に対して必要だと思われるケアやサポート

	度数	%
仕事ができるようなサポート	11	8.0
外出できるようなサポート	14	10.1
代わりに支援を頼めること	20	14.5
支援者本人が自分の時間を持てるようにすること	4	2.9
支援の方法に関するアドバイス	6	4.3
経済的な援助	16	11.6
相談する相手	14	10.1
緊急時のサポート	23	16.7
特にない	27	19.6
その他	3	2.2
合計	138	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

主な支援者が高齢，病気などで将来介助ができなくなった場合，表 16 のとおり,「グループホーム・ケアホーム・福祉ホームで暮らしたい」「施設に入所する」と回答した人がそれぞれ約 3 割で，施設を利用したいと思う人が多いことがわかる．これに対し,「親族の支援を受ける」「ホームヘルパーを利用し、自宅で暮らしたい」と回答した人はあわせて 3 割近くおり，自宅で暮らしたいと思っている人も多数いることがうかがえる.

表 16　主な支援者が高齢、病気などで将来介助ができなくなった場合は、どうしますか

	度数	%
親族の支援を受ける	24	18.3
ホームヘルパーを利用し、自宅で暮らしたい	15	11.5
グループホーム・ケアホーム・福祉ホームで暮らしたい	47	35.9
施設に入所する	36	27.5
その他	9	6.9
合計	131	100.0

居宅介護（ホームヘルプサービス）について利用しているか尋ねたところ，表 17 のとおり，「利用したことはないが、今後利用したい」と回答した人が最も多く，次いで「利用したことはなく、今後も利用しない」「サービスについて知らない」という回答であった．「利用している」「今は利用していないが、利用したことはある」と回答したのはあわせて10%程度であった．

表 17　居宅介護（ホームヘルプサービス）の利用

	度数	%
利用している	9	6.8
今は利用していないが、利用したことはある	8	6.0
利用したことはないが、今後利用したい	45	33.8
利用したことはなく、今後も利用しない	41	30.8
サービスについて知らない	30	22.6
合計	133	100.0

悩みや困ったことがある場合の相談先は，表 18 のとおり，家族が 70%程度と一番多く，次いで施設や作業所の職員が 50%程度であった．これに対し，行政機関に相談する人は20%程度であった．やはり親しみのある人に相談する傾向があるようだ．

表 18　あなたは悩みや困ったことがある場合、どちらに相談されますか

	度数	%
家族	102	70.3
親戚	18	12.4
友人・知人	17	11.7
市役所、児童相談所などの行政機関	29	20.0
障害者団体、患者団体や家族会	7	4.8
民生委員・児童委員	6	4.1
障害者相談員	19	13.1
相談支援事業所	20	13.8
施設や作業所の職員	73	50.3
グループホームの世話人	13	9.0
居宅介護のヘルパー	1	0.7
発達相談センター	4	2.8
配偶者の兄弟姉妹	2	1.4
高齢者支援センター	1	0.7
社会福祉協議会	6	4.1
医師や看護師などの医療関係者	12	8.3
学校の先生	2	1.4
職場の人	14	9.7
障害者就業・生活支援センター	12	8.3
相談したいができない（しない）	7	4.8
悩みや困ったことはない	2	1.4
その他	8	5.5
合計	145	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

4　仕事

仕事の状況についての質問では表 19 のとおり，仕事をしていると回答した人が 7 割近くいた. 表は割愛するが, その職業形態は就労移行支援・就労継続支援・作業所などが 73%

程度ともっとも多かった.

表 19　仕事や通学の状況

	度数	%
仕事をしている	100	68.5
仕事はしていない	43	29.5
通学・職業訓練中	3	2.1
合計	146	100.0

仕事で悩みや困っていることがあるかという質問では，表 20 のとおり，33%程度の人がとくにないと回答している．もっとも多かった悩みは「障害がない人と比べて給料が安い」であり，次いで「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」であった.

表 20　仕事の悩みや困っていること

	度数	%
仕事が難しい	17	17.7
障害について理解や協力をしてもらえない	7	7.3
職場までの通勤が不便である	10	10.4
職場の建物や机などの設備が使いにくい	2	2.1
職場でのコミュニケーションがうまくとれない	23	24.0
障害がない人と比べて仕事の内容や昇進などに差がある	6	6.3
障害がない人と比べて給料が安い	25	26.0
職場での人間関係がうまくいかない	13	13.5
とくに困っていることや悩みはない	32	33.3
その他	3	3.1
合計	96	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

就職するときにどこの支援を受けたかという質問では，表 21 のような結果であった．学校と回答した人が半数近くおり，次に多かったのがハローワーク，就労移行支援事業所

であった．この表からも，つきあいの長い人の方が相談しやすいのであろうということがうかがえる．

表 21　就職するときに、どこの支援を受けましたか

	度数	%
ハローワーク	21	23.3
学校	43	47.8
石川障害者職業センター	13	14.4
金沢障害者就業・生活支援センター	4	4.4
小松障害者就業・生活支援センター	2	2.2
就労移行支援事業所	16	17.8
支援を受けていない	12	13.3
その他	10	11.1
合計	90	

*．%は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

表 22　あなたは障害のある人が就労しやすくするため、何が必要と考えますか

	度数	%
就労に必要な技術や知識を身につけるための訓練の場	58	44.6
通勤するための移動サービス	47	36.2
行政の雇用支援	54	41.5
障害のある人の雇用に対する雇用者側の理解と努力	81	62.3
障害のある人自身の就労に対する意識改革	34	26.2
市民に対する障害のある人の就労に関する啓発	43	33.1
その他	8	6.2
合計	130	

*．%は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

障害のある人が就労しやすくするために必要なものは何かという質問では，表 22 のような回答結果であった．「障害のある人の雇用に対する雇用者側の理解と努力」は半数以上

の人が必要と考えていた.「就労に必要な技術や知識を身につけるための訓練の場」「行政の雇用支援」も半数以上の人が必要と考えていた.障害のない人の協力はもちろんのこと,行政の力も必要不可欠だということがわかる.

5　外出

ここでは外出時のサービスの利用や，困っていることについてたずねた．まず，移動支援事業などの障害福祉サービスの利用について質問したところ，表 23 のとおり，40%弱の人が利用していた．その一方で,「利用したことはなく、今後も利用しない」と回答した人が 24%程度,「サービスについて知らない」と回答した人が 15%いた.

表 23　移動支援事業などの障害福祉サービスの利用

	度数	%
利用している	53	37.9
今は利用していないが、過去に利用したことがある	12	8.6
利用したことはないが、今後利用したい	20	14.3
利用したことはなく、今後も利用しない	34	24.3
サービスについて知らない	21	15.0
合計	140	100.0

「外出するうえでなにか困っていることがあるか」という質問では,表 24 のとおり,「人とのコミュニケーションがとりにくい」と回答した人が約 3 割ともっとも多く,次いで車,障害物など，交通についてのことが多かった．やはり知的障害の方は，人とのコミュニケーションが生活する上でもっとも重要で，難しいことなのだろう．また，バスや電車などの公共の乗り物や公共施設に不便を感じている人が多数いるということもうかがえる.

表 24　外出するうえで困っていること

	度数	%
バス・電車などが容易に利用できるよう改良されていない	20	14.9
乗り物や公共施設の案内表示がわかりにくい	19	14.2
道路や駅に段差や階段、障害物などが多い	24	17.9
出入り口や階段、トイレなど建物が用意に利用できるよう改良されていない	19	14.2
車などに危険を感じる	30	22.4
まわりが気にかかる	26	19.4
支援者がいないので外出できない	12	9.0
人とのコミュニケーションがとりにくい	42	31.3
ほとんど外出しないのでわからない	4	3.0
とくに困ることはない	29	21.6
その他	11	8.2
合計	134	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

6　災害時の対応

ここでは，災害時の対応などについて質問した．災害時にすぐ困ると思われることは何かという質問に対しては，表 25 のとおり，「安全なところまで、迅速に避難することができない」と回答した人が最も多かった．第 2 節で述べたように，重度の障害の方が多数いるようなので，迅速に避難するというのはやはり難しいのだろう．次に多かったのは「自分の状況が周囲の人に理解してもらえない」,「周囲の人とコミュニケーションがとれない」など，対人関係についての問題である．これはそれぞれ約半数の人が回答していた．また，「救助を求めることができない」と回答した人が約 4 割いたことも，深刻な問題である．表 5 からわかるように，一人暮らしの知的障害の方が 20 人ほどいるので，災害時には近隣住民のサポートが必要不可欠となるだろう．

表 25　地震などの災害時にすぐに困ると思われること

	度数	%
投薬や治療を受けられない	47	33.6
補装具の使用が困難になる	9	6.4
補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	17	12.1
自分の状況が周囲の人に理解してもらえない	73	52.1
安全なところまで、迅速に避難することができない	81	57.9
被害状況、避難所の場所、物資の入手方法などの情報が入ってこない	48	34.3
周囲の人とコミュニケーションがとれない	65	46.4
避難所の設備について不安	52	37.1
家族の安否情報がとりづらい	42	30.0
救助を求めることができない	55	39.3
とくにない	13	9.3
その他	9	6.4
合計	140	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

表 26　マップ作成に同意するつもりがない理由

	度数	%
支援が期待できないから	9	22.0
家族の支援を受けられるから	14	34.1
個人情報を知られたくない	7	17.1
依頼できる支援者がいないから	0	0
町内会や自主防災組織などが組織的な取り組みをしていないのでなんとなく不安だから	4	9.8
知っているが制度がよく理解できないため	8	19.5
その他	7	17.1
合計	41	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

災害時要援護者マップについては，知らないという人が 77.6%いた．また，マップの作成に同意するつもりはないと答えた人は 32.4%いた．その理由は表 26 のとおりである．34%程度の人が「家族の支援を受けられるから」と回答している．「支援が期待できないから」「制度がよく理解できないため」と回答した人が次に多く，2 割程度いた．

7　医療，福祉サービス

「医療について困っていることがあるか」という質問に対しては，表 27 のとおり，「とくに困っていることはない」と回答した人が 41%程度と一番多かったが，「医師・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない」「医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない」と回答した人も多く，医師や看護師とうまくコミュニケーションがとれていないことがうかがえる．

表 27　医療のことで、困っていること

	度数	%
通院するとき付き添いをしてくれる人がいない	6	4.3
医師・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない	50	36.2
医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない	28	20.3
専門的な治療をしてくれる病院が近くにない	14	10.1
医療費の負担が大きい	11	8.0
とくに困っていることはない	57	41.3
その他	19	13.8
合計	138	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

医療・福祉サービスなどについての相談先は，表 28 のとおり，障害福祉施設、市役所の相談窓口，相談支援事業所・相談支援専門員が多く，それぞれ約 3 割であった．これに対し，「相談するところがない」「どこに相談に行ったらよいかわからない」と回答した人が 1 割程度いた．このような情報格差をなくすことも必要になってくるだろう．

表 28　あなたは医療・福祉サービスなどについてどちらに相談していますか

	度数	%
民生委員・児童委員	3	2.1
身体障害者相談員	3	2.1
相談支援事業所・相談支援専門員	40	27.8
市役所の相談窓口	52	36.1
保健所・福祉健康センター	3	2.1
医療機関	17	11.8
障害福祉施設	53	36.8
社会福祉協議会	7	4.9
介護保険のケアマネージャー	4	2.8
同じ障害のある人の団体・グループ	24	16.7
相談するところがない	4	2.8
どこに相談に行ったらよいかわからない	15	10.4
その他	9	6.3
合計	144	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

表 29 は,「暮らしやすくなるために、とくにしてほしいことはあるか」という質問に対する回答をまとめたものである.「障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい」と「年金などの経済的な援助を増やしてほしい」と回答した人が特に多く，それぞれ約 4 割の人がこれを望んでいる. また,「障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい」「いつでもなんでも相談できる窓口を用意してほしい」「円滑なコミュニケーションができるように、障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい」と回答した人がそれぞれ約 3 割いた．知的障害の方が暮らしやすくなるためには，スムーズな対人関係，経済的援助，相談しやすい窓口または相手がとくに必要であることがうかがえる.

表 29　暮らしやすくなるために、とくにしてほしいこと

	度数	%
毎日の生活の手助けがもっとほしい	14	10.1
外出の支援をしてほしい	24	17.3
障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい	61	43.9
障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい	38	27.3
一般企業で働くことが難しいので、就労支援施設などを増やしてほしい	26	18.7
ジョブコーチ制度を充実させてほしい	21	15.1
リハビリ訓練の場所を増やしてほしい	7	5.0
障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい	17	12.2
外出しやすい環境や交通機関の利便を図ってほしい	29	20.9
いつでもなんでも相談できる窓口を用意してほしい	41	29.5
いつでも何でも話し合える相談相手や仲間がほしい	35	25.2
年金などの経済的な援助を増やしてほしい	58	41.7
スポーツ・レクリエーション・教育・文化活動に対する援助をしてほしい	17	12.2
福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい	32	23.0
円滑なコミュニケーションができるように、障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい	40	28.8
とくにない	16	11.5
その他	8	5.8
合計	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

「どのサービスのボランティアを受け入れたいか」という質問では，表 30 のような結果であった．外出支援が最も多く，46%であり，次いで話し相手，買い物が約 30%であった．意外にも，家事の手伝いよりも，余暇の過ごし方についてのボランティアが受け入れたいと思われているようである．

表 30　受け入れたいと思うボランティア

	度数	%
調理	29	23.0
洗濯	22	17.5
部屋の掃除・庭の手入れ	27	21.4
話し相手、相談相手	43	34.1
家屋内外の簡単な修理	10	7.9
病院などへの送迎・外出支援	58	46.0
買い物	36	28.6
代筆・代読	15	11.9
ボランティアのサービスは受け入れない	12	9.5
その他	19	15.1
合計	126	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

8　障害や差別

ここでは，障害や差別に関すること，主に意識についてたずねた.「障害のある人の雇用を促すためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ」という質問に対しては，表 31 のような結果であった．80%以上の人が，障害のある人の雇用を促すためには国や地方自治体からの助成金が必要だと考えているようだ.

表 31　障害のある人の雇用を促すためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ

	度数	%
そう思う	71	54.6
どちらかといえばそう思う	35	26.9
どちらともいえない	20	15.4
どちらかといえばそう思わない	2	1.5
そう思わない	2	1.5
合計	130	100.0

「障害のある人に特化した就労支援が必要である」という質問でも，表 32 のとおり，80%以上の人がそう思うと回答していた．やはりほとんどの人が障害のある人に特化した就労支援が必要であると思っているようである．

表 32　障害のある人に特化した就労支援が必要である

	度数	%
そう思う	75	58.1
どちらかといえばそう思う	34	26.4
どちらともいえない	17	13.2
どちらかといえばそう思わない	3	2.3
そう思わない	0	0
合計	129	100.0

これまでに障害があるために差別をされたと感じたことがあるかという質問をしたところ，「ある」と回答した人は 56.9%もいた．

表 33　差別されたと感じた分野

	度数	%
医療	14	16.7
教育・療育	43	51.2
交通や建物のバリアフリー化	8	9.5
防災	1	1.2
情報バリアフリー	4	4.8
行政手続き	8	9.5
文化活動	4	4.8
政治参加	0	0
その他	18	21.4
合計	84	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

その差別の分野のうちわけは表 33 のとおりである．半数以上の人が教育・療育での差別をされたと感じたことがあるようだ．やはり，いきたい学校にいけない，入りたい学級には入れないなど，学校関連での差別が多いのだろう．

障害のある人を支援するための政策として重要なことを尋ねた質問は，表 34 のような結果であった．「権利や尊厳を守ること」，「経済的に援助すること」，「働く機会の提供」，「障害のある人をケアしている人の支援」をあげる人が多く，それらが特に重要だと考えられているようである．

表 34　障害のある人を支援するための政策として重要なこと

	最も重要なこと		次に重要なこと	
	度数	%	度数	%
障害のある人の権利や尊厳を守ること	57	42.9	17	13.2
障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること	37	27.8	28	21.7
障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること	24	18.0	25	19.4
障害のある人に世間並みの住居を提供すること	2	1.5	7	5.4
障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること	5	3.8	10	7.8
障害のある人をケアしている人を支援すること	8	6.0	42	32.6
合計	133	100.0	129	100.0

「たとえ負担が大きくなったとしても、障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましい」という質問では，表 35 のとおり，66%程度の人がそのように思っているようである．そう思わない人はごく少数である．どちらともいえないと回答した人が 26%程度いるが，ほとんどの人が，たとえ負担が大きくなったとしても障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましいと考えていることがわかる．

表 35　たとえ負担が大きくなったとしても、障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましい

	度数	%
そう思う	42	32.1
どちらかといえばそう思う	45	34.4
どちらともいえない	35	26.7
どちらかといえばそう思わない	3	2.3
そう思わない	6	4.6
合計	131	100.0

現在の障害者福祉の水準に関する質問では，高いとする人約 12%，低いとする人約 40%で，高いと回答した人よりも低いと回答した人の方がかなり多くなっている（表 36）．しかし，もっとも多いのはどちらともいえない回答で，半数近くの人を占めている．

表 36　現在の障害者福祉の水準

	度数	%
とても低い	23	17.6
やや低い	31	23.7
どちらともいえない	61	46.6
やや高い	14	10.7
とても高い	2	1.5
合計	131	100.0

第 4 章　精神障害のある人の意識と行動

岡本　惇太

1　あなたご自身のことについて

1.1　回答者の属性

回答者の属性は以下のとおりである．まず性別であるが，表 1 のとおりである．男性が 55%程度で，女性が 45%程度であり，若干，男性の回答者の方が多くなっている．

表 1　性別

	度数	%
男性	76	54.7
女性	63	45.3
合計（有効ケース）	139	100.0

年齢では表 2 のとおりで，20 代～40 代までの回答者が全体の 60%程度を占めている．若年層の割合が比較的多い．

表 2　年齢

	度数	%
20 代	18	13.0
30 代	38	27.5
40 代	31	22.5
50 代	17	12.3
60 代	22	15.9
70 代	12	8.7
合計（有効ケース）	138	100.0

同居されている家族は表 3 のとおりで，回答者本人の両親が最も多く，家族が障害のある人の生活を支える重要な役割を担っていることが推測できる．

表 3　自分の父母

	度数	%
同居していない	50	39.4
同居している	77	60.6
合計（有効ケース）	127	100.0

2　障害の種類，等級などについて

2.1　精神障害者保健福祉手帳の等級

回答者の精神保健福祉手帳の等級については表 4 のとおりであり，2 級を持っている方が全体の 80%程度で最も多かった．

表 4　精神障害者保健福祉手帳の等級

	度数	%
1 級	5	3.9
2 級	108	83.7
3 級	16	12.4
合計（有効ケース）	129	100.0

2.2　治療について

現在，精神科にて治療を受けているかについては，表 5 のとおりである．8 割以上の人が通院中，現在も通院中であり，精神障害のある人にとって医療のニーズは高く，継続的な治療が求められてくると考えられる．またこうした通院や病気の治療によって，仕事をしたくてもできないといった状況が出てくると考えられる．

表 5　通院中

	度数	%
通院中でない	19	14.2
通院中である	115	85.8
合計（有効ケース）	134	100.0

3　収入の状況について

3.1　生活費

表 6 では回答者が生活費を何で得ているかの質問についてであり，もっとも多かったのが障害年金で，多くの障害のある人にとって障害年金は日常生活の経済的基盤となっている．これからも障害年金は障害のある人の生活を保障する重要な要素であり，年金支給額の引き下げや改定は，多くの障害のある人の生活に大きな悪影響を及ぼす恐れがあると考えられる．

表 6　障害年金

	度数	%
なし	47	34.6
あり	89	65.4
合計（有効ケース）	136	100.0

次に多かったのが同居家族の扶養であった．表 7 のとおりである．障害のある人が自宅で生活していくには家族，親族の支援が必要であり，家族は日常生活の身体的，精神的支援を行っていることが窺える．またここからは，家族が精神障害のある人の生活の経済的側面を支えていることが推測できる．

表 7　同居家族の扶養

	度数	%
なし	83	61.0
あり	53	39.0
合計（有効ケース）	136	100.0

4　日常生活上の支援者について

4.1　支援が必要と思うときについて

支援が必要と思うときについて，表 8 の「生活費などのお金の管理」では全体の 5 割程度が必要と回答している．日常生活の金銭管理は娯楽や趣味だけでなく，住宅費や光熱費など生活面に関わる出費も考慮したうえで管理をしていかなければならない．このように

長期的な計画が求められるため，他者からの指導や助言がないと，1 人で金銭管理を行うのは難しいと考えられる．そうしたことから，社会福祉協議会が展開している日常生活自立支援事業といった金銭管理の手続きを代理で行うサービスの必要性が高いと推測できる．

表 8　生活費などのお金の管理

	度数	%
自分でできる	69	52.3
ときどき支援が必要	35	26.5
常に支援が必要	28	21.2
合計（有効ケース）	132	100.0

表 9 の「日常の暮らしに必要な事務手続き」では全体の 6 割が必要と答えており，これも金銭管理と同様で，他者からの援助なしでは手続きが難しく，消費者問題や日常生活で困ったことを相談できる窓口サービス，本人の意思に基づいて，事務手続きが行われる代理サービスの必要性が高いと言える．

表 9　日常の暮らしに必要な事務手続き

	度数	%
自分でできる	51	39.2
ときどき支援が必要	45	34.6
常に支援が必要	34	26.2
合計（有効ケース）	130	100.0

表 10 の「緊急時に避難，連絡したいとき」では全体の 5 割程度が必要と回答していることから，地震や突発的な状況が起きた際，精神障害のある人は精神的にパニック状態に陥りやすいため，1 人で避難することが難しいということが推測できる．そうした場合，身近にいる家族や親族，近隣住民の支えが重要になってくると思われる．

表 10　緊急時に避難・連絡したいとき

	度数	%
自分でできる	64	49.6
ときどき支援が必要	36	27.9
常に支援が必要	29	22.5
合計（有効ケース）	129	100.0

4.2　日常生活を支援してくれる人について

日常生活の主な支援者について表 11 のとおりである．同居率が高いこともあって，自分の父母が全体の 5 割を占めており，身近に暮らす家族の支えが重要であると考えられる．こうしたことから，家族への依存度が強いため，両親がいなくなった場合や，家族の支援が期待できなくなった時，周りからの助けを得られないというケースが生じてくると推測できる．

表 11　主な支援者

	度数	%
配偶者（夫・妻）	27	19.9
子ども	4	2.9
子どもの配偶者	0	0
自分の父母	69	50.7
配偶者の父母	3	2.2
自分の兄弟姉妹	10	7.4
配偶者の兄弟姉妹	2	1.5
自分の祖父母	0	0
配偶者の祖父母	0	0
孫	0	0
支援者はいない	11	8.1
その他	10	7.4
合計（有効ケース）	136	100.0

また支援者に対して必要と思われるケアやサポートについては,表 12 のとおりである．回答が多かったのが「経済的な援助」「相談する相手」「仕事ができるようなサポート」であった．支援者の問題は現代社会の抱える課題であり，障害のある人を支援することは，支援者にとって重たい負担であり，仕事ができず，安定した収入が得られないといったケースが生じてくる．そうした課題に対処するためにも，支援者に対する経済的支援，悩みや問題を相談できる窓口の整備が必要であり，仕事と障害のある人の支援を両立できる環境を作ることが求められてくると推測できる．

表 12　主な支援者に対してのケアやサポート

	度数	%
仕事ができるようなサポート	15	12.3
外出できるようなサポート	8	6.6
代わりに介助を頼めること	0	0
介助者本人が自分の時間を持てるようにすること	2	1.6
介助の方法に関するアドバイス	3	2.5
経済的な援助	31	25.4
相談する相手	28	23.0
緊急時のサポート	7	5.7
特にない	25	20.5
その他	3	2.5
合計（有効ケース）	122	100.0

5　仕事について

5.1　仕事や通学の状況

仕事・通学の状況については表 13 のとおりで，仕事をしているのが全体の 30%程度であった．表 5 で述べたように，治療や通院中の割合が多かったことから，治療に専念したい人が多く，職に就けない人が多いのではないかと推測される．

表 13　仕事や通学の状況

	度数	%
仕事をしている（就労移行支援・就労継続支援・作業所などを含む）⇒問 21（1）へ	41	29.7
仕事はしていない⇒問 22 へ	92	66.7
通学・職業訓練中⇒問 23 へ	5	3.6
合計（有効ケース）	138	100.0

また仕事をされている方の労働形態は表 14 のとおりで，全体の 5 割程度が「パート，アルバイト，臨時雇い」であることから，職場内の人間関係や，その時々の心身の状況などが理由で継続的に長期間同じ場所で働くことが精神障害のある人にとっては難しいのではないかと推測できる．

表 14　労働形態

	度数	%
常勤（正規の職員，社員）	7	17.1
パート，アルバイト，臨時雇い（派遣社員含む）	21	51.2
家の仕事（自営業，手伝い）	3	7.3
就労移行支援・就労継続支援・作業所など	10	24.4
内職	0	0
その他	0	0
合計（有効ケース）	41	100.0

収入については表 15 のとおりで，50 万～200 万が全体の 9 割を占めており，非正規や作業所などの低賃金な労働形態が多いことが理由として推測できる．

表 15　仕事によって得られる 1 年間の収入

	度数	%
なし	1	2.4
50 万円未満	16	39.0
50 万円～100 万円未満	9	22.0
100 万円～200 万円未満	12	29.3
200 万円～300 万円未満	1	2.4
300 万円～400 万円未満	1	2.4
400 万円～500 万円未満	0	0
500 万円～600 万円未満	0	0
600 万円～700 万円未満	0	0
700 万円～800 万円未満	0	0
800 万円～900 万円未満	0	0
900 万円～1000 万円未満	0	0
1000 万円以上	0	0
わからない	1	2.4
合計（有効ケース）	41	100.0

5.2　働いていない方の状況

今後働きたいかについては表 16 のとおりであり，現在，仕事をしていない精神障害をもつ人 92 人のうち，「働きたいが，自分の心身の状況を考えると難しい」と回答する方が 4 割程度であった．通院中の割合が多いことから，治療に専念することを理由に仕事をすることあきらめる人がいると推測できる．また心身の状況を考慮しながら受け入れてくれる企業や安心して働ける支援体制や労働環境の整備不足が回答の割合に影響しているのではないかと考えられる．

表 16　今後，働きたいとお考えですか.

	度数	%
働きたい	22	23.9
働きたいが，自分の心身の状況を考えるとむずかしい	39	41.3
働きたくない	9	9.8
働く必要がない	7	7.6
わからない	16	17.4
合計（有効ケース）	92	100.0

5.3　障害のある人が就労しやすくするためには何が必要か

障害のある人が就労しやすくするために，何が必要かについて，最も多かった回答が表 17 のとおりで「障害のある人の雇用に対する雇用者側の理解と努力」で全体の 7 割程度であったことから，障害に対する理解が足りないと思っている人が多く，企業側の障害のある人の雇用に対する理解を促進する取り組みの必要性が高いと推測できる．法定雇用率が定められるなど，障害のある人の雇用制度や仕組みは改善されつつあるが，外側の制度面だけでは，障害のある人が働きやすい環境の実現は達成されず，内側の職員の心，意識の面も重要になると思われる．

表 17　障害のある人の雇用に対する雇用者側の理解と努力

	度数	%
必要ない	40	32.0
必要	85	68.0
合計（有効ケース）	125	100.0

次に多かった回答が表 18 の「就労に必要な技術や知識を身に付けるための訓練の場」で，仕事についてから知識・技術を学んでいくよりも，仕事に就く前に十分な知識と技術を身に付けておく事前の就労支援の方が必要性は高いと推測できる．また実際に働く障害のある人にとってもそうした支援の方が安心して仕事に臨むことができ，心理的負担をあまり感じずに仕事に取り組めるのではないかと推測できる．

表 18　就労に必要な技術や知識を身につけるための訓練の場

	度数	%
必要ない	67	53.6
必要	58	46.4
合計（有効ケース）	125	100.0

6　外出について

6.1　外出頻度

外出頻度については表 19 のとおりで，全体的に外出の頻度は高く，日ごろから積極的に活動していることが推測できる．

表 19　外出頻度

	度数	%
ほぼ毎日	46	33.8
週に 4～5 回	24	17.6
週に 2～3 回	27	19.9
月に 3～4 回	18	13.2
月に 1～2 回	9	6.6
ほとんど外出していない	12	8.8
合計（有効ケース）	136	100.0

6.2　外出時の移動手段・移動サービスについて

外出時の移動手段については表 20 のとおりで，自家用車で移動することが多いことから，公共交通機関に頼らず，比較的自由に外出することが可能であると考えられる．

表 20　主な移動手段

	度数	%
徒歩	13	9.5
自転車	18	13.1
バス	3	2.2
電車	2	1.5
タクシー	6	4.4
自家用車（自分で運転する）	50	36.5
自家用車（乗せてもらう）	41	29.9
その他	4	2.9
合計（有効ケース）	137	100.0

また移動サービスの利用については表 21 のとおりで，今後も利用しないと回答した割合全体の 36%程度で，サービスについて知らないと回答した割合が 4 割であることから，移動手段で述べたように，自家用車で移動することが多く，移動が自由にできることから，移動の際の支援やサービスの必要性は低いと推測できる．

表 21　移動支援事業などの障害福祉サービスの利用

	度数	%
利用している	7	5.2
今は利用していないが，過去に利用したことがある	6	4.5
利用したことはないが，今後利用したい	17	12.7
利用したことはなく，今後も利用しない	49	36.6
サービスについて知らない	55	41.0
合計（有効ケース）	134	100.0

7　災害時の対応について

7.1　災害時に困ること

災害時に困ることについて，困ると回答した割合が多かった項目は表 22 の「投薬や治

療を受けられない」であった．現状として，精神障害のある人の症状や病気を治療する薬品や医療設備は普通の避難所には置いていないと思われる．だが災害時，病院や医療機関の機能が麻痺している場合，障害のある人の生活や治療の拠点に避難所がなる可能性が高く，自治体で指定されている避難所には，そうした状況を考慮したうえで，障害の種類に応じた特別な医療物資の整備をしておくことも必要なのではないのかと考えられる．

表 22 投薬や治療を受けられない

	度数	%
なし	35	26.3
あり	98	73.7
合計（有効ケース）	133	100.0

7.2　避難について

「災害時の避難場所を知っているか」については表 23 のとおりで，5 割以上が避難場所を知らず，災害時に適切な場所へ避難できない人が続出することが予測できる．また避難所を知らない人を避難所へ誘導する周りの援助の必要性が出てくると考えられる．

表 23　災害時の避難場所について

	度数	%
知っている	54	41.2
知らない	77	58.8
合計（有効ケース）	131	100.0

また「家族が不在またはいない場合，近所で助けてくれる人がいるか」については表 24 のとおりで，隣人関係のつながりが希薄であると推測でき，隣近所で助け合う関係づくりを築いていくことがこれから益々求められてくると考えられる．

表 24　近所にあなたを助けてくれる方はいますか.

	度数	%
いる	18	13.6
いない	61	46.2
わからない	53	40.2
合計（有効ケース）	132	100.0

7.3　災害時要援護者マップについて

災害時要援護者マップの認知については表 25 のとおりで, 知らないと回答した割合が 9 割以上であることから，災害時要援護者マップの認知を広める取り組みの必要性が高いと推測できる.

表 25　災害時要援護者マップの認知度

	度数	%
知っている	12	8.9
知らない	123	91.1
合計（有効ケース）	135	100.0

8　医療・福祉サービスなどについて

8.1　ボランティアの受け入れについて

ボランティアの受け入れについては表 26 のとおりで，全体的に受け入れたいと回答する割合が少ない項目が多く，そのなかで受け入れたいと回答した割合が最も多かった項目が「話し相手・相談相手」であった．回答者の中には，家族以外の人とはコミュニケーションをとらない人もいると思われ，そうした人は家族などに話せない日頃の悩みなどを他者に聞いてもらいたいというニーズがあるのではないかと考えられる.

表 26　話し相手・相談相手

	度数	%
なし	81	64.8
あり	44	35.2
合計（有効ケース）	125	100.0

8.2　暮らしやすくするために特にしてほしいこと

回答者本人が暮らしやすくするために，特にしてほしいことについては表 27 のとおりで，してほしいと回答した割合が最も多かったのは「年金などの経済的な援助を増やしてほしい」で全体の 5 割以上であり，今の障害年金や自分で得た収入だけでは，生活を営むことが難しいと考える人がいると推測できる.

表 27　年金などの経済的な援助

	度数	%
なし	55	43.3
あり	72	56.7
合計（有効ケース）	127	100.0

9. 障害や差別について

9.1　差別経験

差別をされたと感じたことがあるかについては表 28 のとおりで,「ある」と回答したのが全体の 4 割であった.

表 28　差別経験

	度数	%
ある⇒問 37（2）へ	52	39.4
ない⇒問 38 へ	80	60.6
合計（有効ケース）	132	100.0

9.2 合理的配慮と共生社会の認知度

合理的配慮の認知度については表 29 のとおりで，「知らない」と回答したのが全体の 9 割であることから，合理的配慮の理解は進んでないと言える．合理的配慮の理解の促進は，障害のある人の雇用環境の整備や，差別解消に向けての重要な概念である．当事者側からこの考えを理解し，主張していくことは社会を変えていく原動力になると思うため，これから合理的配慮の理解を進める取り組みの必要性は高いと推測できる．

表 29　合理的配慮の認知度

	度数	%
合理的配慮の考え方について知っている	4	3.1
合理的配慮という言葉は聞いたことがある	8	6.3
合理的配慮について知らない	116	90.6
合計（有効ケース）	128	100.0

共生社会の認知度については表 30 のとおりで，合理的配慮に比べて，共生社会の認知度は広まってきていると思われる．共生社会の考え方も障害のある方の地域生活への移行を促進していく上で重要な概念であり，更に理解を進める取り組みが求められてくると考えられる．

表 30「共生社会」の認知度

	度数	%
知っている	14	10.4
言葉だけは知っている	29	21.6
知らない	91	67.9
合計（有効ケース）	134	100.0

9.3　障害と仕事に関して

障害と仕事に関する意見について，表 31 の「行政からの助成金が必要」では全体の 5 割以上がそう思うと回答しており，国，地方自治体からの経済的援助の必要性が高いと推測できる．また就労支援をすることは，様々な費用がかかり，障害のある人にとっての経

済的負担になっているということが窺える.

表 31　国や地方自治体からの助成金が必要

	度数	%
そう思う	70	57.9
どちらかといえばそう思う	21	17.4
どちらともいえない	26	21.5
どちらかといえばそう思わない	1	0.8
そう思わない	3	2.5
合計（有効ケース）	121	100.0

表 32 の「働きやすい環境の整備」では全体の 5 割以上がそう思うと回答し，障害のある人の雇用に理解があり安心して働ける場所が求められていると窺える．また障害の特徴や病気の症状に理解のある雇用支援が重要であると推測できる.

表 32　障害のある人が働きやすい環境の整備

	度数	%
そう思う	67	56.3
どちらかといえばそう思う	29	24.4
どちらともいえない	22	18.5
どちらかといえばそう思わない	0	0
そう思わない	1	0.8
合計（有効ケース）	119	100.0

9.4　障害に関すること

障害に関する意見については表 33 の「障害のある人が望めば，障害のない人と同じ教育を受けられるようにすべきだ」で全体の 5 割がそう思うと回答しており，障害のある人の機会の均等を図るべきという意識が高いと考えられる.

表 33　障害のない人と同じ教育を受けられるようにすべきだ

	度数	%
そう思う	65	52.8
どちらかといえばそう思う	31	25.2
どちらともいえない	21	17.1
どちらかといえばそう思わない	3	2.4
そう思わない	3	2.4
合計（有効ケース）	123	100.0

9.5　差別に関して

差別に関する意見について，表 34 の「差別について深く知ることによって，差別をなくすことができる」では全体の 36%がそう思うと回答しており，差別の理解促進をしていくことが重要だと考える人が多いと推測できる．

表 34　差別について深く知ることによって，差別をなくすことができる

	度数	%
そう思う	45	36.6
どちらかといえばそう思う	29	23.6
どちらともいえない	37	30.1
どちらかといえばそう思わない	5	4.1
そう思わない	7	5.7
合計（有効ケース）	123	100.0

表 35 の「差別される側の気持ちを考えることは難しい」では全体の 33%程度がそう思うと回答しており，相手に差別意識がなくても自分が差別をされたと感じれば，それは差別だと考える人が多いと考えられる．

表 35　差別される側の気持ちを考えることは難しい

	度数	%
そう思う	41	33.3
どちらかといえばそう思う	35	28.5
どちらともいえない	24	19.5
どちらかといえばそう思わない	8	6.5
そう思わない	15	12.2
合計（有効ケース）	123	100.0
無回答	16	
合計（全ケース）	139	

第 5 章　障害のある児童の意識と行動

窪内　綾

1　回答者の属性

回答者の属性は以下のとおりある．まずこのアンケートの回答者は表 1 のとおり，家族の方が本人に代わって代筆しているのが半分以上である．これから結果を見ていく際には，まずこのことを注意する必要がある．

表 1　回答者

	度数	%
ご本人が記入	4	4.9
ご家族が代筆	26	31.7
ご家族がご本人に代わって回答	52	63.4
その他	0	0
合計	82	100.0

回答者の性別は表 2 のとおりで，男性の回答者が 6 割，女性の回答者が 4 割と，男性の回答者の方が多くなっている．これからうかがえる結果は，男性の意見が強く反映されている可能性がある．

表 2　回答者の性別

	度数	%
男性	52	62.7
女性	31	37.3
合計	83	100.0

回答者の住まいは表 3 のとおり，半分以上の回答者が松任であり，次いで鶴来が多い．障害のある児童は，白山市の中でも松任にとくに多く住んでいることがうかがえる．

表 3　お住まいの地域

	度数	%
松任	53	63.9
美川	9	10.8
鶴来	19	22.9
河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰	2	2.4
合計	83	100.0

回答者の年齢は表 4 のとおりである．1～5 歳，6～10 歳，11～15 歳の回答者がそれぞれ約 3 割である．障害のある児童の半数以上が 10 歳以下であった．

表 4　年齢

	度数	%
1～5 歳	20	24.7
6～10 歳	22	27.2
11～15 歳	24	29.6
16～20 歳	15	18.5
合計	81	100.0

表 5　世帯人員数

	度数	%
2 人	2	2.4
3 人	15	18.1
4 人	30	36.1
5 人	21	25.3
6 人	8	9.6
7 人	5	6.0
8 人	2	2.4
合計	83	100.0

回答者の家族人数は表 5 のとおりで，4 人が 36.1%と一番多い．次いで 5 人と回答した人が 25.3%，3 人と回答した人が 18.1%であった．2 人と回答した人が 2 名いたが，表 6 とあわせて考えると一人親家庭である可能性が高い．

回答者の同居家族をたずねたところ，表 6 のような結果であった．父母と暮らしている人が 9 割以上おり，兄弟がいる人が約 7 割，祖父母と暮らしている人が 3 割弱いるようである．

表 6　同居している家族

	度数	%
父	78	94.0
母	79	95.2
祖父	18	21.7
祖母	23	27.7
兄弟	62	74.7
親戚	1	1.2
その他	1	1.2
合計	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

表 7　住居形態

	度数	%
持ち家（一戸建て住宅）	73	88.0
持ち家（集合住宅[マンションなど]）	0	0
市営・県営などの公的賃貸住宅	3	3.6
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	1	1.2
民間の借家・賃貸アパート・マンション	5	6.0
その他	1	1.2
合計	83	100.0

回答者の現在の住まいは表 7 のとおりで，一戸建て住宅に住んでいる人が約 9 割である．

グループホーム･ケアホーム･福祉ホームを利用している児童が 1 人いたことが興味深い.

これからの生活をどこで送りたいかという質問でも，表 8 のとおり，一戸建て住宅が約 9 割と一番多かった．しかし表 7 と比べると減っており，代わりにグループホーム・ケアホーム・福祉ホーム，入所施設で生活したいという人が少し増えている.

表 8　これからの生活をどこで送りたいですか

	度数	%
持ち家（一戸建て住宅）	72	87.8
持ち家（集合住宅[マンションなど]）	0	0
市営・県営などの公的賃貸住宅	0	0
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	2	2.4
民間の借家・賃貸アパート・マンション	3	3.7
入所施設	4	4.9
その他	1	1.2
合計	82	100.0

2　障害の種類，等級など

対象者の障害の種類，等級については以下のとおりである.

表 9　療育手帳の判定

	度数	%
A	19	32.2
B1	19	32.2
B2	19	32.2
B	2	3.4
合計	59	100.0

まず療育手帳を持っているのは 7 割程度であり，その判定のうちわけは表 9 のとおりであった.「B1」か「B2」かわからないと回答した人が 2 人いたため，その人は「B」と表

記した．この表を見ると，障害の重い人と軽い人とさまざまであることがわかる．

療育手帳を初めて取得した年齢は，表 10 のとおり，1～5 歳が約 6 割と一番多かった．障害が先天性であったからだろうと思われる．

表 10　あなたが療育手帳をはじめて取得したのは何歳ですか

	度数	%
1～5 歳	35	59.3
6～10 歳	14	23.7
11～15 歳	10	16.9
合計	59	100.0

身体障害者手帳については，持っている人は 3 割程度であり，その判定のうちわけは表 11 のとおり，1 級と回答した人が半数であった．身体障害の重い人が多いことがうかがえる．

表 11　身体障害者手帳の等級は、総合等級では何級ですか

	度数	%
1 級	13	50.0
2 級	6	23.1
3 級	6	23.1
4 級	0	0
5 級	0	0
6 級	1	3.8
合計	26	100.0

その障害のうちわけは，表 12 のとおりで，肢体不自由が約半数，聴覚、平衡機能障害と内部障害があわせて半数という割合であった．

表 12　あなたの障害はどのような障害ですか

	度数	%
視覚障害	1	3.4
聴覚障害、平衡機能障害	8	27.6
音声・言語機能障害、そしゃく機能障害	1	3.4
肢体不自由	14	48.3
内部障害	7	24.1
合計	29	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

障害の原因は表 13 のとおり，先天性であるものが 8 割であった．身体障害者手帳をはじめて取得した年齢をたずねたところ，皆 5 歳未満であったが，障害の原因のほとんどが先天性であったためだろう．

表 13　障害の原因

	度数	%
交通事故	0	0
労働災害	0	0
その他の事故	0	0
先天性（生まれつき）	21	80.8
疾病	1	3.8
その他	4	15.4
合計	26	100.0

精神障害者保健福祉手帳については，持っている人が 5%程度であり，その判定は皆 2 級であった．精神障害者保健福祉手帳を初めて取得した年齢は表 14 のとおりである．10 歳未満で取得した人と 10 歳以上で取得した人がそれぞれ 2 人いた．

表 14　あなたが精神障害者保健福祉手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか

	度数	%
4 歳	1	25.0
9 歳	1	25.0
11 歳	1	25.0
15 歳	1	25.0
合計	4	100.0

表は割愛するが，難病（特定疾患）の認定を受けているのは 6 人と 9%程度であり，発達障害（自閉症，学習障害など）の診断を受けているのは 39 人と 55%程度であった.

3　日常生活上の支援者

ここでは，日常生活を営む上で，どのような人や機関の支援を受けているかたずねた.

表 15　主な支援者に対して必要だと思われるケアやサポート

	度数	%
仕事ができるようなサポート	40	49.4
外出できるようなサポート	19	23.5
代わりに支援を頼めること	40	49.4
支援者本人が自分の時間を持てるようにすること	19	23.5
支援の方法に関するアドバイス	32	39.5
経済的な援助	33	40.7
相談する相手	30	37.0
緊急時のサポート	36	44.4
特にない	9	11.1
その他	1	1.2
合計	81	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

主な支援者に対して必要だと思われるケアやサポートがあるかという質問をしたところ，表 15 のとおり，「支援者が仕事をできるようなサポート」と「代わりに支援を頼めること」が一番多く，約 5 割であった．次いで緊急時のサポート，経済的な援助，支援の方法に関するアドバイスが約 4 割と多かった．支援者はやはり障害のある子につきっきりにならざるをえないことがうかがえる．

主な支援者が高齢，病気などで将来支援ができなくなった場合，表 16 のとおり，「親族の支援を受ける」が 30%程度で一番多く，次いで「ホームヘルパーを利用し、自宅で暮らしたい」，「グループホーム・ケアホーム・福祉ホームで暮らしたい」，「施設に入所する」であった．自宅で暮らしたいと思っている人が約半数いるのだということがうかがえる．

表 16　主な支援者が高齢、病気などで将来支援ができなくなった場合

	度数	%
親族の支援を受ける	24	30.4
ホームヘルパーを利用し、自宅で暮らしたい	17	21.5
グループホーム・ケアホーム・福祉ホームで暮らしたい	17	21.5
施設に入所する	13	16.5
その他	8	10.1
合計	79	100.0

表 17　居宅介護（ホームヘルプサービス）の利用

	度数	%
利用している	1	1.3
今は利用していないが、利用したことはある	2	2.5
利用したことはないが、今後利用したい	14	17.5
利用したことはなく、今後も利用しない	25	31.3
サービスについて知らない	38	47.5
合計	80	100.0

居宅介護（ホームヘルプサービス）について利用しているか尋たずねたところ，表 17 のとおり，「サービスについて知らない」という人が約半数で、一番多かった．次に多かっ

たのは「利用したことはなく、今後も利用しない」という人で約 30%であった.

表 18　あなたは悩みや困ったことがある場合、どちらに相談されますか

	度数	%
家族	69	85.2
親戚	7	8.6
友人・知人	18	22.2
市役所、児童相談所などの行政機関	20	24.7
障害者団体、患者団体や家族会	9	11.1
民生委員・児童委員	0	0
障害者相談員	9	11.1
相談支援事業所	11	13.6
施設や作業所の職員	10	12.3
グループホームの世話人	2	2.5
居宅介護のヘルパー	0	0
発達相談センター	14	17.3
配偶者の兄弟姉妹	0	0
高齢者支援センター	0	0
社会福祉協議会	1	1.2
医師や看護師などの医療関係者	13	16.0
学校の先生	33	40.7
職場の人	2	2.5
障害者就業・生活支援センター	5	6.2
相談したいができない（しない）	4	4.9
悩みや困ったことはない	2	2.5
その他	3	3.7
合計	81	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

悩みや困ったことがある場合，どこに相談するかたずねたところ，表 18 のような回答結果であった．その相談先は，家族が 85.2%と一番多く，次いで学校の先生が 40.7%であった．やはり近しい人，親しみのある人の方が相談しやすいのだろう．行政機関に相談している人は 3 割にも満たないようである．

4　通園・通学

小学校，中学校，高等学校に通っている子は表 19 のとおり，特別支援学級に通っている子が約 6 割と一番多く，次いで特別支援学校が約 2 割であった．通常の学級に通っている子は少ないことがわかる．やはり通常の学級にはなかなか受け入れてもらえない現状があるように思う．

表 19　通っている学級・学校

	度数	%
通常の学級	8	13.1
特別支援学級	38	62.3
特別支援学校	15	24.6
合計	61	100.0

表 20　学校で勉強する場合にどのような形を望みますか

	度数	%
障害のあるなしに関わらず一緒のクラスで勉強したい	18	24.3
同じような障害のある仲間たちのクラスで勉強したい	11	14.9
障害のある仲間たちのクラスで勉強しながら、障害のない仲間たちとも勉強する機会を持ちたい	39	52.7
その他	6	8.1
合計	74	100.0

学校で望む勉強形態については，表 20 のとおり，約半数の人が，障害のある仲間たちのクラスで勉強しながら，障害のない仲間たちとも勉強する機会を持ちたいと思っているようだ．障害のあるなしに関わらず一緒のクラスで勉強したいと回答した人も 24%程度いた．よって，約 7 割の人が，障害のない人とも交流したいと思っていることがわかる．

通園・通学などでとくに困っていることがあるかという質問では，表 21 のとおり，「とくに困っていることはない」と回答した人が 44.0%でもっとも多かった．次いで 24.0%の「通うのに付き添いが必要」であった．特別支援学級または特別支援学校に通っている児童が多いためか，学内で困っていることがある人はそう多くないようだ．

表 21　通園・通学などでとくに困っていること

	度数	%
通うのに付き添いが必要	18	24.0
授業についていけない・よくわからない	9	12.0
設備などが障害のある児童に配慮されていない	7	9.3
学校内・園内での介助が十分でない	8	10.7
友達ができない	8	10.7
先生の配慮や生徒たちの理解が得られない	8	10.7
「特別支援学級」に入れてもらえない	0	0
「通常の学級」に入れてもらえない	5	6.7
教科指導が十分に受けられない	5	6.7
とくに困っていることはない	33	44.0
その他	7	9.3
合計	75	

*．%は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

障害のある児童が利用する放課後デイサービスについて質問したところ，表 22 のような回答結果となった．通っている，または通っていたという子が 50%と一番多いが，次に多いのは「放課後デイサービスを知らない」という人であった（19.7%）．

表 22　放課後等デイサービスの利用

	度数	%
放課後等デイサービスに通っている。または通っていた	38	50.0
いままでは利用していないが、これからは利用したい	5	6.6
小学校へ入学したら利用したい	5	6.6
希望したが、入れてもらえなかった。	0	0
希望はしない。または、希望しなかった。	10	13.2
放課後等デイサービスを知らない。または知らなかった	15	19.7
その他	3	3.9
合計	76	100.0

5　外出

同行援護または移動支援事業などの障害福祉サービスについて質問したところ，表 23 のとおり,「サービスについて知らない」という人が 36.3%ともっとも多かった．しかし，利用している，したことがある，利用したいと回答した人は半数近くいた．

表 23　同行援護または移動支援事業などの障害福祉サービスの利用

	度数	%
利用している	17	21.3
今は利用していないが、過去に利用したことがある	2	2.5
利用したことはないが、今後利用したい	19	23.8
利用したことはなく、今後も利用しない	13	16.3
サービスについて知らない	29	36.3
合計	80	100.0

「外出するうえでなにか困っていることがあるか」という質問では, 表 24 のとおり,「人とのコミュニケーションがとりにくい」が約 3 割ともっとも多く，次いで交通についてのことが多かった．車などに危険を感じている人が多いのはもちろん，公共の乗り物や公共施設が不便だと思っている人が多数いるようだ.

表 24　外出するうえで、困っていること

	度数	%
バス・電車などが容易に利用できるよう改良されていない	12	16.0
乗り物や公共施設の案内表示がわかりにくい	10	13.3
道路や駅に段差や階段、障害物などが多い	7	9.3
出入り口や階段、トイレなど建物が用意に利用できるよう改良されていない	10	13.3
車などに危険を感じる	21	28.0
まわりが気にかかる	16	21.3
支援者がいないので外出できない	5	6.7
人とのコミュニケーションがとりにくい	24	32.0
ほとんど外出しないのでわからない	3	4.0
とくに困ることはない	23	30.7
その他	5	6.7
合計	75	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

6　医療，福祉サービス

「暮らしやすくなるために、とくにしてほしいことはあるか」という質問では，表 25 のような結果となった．もっとも多かったのは「障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい」で約 60%である．ほとんどの人が障害のない人との間に暮らしにくさを感じているようである．次に多かったのが「障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい」「一般企業で働くことが難しいので、就労支援施設などを増やしてほしい」などの就労に関することであった．また，「福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい」「円滑なコミュニケーションができるように、障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい」「年金などの経済的な援助を増やしてほしい」など，政策や制度について不満を感じている人も多いようだ．

表 25　暮らしやすくなるために、とくにしてほしいこと

	度数	%
毎日の生活の手助けがもっとほしい	11	13.4
外出の支援をしてほしい	7	8.5
障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい	49	59.8
障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい	45	54.9
一般企業で働くことが難しいので、就労支援施設などを増やしてほしい	33	40.2
ジョブコーチ制度を充実させてほしい	26	31.7
リハビリ訓練の場所を増やしてほしい	21	25.6
障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい	11	13.4
外出しやすい環境や交通機関の利便を図ってほしい	22	26.8
いつでもなんでも相談できる窓口を用意してほしい	22	26.8
いつでも何でも話し合える相談相手や仲間がほしい	18	22.0
年金などの経済的な援助を増やしてほしい	35	42.7
スポーツ・レクリエーション・教育・文化活動に対する援助をしてほしい	18	22.0
福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい	37	45.1
円滑なコミュニケーションができるように、障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい	37	45.1
とくにない	6	7.3
その他	8	9.8
合計	82	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

「医療について困っていることがあるか」という質問に対して，表 26 のとおり，半数以上の人が「とくに困っていることはない」と回答していた．しかし，「症状が正しく伝えられない」「医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない」と，医師と患者とのコミュニケーションがうまくいっていない問題や，「専門的な治療をしてくれる病院が近くにない」という問題を抱えている人も多いようだ．

表 26　医療のことで、なにか困っていること

	度数	%
通院するとき付き添いをしてくれる人がいない	2	2.6
意思・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない	17	21.8
医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない	10	12.8
専門的な治療をしてくれる病院が近くにない	14	17.9
医療費の負担が大きい	4	5.1
とくに困っていることはない	41	52.6
その他	7	9.0
合計	78	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

表 27　あなたは医療・福祉サービスなどについてどちらに相談していますか

	度数	%
民生委員・児童委員	2	2.5
身体障害者相談員	3	3.7
相談支援事業所・相談支援専門員	26	32.1
市役所の相談窓口	34	42.0
保健所・福祉健康センター	11	13.6
医療機関	28	34.6
障害福祉施設	17	21.0
社会福祉協議会	2	2.5
介護保険のケアマネージャー	0	0
同じ障害のある人の団体・グループ	17	21.0
相談するところがない	2	2.5
どこに相談に行ったらよいかわからない	9	11.1
その他	4	4.9
合計	81	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

医療・福祉サービスなどについてどこに相談しているかたずねたところ，表 27 のような回答結果を得られた．市役所の相談窓口が約 4 割と最も多く，次いで医療機関，相談支援事業所・相談支援専門員が約 3 割であった．これらの機関は比較的相談しやすいのではないかと思われる．

「どのサービスのボランティアを受け入れたいか」という質問では，表 28 のとおり，外出支援が最も多く 42.7%であり，次いで買い物，調理，話し相手が 20%程度であった．家事に関することが意外に少ないと思ったが，表 6 からわかるように，ほとんどの人が親と暮らしているためだろう．

表 28　受け入れたいボランティア

	度数	%
調理	16	21.3
洗濯	11	14.7
部屋の掃除・庭の手入れ	11	14.7
話し相手、相談相手	16	21.3
家屋内外の簡単な修理	7	9.3
病院などへの送迎・外出支援	32	42.7
買い物	19	25.3
代筆・代読	10	13.3
ボランティアのサービスは受け入れない	8	10.7
その他	13	17.3
合計	75	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

7　災害時の対応

ここでは，災害時のことについて質問したことをまとめる．まず，災害時要援護者マップについては，知らないという人が 64.6%いた．また，マップの作成に同意するつもりはないと答えた人は 24.1%いた．その理由は表 29 のとおりである．半数の人が「家族の支援を受けられるから」と回答している．

表 29　マップ作成に同意するつもりがない理由

	度数	%
支援が期待できないから	0	0
家族の支援を受けられるから	8	50.0
個人情報を知られたくない	4	25.0
依頼できる支援者がいないから	1	6.3
町内会や自主防災組織などが組織的な取り組みをしていないのでなんとなく不安だから	0	0
知っているが制度がよく理解できないため	5	31.3
その他	2	12.5
合計	16	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

表 30　地震などの災害時にすぐ困ると思われること

	度数	%
投薬や治療を受けられない	20	25.0
補装具の使用が困難になる	11	13.8
補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	13	16.3
自分の状況が周囲の人に理解してもらえない	43	53.8
安全なところまで、迅速に避難することができない	50	62.5
被害状況、避難所の場所、物資の入手方法などの情報が入ってこない	24	30.0
周囲の人とコミュニケーションがとれない	46	57.5
避難所の設備について不安	27	33.8
家族の安否情報がとりづらい	37	46.3
救助を求めることができない	41	51.2
とくにない	1	1.3
その他	5	6.3
合計	80	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

災害時にすぐ困ると思われることは何かという質問に対して，表 30 のとおり，「安全なところまで、迅速に避難することができない」という人が最も多く，次いで「周囲の人とコミュニケーションがとれない」，「自分の状況が周囲の人に理解してもらえない」，「救助を求めることができない」など，対人関係についての問題を半数の人が回答していた．

8　障害や差別

ここでは，障害や差別，主に意識についてたずねたことをまとめる．まず，「障害のある人の雇用を促すためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ」という質問に対しては，表 31 のような結果であった．70%以上の人が，障害のある人の雇用を促すためには，国や地方自治体からの助成金が必要だと考えているとわかる．

表 31　障害のある人の雇用を促すためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ

	度数	%
そう思う	45	55.6
どちらかといえばそう思う	17	21.0
どちらともいえない	17	21.0
どちらかといえばそう思わない	2	2.5
そう思わない	0	0
合計	81	100.0

表 32　障害のある人に特化した就労支援が必要である

	度数	%
そう思う	49	60.5
どちらかといえばそう思う	18	22.2
どちらともいえない	11	13.6
どちらかといえばそう思わない	2	2.5
そう思わない	1	1.2
合計	81	100.0

「障害のある人に特化した就労支援が必要であると思うか」という質問でも，表 32 のとおり，80%以上の人がそう思うと答えている．ほとんどの人が障害のある人に特化した就労支援が必要であると考えているようだ.

これまでに障害があるために差別をされたと感じたことがあると答えた人は 46.9%おり，その分野のうちわけは表 33 のとおりである．児童向けのアンケートであったためか，教育・療育の分野での差別がもっとも多く，70%を超えていた.

表 33　差別されたと感じた分野

	度数	%
医療	5	13.2
教育・療育	29	76.3
交通や建物のバリアフリー化	2	5.3
防災	0	0
情報バリアフリー	2	5.3
行政手続き	4	10.5
文化活動	5	13.2
政治参加	0	0
その他	7	18.4
合計	38	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

障害のある人を支援するための政策として重要なことはどれかという質問では表 34 のような結果であった.「障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること」「障害のある人の権利や尊厳を守ること」「障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること」「障害のある人をケアしている人を支援すること」と回答した人が特に多かった.

表 34 障害のある人を支援するための政策として重要なこと

	最も重要なこと		次に重要なこと	
	度数	%	度数	%
障害のある人の権利や尊厳を守ること	27	33.8	4	5.1
障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること	17	21.3	21	26.9
障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること	29	36.3	23	29.5
障害のある人に世間並みの住居を提供すること	1	1.3	2	2.6
障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること	1	1.3	10	12.8
障害のある人をケアしている人を支援すること	5	6.3	18	23.1
合計	80	100.0	78	100.0

第Ⅱ部　障害福祉に関する市民の意識調査

第 6 章　障害福祉に関する市民意識調査の概要

田邊　浩

1　調査の目的

「障害福祉計画」を策定し,「白山市差別のない街づくり事業」を推進するための基礎資料とする目的で今回の調査は企画されたのだが，障害のある当事者を調査対象者とするのみならず，広く白山市民を対象とした調査も実施した．それは，障害者福祉を前進させるためには，全体としての市民の理解や支えが重要である，という考えによるものである．とくに，障害者差別解消法がまもなく施行されるということもある．そのために,「障害」や「差別」ということに関する市民の意見や考えを調べることを目的として，白山市にお住いの方々を対象とした「市民意識調査」も実施した.

2　調査の方法

市民意識調査では,白山市にお住まいの20歳以上80歳未満の市民1500人を対象とした.白山市は，平成 17 年 2 月 1 日に松任市，美川町，鶴来町，河内村，吉野谷村，鳥越村，尾口村，白峰村が合併して誕生したものである．松任などの都市部と白山麓のかつての村では状況の違いが大きいため，地域で層化した比例割当で対象者の抽出を行った．抽出したこれら 1500 名の対象者の方々に，調査票を用いた郵送法によって調査を実施した. 期間は平成 26 年 10 月 2 日に発送し，10 月 14 日を締め切りとした．第一次締め切りの後，一度督促状を送付し，10 月 20 日を締め切りとして再度回答をお願いした．結果として，有効回収数は，回収率はであった.

この調査では,市民の障害というものに関する考えや意見,障害のある方々との関わり,障害者福祉に関する望ましいあり方，また障害者に対する差別などについて尋ねた.

3　回答者の基本的属性

3.1　性別

回答者の属性は以下のとおりある. まず性別であるが,図 1 のとおりである. 男性が 41%程度, 女性 59%程度であり, 女性の回答者のほうがかなり多くなっている. わたしたちは, 2011 年にも同様な方法で白山市において調査を実施しているが, その時は男性の回答者は

43%であったので，今回の調査ではそれよりも男性の回答者が少なくなっている．

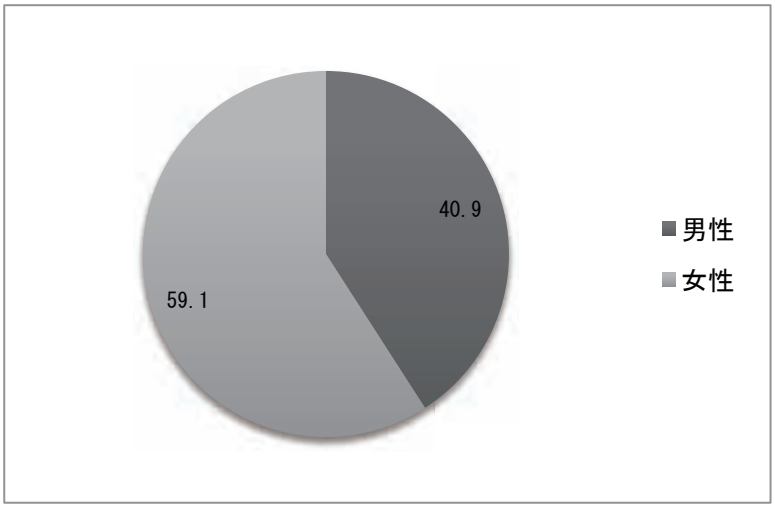

図 1　回答者の性別

3.2　年齢

年齢層では 20 代が約 8%程度であり，他の年齢層より低くなっている（図 2）．もともとこの年代は他の年齢層に比較して人口も少なくはなっている．回答してくれる人も少なくなっているが，若年層で低い回収率になることは一般的によく見られる傾向である．

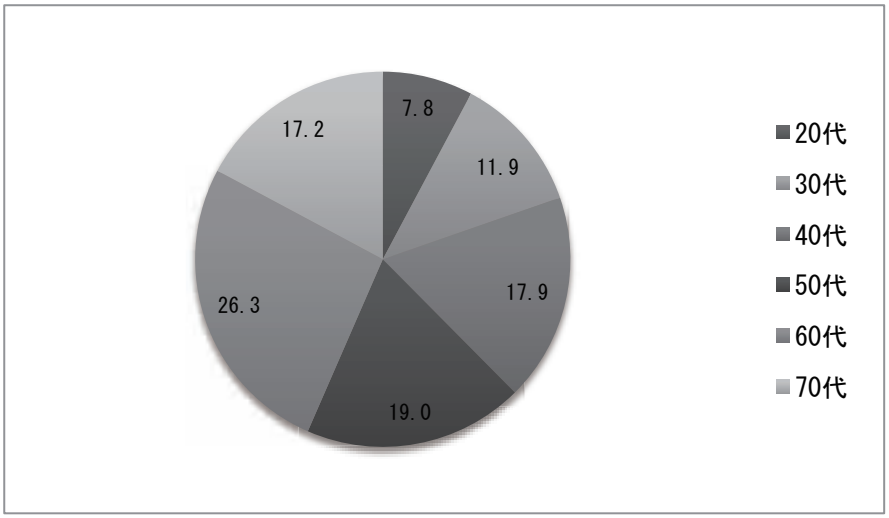

図 2　回答者の年齢

3.3　地域

図 3 にみられるとおり，居住地域では，6 割を越える市民が松任地区である．次いで，鶴来地区が 2 割，美川地区が 1 割である．

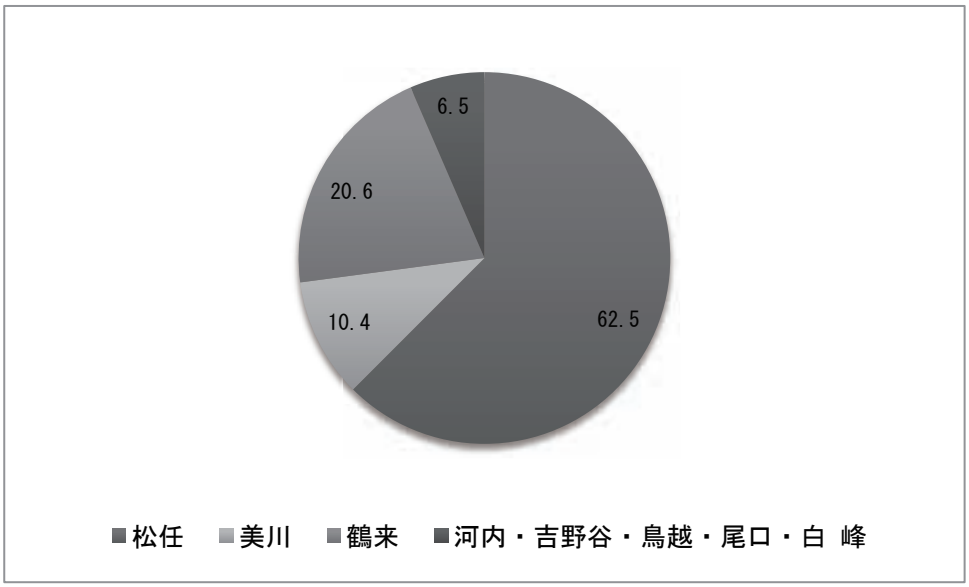

図 3　回答者の居住地域

3.4　学歴

学歴は図 4 のようになっているが，高校卒業までの人が 6 割弱である．大学卒・大学院修了の方は約 2 割となっている．

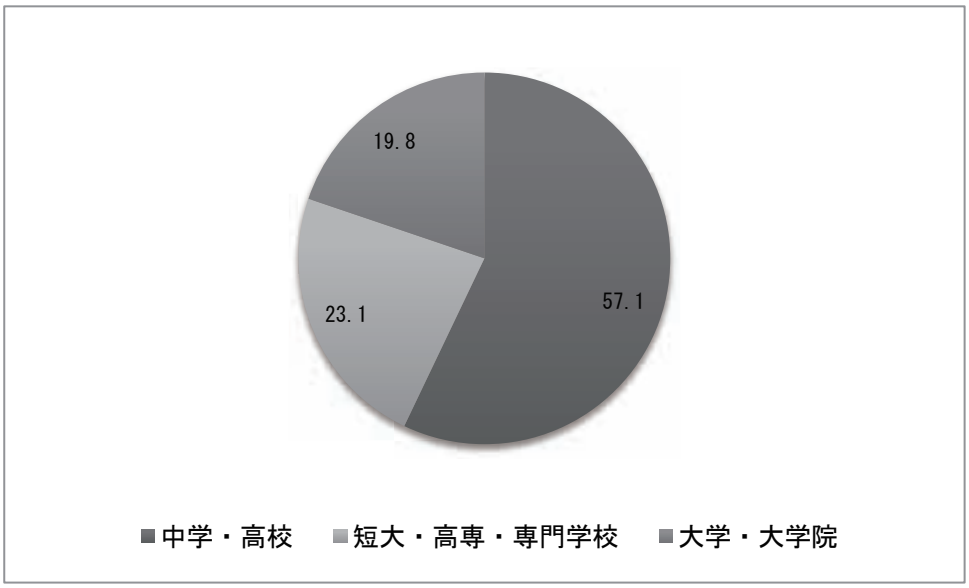

図 4　回答者の学歴

3.5　職業

回答者の 3 分の 2 は有職の方であり，3 分の 1 の方が無職ないし学生の方であった（図 5）．

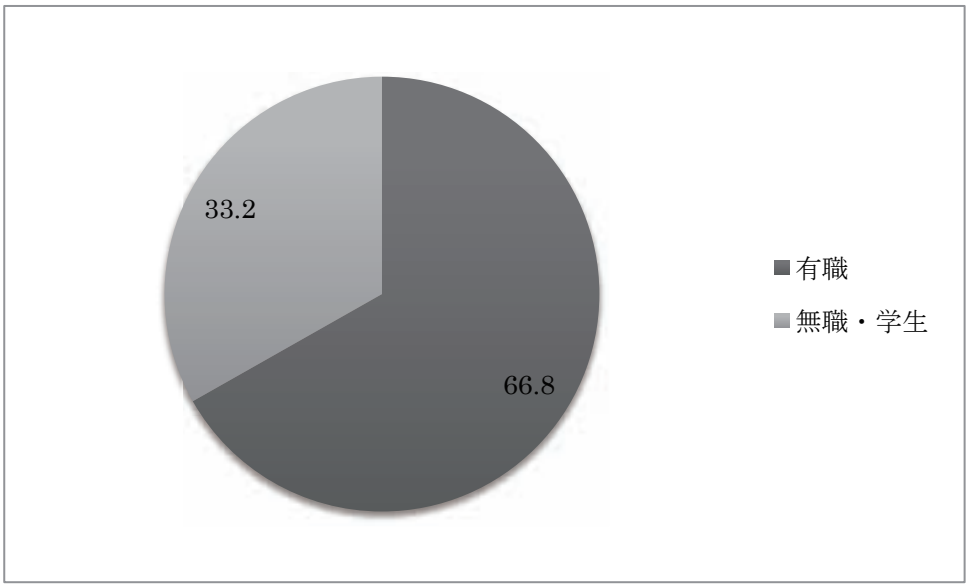

図 5　回答者の職業の有無

3.6　個人所得

最後に，回答者の所得分布については，図 6 のとおりである．70～150 万円未満がもっとも多く，ほぼ回答者の 4 分の 1 となっている．次いで，150～250 万円未満が 17.5%，250～350 万円未満が 15.6%となっている．

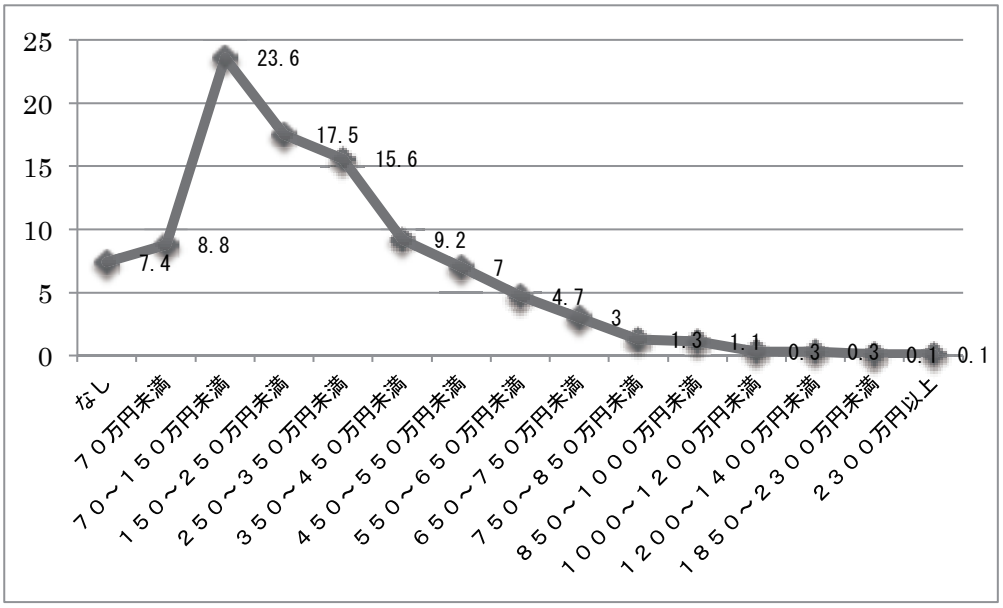

図 6　回答者の個人所得

第７章　障害福祉に関する市民の意識

杜　林

1　はじめに

「共生社会」が謳われる今日，依然として障害者に対する差別と偏見が存在する．本稿の目的は,障害や障害のある人に関する人の意識や態度を把握することで,それらの知見を,だれもが安心して暮らせる福祉社会の実現に向けての基礎資料とすることである.

2　障害のある人の現状

2.1　障害とは

イギリスのマイケル・オリバーの『障害の政治』（Oliver 1990）以来，障害を個人の属性ではなく，社会の障壁としてとらえる，障害の社会モデルと呼ばれる考え方が生み出された．障害の社会モデルは，障害の医療モデルが障害を過度に個人の問題に還元しすぎていることや，障害者を医療における患者と同一視していることを批判している．そして，障害の社会モデルは，障害者にインペアメント（機能的障害）があっても，社会の改善によって，実際の生活上の困難は解消されうるという側面を重視して，障害を「社会のあり方の問題」としてとらえ直した.

一方で，アメリカの学者は「障害は当事者にとっては様々な属性の一つに過ぎない，付随的なものととらえるべきだ」と主張し,「People with disabilities」という呼称を用いている.双方の主張には若干の違いがあるものの,障害は個人のものという個人モデルから,脱却する方向に収斂してきていると言える.

2.2　日本における障害者の差別問題

要田洋江（1999）は,『障害者差別の社会学』の中で，人々に内面化されている「常識」は,「差別―被差別の枠組み」を支えるものであり，現代日本社会の人々の行動基準が，このような健常者の論理につらぬかれた「常識」と「障害者差別の枠組み」とによって作られているために,日常的に障害者差別が生み出されていると主張する.従って,要田(1999)は，障害者だけでなく障害児・障害者を身内に持つ人々は，差別される人々となり,「圧倒的に他者に拘束され無力化される自己」を感じて抵抗することができず，悔しさはあって

も，差別されることを「仕方ない」と考えるようになる一方で，「視る」ことのできる立場にいる人々は，自分が差別していることにはまったく気がつかないのだという．こうした要田の研究に従うならば，障害者が差別されることのない，人間の生命の尊厳にもとづいた，公平，平等という人間の支えあいの社会福祉システムの構築が求められるだろう．

高林秀明（2008）は『障害者・家族の生活問題』のなかで，障害者差別問題は，社会問題である以上，「能力」や平等観という理由とは無関係に，資本主義体制の階級社会の仕組みから構造的に作られた社会問題であり，差別や排除の問題を研究する際には，その背景にある社会経済的なメカニズムと結びつけて，問題を把握しなければならないということを指摘した．また，高林（2008）は，最大限利潤を追求する資本による「労働力の差別的利用」は，障害者が資本主義のメカニズムに「組み込まれている」状況に他ならなく，生活基盤が不安定で，地域社会とのつながりの乏しい世帯を増加させ，社会的孤立をさらに深めさせるということを指摘した．

3　調査の概要

3.1　調査の方法

20 歳から 79 歳までの白山市民から無作為に 1500 名を抽出した．そして，それらの対象者に調査票を郵送し，726 名の対象者からの回答を得た．

3.2　回答者の属性

回答者の属性は以下のとおりである．まず性別であるが，男性より女性のほうが多く，59.1%を占めている．60 代の比率がもっとも高く，26.3%になる．20 代は最も少なく，7.8%である．また，白山市に住んで 10 年未満の回答者（13.1%）は少数であり，回答者の多くは白山市に十年以上に住んでいる．

以下では，回答者の家庭生活や仕事などについて概観していく．まず，結婚状況に関しては，表 1 のとおりである．表 1 を参照すると，既婚者が全体の 76.0%を占めていることがわかる．

表 1　あなたは現在，結婚していらっしゃいますか.

	度数	%
未婚	97	13.5
既婚	547	76.0
離別	28	3.9
死別	48	6.7
合計（有効ケース）	720	100.0

表 2　現在のお仕事は次の表の分類のうち，どれにあたりますか.

	度数	%
事務的な仕事	98	20.5
販売的な仕事	50	10.5
サービス的な仕事	42	8.8
通信的な仕事	1	0.2
保安的な仕事	5	1.0
専門的，技術的な仕事	93	19.5
管理的な仕事	24	5.0
建築請負的な仕事	17	3.6
運輸的な仕事	16	3.4
労務的な仕事	16	3.4
製造的な仕事	71	14.9
農林漁業の仕事	13	2.7
その他	31	6.5
合計（有効ケース）	477	100.0

そして，回答者の79.6%には子どもがおり，そのうち58.5%の人が2人の子どもがいる．調査対象者の多くが高等学校を卒業しており（46.2%），有職者は全体の 66.8%，うち47.2%の人は一般従業者である．有職者の仕事の分類については表 2 のとおりである．

現在の暮らし向きについては，13.7%の人が「良い」，22.9%の人が「どちらといえば良い」，44.3%の人が「よくも悪くもない」と答えた．回答者の個人収入については 70〜150

万円（23.6%），150～250 万円（17.5%），250～350 万円（15.6%）に分布が集中している．

4　分析結果

4.1　障害のある人との交流

障害のある人との交流に関しては，発達障害や精神障害のある人が親戚にいる割合が多く，48.5%の人が身近にいると回答している．同様に，身体障害や知的障害のある人が近所にいる割合も多く，59.1%の回答者の身近に知的障害のある人がいると回答している．こうした，身近に障害をもつ人のいる環境がある一方で，91.1%の人は，3 年間に障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがないと回答している．

双極性障害，高機能自閉症，アスペルガー症候群に関しては，全く知らない人が多い．ただ，障害者に関する法律をまったく知らない人が多い一方で，障害者雇用促進法について知らない人は比較的少なく，34.7%にとどまった．

障害のある人の雇用については，「障害のある人の雇用をうながすためには，国や地方自治体からの助成金が必要だ」という質問に対して，「そう思う」と回答したのは 51.2%，「どちらかといえばそう思う」と回答したのは 35.0%であったことから，国や地方自治体からの助成金が必要だと考える人が多いといえる．

生活については，施設で生活するほうがいいと考える人は少なく，「そう思う」のは 3.5%，「どちらかといえばそう思う」のは 12.0%を占めている．障害のある人を支援するための政策として最も重要なことは，就労支援だと考える回答者が一番多く，その次に重要なこととして挙げられていたのはケアする人の支援であった．

賃金について，障害のある人も障害のない人も同じ賃金であるべきだと考える人は，同じ賃金であるべきではないと思う人より少なかった．結果は，以下の表 3 のとおりである．この結果を参照すると，障害のない人は障害のある人の働く能力を，実際よりも低く見積もるのではないかということが考えられる．

表 3　同じ時間働いたならば，障害のせいで成果が低かったとしても，障害のある人も障害のない人も同じ賃金であるべきだ

	度数	%
そう思う	72	10.1
どちらかといえばそう思う	117	16.5
どちらともいえない	285	40.1
どちらかといえばそう思わない	163	23.0
そう思わない	73	10.3
合計（有効ケース）	710	100.0

4.2　差別に関する認識

障害のある人に対しての差別があると考える人は多い．「あなたは，現在，日本の社会には障害のある人に対して，障害を理由とする差別があると思いますか」という質問に対しは,「かなりある」と回答したのが 19.7%,「多少ある」と回答したのが 51.5%であった．差別があると回答した人のうち，教育・療育と交通や建物のバリアフリー化の面での差別があると回答した人が多かった．障害のある人に対する差別や偏見については，5 年前と比べて改善されたと思う人が 47.4%を占めた．

また，精神障害を理由とする差別があるかということについて,「そう思う」と回答したのは 25.5%,「どちらかといえばそう思う」と回答したのは 43.6%となっていることから，精神障害をもつ人は，他の障害をもつ人よりも排除されやすいということが考えられる．

こうした障害と差別の問題を考えていく際に重要な考え方となる,「合理的配慮」と「共生社会」については，市民の間であまり普及していないと推測される．今回の調査では，83.6%の人が「合理的配慮」という言葉も，考え方も知らないと回答し,「共生社会」という考え方について知っている人も 12.7%にとどまった．

最後に，障害のある人の生活上の困難に関しては，81.6%の回答者が個人の心身の機能と社会的な障壁の，両方の問題があると回答した．また，現在の障害者福祉水準については，高いと考えている人よりも，低いと考えている人が多い（表 4）．

表 4　あなたは，現在の障害者福祉の水準について，どのように思いますか.

	度数	%
とても低い	67	9.5
やや低い	176	24.9
どちらともいえない	402	56.9
やや高い	56	7.9
とても高い	5	0.7
合計（有効ケース）	706	100.0

4.3　平等観や公正観について

差別や社会的排除の問題を考えていくとき，あわせて考えていかなければならないのは，どのような平等，公正が望ましいと考えられるかという，平等観や公正観のあり方についてだろう．そこで，白山市民はどのような平等観，公正観をもっているのかみてみよう．

表 5 からは，「財産や収入を分配する最も公平な方法は，みなに等しく分けることだ」と考える人（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」）が 21.8%，そうは考えない人（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）が 39.6%であることがわかる．

表 5　財産や収入を分配する最も公平な方法は，みなに等しく分けることだ

	度数	%
そう思う	71	10.0
どちらかといえばそう思う	84	11.8
どちらともいえない	274	38.6
どちらかといえばそう思わない	147	20.7
そう思わない	134	18.9
合計（有効ケース）	710	100.0

表 6 を見てみよう．表 6 の結果からは，「結果として貧富の差が生じたとしても，機会の平等さえあれば公平だといえる」と考える人（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」）が 35.2%，そうは考えない人（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）が 19.6%いることがわかる．こうした回答分布の差は，障害をもつ人の平等や公正のあり

方を考えていく際に，障害をもたない人のあいだではどのような平等観が存在するのかを示しているという点で，重要であるといえるだろう．

表 6　結果として貧富の差が生じたとしても，機会の平等さえあれば公平だといえる

	度数	%
そう思う	53	7.5
どちらかといえばそう思う	196	27.7
どちらともいえない	320	45.3
どちらかといえばそう思わない	74	10.5
そう思わない	64	9.1
合計（有効ケース）	707	100.0

表 7　すべての人が必要なモノを手に入れるために，自分が必要とする以上に稼いでいる人びとからお金を集めることになっても仕方がない

	度数	%
そう思う	34	4.8
どちらかといえばそう思う	106	15.0
どちらともいえない	295	41.8
どちらかといえばそう思わない	152	21.5
そう思わない	119	16.9
合計（有効ケース）	706	100.0

表 7 は，「すべての人が必要なモノを手に入れるために，自分が必要とする以上に稼いでいる人びとからお金を集めることになっても仕方がない」と考える人（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」）が 19.8%，そうは考えない人（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）が 38.4%いることを示す．この結果は，既得権益を手放して他者の福祉に貢献する必要はないと考える人が比較的多数であることを示すものであるが，こうした考え方は，累進課税制のような所得の再分配の理念と相反すると考えられる．

差別に関する意見についてみてみよう．差別される人と接触しないほうがいいと考えない人は 45.4%を占める．この割合は，差別される人と接触しないほうがいいと考える人よ

り多い．差別がなくなることはないと考える人が多く，「この世の中で，差別がなくなることはない」という質問に対し，「そう思う」と回答したのは 36.7%であり，「どちらかといえばそう思う」と回答したのは 34.0%である．

政府の役割に関する意見については，「政府は，障害のある人の賃金を障害のない人と平等にするためのコストを負担するべきだ」という質問に対して，そうしたコストを負担すべきだと回答した人は 17.5%であった．また，政府は民間に任せるべきだという考えについては，「そう思う」のは 11.3%であり，「どちらかといえばそう思う」のは 21.1%となった．一方で，所得の差を縮めるために政策を取るべきだとは考えない人（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）は，10.5%を占めた．

表 8　政府は，豊かな人と貧しい人の所得の差を縮めるために対策を取るべきだ

	度数	%
そう思う	184	25.9
どちらかといえばそう思う	245	34.5
どちらともいえない	206	29.0
どちらかといえばそう思わない	50	7.0
そう思わない	25	3.5
合計（有効ケース）	710	100.0

5　結論

今回の調査結果からは，今の社会の中には障害者に対しての差別が未だ存在しており，障害をもつ人に関する知識の普及やボランティア活動は積極的に進んではいないが，多くの障害をもたない人々は，そうした状況を改善したいと考えており，障害のある人とその介助者に対してもっと多くの援助を与えるべきだと考えていることが分かる．

参考文献

Oliver, Michael, 1990, *THE POLITICS OF DISABLEMENT*, Macmillan Publishers. (=2006，三島亜紀子・山岸倫子・山森亮・横須賀俊司訳『障害の政治』明石書店)

要田洋江, 1999，『障害者差別の社会学　ジェンダー・家族・国家』，岩波書店.

高林秀明, 2008，『障害者・家族の生活問題』ミネルヴァ書房.

第Ⅲ部　意識調査データの分析

第 8 章　障害のある人の地域生活について
-市民の意識調査から-

岡本　惇太

1　はじめに

近年，障害のある人の人権保障運動や福祉施策の強い要求により，障害のある人が地域で自立した生活を送っていける制度・仕組みづくりが整備されてきている．障害のある人というと，かつては病院や施設で生活し，人通りの多いところにはあまり出ていないという印象があったが,今では街や駅など,多くの人が行き交う場所でも目にするようになり,施設や病院にいるといったイメージは未だに強く残っているものの,少しずつではあるが,変わってきていると思われる．このように障害のある人が自立した生活を送っていける社会が望ましいという考え方は多くの人々に広まってきており，その自立を支える環境を整備した社会が求められてきている.ここでの自立生活とは,個人の自己決定権が尊重され,自分の生活を自らの意思で選択してゆけることを指す．そうした地域における自立生活の実現には地域住民の理解や地域生活移行に関わる人々の意識の醸成が重要になる．本章では障害のある人が地域で自立した生活を送ることについて，住民はどう考え，どのような属性の方に意識の偏りがあるのかを調べ，その偏っている理由が何かを推測していく.

2　問題設定

2.1　経済的要因と市民意識

障害のある人が地域で生活していくには，障害の程度に応じた支援機器の購入や，病気の治療に関わる医療費などの出費に困らない経済的基盤が必要であり，家族や家庭内の経済的な余裕がなければ，生活を支えていくことは難しいと考えられる．そこで，個人の経済的属性が障害のある人の地域生活に対する意識に影響を及ぼしているのではないかと思い，回答者自身の個人収入の属性を用いて，その影響について調べてみた.

2.2　年代別の意識の傾向

“はじめに”でも述べたように，障害のある人の地域における自立生活を支えるには，周りの住民の協力や地域で支えていこうとする意識が必要である．そこで，年齢の属性を用

いて，どういった年齢層に意識の傾向が見られるのか，調べてみた．

3　使用変数

被説明変数：問 14a「障害のある人の生活は家族や親族が支えるべきだ」，問 14b「障害のある人は施設で生活するほうがよい」，問 14c「障害のある人が自立して生活していくことは難しい」，問 14d「障害のある人の生活は地域で支えるべきだ」

説明変数：個人収入，年齢層（20 代～30 代＝若年，40 代～50 代＝中年，60 代～70 代＝老年）

4　分析結果

4.1　経済的要因と市民意識

まず，説明変数である個人収入と被説明変数問 14a，問 14b とのクロス表でカイ二乗検定を行った．個人収入と問 14a「障害のある人の生活は家族や親族が支えるべきだ」のクロス表では，表 1 のとおりで，個人収入と意識の間で，有意な差は見られなかった．

表 1　個人収入と問 14a のクロス表（単位：%）

		障害のある人の生活は家族や親族が支えるべきだ					
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	計（度数）
個人収入	0～150 万	16.7	25.7	44.6	4.8	8.2	100.0（269）
	150～250 万	15.0	27.5	41.7	5.0	10.8	100.0（120）
	250～450 万	18.9	28.0	36.0	9.7	7.4	100.0（175）
	450 万以上	15.1	26.2	34.1	11.1	13.5	100.0（126）
	計	16.7	26.7	40.0	7.2	9.4	100.0（690）

N=690　df=12　χ^2=0.232　p=0.148

個人収入と問 14b「障害のある人は施設で生活する方がよい」のクロス表では図表 2 のとおりで，「そう思わない」と回答する割合では個人所得が 450 万以上の人の 23%程度が回答し，他の所得層に比べて多いことから，所得が比較的高い層では，「障害のある人は施

設で生活する方がよい」という意見に否定的な意識を持っているということが窺える.

表 2　個人収入と問 14b のクロス表（単位:%）

		障害のある人は施設で生活するほうがよい					
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	計（度数）
個人収入	0～150 万	3.3	10.7	60.1	13.3	12.5	100.0（271）
	150～250 万	6.6	16.5	52.1	11.6	13.2	100.0（121）
	250～450 万	2.9	10.9	58.3	17.1	10.9	100.0（175）
	450 万以上	1.6	13.5	46.0	15.9	23.0	100.0（126）
	計	3.5	12.3	55.7	14.4	14.1	100.0（693）

N=693　df=12　χ^2=0.035　p=0.179

4.2　各年齢層の意識の傾向

次に,説明変数の年齢層と被説明変数問 14b,問 14c,問 14d とのクロス表でカイ二乗検定を行った．年齢層と問 14b「障害のある人は施設で生活する方がよい」のクロス表では,図表 3 のとおりで，老年の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答割合が他の年齢層に比べて，高い結果が得られた.

表 3　年齢層と問 14b のクロス表（単位:%）

		障害のある人は施設で生活するほうがよい					
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	計（度数）
年齢層	若年	2.8	9.9	67.6	12.0	7.7	100.0（142）
	中年	2.3	8.3	57.7	15.1	16.6	100.0（265）
	老年	4.9	16.4	49.0	14.1	15.5	100.0（304）
	計	3.5	12.1	56.0	14.1	14.3	100.0（711）

N=711　df=12　χ^2=0.002　p=0.184

年齢層と問 14c「障害のある人が自立して生活していくことは難しい」のクロス表では，老年の「そう思う」「そう思わない」の回答の割合が他の年齢層に比べて多く，若年層の「どちらかといえばそう思わない」の回答割合が他の年齢層に比べ高い結果が得られた．

表 4　年齢層と問 14c のクロス表（単位：%）

		障害のある人が自立して生活していくことは難しい					
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	計（度数）
年齢層	若年	10.6	27.5	37.3	19.7	4.9	100.0（142）
	中年	15.0	36.8	33.5	8.6	6.0	100.0（266）
	老年	21.7	39.8	26.0	8.6	3.9	100.0（304）
	計	17.0	36.2	31.0	10.8	4.9	100.0（712）

N=712　df=8　χ^2=0.000　p=0.209

年齢層と問 14d「障害のある人の生活は地域で支えるべきだ」のクロス表では，年齢層と意識の間で有意な差は見られなかった．

表 5　年齢層と問 14d のクロス表（単位：%）

		障害のある人の生活は地域で支えるべきだ					
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	計（度数）
年齢層	若年	26.1	40.1	29.6	2.8	1.4	100.0（142）
	中年	23.4	38.5	31.7	4.9	1.5	100.0（265）
	老年	17.7	34.4	39.0	5.2	3.6	100.0（305）
	計	21.5	37.1	34.4	4.6	2.4	100.0（712）

N=712　df=8　χ^2=0.113　p=0.135

5　考察

5.1　経済的要因と市民意識

分析結果から，まず図表 1 の個人収入と問 14a「障害のある人の生活は家族や親族で支えるべきだ」の意見に関する意識には有意な関連が見られず，障害のある人は家族や親族で支えるべきという意識は所得に大きな影響を及ぼされていないことが分かった．

次に図表 2 の個人収入と問 14b「障害のある人は施設で生活する方がよい」の意見に関する意識では所得の高い層が問 14b の意見に対して否定的な意識を持っていることが特徴として表れている．その理由としては，所得が高いということは，経済的に豊かであることから，もし，自分の家族が障害を持ったとしても，施設ではなく，在宅で生活を支えることができるため，施設で生活するという意見に否定的な考えを持たれたのではないかと考えられる．だが，この問 14b の質問文はもしあなたの家族が障害を持たれた場合を前提とはしておらず，一般的な意見に対する意識を問うているものであるため，上述した理由が成立するかどうかは確実には言えない．そうしたことから経済的要因が市民の障害のある人の地域生活に対する意識に関係はしている可能性はあるものの，それがどの程度関係しているのかは測ることができなかった．

5.2　各年齢層の意識の傾向

各年齢層の意識の傾向では，老年層の方が，問 14b「障害のある人は施設で生活する方がよい」，問 14c「障害のある人が自立して生活していくのは難しい」の意見で，「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答割合が他の年齢層に比べ多い傾向が見られた．そうした傾向の理由として，まず老年層の障害のある人に対するイメージが関係しているのではないかと思う．老年層である 60 代～70 代の人達は，戦後に発展してきた障害者関連の法制度の変遷とともに生きてきた世代であり，障害のある人が一般社会から排除され，特定の施設・場所に隔離されていた時代を実際に経験していることから，そうした障害のある人は施設中心の生活をし，福祉や政策の保護の対象であるという考えを持つ人がいるのではないかと考えられる．

また高齢になると，身体的な制約が大きくなり，認知症や病気に罹患しやすくなることから，高齢になるまでの生活を送ることが難しくなる．そうした高齢者の状況を障害のある人の状況に重ねることで，自立生活は難しいのではないかと考えることも理由のひとつとして考えられる．

一方で，若年層と「障害のある人が自立して生活していくのは難しい」の意見に関する意識においては，否定的な回答割合が他の世代に比べて多い特徴が見られた．その理由として大きく分けて 2 つ考えられる．まず 1 つめは 1981 年の国際障害者年と「国連・障害者の 10 年」を契機とする，日本障害者福祉施策の転換が挙げられる．これにより，従来の施設入所を中心とした施策から在宅福祉や社会参加の促進を目指す施策へと移行する取り組みが行われ，日本の国民にもこうした社会の動きと新たな障害観について考える機会が多くなったのではないかと推測される．

2 つめは，2007 年の「障害者権利条約」の署名と新たな障害観に関する考え方の広がりである．「障害者権利条約」には障害のある人の自立生活と地域社会への包容に関する規定が盛り込まれており，この権利条約署名以降，日本では障害に関する法制度が以前より，整備されるようになった．またノーマライゼーションや社会的包摂といった考え方が日本に浸透し，教育機関や職場でもこの概念の理解を進み，教育現場では，特別支援学級の発展とインクルーシブ教育の導入がされ，障害のある子どもが一般学級に入り，共に学び，社会に参加する環境が作られている．20 代～30 代の若年層はこうした障害者の人権保障や自立促進の考えが広まってきた社会の中で生まれ，学生時代を過ごしているため，そうした意識の特徴が見られるのではないかと思われる．

6　結論

今回の調査で，市民の障害のある方の地域生活に対する意識は個人の経済的要因の影響を受けている可能性があり，年齢によって意識に偏りがあることが分かった．またその年齢による意識の偏りから，現代社会の障害に対する考えや概念が個人の意識に影響及ぼしている，またかつての障害に対するイメージが老年層の人に残っていることを推測することができる．このことから，今後も障害のある人の地域生活への移行や自立促進を支える社会が望ましいという考えを広げていくことは，人々の障害のある人が平等な選択の機会を有し，地域生活を行うことができる社会にしていこうとする意識の深化に一定の効果をもつと言えるだろう．

参考文献

菊池馨美・中川純・川島聡, 2015, 『障害法』成文堂.

岩田正美・杉野昭博, 2011, 『障害と福祉』日本図書センター.

第 9 章　障害のある人とない人の障害観
−障害の有無と幸福の関係をどのようにみているのか−

渡辺　健太郎

1　はじめに

障害をもたない市民と，障害の当事者は，それぞれ障害をどのように考えているのだろうか．本稿はこうした問いから出発する．

市民がどのような障害観をもっており，障害当事者がどのような障害観をもっているのかを明らかにすることは，障害当事者の福祉を充実させていくためにも必要なプロセスであると考えられる．なぜなら，障害をもたない市民の障害観のみにもとづいて様々な政策的決定がなされることは，障害をもつ当事者の障害観を反映していないことになるといえるからだ．市民と障害の当事者，どちらの障害観も明らかにすることで，政策的決定を為していく際に，その決定がどちらかの障害観に偏ってはいないかということを考えることができる．市民と障害当事者，それぞれの障害観を明らかにすることは，こうした重要さをもつ．

そこで本稿では市民と障害当事者それぞれの障害観を明らかにする．具体的には，「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」という，幸福についての障害観に着目して分析を進めていく．

2　回答分布

2.1　障害当事者の回答分布

まず，「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」という質問に対する，精神障害当事者，知的障害当事者，身体障害当事者，市民，それぞれの回答の分布を確認する．回答選択肢は「そう思う」，「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」，「どちらかといえばそう思わない」，「そう思わない」の 5 段階になっている．

また，今回の調査結果は，障害当事者と市民でサンプリングの手法が異なるために単純な比較はできないという点には留意が必要である．

まず，精神障害当事者の回答の分布を確認する（表 1）．「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」という質問にたいして，精神障害当事者の約 4 割が，「そう思う」と回答を

している．また，「どちらかといえばそう思う」と回答した精神障害当事者は 1 割ほどである．

精神障害当事者のうち，「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」という質問にたいして，肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」）をした割合は，約 5 割であった．また，否定的な回答（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）をした割合は約 3 割であった．

過半数の精神障害当事者が肯定的な回答していることは，他の障害当事者と比較したとき，精神障害当事者だけにあてはまる回答の特徴なのだろうか．そこで，表 2 を確認してみよう．

表 1　精神障害当事者の「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」への回答

	度数	%
そう思う	50	40.0
どちらかといえばそう思う	16	12.8
どちらともいえない	22	17.6
どちらかといえばそう思わない	9	7.2
そう思わない	28	22.4
合計（有効ケース）	125	100.0

表 2　知的障害当事者の「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」への回答

	度数	%
そう思う	51	39.2
どちらかといえばそう思う	22	16.9
どちらともいえない	33	25.4
どちらかといえばそう思わない	3	2.3
そう思わない	21	16.2
合計（有効ケース）	130	100.0

表 2 は，知的障害当事者の回答分布を示している．知的障害当事者において，「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」という質問にたいして，肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」）をした割合は，約 6 割である．否定的な回答（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）をした割合は，約 2 割にとどまった．知的障害当事者においても，精神障害当事者と同様，過半数が肯定的な回答をしている．

次に，身体障害当事者の回答分布を確認してみよう（表 3）．表 3 を確認すると，身体障害当事者の約 6 割が「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」という質問にたいして，肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」）をしている．

表 3　身体障害当事者の「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」への回答

	度数	%
そう思う	183	42.3
どちらかといえばそう思う	78	18.0
どちらともいえない	91	21.0
どちらかといえばそう思わない	34	7.9
そう思わない	47	10.9
合計（有効ケース）	433	100.0

ここまで，精神障害当事者と知的障害当事者，身体障害当事者の回答分布を確認した．これら 3 つの回答分布からは，白山市における障害当事者の過半数が，「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」という質問にたいして，肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」）をしているということがわかる．上述したように単純な比較はできないが，白山市における障害当事者の過半数は，幸福と障害の間に関係はないという障害観をもっているようである．

2.2　市民の回答分布

ここまで，障害当事者の回答分布を確認した．以下では市民の回答分布を確認し，市民は幸福についてどのような障害観をもっているのかを見ていきたい．表 4 は，「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」という質問に対する市民の回答の分布を示す．この質問に対して肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」）をしている市民は

約 5 割であった.

表 4　市民の「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」への回答

	度数	%
そう思う	189	26.6
どちらかといえばそう思う	167	23.5
どちらともいえない	194	27.3
どちらかといえばそう思わない	94	13.2
そう思わない	67	9.4
合計（有効ケース）	711	100.0

障害当事者と市民の間で,「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」という質問に対する回答分布の比較から，障害当事者と市民のどちらの過半数も，幸福と障害の間に関係はないという障害観をもっているようだ.

しかし，障害当事者と市民の過半数が障害と幸福の間に関係を見出していないからといって，そこに問題がないわけではない．そもそも，上述したように単純な比較はできないし，また，過半数が幸福と障害の間に関係はないと考えている一方で，幸福と障害の間には関係があると考えている人たちもいるからだ.「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」という質問に対して，精神障害当事者で否定的な回答（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」）をしたのは約 3 割，知的障害当事者では約 2 割，身体障害当事者でも約 2 割，市民でも約 2 割だ.

こうした回答の分布を確認すると，それぞれの障害当事者と市民において，幸福と障害の間に関係を見出す人たちがいることがわかる．こうした障害観をもつ人たちはどのような人たちなのだろうか．幸福と障害の間に関係を見出さなければいけない状況は，障害当事者についていえば，障害当事者の福祉が実現できていないという状況をあらわすとも考えられる．障害当事者の福祉という点からも，幸福と障害の間に関係を見出すのは，どのような人々であるのかを問わなければならないだろう.

3　クロス表分析

3.1　使用変数

幸福と障害の間に関係があるとする障害観をもつのはどのような人たちなのだろうか．という問いに対し，「性別」という視点から考察を進めていく．

具体的な分析の進め方としては，「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」を被説明変数に，「性別」を説明変数に用いたクロス表分析を行う．まず，使用変数についての確認をしておく．「性別」は，男性か女性かをあらわす 2 値変数である．回答選択肢は，「1.男性」，「2.女性」となっている．

「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」は，幸福と障害の間の関係をどのように考えているかという障害観をあらわす．回答選択肢は「1.そう思う」，「2.どちらかといえばそう思う」「3.どちらともいえない」，「4.どちらかといえばそう思わない」，「5.そう思わない」の 5 段階になっている．

本稿でのクロス表分析において，「1.そう思う」と「2.どちらかといえばそう思う」は「1.そう思う」にリコード，「3.どちらともいえない」は「2.どちらともいえないにリコード，「4.どちらかといえばそう思わない」と「5.そう思わない」は「3.そう思わない」にリコードした．

3.2　クロス表

表 5 は，精神障害当事者の性別と幸福についての障害観のクロス表である．クロス表分析の結果から，精神障害当事者において，「性別」と「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」には，10%水準での有意な関連は見られなかった．

表 5　精神障害当事者の性別と幸福についての障害観のクロス表（単位：%）

	人の幸せと障害の有無は関係ないと思う			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
男性	45.7	22.9	31.4	100.0（70）
女性	61.8	10.9	27.3	100.0（55）
計	52.8	17.6	29.6	100.0（125）

N=125　df=3　χ^2=4.191　p=0.123

表 6 は，知的障害当事者の性別と幸福についての障害観のクロス表である．このクロス表からは，知的障害当事者において，「性別」と「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」には，5%水準で有意な関連があるということがわかる．傾向としては，女性であるほど人の幸せと障害の有無は関係がないと考えるようだ．逆に，男性であるほど人の幸せと障害の有無は関係があると考えるようだ．

表 6　知的障害当事者の性別と幸福についての障害観のクロス表（単位：%）

	人の幸せと障害の有無は関係ないと思う			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
男性	50.0	35.0	15.0	100.0（60）
女性	62.3	15.9	21.7	100.0（69）
計	56.6	24.8	18.6	100.0（129）

N=129　df=3　χ^2=6.343　p=0.042

表 7 は，身体障害当事者の性別と幸福についての障害観のクロス表である．このクロス表からは，身体障害当事者において，「性別」と「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」には，1%水準で有意な関連があるということがわかる．知的障害当事者と同様，女性であるほど人の幸せと障害の有無は関係がないと考えるようだ．また，男性であるほど人の幸せと障害の有無は関係があると考えるようだ．

表 7　身体障害当事者の性別と幸福についての障害観のクロス表（単位：%）

	人の幸せと障害の有無は関係ないと思う			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
男性	57.9	16.7	25.3	100.0（221）
女性	62.7	25.5	11.8	100.0（212）
計	60.3	21.0	18.7	100.0（433）

N=433　df=3　χ^2=14.955　p=0.001

表 8 は，市民の性別と幸福についての障害観のクロス表である．このクロス表からは，

市民において，「性別」と「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」には，1%水準で有意な関連があるということがわかる．知的障害当事者や身体障害当事者と同様に，女性であるほど人の幸せと障害の有無は関係がないと考え，男性であるほど人の幸せと障害の有無は関係があると考えるようだ．

表 8　市民の性別と幸福についての障害観のクロス表（単位：%）

	人の幸せと障害の有無は関係ないと思う			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
男性	42.9	27.2	29.9	100.0（294）
女性	55.2	27.3	17.5	100.0（417）
計	50.1	27.3	22.6	100.0（711）

N=711　df=3　χ^2=16.968　p=0.000

分析結果をまとめておく．「性別」と「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」のクロス表分析を行った結果，知的障害当事者，身体障害当事者，市民については，「性別」と「人の幸せと障害の有無は関係ないと思う」の間に有意な関連が見られた．また，女性であるほど人の幸せと障害は無関係だと考え，男性であるほど人の幸せと障害は関係があると考える傾向は，知的障害当事者，身体障害当事者，市民に共通していた．

6　考察

知的障害当事者，身体障害当事者，市民について，男性であるほど人の幸せと障害は関係があると考えるのはなぜだろうか．そうした疑問に対する答えの一つとして，性別役割分業意識が考えられるのではないだろうか．

東京都の都区部に住む 25 歳から 49 歳の男性 3000 人を対象とした「都市男性の生活と意識に関する調査」（岡本 2012 ）では，「『経済的に自立している』を『とても重要』と答えたのは 80.5%，『やや重要』は 18.5%であり，99.0%が男性の自立にとって経済的自立を重視している」（大槻奈巳 2005：139）．

性別役割分業意識において，男性にとって経済的な自立が重要だと考えられているのであれば，就労ができていない状態は幸福ではないと考えられるのではないだろうか．また，男性については就労に幸福が影響されると考えるのならば，障害によって就労が困難にな

った場合，幸福を追求することも困難になると考えられるのではないか．就労によって稼ぎを得て，「一人前」にならなければならないという性別役割規範意識は，裏を返せば，就労によって稼ぎを得ていなければ「一人前」ではないということを意味する．男性にとっては，こうした性別役割分業意識において「一人前」ではないとされる状況，すなわち「就労」によって稼ぎを得ることのできない状況が，幸福ではないと考えられているのではないだろうか.

7　おわりに

本稿では，障害当事者と市民はそれぞれどのような障害観を持っているのかという問いから出発し，幸福についてのそれぞれ障害観をみた．そして，その障害観は性別によってどのように異なるのかを分析した．その結果，知的障害当事者，身体障害当事者，市民について，男性であるほど，障害と幸福の間に関連を見出す傾向にあることがわかった.

障害の有無によって，個人の幸福がまったく左右されることのない福祉制度の実現というのは，難しいのかもしれない．しかし，たとえば障害当事者の就労のあり方などの，福祉制度の充実によって，障害の有無が個人の幸福に対してもつ影響を減らすことができる部分もあるのではないだろうか.

参考文献

大槻奈巳, 2012, 雇用不安定化のなかの男性の稼ぎ手役割意識, 134-153, 目黒依子・矢澤澄子・岡本英雄編, 『揺らぐ男性のジェンダー意識　仕事・家族・介護』新曜社.

岡本英雄, 2012, 調査の概要, viii, 目黒依子・矢澤澄子・岡本英雄編, 『揺らぐ男性のジェンダー意識　仕事・家族・介護』新曜社.

第 10 章　障害のある人とない人との関わり

窪内　綾

1　はじめに

近年，障害のある人が年々増えてきている．このような社会ではますます，健常者と障害のある人が関わり合いながら生きていくことを余儀なくされるだろう．そこで，両者がうまく付き合えるのかどうか，差別意識調査の結果から分析していきたいと思う．

ここでは，「障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思うか」「障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思うか」「障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたいと思うか」「障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方であるか」「自分が障害のある子どもの親になったとしても十分うまくやっていけると思うか」の 5 つの質問項目と，回答者の性別，年齢，最終学歴，収入，障害のある方との関わりの有無，障害のある人のためのボランティアの経験の有無，障害に関する授業や講演を受けたことがあるかをそれぞれクロス集計した．

2　障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思う人

「障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思うか」という質問をしたところ，表 1 のような結果であった．

表 1　ボランティア参加希望

	度数	%
そう思う/どちらかといえばそう思う	231	32.8
どちらともいえない	305	43.3
そう思わない/どちらかといえばそう思わない	168	23.9
合計（有効ケース）	704	100.0

「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答した人の方が「そう思わない/どちらかといえばそう思わない」と回答した人よりも若干多いが，両者にはあまり大差はない．

では，どのような人が「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答しているのだろう

か．私の予想では，障害のある人と関わったことがある人，障害に関する講演を受けたことがある人，学歴の高い人がそう回答する傾向にあると思う．

表 2 では，「身体障害者の方と関わったことがあるか」と「障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思うか」をクロス集計した．「精神障害者の方と関わったことがあるか」と「知的障害者の方と関わったことがあるか」という質問項目でもクロス集計したが，同じような結果であったため，「ある」と回答した人が三項目の中でもっとも多かった，身体障害者との関わりの有無とのクロス集計表をここにあげる．表 2 によると，身体障害のある方と関わりのある人の方が，障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思っている傾向にあるとわかる．

表 2　知的障害をもつ人との関わりとボランティア参加希望のクロス集計表

	障害のある人のためのボランティア活動に参加したい			
	そう思う[1]	どちらともいえない	そう思わない[2]	計（度数）
あり	48.6	37.7	13.7	100.0（120）
なし	27.0	45.5	27.4	100.0（175）
計	32.7	43.5	23.8	100.0（690）

表 3 では，「障害に関する授業や講演を受けたことがあるか」と「障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思うか」をクロス集計した．「ある」と回答した人は全体の 3 割にも満たないが，この表からも，障害に関する授業や講演を受けたことがある人の方が障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思っている傾向にあることが読み取れる．

[1] 「そう思う」には、「そう思う」という回答と「どちらかとえいばそう思う」という回答が統合されている。こうした統合を行ったのは、クロス集計表におけるセルの数が多くなりすぎることで、変数間の関連の傾向が読み取りにくくなるのを防ぐためである。こうした統合は、本稿における他のクロス集計表についても同様であるため、それぞれのクロス集計表について、回答の統合を行った記載は省略する。

[2] 「そう思わない」には、「そう思わない」という回答と「どちらかとえいばそう思わない」という回答が統合されている。本稿における他のクロス集計表においても、同様の統合が行われているが、それぞれのクロス集計表での、回答の統合についての記載は省略する。

表 3　講演受講経験とボランティア参加希望のクロス集計表

	障害のある人のためのボランティア活動に参加したい			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	48.2	33.5	18.3	100.0（164）
なし	28.1	46.2	25.7	100.0（537）
計	32.8	43.2	24.0	100.0（701）

表 4 では，回答者の最終学歴と「障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思うか」をクロス集計した．強い関連は見られないが，最終学歴が高い方が障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思う傾向にあるといえる．

表 4　最終学歴とボランティア参加希望のクロス集計表

	障害のある人のためのボランティア活動に参加したい			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
中学校卒	21.7	53.6	24.6	100.0（69）
高等学校卒	30.8	45.8	23.4	100.0（325）
専門学校卒	42.0	34.6	23.5	100.0（164）
大学卒	32.6	42.6	24.8	100.0（537）
計	32.9	43.3	23.8	100.0（701）

以上の 3 項目の他に，回答者の性別，年齢，収入，「障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがあるか」と「障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思うか」をそれぞれクロス集計したが，「障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思うか」と相関しているといえるものは，「障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがあるか」の項目だけであった．その結果は表 5 である．

表5　ボランティア経験とボランティア参加希望のクロス集計表

	障害のある人のためのボランティア活動に参加したい			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	71.0	24.2	4.8	100.0（62）
なし	29.0	45.1	25.9	100.0（632）
計	32.7	43.2	24.1	100.0（694）

以上より，障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思っている人は，障害のある方と関わりのある人，障害に関する授業や講演を受けたことがある人，最終学歴が高めな人，障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがある人だといえるだろう．しかし，これらの表を見る限り，これの逆は当てはまらない．身体障害のある方と関わりのない人，障害に関する授業や講演を受けたことがない人，最終学歴が低い人，障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがない人が，障害のある人のためのボランティア活動に参加したいと思っていないとはいえない．

3　障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思う人

「障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思うか」という質問では，表6のような回答を得られた．

表6　障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思うか

	度数	%
そう思う/どちらかといえばそう思う	264	37.3
どちらともいえない	351	49.6
そう思わない/どちらかといえばそう思わない	93	13.1
合計(有効ケース)	708	100.0

約半数の人が「どちらともいえない」と回答している．では，どのような人が「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答しているのだろうか．私の予想では，障害者と関わりのある人，障害のある人のためのボランティア活動に参加したことのある人が，障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思っている傾向にあると思う．

表 7 では,「身体障害者の方と関わったことがあるか」と「障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思うか」をクロス集計した．これも先ほど同じで，精神障害者，知的障害者との関わりの有無ともクロス集計したが結果がほぼ同じであったため，割愛する．表７によると，障害者との関わりの有無に関わらず，半数の人が「どちらともいえない」と回答している．しかし，障害者と関わりのある人の方が障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思っているようだ.

表７　身体障害をもつ人との関わりと障害のある人との仕事をうまくやっていけると思うかのクロス集計表

	障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思うか			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	46.7	47.8	5.4	100.0（184）
なし	33.7	50.6	15.7	100.0（516）
計	37.1	49.9	13.0	100.0（700）

表 8 では,「障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがあるか」と「障害のある人と一緒に仕事をしても,十分うまくやっていけると思うか」をクロス集計した．表８によると,ボランティア経験のある人の６割が,障害のある人と一緒に仕事をしても,十分うまくやっていけると思っていることがわかる.

表８ボランティア経験と障害のある人との仕事をうまくやっていけると思うかのクロス集計表

	障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思うか			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	60.3	28.6	11.1	100.0（63）
なし	35.0	51.7	13.4	100.0（635）
計	37.2	49.6	13.2	100.0（698）

また，表 9 では「障害に関する授業や講演を受けたことがあるか」とクロス集計した.

これを見ると，障害に関する授業や講演を受けたことのある人の方が，障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思っているようである．

表９　講演受講経験と障害のある人との仕事をうまくやっていけると思うかのクロス集計表

	障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思うか			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	48.8	39.8	11.4	100.0（166）
なし	33.6	52.7	13.7	100.0（539）
計	37.2	49.6	13.2	100.0（705）

表 10 では，回答者の最終学歴と「障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思うか」をクロス集計した．表 10 によると，最終学歴が高くなるほど，「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が増え，「そう思わない/どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合が減っている．

表 10　最終学歴と障害のある人との仕事をうまくやっていけるかのクロス集計表

	障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思うか			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
中学校卒	39.1	37.7	23.2	100.0（69）
高等学校卒	32.9	53.5	13.5	100.0（325）
専門学校卒	38.2	49.7	12.1	100.0（165）
大学卒	45.8	45.1	9.2	100.0（142）
計	37.4	49.4	13.3	100.0（701）

これら以外に，回答者の性別，年齢，収入と「障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思うか」をそれぞれクロス集計したが，あまり強い相関は見られなかった．表 11 は，回答者の年齢と「障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思うか」のクロス集計表である．40 代・50 代の人の方が，20 代・30 代と 60 代・70 代と比べると若干，「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答し

た人の割合が少なく，「どちらともいえない」と回答した人の割合が多い．

表 11　年齢と障害のある人との仕事をうまくやっていけると思うかのクロス集計表

	障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思うか			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
20 代・30 代	38.7	47.9	13.4	100.0（142）
40 代・50 代	36.2	55.1	8.3	100.0（265）
60 代・70 代	38.0	45.1	16.8	100.0（297）
計	37.4	49.6	12.9	100.0（704）

以上より，障害のある人と一緒に仕事をしても，十分うまくやっていけると思っている人は，障害者の方と関わったことのある人，障害のある人のためのボランティア経験のある人，障害に関する授業や講演を受けたことのある人，最終学歴が高い人，40 代・50 代の人だといえるだろう．

4　障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたいと思う人

「障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたいか」という質問では，表 12 のような回答を得られた．約半数の人が「どちらともいえない」と回答しており，約 3 割が「そう思う/どちらかといえばそう思う」，約 2 割が「そう思わない/どちらかといえばそう思わない」と回答している．私の予想では，障害のある方と関わったことのある人，障害に関する授業や講演を受けたことのある人が「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答しているのではないかと思う．

表 12　障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたい

	度数	%
そう思う/どちらかといえばそう思う	235	33.4
どちらともいえない	336	47.7
そう思わない/どちらかといえばそう思わない	133	18.9
合計（有効ケース）	704	100.0

表 13 では，「身体障害者の方と関わったことがあるか」と「障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたいか」をクロス集計した．精神障害の方，知的障害の方との関わりの有無とのクロス集計もほぼ同じ結果であった．この表によると，障害のある方と関わったことのある人の方が「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答している．

表 13　身体障害をもつ人との関わりと交流希望のクロス集計表

	障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたい			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	45.9	43.1	11.0	100.0（181）
なし	28.5	49.5	21.9	100.0（515）
計	33.0	47.8	19.1	100.0（696）

表 14 は「障害に関する授業や講演を受けたことがあるか」と「障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたいか」をクロス集計したものである．この表は明らかに，障害に関する授業や講演を受けたことがある人の方が，障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたいと思っているといえる．障害に関する授業や講演を受けたことがない人の半数は「どちらともいえない」と回答しており，「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答した人よりも「そう思わない/どちらかといえばそう思わない」と回答した人の方が多い．

表 14　講演受講経験と交流希望のクロス集計表

	障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたい			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	49.4	36.6	14.0	100.0（164）
なし	18.3	51.2	20.5	100.0（537）
計	33.2	47.8	19.0	100.0（701）

表 15 では，回答者の性別と「障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流

をしたいか」をクロス集計した．これによると，男性よりも女性の方が，障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたいと思っているようだ．

表 15　性別と交流希望のクロス集計表

	障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたい			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
男性	29.4	47.8	22.9	100.0（293）
女性	36.3	47.7	16.1	100.0（411）
計	33.4	47.7	18.9	100.0（704）

表 16 では，「障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがあるか」と「障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたいか」をクロス集計した．ボランティアの経験のある人の約 6 割は，障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたいと思っているようだ．

表 16　ボランティア参加経験と交流希望のクロス集計表

	障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたい			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	66.1	32.3	1.6	100.0（62）
なし	30.1	49.5	20.4	100.0（632）
計	33.3	48.0	18.7	100.0（694）

表 17 では，回答者の最終学歴と「障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたいか」をクロス集計した．これによると，学歴の高い人の方が「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答しているようである．

表 17　最終学歴と交流希望のクロス集計表

	障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたい			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
中学校卒	25.0	55.9	19.1	100.0（68）
高等学校卒	30.0	49.5	20.4	100.0（323）
専門学校卒	43.3	44.5	12.2	100.0（164）
大学卒	33.1	44.4	22.5	100.0（142）
計	33.3	47.9	18.8	100.0（697）

上記以外にも回答者の年齢，収入と「障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたいか」をそれぞれクロス集計したが，あまり相関は見られなかった．

以上より，障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたいと思っている人は，障害のある方と関わったことのある人，障害に関する授業や講演を受けたことがある人，障害のある人のためのボランティアの経験のある人，学歴の高い人，女性であることがわかる．

5　障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方である人

「障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方か」という質問をしたところ，表 18 のような回答結果であった．「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答した人の方が「そう思わない/どちらかといえばそう思わない」と回答した人よりも少し多いが，大差はない．私は，障害のある方と関わったことのある人，障害のある人のためのボランティア活動に参加したことのある人，障害に関する授業や講演を受けたことのある人は，障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方であるのだと予想する．

表 18　障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方か

	度数	%
そう思う/どちらかといえばそう思う	247	34.7
どちらともいえない	297	41.8
そう思わない/どちらかといえばそう思わない	167	23.5
合計（有効ケース）	711	100.0

表 19 は,「身体障害者の方と関わったことがあるか」と「障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方か」をクロス集計したものである．精神障害のある方，知的障害のある方との関わりの有無とのクロス集計結果もほぼ同様であったため割愛する．表 19 によると，障害のある方と関わったことのある人の方が，障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方のようだ.

表 19　身体障害をもつ人との関わりと障害に関する情報への積極性のクロス集計表

	障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方か			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	52.2	35.5	12.4	100.0（186）
なし	28.2	44.0	27.8	100.0（518）
計	34.5	41.8	23.7	100.0（704）

表 20 は,「障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがあるか」と「障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方か」をクロス集計したものである．これによると，ボランティアの経験のある人の方が，障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方だといえる.

表 20　ボランティア経験と障害に関する情報への積極性のクロス集計表

	障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方か			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	66.7	25.4	7.9	100.0（63）
なし	31.4	43.6	25.0	100.0（637）
計	34.6	42.0	23.4	100.0（700）

表 21 は,「障害に関する授業や講演を受けたことがあるか」と「障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方か」のクロス集計表である．これによると，障害に関する授業や講演を受けたことがある人の方が，障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方であるとわかる.

表 21　講演受講経験と障害に関する情報への積極性のクロス集計表

	障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方か			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	54.8	31.3	13.9	100.0（166）
なし	28.6	44.8	26.6	100.0（542）
計	34.7	41.7	23.6	100.0（708）

表 22 では，回答者の性別と「障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方か」をクロス集計した．この表によると，男性はあまり見聞きしていなくて，女性の方が見聞きしていることがわかる．

表 22　性別と障害に関する情報への積極性のクロス集計表

	障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方か			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
男性	23.9	47.8	28.3	100.0（293）
女性	42.3	37.6	20.1	100.0（418）
計	34.7	41.7	23.5	100.0（711）

以上の他に，「障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方か」と回答者の年齢，学歴，収入ともそれぞれクロス集計したが，強い相関は見られなかった．よって，障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする人は，障害のある方と関わったことのある人，障害のある人のためのボランティアの経験のある人，障害に関する授業や講演を受けたことがある人，女性であるといえるだろう．

6　自分が障害のある子どもの親になったとしても十分うまくやっていけると思う人

「自分が障害のある子どもの親になったとしても，十分うまくやっていけると思うか」という質問をしたところ，表 23 のような結果を得られた．私の予想では，障害のある人との関わり，障害のある人のためのボランティアの経験，障害に関する授業や講演を受けたことがあるかが，この結果と関連があるのではないかと思う．

表 23　自分が障害のある子どもの親になったとしても，十分うまくやっていけると思う

	度数	%
そう思う/どちらかといえばそう思う	135	19.0
どちらともいえない	382	53.8
そう思わない/どちらかといえばそう思わない	193	27.2
合計(有効ケース)	710	100.0

表 24 は,「身体障害者の方と関わったことがあるか」と「障害のある子どもの親になったとしても十分うまくやっていけると思うか」をクロス集計したものである．精神障害のある方,知的障害のある方との関わりの有無とのクロス集計表も同じような結果であった．表 24 によると，障害のある方との関わりのない人は,「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答した人よりも「そう思わない/どちらかといえばそう思わない」と回答した人の方が多い．障害のある人と関わったことのある人はその逆である．しかし,「どちらともいえない」と回答した人の割合は，障害のある人と関わったことのある人の方がない人よりも多い．これは，障害のある人と関わったからこその結果なのだろうか.

表 24　身体障害をもつ人との関わりと障害のある子どもの親になったとしても十分うまくやっていけると思うのクロス集計表

	自分が障害のある子どもの親になったとしても，十分うまくやっていけると思う			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	23.9	59.8	16.3	100.0（184）
なし	17.0	52.0	30.9	100.0（517）
計	18.8	54.1	27.1	100.0（701）

表 25 は,「障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがあるか」と「障害のある子どもの親になったとしても十分うまくやっていけると思うか」のクロス集計表である．この表は，表 24 ととても似ている．ボランティアの経験のある人の方が「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答し，経験のない人の方が「そう思わない/どちらかといえばそう思わない」と回答している．そして,「どちらともいえない」と回答した人の割合はボランティアの経験のある人の方が多い.

表 25　ボランティア経験と障害のある子どもの親になったとしても十分うまくやっていけると思うのクロス集計表

	自分が障害のある子どもの親になったとしても，十分うまくやっていけると思う			
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	計（度数）
あり	27.0	60.3	12.7	100.0（63）
なし	17.9	53.3	28.8	100.0（636）
計	18.7	53.9	27.3	100.0（699）

以上の他に，回答者の性別，年齢，学歴，収入，障害に関する授業や講演を受けたことがあるかとそれぞれクロス集計したが，あまり関連は見られなかった．よって，障害のある子どもの親になったとしても十分うまくやっていけると思うことのできる人は，障害のある方と関わったことのある人と障害のある人のためのボランティア活動に参加したこのある人だといえる．

7　おわりに

障害のある方と関わりたいとか，障害のある人や障害について知りたいとか，障害のある方とうまく付き合えると思っている人は，障害のある方と関わったことのある人，障害に関する授業や講演を受けたことがある人，最終学歴が高めな人，障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがある人，そして女性に多いことがわかった．確かに，障害のある人と関わる仕事をしている人は女性が多いイメージがある．

健常者と障害のある人がうまく付き合っていくためには，健常者が障害についてよく知ることが大切なのだと思う．そして，まずは障害のある人と関わってみることが重要なのだろう．

資料１

障害福祉に関する意識調査
（身体障害のある人）

障害福祉に関する意識調査

２０１４年１０月

調査へのご協力のお願い

１．この調査は、障害のある人びとの生活全般の向上をめざし、安心して暮らせる福祉社会の実現に向けての基礎資料とするために、白山市と金沢大学「障害と医療・福祉」研究会が共同で実施するものです。調査の目的をご理解いただき、率直なご意見をご記入いただきますようお願いいたします。

２．この調査は、あなたさまをはじめ、市内にお住まいの障害者に関する手帳をお持ちの方々から、くじ引きに似た方法（無作為抽出法）で１５００名を選ばせていただきました。

３．回答は、**封筒の宛名のご本人**が記入してください。**ご本人が記入できない場合は、ご本人のお考えをご家族などどなたかに代筆していただくか、ご本人の立場に立ってご回答ください**。

４．この調査は無記名ですので、どなたが回答したか特定されることはございません。みなさま方個人および、ご家族の方々のことが外部にもれることは絶対にありません。また、この調査票で得られたデータは、白山市の福祉行政を実現する施策づくりおよび大学での研究目的以外には使用いたしません。

５．ご記入いただきましたら、**１０月１４日（火）**までに同封の返信用封筒に入れてご投函ください。**※切手は不要です。封筒裏面に差出人のお名前を記入する必要もありません。**

６．以上の点をご理解いただき、なにとぞご協力をお願いいたします。この調査に関するご質問がございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

【実施責任者】
白山市健康福祉部障害福祉課
金沢大学「障害と医療・福祉」研究会

【問い合わせ先】
白山市健康福祉部障害福祉課
Ｔｅｌ：０７６－２７４－９５２６
Ｆａｘ：０７６－２７５－２２１１

調査票記入上の注意事項

◎ご記入は、黒または青色のボールペン・ペン・鉛筆でお願いいたします。
◎回答のしかた
（１）ほとんどの質問は、あてはまるものの番号（**１２３･･･の数字**）を**○印**でかこんで、お答えください。
（２）いくつかの質問には、枠内に文字・数字を直接ご記入ください。
（３）答えにくい質問があるかもしれませんが、できるだけすべての質問にお答えいただければ幸いです。

■まず、あなたご自身のことについてお聞きします。

問１　このアンケートにご記入いただくのはどなたですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. ご本人が記入	**3.** ご家族がご本人に代わって回答
2. ご家族が代筆	**4.** その他（　　）

問２　あなたの性別はどちらですか。

1. 男性	**2.** 女性

問３　あなたは白山市のどの地域にお住まいですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 松任
2. 美川
3. 鶴来
4. 河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰

問４　あなたの年齢は何歳ですか。〔２０１４（平成２６）年１０月１日現在でお答えください〕

満 □□ **歳**

問５　あなたの世帯は、あなたを含めて何人家族ですか。

□□ **人家族**

問６　あなたが**同居されている**ご家族を、つぎの１～１２の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。ただし、亡くなっているかたは除いてください。

1. 配偶者（夫・妻）	**5**. 配偶者の父母	**9**. 配偶者の祖父母
2. 子ども	**6**. 自分の兄弟姉妹	**10**. 孫
3. 子どもの配偶者	**7**. 配偶者の兄弟姉妹	**11**. その他
4. 自分の父母	**8**. 自分の祖父母	**12**. あてはまる人はいない

問７　あなたのお住まいについてお尋ねします。

（１）　現在のお住まいは、つぎのなかのどれですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 持ち家（一戸建て住宅）	**4**. グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム
2. 持ち家（集合住宅〔マンションなど〕）	**5**. 民間の借家・賃貸アパート・マンション
3. 市営・県営などの公的賃貸住宅	**6**. その他（具体的に：　　）

（２）　これからの生活をどこで送りたいですか。つぎの１～７の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1．持ち家（一戸建て住宅）	**5**．民間の借家・賃貸アパート・マンション
2．持ち家（集合住宅〔マンションなど〕）	**6**．入所施設
3．市営・県営などの公的賃貸住宅	**7**．その他（具体的に：　　）
4．グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	

■あなたの障害の種類、等級（程度）などについてお聞きします。

問８　あなたのお持ちの身体障害者手帳についてお聞きします。

（１）　あなたの身体障害者手帳の等級は、総合等級では何級ですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1．１級	**3**．３級	**5**．５級
2．２級	**4**．４級	**6**．６級

（２）　では、あなたの障害はどのような障害ですか。つぎの１～５の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1．視覚障害	**4**．肢体不自由
2．聴覚障害、平衡機能障害	**5**．内部障害〔心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう・直腸、小腸、肝臓、免疫機能の障害など〕
3．音声・言語機能障害、そしゃく機能障害	

（３）　あなたの障害の原因はなんですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1．交通事故	**4**．先天性（生まれつき）
2．労働災害	**5**．疾病
3．その他の事故	**6**．その他（　　）

（４）　あなたが身体障害者手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか。

満　　**歳**

問９　（１）　あなたは、身体障害者手帳のほかに、療育手帳をお持ちですか。

1. 持っている⇒問９（２）へ	**2.** 持っていない⇒問１０へ

（２）　**【問９（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**では、療育手帳の判定は、つぎのいずれですか。つぎの１～３の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1．Ａ	**2**．Ｂ１	**3**．Ｂ２

問１０　（1）　あなたは、身体障害者手帳のほかに、精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。

1. 持っている⇒**問１０（２）へ**	**2.** 持っていない⇒**問１１へ**

（２）　**【問１０（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**では、精神障害者保健福祉手帳の等級は、何級ですか。つぎの１～３の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1．１級	**2**．２級	**3**．３級

問１１　あなたは難病（特定疾患）の認定を受けていますか。

1. はい	**2.** いいえ

問１２　あなたは発達障害（自閉症、学習障害など）の診断を受けていますか。

1. はい	**2.** いいえ

問１３　障害支援区分についてお聞きします。
（１）　あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。

1. 受けている⇒**問１３（２）へ**	**2.** 受けていない⇒**問１４へ**

（２）　**【問１３（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**その障害支援区分は、つぎのどれにあたりますか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 区分１	**5.** 区分５
2. 区分２	**6.** 区分６
3. 区分３	**7.** わからない
4. 区分４	

■あなたの収入の状況についてお聞きします。

問１４　あなたは何により生活費を得ていますか。つぎの１～１１の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1．勤め先の給与や賃金	**5**．事業収入（自営業など）	**9**．特別障害者手当
2．通所施設・作業所などの工賃	**6**．財産収入（家賃など）	**10**．生活保護
3．同居家族の扶養	**7**．障害年金	**11**．その他（　　）
4．別居家族や親戚の援助	**8**．障害年金以外の年金	

問１５　あなたのご家庭の、現在の暮らし向きについてどう思われますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 良い	**4.** どちらかといえば悪い
2. どちらかといえば良い	**5.** 悪い
3. 良くも悪くもない	

■あなたの日常生活上の支援者についてお聞きします。

問１６　あなたは、どのようなときに、どなたの支援が必要ですか。

（１）支援が必要と思うのは、どのようなときですか。ａ～ｍのそれぞれについて、つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

（２）**【問１６（１）で2か3と答えた場合にお答えください。】**では、実際に支援をお願いするのはどなたですか。ａ～ｍのそれぞれについて、つぎの１～４の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	１．自分でできる	２．ときどき支援が必要	３．つねに支援が必要	→	１．家族や親戚	２．友人・近所の人・ボランティア	３．ヘルパー・施設の職員	４．その他（　　）
ａ．食事をするとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｂ．トイレを利用するとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｃ．薬を飲んだり保管するとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｄ．入浴するとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｅ．着替えをするとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｆ．掃除・洗濯をするとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｇ．炊事をするとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｈ．外出するとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｉ．家の中で移動するとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｊ．家族以外の人とコミュニケーションするとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｋ．生活費などお金の管理	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｌ．日常の暮らしに必要な事務手続き	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｍ．緊急時に避難・連絡したいとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**

問１７　あなたの日常生活を支援してくれる人についておたずねします。

（１）　主な支援者は、つぎのうちどなたですか。つぎの１～１２の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1．配偶者（夫・妻）	**5**．配偶者の父母	**9**．配偶者の祖父母
2．子ども	**6**．自分の兄弟姉妹	**10**．孫
3．子どもの配偶者	**7**．配偶者の兄弟姉妹	**11**．支援者はいない⇒**問１８へ**
4．自分の父母	**8**．自分の祖父母	**12**．その他（　　）

（２）　主な支援者に対して必要だと思われるケアやサポートがありますか。つぎの１～１０の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 仕事ができるようなサポート	**6.** 経済的な援助
2. 外出できるようなサポート	**7.** 相談する相手
3. 代わりに介助を頼めること	**8.** 緊急時のサポート
4. 介助者本人が自分の時間を持てるようにすること	**9.** 特にない
5. 介助の方法に関するアドバイス	**10.** その他（　　）

（３）　主な支援者が高齢、病気などで将来支援ができなくなった場合は、どうしますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 親族の支援を受ける
2. ホームヘルパーなどを利用し、自宅で暮らしたい
3. グループホーム・ケアホーム・福祉ホームで暮らしたい
4. 施設に入所する
5. その他（　　）

問１８　あなたは悩みや困ったことがある場合、どちらに相談されますか。つぎの１～２２の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1．家族	**12**．発達相談センター
2．親戚	**13**．配偶者の兄弟姉妹
3．友人・知人	**14**．高齢者支援センター
4．市役所、児童相談所などの行政機関	**15**．社会福祉協議会
5．障害者団体、患者団体や家族会	**16**．医師や看護師などの医療関係者
6．民生委員・児童委員	**17**．学校の先生
7．障害者相談員	**18**．職場の人
8．相談支援事業所	**19**．障害者就業・生活支援センター
9．施設や作業所の職員	**20**．相談したいができない（しない）
10．グループホームの世話人	**21**．悩みや困ったことはない
11．居宅介護のヘルパー	**22**．その他（　　）

問１９　自宅で入浴、排せつ、食事などの支援・介助を受けたり、調理、洗濯、そうじなどの支援を受けたりする居宅介護（ホームヘルプサービス）の利用について、あてはまる番号に○をつけてください。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 利用している
2. 今は利用していないが、利用したことはある
3. 利用したことはないが、今後利用したい
4. 利用したことはなく、今後も利用しない
5. サービスについて知らない

■お仕事についてお聞きします。

問２０　あなたの仕事や通学の状況はつぎのどれにあたりますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 仕事をしている（就労移行支援・就労継続支援・作業所などを含む）⇒**問２１（１）へ**
2. 仕事はしていない⇒**問２２（１）へ**
3. 通学・職業訓練中⇒**問２３へ**

問２１　**【問２０で１と答えた方にのみお聞きします。】**

（１）　あなたは現在、どのような形で働いていますか。つぎの１～６の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 常勤（正規の職員・社員）
2. パート、アルバイト、臨時雇い（派遣社員を含む）
3. 家の仕事（自営業、手伝い）
4. 就労移行支援・就労継続支援・作業所など
5. 内職
6. その他（　　）

（２）　仕事の悩みや困っていることがありますか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. 仕事（細かい作業など）がむずかしい
2. 障害について理解や協力をしてもらえない
3. 職場までの通勤が不便である（距離が遠い、交通手段が限られているなど）
4. 職場の建物や机などの設備が使いにくい
5. 職場でのコミュニケーションがうまくとれない
6. 障害がない人と比べて仕事の内容や昇進などに差がある
7. 障害がない人と比べて給料が安い
8. 職場での人間関係がうまくいかない
9. とくに困っていることや悩みはない
10. その他（　　）

（３）　就職するときに、どこの支援を受けましたか。つぎの１～８の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. ハローワーク
2. 学校
3. 石川障害者職業センター
4. 金沢障害者就業・生活支援センター
5. 小松障害者就業・生活支援センター
6. 就労移行支援事業所
7. 支援を受けていない
8. その他（　　）

（４）　あなたの仕事による１年間の収入は、つぎのどれにあたりますか。つぎの１～１４の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. なし
2. ５０万円未満
3. ５０～１００万円未満
4. １００～２００万円未満
5. ２００～３００万円未満
6. ３００～４００万円未満
7. ４００～５００万円未満
8. ５００～６００万円未満
9. ６００～７００万円未満
10. ７００～８００万円未満
11. ８００～９００万円未満
12. ９００～１０００万円未満
13. １０００万円以上
14. わからない

問２２　**【問２０で2と答えた方にのみお聞きします。】**

（１）　働いていない理由はなんですか。つぎの１～８の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 働く所がないため	**5.** 病気のため
2. 通勤が困難なため	**6.** 重度の障害のため
3. 自分にあった仕事がないため	**7.** 家事に専念しているため
4. 高齢のため	**8.** その他（　　）

（２）　今後、働きたいとお考えですか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 働きたい	**4.** 働く必要がない
2. 働きたいが、自分の心身の状況などを考えるとむずかしい	**5.** わからない
3. 働きたくない	

（３）　どのような形で働きたいと思いますか。つぎの１～６の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 常勤（正規の職員・社員）	**4.** 就労移行支援・就労継続支援・作業所など
2. パート、アルバイト、臨時雇い（派遣社員を含む）	**5.** 内職
3. 家の仕事（自営業、手伝い）	**6.** その他（　　）

問２３　**【ここからまたすべての方にお聞きします。】**あなたは障害のある人が就労しやすくするため、何が必要と考えますか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. 就労に必要な技術や知識を身につけるための訓練の場
2. 通勤するための移動サービス
3. 行政の雇用支援（ジョブコーチ制度、企業への助成制度など）
4. 障害のある人の雇用に対する雇用者側の理解と努力
5. 障害のある人自身の就労に対する意識改革
6. 市民に対する障害のある人の就労に関する啓発
7. その他（　　）

■外出についてお聞きします。

問２４　あなたは過去１年間にどれくらい外出しましたか。つぎの１～６の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. ほぼ毎日	**4.** 月に３～４回
2. 週に４～５回	**5.** 月に１～２回
3. 週に２～３回	**6.** ほとんど外出していない

問２５　あなたの主な外出先・用件はどちらですか。つぎの１～１０の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 通院	**6.** 金融機関
2. 通学・通勤	**7.** 団体等の会議・催し
3. 買い物	**8.** 余暇活動
4. 親戚・友人・知人宅	**9.** デイサービスなどの福祉施設
5. 役所	**10.** その他（　　）

問２６　あなたは外出されるとき、主にどなたと外出されますか。つぎの１～９の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 単独（白杖歩行・盲導犬を含む）	**6.** 友人・知人
2. 家族・親戚	**7.** 近所の人
3. ガイドヘルパー	**8.** ボランティア
4. ホームヘルパー	**9.** その他（　　）
5. デイなどの施設の職員	

問２７　あなたの外出のときの主な移動手段は何ですか。つぎの１～８の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 徒歩	**5.** タクシー
2. 自転車	**6.** 自家用車（自分で運転する）
3. バス	**7.** 自家用車（乗せてもらう）
4. 電車	**8.** その他（　　）

問２８　あなたは外出する時に、移動の支援などのお手伝いをする移動支援事業などの障害福祉サービスを利用していますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 利用している
2. 今は利用していないが、過去に利用したことがある
3. 利用したことはないが、今後利用したい
4. 利用したことはなく、今後も利用しない
5. サービスについて知らない

問２９　あなたが外出するうえで、なにか困っていることがありますか。つぎの１～１１の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. バス・電車などが容易に利用できるよう改良されていない
2. 乗物や公共施設の案内表示がわかりにくい
3. 道路や駅に段差や階段、障害物などが多い
4. 出入口や階段、トイレなど建物が容易に利用できるよう改良されていない
5. 車などに危険を感じる
6. まわりが気にかかる
7. 介助者がいないので外出できない
8. 人とのコミュニケーションがとりにくい
9. ほとんど外出しないのでわからない
10. とくに困ることはない
11. その他（　　）

問３０　文化やレジャーなどの活動についてお聞きします。

	（1）あなたは、この１年間にどのようなことをしましたか。ａ～ｊのそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。		（2）今後、どのようなことをしたいと思いますか。ａ～ｊのそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。	
	１．した	２．しない	１．したい	２．したくない
ａ．コンサートの鑑賞や観劇など	**1**	**2**	**1**	**2**
ｂ．スポーツ教室、大会などへの参加	**1**	**2**	**1**	**2**
ｃ．旅行・キャンプ・つりなど	**1**	**2**	**1**	**2**
ｄ．学習活動	**1**	**2**	**1**	**2**
ｅ．趣味の同好会への参加	**1**	**2**	**1**	**2**
ｆ．ボランティアなどの社会活動	**1**	**2**	**1**	**2**
ｇ．障害のある仲間との交流（ふれあい）	**1**	**2**	**1**	**2**
ｈ．町会・地域活動	**1**	**2**	**1**	**2**
ｉ．特にない	**1**	**2**	**1**	**2**
ｊ．その他（　　）	**1**	**2**	**1**	**2**

■災害時の対応についてお聞きします。

問３１　あなたの災害時の対応についておたずねします。

（１）　地震などの災害時にすぐに困ると思われることは何ですか。つぎの１～１２の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 投薬や治療を受けられない
2. 補装具の使用が困難になる
3. 補装具や日常生活用具の入手ができなくなる
4. 自分の状況が周囲の人に理解してもらえない
5. 安全なところまで、迅速に避難することができない
6. 被害状況、避難所の場所、物資の入手方法などの情報が入ってこない
7. 周囲の人とコミュニケーションがとれない
8. 避難所の設備（トイレなど）について不安
9. 家族の安否情報がとりづらい
10. 救助を求めることができない
11. とくにない
12. その他（　　）

（２）　地震などの災害時の避難場所を、あなたは知っていますか。

1. 知っている　　**2.** 知らない

（３）　地震などの災害時に、あなたは一人で避難できますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. できる	**2.** できない	**3.** わからない

（４）　家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. いる	**2.** いない	**3.** わからない

問３２　白山市では、災害時要援護者に対する支援として、災害時要援護者マップを作成しています。
（１）　このマップについて知っていますか。

1. 知っている	**2.** 知らない

（２）　では、災害時要援護者マップの作成に同意をされていますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 同意している⇒**問３３へ**
2. 同意していない⇒**問３２（３）へ**
3. わからない⇒**問３２（３）へ**

（３）　**【問３２（２）で2か3と答えた方にのみお聞きします。】**今後、マップ作成に同意するつもりはありますか。

1. 同意するつもりはない⇒**問３２（４）へ**	**2.** 同意するつもりだ⇒**問３３へ**

（４）　**【問３２（３）で1と答えた方にのみお聞きします。】**マップ作成に同意するつもりはない理由は何ですか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. 支援が期待できないから
2. 家族の支援を受けられるから
3. 個人情報を知られたくないから
4. 依頼できる支援者がいないから
5. 町内会や自主防災組織などが組織的な取り組みをしていないのでなんとなく不安だから
6. 知っているが制度がよく理解できないから
7. その他（　　）

■あなたの医療や福祉サービスの利用などについてお聞きします。

問３３　あなたは医療のことで、なにか困っていることがありますか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. 通院するとき付き添いをしてくれる人がいない
2. 医師・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない
3. 医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない
4. 専門的な治療をしてくれる病院が近くにない
5. 医療費の負担が大きい
6. とくに困っていることはない
7. その他（　　）

問３４　あなたは医療・福祉サービスなどについてどちらに相談していますか。つぎの１～１３の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 民生委員・児童委員	**8.** 社会福祉協議会
2. 身体障害者相談員	**9.** 介護保険のケアマネージャー
3. 相談支援事業所・相談支援専門員	**10.** 同じ障害のある人の団体・グループ
4. 市役所の相談窓口	**11.** 相談するところがない
5. 保健所・福祉健康センター	**12.** どこに相談に行ったらよいかわからない
6. 医療機関	**13.** その他（　　）
7. 障害福祉施設	

問３５　つぎのサービスをボランティアが行うとしたら、あなたは、どれを受け入れたいと思いますか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 調理	**6.** 病院などへの送迎・外出介助
2. 洗濯	**7.** 買い物
3. 部屋のそうじ・庭の手入れ	**8.** 代筆・代読
4. 話し相手、相談相手	**9.** ボランティアのサービスは受け入れない
5. 家屋内外の簡単な修理	**10.** その他（　　）

問３６　あなたが、暮らしやすくなるために、とくにしてほしいことはどのようなことですか。つぎの１～１７からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 毎日の生活の手助けがもっとほしい
2. 外出（買物など）の支援をしてほしい
3. 障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい
4. 障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい
5. 一般企業で働くことが難しいので、就労支援施設などを増やしてほしい
6. ジョブコーチ制度を充実させてほしい
7. リハビリ訓練の場所を増やしてほしい
8. 障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい
9. 外出しやすい環境や交通機関の利便を図ってほしい
10. いつでも何でも相談できる窓口を用意してほしい
11. いつでも何でも話し合える相談相手や仲間がほしい
12. 年金などの経済的な援助を増やしてほしい
13. スポーツ・レクリエーション・教育・文化活動に対する支援をしてほしい
14. 福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい
15. 円滑なコミュニケーションができるように、障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい
16. とくにない
17. その他（　　）

■ここからは障害や差別についてお聞きします。

問３７　障害に関する差別についてお聞きします。
（１）　あなたはこれまでに障害があるために差別をされたと感じたことがありますか。

1. ある⇒問３７（２）へ	**2.** ない⇒問３８へ

（２）　**【問３７（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**それはどのような分野での差別でしたか。つぎの１～９の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1．医療	**4**．防災	**7**．文化活動
2．教育・療育	**5**．情報バリアフリー	**8**．政治参加
3．交通や建物のバリアフリー化	**6**．行政手続き	**9**．その他（　　）

（３）　それはどのような経験でしたか。さしつかえなければ、具体的にお教えください。

問３８　障害者権利条約では、障害のある人がない人と同じように生活するために過大な負担とならない範囲で行う配慮や工夫を「合理的配慮」としています。また、「合理的配慮」を行わないことは差別として位置づけられています。あなたは、このような「合理的配慮」について知っていましたか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 合理的配慮の考え方について知っている
2. 合理的配慮という言葉は聞いたことがある
3. 合理的配慮については知らない

問３９　あなたは、障害のある人もない人も、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 知っている	**2.** 言葉だけは知っている	**3.** 知らない

問４０　障害と仕事に関する次のような意見についてどう思いますか。ａ～ｄのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	１．そう思う	２．どちらかといえばそう思う	３．どちらともいえない	４．どちらかといえばそう思わない	５．そう思わない
ａ．障害のある人の雇用をうながすためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｂ．企業は、障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備しなければならない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｃ．企業が、障害のある人にとって働きにくい職場の施設を改善しないことは差別である	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｄ．障害のある人に特化した就労支援が必要である	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問４１　白山市の人びとに対して、障害への理解を広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下にご自由にご記入ください。

問４２　障害のある人を支援するための政策として、以下にあげた政策のうち、もっとも重要なことはどれだとお考えですか。つぎの１～６の中から、**もっとも**重要なこと、**その次に**重要なことの番号を回答欄のなかに記入してください。

1. 障害のある人の権利や尊厳を守ること
2. 障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること
3. 障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること
4. 障害のある人に世間並みの住居を提供すること
5. 障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること
6. 障害のある人をケアしている人を支援すること

もっとも重要なこと　□　　次に重要なこと　□

問４３　あなたは障害に関する以下のことについて、どのように思いますか。ａ～ｆのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	１．そう思う	２．どちらかといえばそう思う	３．どちらともいえない	４．どちらかといえばそう思わない	５．そう思わない
ａ．人の幸せと障害の有無は関係ないと思う	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｂ．障害のある人が望めば、障害のない人と同じ教育を受けられるようにすべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｃ．「障害者」という表現は、不適切な表現であると指摘されることもあるため、別の表現に書き改める必要がある	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｄ．同じ時間働いたならば、障害のせいで成果が低かったとしても、障害のある人も障害のない人も同じ賃金であるべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｅ．障害のある人も他の人と同じように責任や義務を果たすべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｆ．たとえ負担が大きくなったとしても、障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましい	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問４４　政府の役割に関するつぎの意見についてどのように思いますか。ａ～ｅのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う	3．どちらともいえない	4．どちらかといえばそう思わない	5．そう思わない
a．政府は、最低限の生活水準をすべての人に保障すべきである	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
b．政府は、働きたいというすべての人に働く機会を提供すべきである	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
c．政府は、障害のある人の賃金を障害のない人と平等にするためのコストを負担するべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
d．政府のやることは無駄が多いので、できるだけ民間に任せるべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
e．政府は、豊かな人と貧しい人の所得の差を縮めるために対策を取るべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問４５　差別に関するつぎの意見についてどのように思いますか。a～ｆのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う	3．どちらともいえない	4．どちらかといえばそう思わない	5．そう思わない
a．差別について深く知ることによって、差別をなくすことができる	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
b．差別される側の気持ちを考えることは難しい	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
c．いまの世の中には、差別される人々を保護するためとして、いきすぎた逆差別がある	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
d．差別される人々とあまり接触しないほうが、社会のなかで問題が生じることが少ない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
e．差別があるのは、差別される側にも原因があるからだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
f．この世の中で、差別がなくなることはない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問４６　あなたは、現在の障害者福祉の水準について、どのように思いますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. とても低い	**4.** やや高い
2. やや低い	**5.** とても高い
3. どちらともいえない	

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

以上で質問は終わりです。

何かご記入もれはありませんか。ご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れてご投函ください。

お忙しいところ、貴重なお時間をさいていただきありがとうございました。

障害福祉に関する意識調査（身体障害のある人）

単純集計表

問１　このアンケートにご記入いただくのはどなたですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
ご本人が記入	409	82.5
ご家族が代筆	42	8.5
ご家族が本人に変わって回答	36	7.3
その他	9	1.8
合計(有効ケース)	496	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	501	

問２　あなたの性別はどちらですか。

	度数	%
男性	252	50.3
女性	249	49.7
合計(有効ケース)	501	100.0

問３　あなたは白山市のどの地域にお住まいですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
松任	311	62.6
美川	62	12.5
鶴来	95	19.1
河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰	29	5.8
合計(有効ケース)	497	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	501	

問４　あなたの年齢は何歳ですか。〔２０１４（平成２６）年１０月１日現在でお答えください〕

	度数	%
10代	3	0.6
20代	9	1.8
30代	14	2.8
40代	18	3.6
50代	58	11.6
60代	183	36.7
70代	214	42.9
合計(有効ケース)	499	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	501	

問５　あなたの世帯は、あなたを含めて何人家族ですか。

	度数	%
1	56	11.3
2	164	33.1
3	104	21.0
4	63	12.7
5	47	9.5
6	33	6.7
7	20	4.0
8	7	1.4
9	2	0.4
合計(有効ケース)	496	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	501	

問６　あなたが**同居されている**ご家族を、つぎの１～１２の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。ただし、亡くなっているかたは除いてください。

	度数	%
配偶者（夫・妻）	352	72.0
子ども	240	49.1
子どもの配偶者	69	14.1
自分の父母	62	12.7
配偶者の父母	18	3.7
自分の兄弟姉妹	29	5.9
配偶者の兄弟姉妹	2	0.4
自分の祖父母	7	1.4
配偶者の祖父母	1	0.2
孫	71	14.5
その他	8	1.6
あてはまる人はいない	36	7.4
合計(有効ケース)	489	
無回答	12	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問７　あなたのお住まいについてお聞きします。

（１）　現在のお住まいは、つぎのなかのどれですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
持ち家（一戸建て住宅）	453	90.4
持ち家（集合住宅）	3	0.6
市営・県営などの公的賃貸住宅	9	1.8
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	14	2.8
民間の借家・賃貸アパート・マンション	15	3.0
その他	7	1.4
合計(有効ケース)	501	100.0

（２）　これからの生活をどこで送りたいですか。つぎの１～７の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
持ち家（一戸建て住宅）	421	85.1
持ち家（集合住宅）	7	1.4
市営・県営などの公的賃貸住宅	12	2.4
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	17	3.4
民間の借家・賃貸アパート・マンション	9	1.8
入所施設	22	4.4
その他	7	1.4
合計(有効ケース)	495	100.0
無回答	6	
合計(全ケース)	501	

問８　あなたのお持ちの身体障害者手帳についてお聞きします。

（１）　あなたの身体障害者手帳の等級は、総合等級では何級ですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
１級	131	26.4
２級	80	16.1
３級	108	21.7
４級	128	25.8
５級	29	5.8
６級	21	4.2
合計(有効ケース)	497	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	501	

（２）　では、あなたの障害はどのような障害ですか。つぎの１～５の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
視覚障害	20	4.0
聴覚障害、平衡機能障害	32	6.5
音声・言語機能障害、そしゃく機能障害	24	4.9
肢体不自由	303	61.3
内部障害	158	32.0
合計(有効ケース)	494	100.0
無回答	7	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

（３）　あなたの障害の原因はなんですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
交通事故	16	3.3
労働災害	25	5.2
その他の事故	21	4.3
先天性	74	15.3
疾病	240	49.6
その他	108	22.3
合計(有効ケース)	484	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	501	

（４）　あなたが身体障害者手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか。

	度数	%
10歳未満	22	4.5
10代	23	4.8
20代	31	6.4
30代	31	6.4
40代	51	10.5
50代	126	26.0
60代	134	27.7
70代	66	13.6
合計(有効ケース)	484	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	501	

問９

（１）　あなたは、身体障害者手帳のほかに、療育手帳をお持ちですか。

	度数	%
持っている	9	1.9
持っていない	477	98.1
合計(有効ケース)	486	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	501	

（２）　あなたの療育手帳の判定は、次のいずれですか。つぎの１～３の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
Ａ.	3	100.0
Ｂ１	0	0
Ｂ２	0	0
合計(有効ケース)	3	100.0
無回答・非該当	498	
合計(全ケース)	501	

問１０　（１）　あなたは、身体障害者手帳のほかに、精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。

	度数	%
持っている	5	1.1
持っていない	445	98.9
合計(有効ケース)	450	100.0
無回答	51	
合計(全ケース)	501	

（２）　では、精神障害者福祉保健手帳の等級は何級ですか。つぎの１～３の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
１級	3	75.0
２級	0	0
３級	1	25.0
合計(有効ケース)	4	100.0
無回答・非該当	497	
合計(全ケース)	501	

問１１　あなたは難病（特定疾患）の認定を受けていますか。

	度数	%
はい	71	16.1
いいえ	371	83.9
合計(有効ケース)	442	100.0
無回答	59	
合計(全ケース)	501	

問１２　あなたは発達障害（自閉症、学習障害など）の診断を受けていますか。

	度数	%
はい	1	0.2
いいえ	421	99.8
合計(有効ケース)	422	100.0
無回答	79	
合計(全ケース)	501	

問１３　障害支援区分についてお聞きします。

（１）　あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。

	度数	%
受けている	29	7.1
受けていない	381	92.9
合計(有効ケース)	410	100.0
無回答	91	
合計(全ケース)	501	

（２）　その障害支援区分は、つぎのどれにあたりますか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
区分１	6	22.2
区分２	1	3.7
区分３	3	11.1
区分４	1	3.7
区分５	1	3.7
区分６	1	3.7
わからない	14	51.9
合計(有効ケース)	27	100.0
無回答・非該当	474	
合計(全ケース)	501	

問１４　あなたは何により生活費を得ていますか。つぎの１～１１の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
勤め先の給与や賃金	113	23.3
通所施設・作業所などの工賃	2	0.4
同居家族の扶養	133	27.4
別居家族や親戚の援助	4	0.8
事業収入	36	7.4
財産収入	10	2.1
障害年金	100	20.6
障害年金以外の年金	212	43.7
特別障害者手当	6	1.2
生活保護	3	0.6
その他	36	7.4
合計(有効ケース)	485	
無回答	16	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問１５　あなたのご家庭の、現在の暮らし向きについてどう思われますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
良い	67	13.8
どちらかといえば良い	81	16.7
良くも悪くもない	231	47.5
どちらかといえば悪い	65	13.4
悪い	42	8.6
合計(有効ケース)	486	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	501	

問１６　あなたは、どのようなときに、どなたの支援が必要ですか。

（１）　支援が必要と思うのは、どのようなときですか。ａ．～ｍのそれぞれについて、つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．食事をするとき

	度数	%
自分でできる	392	88.3
ときどき支援が必要	30	6.8
つねに支援が必要	22	5.0
合計(有効ケース)	444	100.0
無回答	57	
合計(全ケース)	501	

ｂ．トイレを利用するとき

	度数	%
自分でできる	390	87.2
ときどき支援が必要	22	4.9
つねに支援が必要	35	7.8
合計(有効ケース)	447	100.0
無回答	54	
合計(全ケース)	501	

ｃ．薬を飲んだり保管するとき

	度数	%
自分でできる	383	86.5
ときどき支援が必要	20	4.5
つねに支援が必要	40	9.0
合計(有効ケース)	443	100.0
無回答	58	
合計(全ケース)	501	

ｄ．入浴するとき

	度数	%
自分でできる	359	80.1
ときどき支援が必要	27	6.0
つねに支援が必要	62	13.8
合計(有効ケース)	448	100.0
無回答	53	
合計(全ケース)	501	

e．着替えをするとき

	度数	%
自分でできる	365	81.1
ときどき支援が必要	42	9.3
つねに支援が必要	43	9.6
合計(有効ケース)	450	100.0
無回答	51	
合計(全ケース)	501	

f．洗濯をするとき

	度数	%
自分でできる	287	65.8
ときどき支援が必要	53	12.2
つねに支援が必要	96	22.0
合計(有効ケース)	436	100.0
無回答	65	
合計(全ケース)	501	

g．炊事をするとき

	度数	%
自分でできる	291	67.2
ときどき支援が必要	46	10.6
つねに支援が必要	96	22.2
合計(有効ケース)	433	100.0
無回答	68	
合計(全ケース)	501	

h．外出するとき

	度数	%
自分でできる	309	68.2
ときどき支援が必要	56	12.4
つねに支援が必要	88	19.4
合計(有効ケース)	453	100.0
無回答	48	
合計(全ケース)	501	

i．家の中で移動するとき

	度数	%
自分でできる	377	85.1
ときどき支援が必要	35	7.9
つねに支援が必要	31	7.0
合計(有効ケース)	443	100.0
無回答	58	
合計(全ケース)	501	

j．家族以外の人とコミュニケーションするとき

	度数	%
自分でできる	361	82.2
ときどき支援が必要	46	10.5
つねに支援が必要	32	7.3
合計(有効ケース)	439	100.0
無回答	62	
合計(全ケース)	501	

k．生活費などのお金の管理

	度数	%
自分でできる	328	74.7
ときどき支援が必要	42	9.6
つねに支援が必要	69	15.7
合計(有効ケース)	439	100.0
無回答	62	
合計(全ケース)	501	

l．日常の暮らしに必要な事務手続き

	度数	%
自分でできる	294	65.9
ときどき支援が必要	63	14.1
つねに支援が必要	89	20.0
合計(有効ケース)	446	100.0
無回答	55	
合計(全ケース)	501	

m．緊急時に避難・連絡したいとき

	度数	%
自分でできる	283	62.1
ときどき支援が必要	75	16.4
つねに支援が必要	98	21.5
合計(有効ケース)	456	100.0
無回答	45	
合計(全ケース)	501	

問１７　あなたの日常生活を支援してくれる人についておたずねします。

（1）　主な支援者は、つぎのうちどなたですか。つぎの１～１２の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
配偶者	286	59.0
子ども	75	15.5
子どもの配偶者	15	3.1
自分の父母	31	6.4
配偶者の父母	0	0
自分の兄弟姉妹	19	3.9
配偶者の兄弟姉妹	0	0
自分の祖父母	0	0
配偶者の祖父母	0	0
孫	4	0.8
支援者はいない	34	7.0
その他	21	4.3
合計(有効ケース)	485	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	501	

（2）　主な支援者に対して必要だと思われるケアやサポートがありますか。つぎの１～１０の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
仕事ができるようなサポート	18	4.1
外出できるようなサポート	30	6.9
代わりに支援を頼めること	14	3.2
支援者本人が自分の時間を持てるようにすること	17	3.9
支援の方法に関するアドバイス	5	1.2
経済的な援助	70	16.1
相談する相手	41	9.4
緊急時のサポート	62	14.3
特にない	165	38.0
その他	12	2.8
合計(有効ケース)	434	100.0
無回答・非該当	67	
合計(全ケース)	501	

（3）　主な支援者が高齢、病気などで将来介助ができなくなった場合は、どうしますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
親族の支援を受ける	100	22.7
ホームヘルパーなどを利用し、自宅で暮らしたい	147	33.4
グループホーム・ケアホーム・福祉ホームで暮らしたい	48	10.9
施設に入所する	112	25.5
その他	33	7.5
合計(有効ケース)	440	100.0
無回答・非該当	61	
合計(全ケース)	501	

問１８　あなたは悩みや困ったことがある場合、どちらに相談されますか。つぎの１～２２の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
家族	393	81.7
親戚	109	22.7
友人・知人	125	26.0
市役所、児童相談所などの行政機関	89	18.5
障害者団体、患者団体や家族会	9	1.9
民生委員・児童委員	27	5.6
障害者相談員	38	7.9
相談支援事業所	11	2.3
施設や作業所の職員	16	3.3
グループホームの世話人	8	1.7
居宅介護のヘルパー	19	4.0
発達相談センター	0	0
配偶者の兄弟姉妹	29	6.0
高齢者支援センター	25	5.2
社会福祉協議会	17	3.5
医師や看護師などの医療関係者	75	15.6
学校の先生	2	0.4
職場の人	14	2.9
障害者就業・生活支援センター	8	1.7
相談したいができない（しない）	25	5.2
悩みや困ったことはない	22	4.6
その他	8	1.7
合計(有効ケース)	481	
無回答	20	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問１９　自宅で入浴、排せつ、食事などの支援・介助を受けたり、調理、洗濯、そうじなどの支援を受けたりする居宅介護（ホームヘルプサービス）の利用について、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
利用している	29	6.3
今は利用していないが、利用したことはある	16	3.5
利用したことはないが、今後利用したい	182	39.6
利用したことはなく、今後も利用しない	141	30.7
サービスについて知らない	92	20.0
合計(有効ケース)	460	100.0
無回答	41	
合計(全ケース)	501	

問２０　あなたの仕事や通学の状況はつぎのどれにあたりますか。つぎの１～３の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
仕事をしている	161	33.3
仕事はしていない	318	65.8
通学・職業訓練中	4	0.8
合計(有効ケース)	483	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	501	

問２１
（1）　あなたは現在、どのような形で働いていますか。つぎの１～６の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
常勤	60	37.3
パート、アルバイト、臨時雇い	55	34.2
家の仕事	36	22.4
就労移行支援・就労継続支援・作業所など	5	3.1
内職	1	0.6
その他	4	2.5
合計(有効ケース)	161	100.0
無回答・非該当	340	
合計(全ケース)	501	

（２）　仕事の悩みや困っていることがありますか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
仕事が難しい	17	10.2
障害について理解や協力をしてもらえない	13	7.8
職場までの通勤が不便である	11	6.6
職場の建物や机などの設備が使いにくい	4	2.4
職場でのコミュニケーションがうまくとれない	8	4.8
障害がない人と比べて仕事の内容や昇進などに差がある	16	9.6
障害がない人と比べて給料が安い	16	9.6
職場での人間関係がうまくいかない	8	4.8
とくに困っていることや悩みはない	93	55.7
その他	11	6.6
合計(有効ケース)	167	
無回答・非該当	334	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

（３）　就職するときに、どこの支援を受けましたか。つぎの１～８の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
ハローワーク	32	20.1
学校	7	4.4
石川障害者職業センター	4	2.5
金沢障害者就業・生活支援センター	0	0
小松障害者就業・生活支援センター	0	0
就労移行支援事業所	0	0
支援を受けていない	88	55.3
その他	25	15.7
合計(有効ケース)	159	
無回答・非該当	342	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

（４）　あなたの仕事による１年間の収入は、つぎのどれにあたりますか。つぎの１～１４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
なし	2	1.1
５０万円未満	11	6.2
５０～１００万円未満	41	23.0
１００～２００万円未満	36	20.2
２００～３００万円未満	23	12.9
３００～４００万円未満	19	10.7
４００～５００万円未満	6	3.4
５００～６００万円未満	6	3.4
６００～７００万円未満	22	12.4
７００～８００万円未満	1	0.6
８００～９００万円未満	2	1.1
９００～１０００万円未満	2	1.1
１０００万円以上	2	1.1
わからない	5	2.8
合計(有効ケース)	178	100.0
無回答・非該当	323	
合計(全ケース)	501	

問２２

（１）　働いていない理由はなんですか。つぎの１～８の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
働く所がないため	6	2.0
通勤が困難なため	3	1.0
自分にあった仕事がないため	13	4.2
高齢のため	127	41.4
病気のため	69	22.5
重度の障害のため	52	16.9
家事に専念しているため	23	7.5
その他	14	4.6
合計(有効ケース)	307	100.0
無回答・非該当	194	
合計(全ケース)	501	

（2）　今後、働きたいとお考えですか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
働きたい	21	7.1
働きたいが、自分の心身の状況などを考えると難しい	104	35.4
働きたくない	61	20.7
働く必要がない	78	26.5
わからない	30	10.2
合計(有効ケース)	294	100.0
無回・非該当	207	
合計(全ケース)	501	

（3）　どのような形で働きたいと思いますか。つぎの１～６の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
常勤	7	4.8
パート・アルバイト・臨時雇い	38	25.9
家の仕事	28	19.0
就労移行支援・就労継続支援・作業所など	12	8.2
内職	21	14.3
その他	41	27.9
合計(有効ケース)	147	100.0
無回答・非該当	354	
合計(全ケース)	501	

問２３　あなたは障害のある人が就労しやすくするため、何が必要と考えますか。つぎの１～７の中からもっともあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
就労に必要な技術や知識を身につけるための訓練の場	184	44.1
通勤するための移動サービス	121	29.0
行政の雇用支援	138	33.1
障害のある人の雇用に対する雇用者側の理解と努力	242	58.0
障害のある人自身の就労に対する意識改革	141	33.8
市民に対する障害のある人の就労に関する啓発	78	18.7
その他	27	6.5
合計(有効ケース)	417	100.0
無回答	84	
合計(全ケース)	501	

問２４　あなたは過去１年間にどれくらい外出しましたか。つぎの１～６の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
ほぼ毎日	204	41.1
週に４～５回	98	19.8
週に２～３回	104	21.0
月に３～４回	37	7.5
月に１～２回	33	6.7
ほとんど外出していない	20	4.0
合計(有効ケース)	496	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	501	

問２５　あなたの主な外出先・用件はどちらですか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
通院	98	19.8
通学・通勤	98	19.8
買い物	165	33.4
親戚・友人・知人宅	20	4.0
役所	1	0.2
金融機関	2	0.4
団体等の会議・催し	8	1.6
余暇活動	36	7.3
デイサービスなどの福祉施設	33	6.7
その他	33	6.7
合計(有効ケース)	494	100.0
無回答	7	
合計(全ケース)	501	

問２６　あなたは外出されるとき、主にどなたと外出されますか。つぎの１～９の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
単独	229	46.7
家族・親戚	181	36.9
ガイドヘルパー	4	0.8
ホームヘルパー	3	0.6
デイなどの施設の職員	27	5.5
友人・知人	27	5.5
近所の人	1	0.2
ボランティア	0	0
その他	18	3.7
合計(有効ケース)	490	100.0
無回答	11	
合計(全ケース)	501	

問２７　あなたの外出のときの主な移動手段は何ですか。つぎの１～８の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
徒歩	25	5.0
自転車	21	4.2
バス	10	2.0
電車	8	1.6
タクシー	16	3.2
自家用車（自分で運転する）	267	53.8
自家用車（乗せてもらう）	136	27.4
その他	13	2.6
合計(有効ケース)	496	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	501	

問２８　あなたは外出する時に、移動の支援などのお手伝いをする移動支援事業などの障害福祉サービスを利用していますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
利用している	34	7.2
今は利用していないが、過去に利用したことがある	21	4.4
利用したことはないが、今後利用したい	148	31.4
利用したことはなく、今後も利用しない	149	31.6
サービスについて知らない	120	25.4
合計(有効ケース)	472	100.0
無回答	29	
合計(全ケース)	501	

問２９　あなたが外出するうえで、なにか困っていることがありますか。つぎの１～１１の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
バス・電車などが容易に利用できるよう改良されていない	72	15.3
乗り物や公共施設の案内表示がわかりにくい	37	7.8
道路や駅に段差や階段、障害物などが多い	125	26.5
出入り口や階段、トイレなど建物が用意に利用できるよう改良されていない	84	17.8
車などに危険を感じる	38	8.1
まわりが気にかかる	29	6.1
支援者がいないので外出できない	16	3.4
人とのコミュニケーションがとりにくい	28	5.9
ほとんど外出しないのでわからない	21	4.4
とくに困ることはない	235	49.9
その他	22	4.7
合計(有効ケース)	472	
無回答	329	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３０　文化やレジャーなどの活動についてお聞きします。

（1）　あなたは、この１年間にどのようなことをしましたか。ａ．～ｊのそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

ａ．コンサートの鑑賞や観劇など

	度数	%
した	135	36.3
しない	237	63.7
合計(有効ケース)	372	100.0
無回答	129	
合計(全ケース)	501	

ｂ．スポーツ教室、大会などへの参加

	度数	%
した	75	20.8
しない	286	79.2
合計(有効ケース)	361	100.0
無回答	140	
合計(全ケース)	501	

ｃ．旅行・キャンプ・つりなど

	度数	%
した	206	52.8
しない	184	47.2
合計(有効ケース)	390	100.0
無回答	111	
合計(全ケース)	501	

ｄ．学習活動

	度数	%
した	73	21.3
しない	270	78.7
合計(有効ケース)	343	100.0
無回答	158	
合計(全ケース)	501	

ｅ．趣味の同好会への参加

	度数	%
した	87	23.8
しない	278	76.2
合計(有効ケース)	365	100.0
無回答	136	
合計(全ケース)	501	

ｆ．ボランティアなどの社会活動

	度数	%
した	66	19.1
しない	279	80.9
合計(有効ケース)	345	100.0
無回答	156	
合計(全ケース)	501	

ｇ．障害のある仲間との交流

	度数	%
した	75	21.4
しない	276	78.6
合計(有効ケース)	351	100.0
無回答	150	
合計(全ケース)	501	

ｈ．町会・地域活動

	度数	%
した	174	46.2
しない	203	53.8
合計(有効ケース)	377	100.0
無回答	124	
合計(全ケース)	501	

ｉ．特にない

	度数	%
した	41	24.8
しない	124	75.2
合計(有効ケース)	165	100.0
無回答・非該当	336	
合計(全ケース)	501	

ｊ．その他

	度数	%
した	13	15.1
しない	73	84.9
合計(有効ケース)	86	100.0
無回答	415	
合計(全ケース)	501	

（2）　今後、どのようなことをしたいと思いますか。ａ．～ｊのそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

ａ．　コンサートの鑑賞や観劇など

	度数	%
したい	191	64.7
したくない	104	35.3
合計(有効ケース)	295	100.0
無回答	206	
合計(全ケース)	501	

ｂ．　スポーツ教室、大会などへの参加

	度数	%
したい	95	34.4
したくない	181	65.6
合計(有効ケース)	276	100.0
無回答	225	
合計(全ケース)	501	

ｃ．　旅行・キャンプ・つりなど

	度数	%
したい	222	72.8
したくない	83	27.2
合計(有効ケース)	305	100.0
無回答	196	
合計(全ケース)	501	

ｄ．　学習活動

	度数	%
したい	111	40.5
したくない	163	59.5
合計(有効ケース)	274	100.0
無回答	227	
合計(全ケース)	501	

ｅ．　趣味の同好会への参加

	度数	%
したい	148	51.4
したくない	140	48.6
合計(有効ケース)	288	100.0
無回答	213	
合計(全ケース)	501	

ｆ．　ボランティアなど社会活動

	度数	%
したい	92	34.6
したくない	174	65.4
合計(有効ケース)	266	100.0
無回答	235	
合計(全ケース)	501	

g．　障害のある仲間との交流

	度数	%
したい	108	39.6
したくない	165	60.4
合計(有効ケース)	273	100.0
無回答	228	
合計(全ケース)	501	

h．　町会・地域活動

	度数	%
したい	130	45.3
したくない	157	54.7
合計(有効ケース)	287	100.0
無回答	214	
合計(全ケース)	501	

i．特にない

	度数	%
したい	30	21.9
したくない	107	78.1
合計(有効ケース)	137	100.0
無回答・非該当	364	
合計(全ケース)	501	

j．その他

	度数	%
したい	10	14.3
したくない	60	85.7
合計(有効ケース)	70	100.0
無回答	431	
合計(全ケース)	501	

問３１　あなたの災害時の対応についておたずねします。

（1）　地震などの災害時にすぐに困ると思われることは何ですか。つぎの１～１２の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
投薬や治療を受けられない	233	48.6
補装具の使用が困難になる	59	12.3
補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	76	15.9
自分の状況が周囲の人に理解してもらえない	115	24.0
安全なところまで、迅速に避難することができない	229	47.8
被害状況、避難所の場所、物資の入手方法などの情報が入ってこない	83	17.3
周囲の人とコミュニケーションがとれない	54	11.3
避難所の設備について不安	196	40.9
家族の安否情報がとりづらい	81	16.9
救助を求めることができない	51	10.6
とくにない	84	17.5
その他	14	2.9
合計(有効ケース)	479	
無回答	22	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

（2）地震などの災害時の避難場所を、あなたは知っていますか。

	度数	%
知っている	317	68.2
知らない	148	31.8
合計(有効ケース)	465	100.0
無回答	36	
合計(全ケース)	501	

（3）地震などの災害時に、あなたは一人で避難できますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
できる	245	49.7
できない	142	28.8
わからない	106	21.5
合計(有効ケース)	493	100.0
無回答	8	
合計(全ケース)	501	

（4）　家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
いる	157	32.7
いない	132	27.7
わからない	190	39.6
合計(有効ケース)	480	100.0
無回答	21	
合計(全ケース)	501	

問３２　白山市では、災害時要援護者に対する支援として、災害時要援護者マップを作成しています。

（1）　このマップについて知っていますか。

	度数	%
知っている	198	40.7
知らない	288	59.3
合計(有効ケース)	485	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	501	

（2）　では、災害時要援護者マップの作成に同意をされていますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
同意している	136	30.6
同意していない	63	14.2
わからない	246	55.3
合計(有効ケース)	445	100.0
無回答	56	
合計(全ケース)	501	

（3）　今後、マップ作成に同意するつもりはありますか。

	度数	%
同意するつもりはない	86	31.9
同意するつもりだ	184	68.1
合計(有効ケース)	270	100.0
無回答・非該当	231	
合計(全ケース)	501	

（4）　マップ作成に同意するつもりはない理由は何ですか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
支援が期待できないから	11	6.8
家族の支援を受けられるから	40	24.7
個人情報を知られたくない	22	13.6
依頼できる支援者がいないから	13	8.0
町内会や自主防災組織などが組織的な取り組みをしていないのでなんとなく不安だから	13	8.0
知っているが制度がよく理解できないため	21	13.0
その他	13	8.0
合計(有効ケース)	162	
無回答・非該当	339	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３３　あなたは医療のことで、なにか困っていることがありますか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
通院するとき付き添いをしてくれる人がいない	21	4.5
意思・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない	33	7.0
医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない	17	3.6
専門的な治療をしてくれる病院が近くにない	59	12.6
医療費の負担が大きい	72	15.3
とくに困っていることはない	313	66.6
その他	16	3.4
合計(有効ケース)	470	
無回答	31	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３４　あなたは医療・福祉サービスなどについてどちらに相談していますか。つぎの１～１３の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
民生委員・児童委員	20	4.3
身体障害者相談員	29	6.2
相談支援事業所・相談支援専門員	9	1.9
市役所の相談窓口	195	41.9
保健所・福祉健康センター	24	5.2
医療機関	146	31.4
障害福祉施設	19	4.1
社会福祉協議会	19	4.1
介護保険のケアマネージャー	70	15.1
同じ障害のある人の団体・グループ	13	2.8
相談するところがない	16	3.4
どこに相談に行ったらよいかわからない	71	15.3
その他	42	9.0
合計(有効ケース)	465	
無回答	36	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３５　つぎのサービスをボランティアが行うとしたら、あなたは、どれを受け入れたいと思いますか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
調理	60	13.9
洗濯	40	9.2
部屋の掃除・庭の手入れ	120	27.7
話し相手、相談相手	65	15.0
家屋内外の簡単な修理	103	23.8
病院などへの送迎・外出支援	122	28.2
買い物	67	15.5
代筆・代読	18	4.2
ボランティアのサービスは受け入れない	74	17.1
その他	60	13.9
合計(有効ケース)	433	
無回答	68	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３６　あなたが、暮らしやすくなるために、とくにしてほしいことはどのようなことですか。つぎの１～１７からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
毎日の生活の手助けがもっとほしい	28	6.1
外出の支援をしてほしい	48	10.5
障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい	88	19.3
障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい	67	14.7
一般企業で働くことが難しいので、就労支援施設などを増やしてほしい	24	5.3
ジョブコーチ制度を充実させてほしい	10	2.2
リハビリ訓練の場所を増やしてほしい	75	16.4
障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい	38	8.3
外出しやすい環境や交通機関の利便を図ってほしい	91	19.9
いつでもなんでも相談できる窓口を用意してほしい	108	23.6
いつでも何でも話し合える相談相手や仲間がほしい	52	11.4
年金などの経済的な援助を増やしてほしい	211	46.2
スポーツ・レクリエーション・教育・文化活動に対する援助をしてほしい	26	5.7
福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい	85	18.6
円滑なコミュニケーションができるように、障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい	48	10.5
とくにない	117	25.6
その他	15	3.3
合計(有効ケース)	457	
無回答	44	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３７　障害に関する差別についてお聞きします。

（１）　あなたはこれまでに障害があるために差別をされたと感じたことがありますか。

	度数	%
ある	83	17.8
ない	383	82.2
合計(有効ケース)	466	100.0
無回答	35	
合計(全ケース)	501	

（2）　それはどのような分野での差別でしたか。つぎの１～９の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
医療	15	14.3
教育・療育	7	6.7
交通や建物のバリアフリー化	21	20.0
防災	7	6.7
情報バリアフリー	7	6.7
行政手続き	12	11.4
文化活動	6	5.7
政治参加	4	3.8
その他	31	29.5
合計(有効ケース)	105	
無回答・非該当	396	
合計(全ケース)	501	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

（3）　それはどのような経験でしたか。さしつかえなければ、具体的にお教えください。

	度数	%
記述あり	45	38.1
記述なし	73	61.9
合計(有効ケース)	118	100.0
非該当	383	
合計(全ケース)	501	

問３８　障害者権利条約では、障害のある人がない人と同じように生活するために過大な負担とならない範囲で行う配慮や工夫を「合理的配慮」としています。また、「合理的配慮」を行わないことは差別として位置づけられています。あなたは、このような「合理的配慮」について知っていましたか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
合理的配慮の考え方について知っている	23	5.3
合理的配慮という言葉は聞いたことがある	53	12.1
合理的配慮については知らない	362	82.6
合計(有効ケース)	438	100.0
無回答	63	
合計(全ケース)	501	

問３９　あなたは、障害のある人もない人も、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
知っている	77	16.6
言葉だけは知っている	150	32.3
知らない	237	51.1
合計(有効ケース)	464	100.0
無回答	37	
合計(全ケース)	501	

問４０　障害と仕事に関する次のような意見についてどう思いますか。ａ．～ｄのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．障害のある人の雇用を促すためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ

	度数	%
そう思う	228	54.6
どちらかといえばそう思う	116	27.6
どちらともいえない	62	14.8
どちらかといえばそう思わない	5	1.2
そう思わない	9	2.1
合計(有効ケース)	420	100.0
無回答	81	
合計(全ケース)	501	

ｂ．企業は、障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備しなければならない

	度数	%
そう思う	177	43.4
どちらかといえばそう思う	141	34.6
どちらともいえない	83	20.3
どちらかといえばそう思わない	2	0.5
そう思わない	5	1.2
合計(有効ケース)	408	100.0
無回答	93	
合計(全ケース)	501	

ｃ．企業が、障害のある人にとって働きやすい職場の施設を改善しないことは差別である

	度数	%
そう思う	112	27.8
どちらかといえばそう思う	105	26.1
どちらともいえない	154	38.2
どちらかといえばそう思わない	14	3.5
そう思わない	18	4.5
合計(有効ケース)	403	100.0
無回答	98	
合計(全ケース)	501	

ｄ．障害のある人に特化した就労支援が必要である

	度数	%
そう思う	155	38.1
どちらかといえばそう思う	135	33.2
どちらともいえない	101	24.8
どちらかといえばそう思わない	9	2.2
そう思わない	7	1.7
合計(有効ケース)	407	100.0
無回答	94	
合計(全ケース)	501	

問４１　白山市の人びとに対して、障害への理解を広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下にご自由にご記入ください。

	度数	%
記述あり	95	19.0
記述なし	406	81.0
合計(有効ケース)	501	100

問４２　障害のある人を支援するための政策として、以下にあげた政策のうち、もっとも重要なことはどれだとお考えですか。つぎの１～６の中から、**もっとも**重要なこと、**その次に**重要なことの番号を回答欄のなかに記入してください。

もっとも重要なこと

	度数	%
障害のある人の権利や尊厳を守ること	113	27.2
障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること	146	35.2
障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること	85	20.5
障害のある人に世間並みの住居を提供すること	5	1.2
障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること	21	5.1
障害のある人をケアしている人を支援すること	45	10.8
合計(有効ケース)	415	100.0
無回答	86	
合計(全ケース)	501	

次に重要なこと

	度数	%
障害のある人の権利や尊厳を守ること	29	7.1
障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること	74	18.2
障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること	96	23.6
障害のある人に世間並みの住居を提供すること	17	4.2
障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること	61	15.0
障害のある人をケアしている人を支援すること	129	31.8
合計(有効ケース)	406	100.0
無回答	95	
合計(全ケース)	501	

問４３　あなたは障害に関する以下のことについて、どのように思いますか。ａ．～ｆのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．人の幸せと障害の有無は関係ないと思う

	度数	%
そう思う	183	42.3
どちらかといえばそう思う	78	18.0
どちらともいえない	91	21.0
どちらかといえばそう思わない	34	7.9
そう思わない	47	10.9
合計(有効ケース)	433	100.0
無回答	68	
合計(全ケース)	501	

ｂ．障害のある人が望めば、障害のない人と同じ教育を受けられるようにすべきだ

	度数	%
そう思う	224	52.6
どちらかといえばそう思う	120	28.2
どちらともいえない	68	16.0
どちらかといえばそう思わない	8	1.9
そう思わない	6	1.4
合計(有効ケース)	426	100.0
無回答	75	
合計(全ケース)	501	

ｃ．「障害者」という表現は、不適切な表現であると指摘されることもあるため、別の表現に書き改める必要がある

	度数	%
そう思う	90	21.7
どちらかといえばそう思う	87	21.0
どちらともいえない	158	38.1
どちらかといえばそう思わない	27	6.5
そう思わない	53	12.8
合計(有効ケース)	415	100.0
無回答	86	
合計(全ケース)	501	

ｄ．同じ時間働いたならば、障害のせいで成果が低かったとしても、障害のある人も障害のない人も同じ賃金であるべきだ

	度数	%
そう思う	77	18.3
どちらかといえばそう思う	64	15.2
どちらともいえない	159	37.9
どちらかといえばそう思わない	64	15.2
そう思わない	56	13.3
合計(有効ケース)	420	100.0
無回答	81	
合計(全ケース)	501	

ｅ．障害のある人も他の人と同じように責任や義務を果たすべきだ

	度数	%
そう思う	126	29.9
どちらかといえばそう思う	125	29.7
どちらともいえない	116	27.6
どちらかといえばそう思わない	33	7.8
そう思わない	21	5.0
合計(有効ケース)	421	100.0
無回答	80	
合計(全ケース)	501	

ｆ．たとえ負担が大きくなったとしても、障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましい

	度数	%
そう思う	133	31.2
どちらかといえばそう思う	133	31.2
どちらともいえない	130	30.5
どちらかといえばそう思わない	20	4.7
そう思わない	10	2.3
合計(有効ケース)	426	100.0
無回答	75	
合計(全ケース)	501	

問４４　政府の役割に関するつぎの意見についてどのように思いますか。ａ．～ｅのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．政府は、最低限の生活水準をすべての人に保障すべきである

	度数	%
そう思う	258	59.9
どちらかといえばそう思う	82	19.0
どちらともいえない	68	15.8
どちらかといえばそう思わない	13	3.0
そう思わない	10	2.3
合計(有効ケース)	431	100.0
無回答	70	
合計(全ケース)	501	

ｂ．政府は、働きたいというすべての人に働く機会を提供すべきである

	度数	%
そう思う	214	50.7
どちらかといえばそう思う	125	29.6
どちらともいえない	72	17.1
どちらかといえばそう思わない	6	1.4
そう思わない	5	1.2
合計(有効ケース)	422	100.0
無回答	79	
合計(全ケース)	501	

ｃ．政府は、障害のある人の賃金を障害のない人と平等にするためのコストを負担するべきだ

	度数	%
そう思う	116	27.6
どちらかといえばそう思う	88	20.9
どちらともいえない	163	38.7
どちらかといえばそう思わない	31	7.4
そう思わない	23	5.5
合計(有効ケース)	421	100.0
無回答	80	
合計(全ケース)	501	

ｄ．政府のやることは無駄が多いので、できるだけ民間に任せるべきだ

	度数	%
そう思う	85	20.0
どちらかといえばそう思う	102	24.1
どちらともいえない	189	44.6
どちらかといえばそう思わない	20	4.7
そう思わない	28	6.6
合計(有効ケース)	424	100.0
無回答	77	
合計(全ケース)	501	

ｅ．政府は、豊かな人と貧しい人の所得の差を縮めるために対策を取るべきだ

	度数	%
そう思う	210	48.7
どちらかといえばそう思う	119	27.6
どちらともいえない	82	19.0
どちらかといえばそう思わない	9	2.1
そう思わない	11	2.6
合計(有効ケース)	431	100.0
無回答	70	
合計(全ケース)	501	

問４５　差別に関するつぎの意見についてどのように思いますか。ａ．～ｆのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．差別について深く知ることによって、差別をなくすことができる

	度数	%
そう思う	151	36.0
どちらかといえばそう思う	113	26.9
どちらともいえない	116	27.6
どちらかといえばそう思わない	19	4.5
そう思わない	21	5.0
合計(有効ケース)	420	100.0
無回答	81	
合計(全ケース)	501	

b．差別される側の気持ちを考えることは難しい

	度数	%
そう思う	108	26.5
どちらかといえばそう思う	147	36.0
どちらともいえない	99	24.3
どちらかといえばそう思わない	23	5.6
そう思わない	31	7.6
合計(有効ケース)	408	100.0
無回答	93	
合計(全ケース)	501	

c．いまの世の中には、差別される人々を保護するためとして、いきすぎた逆差別がある

	度数	%
そう思う	61	15.0
どちらかといえばそう思う	84	20.6
どちらともいえない	207	50.7
どちらかといえばそう思わない	23	5.6
そう思わない	33	8.1
合計(有効ケース)	408	100.0
無回答	93	
合計(全ケース)	501	

d．差別される人々とあまり接触しないほうが、社会のなかで問題が生じることが少ない

	度数	%
そう思う	33	8.0
どちらかといえばそう思う	45	10.9
どちらともいえない	160	38.7
どちらかといえばそう思わない	69	16.7
そう思わない	106	25.7
合計(有効ケース)	413	100.0
無回答	88	
合計(全ケース)	501	

e．差別があるのは、差別される側にも原因があるからだ

	度数	%
そう思う	61	14.6
どちらかといえばそう思う	88	21.1
どちらともいえない	182	43.5
どちらかといえばそう思わない	36	8.6
そう思わない	51	12.2
合計(有効ケース)	418	100.0
無回答	83	
合計(全ケース)	501	

f．この世の中で、差別がなくなることはない

	度数	%
そう思う	215	50.1
どちらかといえばそう思う	107	24.9
どちらともいえない	84	19.6
どちらかといえばそう思わない	5	1.2
そう思わない	18	4.2
合計(有効ケース)	429	100.0
無回答	72	
合計(全ケース)	501	

問４６　あなたは、現在の障害者福祉の水準について、どのように思いますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
とても低い	62	13.7
やや低い	129	28.5
どちらともいえない	226	49.9
やや高い	34	7.5
とても高いい	2	0.4
合計(有効ケース)	453	100.0
無回答	48	
合計(全ケース)	501	

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

	度数	%
記入なし	396	79.0
記入あり	105	21.0
合計(有効ケース)	501	100.0

障害福祉に関する意識調査（身体障害のある人）
記述回答一覧

※　同一文言による回答は一つのみ記載した。

問３９（３）　障害に関する差別についてお聞きします。あなたはこれまでに障害があるために差別をされたと感じたことがありますか。それはどのような経験でしたか。さしつかえなければ、具体的にお教えください。

解雇（会社員）
足の手術を受け様と会社に報告した所、予定日は急がしいので日を変えないと解雇すると告げられた。足が痛くても死ぬ訳けじゃないからいいだろうと言われた。
症状を上手く、伝えられず、医療側から誤解を受けた事がある。問診表を書くのが苦手である。
抗がん剤の副さようで現在も５年近くなるのに手足のしびれが直らない。
障害の為体、頭が一般の方と混ていけないくなり家に閉じ込もることが多くなりました。
階段を上がる時に手摺が必要である体なので、手摺がない階段があった。また、出来れば両側に手摺を付けてほしい。（乗ぼり降りするために）
足が不自由なのですが外見からは安易に分からないため障害者用駐車スペースを使用する際、非難されることがあります。障害者＝特徴的な外見や所作をしている、と思っている方が多いように思います。
・会合で食事となっても、和式トイレの場合があり、安心して参加できない。・駅内が広く、長く歩行しなければならないので苦痛となる
私は建設機械の重機のオペレターでしたが、●●を受けてからは、建設現場の受けいれ、（人場）が限られて、仕事ができません
文化活動のところで、私は、車イスなのですが、話すことも人の話す理解もできます。が、障害者というだけで、仲間に入れず一人寂しい思いに家路に着きました。その日は、隠れて、涙を流し、止まらない。
・大型商業施設にてエレベーターを降りる時でした。中年の男性に、外出するなと言わんばかりに一言ありました。（車椅子での外出時）・タクシーをよく利用しますが、障害者の１割引きを手帳を出して言いづらい時です。一言もない運転手さん、又一応割引きしていただきますが面倒くさそうに手帳も見ない運転手さんこちらも手帳を出す時出さない時いろいろしています。タクシーに、車椅子をつんだり出したりもいろいろな対応に出会っています。
障害を隠して面接に行き、いざ障害の話をすると差別ではないが、内定をもらった事がない。だから障害を隠す。
必要以上に気をつかわれる。
障害への理解が無い事で、奇異なものを見る様な目や影口があった。家族や外（周囲）どちら共に。人目を気にして引きこもる原因ともなった。

昇給制度や業務中に死亡した場合の見舞金の金額の違いなど。障害があることは人として価値が下がることなのか？と思わされた。これは明らかに差別だと感じます。制度の差別などなくとも、職場の人々から必ず暗黙の差別はあるのに。
それくらいは甘えないでしたらどうだという態度を感じた。
・病院や役場で名前呼ばれたのがわからなかった時不在として次の人が。・議会の傍聴を申し込んだ時「あなただったら聞こえませんよ」と云われた。・免許センターは窓口１～更新免許証が手にする迄すべて呼び出し電光掲示板になりませんか？
車に車イス？シールをはってないので障害者と思われず、障害者用駐車スペースに車を止めた時、度々、ガードマンなどに文句を言われる。普通に歩いているから障害者ではないと思われる。めんどくさい。全国共通の駐車優先シールでも作って、市役所でくばってほしい。血圧が上がる。
他人に直視される。振りむかれる。
健康な人を待たせる時にいい顔をしない人がいる。
タクシーに乗る時、タクシーの運転手に歩行車をトランクに乗せてほしいと頼んだら、「面倒な客はいやなんだよ」と嫌味を言われた。私（娘）が一緒だったので、私は「ではけっこうです」と言ってそのタクシーには乗らなかった。（代筆）
社会保険から→国民健康保険にかえる時に１、２まわっていったらたらいまわし人による？
自分の意志が伝えられないので家族以外他人の中ではすべてカヤの外にやられがちです
あんたの車にマークが、ついているな　あんたは、身体障害者やろ。頭を低くしておれとの事。
時刻表、メニューなどの文字が見にくい
子供の時、いじめられた。
・スーパー等公共の場でのアナウンスがきこえない。・公共の場での災害時等の緊急サイレン・アナウンスがきこえない。・病院、入院時、手話通訳がいないため医師や看護師の話がわからない。
・バスや電車は車椅子が使えない。・民間サービス業ではバリアフリー化されていなかったり、上階へ昇る際のエレベーターがなかったりする。
・心臓病が移ると周りから言われた。・高校の学校長が全校生徒に「爆弾をかかえている（病気の症状が重い為）ので、近づかないで、と紹介した。・疲れているのに、怠けていると言われた。・障害年金の認定基準が曖昧で行政の担当者並び（認定医も）理解不足だったので、苦労して困った。
自分はペスメーカー入れています　でも他人には、わからない様うにしています　裸に成ると風呂屋に行くと変りますよね
面接に行く前に一方、障害があると言ってあっても、実際面接時になると、けがになったら保障はできないとか、公的機関においては頭から出きないときめつけられた。公的機関では面接管があからさまに態度で示された。（顔なじみの人だったので）
耳が聞きにくいため何回か聞きますと笑って行ってしまいます

買物を車椅子等で行くとじっと見られます　つらいですよ
６５才以上の起業について補助や融資はＪＡや銀行ではできず自力で借金でしかできない。私の場合、農業（野菜）によるそう菜業を始めたい。資格があるので
ケガで病院にかかった時、障害者かと言われ、特定疾患ですと言うと障害者の上だと言われ、障害者手帳をもらう事にしました。
差別されたことは一度もない事はあり得ないと思いますが、本人からは聞いたことはありませんので、問３７は「２．ない」を選択しました。
リストラで健常者の方は解コされました。障害者のほうが時給が安いからです。その後、負担はふえましたが、時給は下がりました。
昇進の極端な遅延
指を切断してから、給料が減った
公立中学校生活で一部の生徒からのいじめ（先生も見て見ぬふり）
・診察をこわがったため、即中止され診察をうけられなかった。・何か失敗があると「身障者では…」と言われる。
地域の学校で補助の為の人員確保が出来ず特別支援学校への転校をした事。肢体不自由児や、多動症児には先生やボランティアが補助に入っていたが息子には叶えられなかった（学校に要望するも）
仕事をしている時、なぜ早く出来ないんだ、重い物を移動できないんだと言われる。
点じぶろっくのありすぎ
金沢のハローワークで、私が統合失調症だと分かると、白山のハローワークに行って下さいと言われた。あまりかかわりたくないという感じがつたわり悲しかった。
後ろ指をさされる事が多い

問４４　白山市の人びとに対して、障害への理解を広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下にご自由にご記入ください。

私自身障害者としての認識がないので有効な方法は、わからない。
色々な障害がある事を知らしめる。内しっかん、外しっかんとも！
体験談の発表
・地区別懇談会の様な会を行ってみてはどうか。・公民館主催の文化祭に作品展示を促し、コーナを設けて展示作品を希望する人があれば受取って貰うといった社会参加の積極性を養う。
個人的見解として、当事者でないと理解出来ないと思う。なってみないとわからない
フェスタ等を開催してコミュニケーションを図る
命を大切にする教育。元気な人もそうでない人も全てそうなる可能性があります。それぞれの立場で生かされていることを思い、自分だけは違うというおごりをすて、皆で協力助け合って人生を歩むことが大切。
障害のある方の公民館等の利用促進　１．娯楽参加促進　２．趣味等参加促進　３．障害者の利用出来る用設備促進
知らないが。介護車、ＴＥＬしたら（予約　前持って）病院えの送迎
小学校時代から車イス使用障害者を分けないで、授業を受けたりしても良いと思う。幼小から障害のある人と接する事で差別せず、理解してもらえる環境ができると思う。（昔で言う知恵遅れ等は授業が進まない恐れもある為分ける必要があると思う）
障害者手当をもうける
私自身障害者になって始めて分りました広める為の方法がわかりませんが気軽に行って話し合いや軽い運動の出来る場所がほしいです。白山市に健康保険センターがありますが小数の方とボランティア方一名いますが中に入ていけませんでしたので３回行てやめました。病気された方は抱擁力がありませんのでボランティアの方は難しいと思いました。
施設の利用時及び障害者の歩行時には、健康な人達は配慮を考えてほしい。（障害者は、この様な事でこまっていますなどを書いた書面を、健康な人達に書面等で周知してほしい。）（健康な人達は、障害者の方々が、どの様な事を思っているのかを分かっていないと思う。）
マニュアルはあくまでマニュアルで、本当の事はそれ以外でおこる！
学校、職場、各種コミュニティの中の活動を、障害者も入れて、いっしょに活動する機会を増やす。各種イベントで、模擬障害者体験ができる機会をもって、障害への理解を深める。
白山市になって１０年近くたちますがまだ旧鶴来町の時の方が良いし交流にも平日が多くどちらかと言えば高齢（６５才以上）の人が多く参加したくない事もあります　福祉課の人はもっと窓口に行ってもいろんな無料施設等をおしえてほしいです。
障害のある家庭特に老々介護者宅にもっと市、民生委員等が訪問し様子を見に来るべきだと思う　殆んど来ていない
交通機関が余りに利用者の為になっていない　ダイヤの組み方運行経路などもっと考慮してほしい
バスの待合場　通院バス

私は２９歳から６０歳定年まで金沢市内の百貨店で勤務させていただきました。障害者も普通の人…３０年間勤務できたのは普通の人として扱ってもらえたからです。婦人服の販売でしたが大阪の会社の方々また、百貨店の方々の協力、理解のたまものだと思ています。障害者は普通の人には劣るというのではなく普通の人にはもっていない部分がたくさんあると言う事です。そういうチャンチを是非あたえてあげて欲しいと言う事が大切だと思います。

障害者に対して私は金沢市転出して白山市民となり７年となりますが一度も行事がありませんでした。金沢に居たころグランドゴルフなど一年間でも何回もあって友達が出来ました。車椅子の人もびっ子の人も皆んな人間らしく笑って付合する機会でした。白山市はそれが少ないです。もう少し考えて計画を立ててほしいと思います。

民生委員とか社会福祉協議会の方々がいらっしゃるのに、会議とか、よく有りますがどうゆう事をしているのか　民生委員の仕事他知らないので町内他に１年に１回ほど説明場所をもうけ、意見交換などがあれば良いと思う。(障害人の方だけでなくて)

障害者及びその介助の家族が、外出しやすいように利便をはかっていただき少しでも世の中へ出る機会を増やしていったらと考えます。又子どもたちとの交流が、いろいろな機会を利用して提供いただけたらとも思います。

幼少期より障害者を理解できるような機会があれば良い。ボランティア等により体験する

市役所の方は障害者の人々にとても親切なので助かります。書く事がわからない事は丁寧に教えてもらって迷よわなくて安心して市役所へ行かれます。難を云いますと足のない方にはバスの便が一寸不便かと思います。松任中央病院もバスの便が一寸不便があります

障害への理解が必要かどうかが私には分かりません。時、場所、状況に応じて、相手に応じて、等そのケースによってという事の方が大事かと思います。全ての方が、障害に対して理解しなければいけない、多くの人に理解を広めなければ…という事自体、違う気がします。

わかりません

日常でも両膝を曲げての生活は困難ですが障害者としての扱いをされた事がない為今の所、よくわかりません

障害のある人とない人が支えあって暮らす共同住宅のようなものがあったら良い。

障害の程度の差があると思いますが、現在よりも上が望める競技や、ゲーム、ＩＴ等の一歩前進プログラムを立上げるべきと思います。それが喜びとなり、友達を作ったり、自立心が出て来ると思う。ＮＰＯやボランティアに対する尊敬を学校教育からスタートすべきと考える

障害の無い人は障害者が唯、甘えて居ると誤解されて居る。もっと理解して頂く為に、福祉大会（地域の）等でギジ体験出来る様な場を作って貰いたいです。

障害がある人への配慮は人によって、必要な事柄が違うのでむずかしい。もっと一般的に年を取れば不自由になってくるので全ての人が親切にふれながら生活できるような支援を考えて、一般行政に組入ればよい。障害者に特化してではなく

各店舗の前に障害者用の車停めの少ないことと、健常者が無視して停めることに非常に腹立たしいかぎりである　白山市民にはもっと理解してもらってほしい。白山市には法、条令制定し、罰則もきめてほしい

中学生以上ぐらいの全市民に、自分の都合に合わせて参加・訪門できるボランティアデー（様々な年齢層や障害を見て触れて知る場）みたいな機会の整備

わからない

障害者も、自分の障害には理解があるが、他の障害については、知識がないので、障害それぞれの理解を深めるには、紹介してもらわないと、わからない。

公報はくさんなどを利用し、障害者の団体、活動等を紹介する等、見える方法をしてはどうか？

例えば、健康センター松任の障害者用プール？を予算が厳しいからと中止の方向に向けるのでなく、利用料を少しでも集金する方法で継続する。高令者も増々、夛数になるので、健康増進の為、窓口を開放する。障害者も高令者も共に健康ｕｐへ。障害への理解を深めるには、特に幼児期からの教育が共に（健康児も、障害児も）大切で遊ぶ中から学べると思います。その指導を専門的に行なえるスタッフが必要でしょう。

障害者手帳（１級）を交付されたばかりなので今后とも各段にわたり理解を深めて考えていきたい。

障害は障害ではなく、特色であるということを理解してもらいたい

公共場所の設備の充実

障害者だからと云って手厚くされたいとは思わないが、普通に皆さんと接しられたらいいなぁと思う。馬鹿にされると困る。

もう少し障害者の方に進められたら入られるのでは無いでしょうか？

白山市の場合は他市町村に比べて、理解は深いと思います。これは合併前の松任市時代から、長年にわたって徳田茂さんと仲旧の方達が市に現状を訴え、改善を要求してきた結果だと私は思います。ですから市は割合い温かいです。有難いです。移動支援事業があるのですから、できるだけ外出して、先ずは世間の方たちに知ってもらうことからです。

行っているかもしれませんが、障害者普及政度を設けて、この政度に企業が合意したら助政金を出す。障害者に優しい道路や設説を造る等

障害のある人を特別視しないであたたかい眼で静かに見守ってほしい

子供達に障害者とふれ合う機会を多く提供していく。ただ、障害という言葉を強調しすぎないことが重要で、個性を尊重するというニュアンスの視点で理解を求めた方がよいと思う。

・便の袋をつけている為、銭湯に入りずらい。家族風呂の割引があったらいいなと思う。
１．イベントの開催　２．コウエン会の開催

地方自治体が母体となって各障害者の人々に敵した事業所の運営施設があれば良いと思う。
色々な障害があるので障害に応じた作業所が必要と思うが…。

健常者自身がゆとりの無い生活をしていることの多い中で健常者に支援やボランティアを求めてもなかなか精神論だけでできるものではない。皆さん時間がない。労働時間の短縮、元気高令者の活用を図る。

市は「障害のある人もない人もみんな一緒」ですよと呼びかけて欲しいです。その上で一緒になれるように、各種の障害の不都合な点を改善して欲しいです。

施設等利用にもっと他市町村並のえん助が必要と思う。

身体障害者手帳を交付され、はじめて障害のことを考え、気づいたことがたくさんあります。障害と一言で言っても疾患の種類などで様々です。まずはいろいろな障害があることを知ってもらうことが一番だと思います。種類の違う障害なので、支援も様々です。又、少し関係ないですが、初めて手帳を交付されたとき、非常にショックを受けたのを今でも覚えています。障害者という言葉もどうかと思いました。何か、普通の人ではなくなったような感じさえ受けました。

市民に対して啓発以外ない。

障割者障割者と言わず思わず皆んなが同じ気持ちで接してほしい

・障害をテーマとしたテレビドラマ等の放送（有名人気俳優が主役を務める）・地区ごとに障害理解のための啓発講座を行なう。・バリアフリーや筆談で対応する等、障害者に対して、配慮のあるお店等にステッカーを貼る。

白山市のしゅさいで障害の種類などに関するセミナなどを開く。

役所の中にもっと障害者に対しての対応と質文等を、軽く受けてくれる人材を置いてほしい。障害にもっと～と発信してほしい。

・バスなどの席をゆずってくれない。・スーパー、デパート等、店などを含め、トイレが和式が多いため困る事が多い。・人に対して無感心の人が多い様に思う。

・公報等で毎月なぜ障害者支援が必要か啓蒙する。

・内部障害者への理解を深める為に、もっと学びをする機会を増やして欲しい。白山市以外の自治体にも希望する。・入学・進学・就職・日常生活等の支援と理解をして欲しい。

年に一度排水口の総人夫が有り、欠席すると罰金を出します。そのような時、涙が出ます。

白山市には広報があるように医療、福祉とも連携して紹介するのはどうでしょうか。障害の程度や個々の考え方、家族によって障害を隠す場合もあります。必要な援助があると解かれば、利用したいと思うかもしれません。

白山市の町内会で障害者の状況等のビデオ化して、皆さんに見てもらい理解してもらう。

公的きかんに、手伝できる様所を割当ては

市内の取組み企業の紹介や課題、改善方法などを広く周知する。

駅の階段の横にエスカレーターを付けてほしいです。上る下るのエスカレーターが必要です。特に美川駅です。人口が少なくても足腰の痛んでいる方はこまっています。必ず早く実現してほしいです。

自分がとつぜん障害者になったらどうするのどうなるのか　私の友達が１５の時突然若年性糖尿病で失明その３年後に足先…そして透折と何度も何度も心がおれます　生活習慣病には本当に日頃から気をつけましょう

町内の誘導等の支援体制づくりがない　私の町内はレクリエションが１年に１度ぐらい　北成町内は１年に５～６回ありましたよ　町内に１名ぐらいは民生委員いると思いますがたよりにならない民生委員は名前ばかりこまります。

本人が健康状態にもよりますが、外出できるようであれば気軽に出掛けられ利用できる施設（公共）道路（段差の少ない）所が、たくさんあるといいです。

家に閉じこもることなく、積極的に参加できる場を各地域に作ってほしい。

市の広報がよいと思う

外観からは障害の程度が分らないかも知れないので理解を求めるのも難かしいと思う。個人情報…等でとざされているが、もっと障害のある人も参加できる場所、イベント・他あった方が良い。

障害を持っている人、家族が多くの友達を作る事。積極的に集りに参加して自分の障害を知ってもらうと理解してくれる人も増えると思う

障害への理解ってなんですか？人それぞれ、見たまま感じたままで良いと思います。どう見られ、どう感じられるかは、障害者自身の行動で決まると思います。

高令になった時障害者の老人ホームの入所を優良してもらえたら良いと思います。

難しい質問です。有効な解は思いつきませんが、子供の頃から、社会的弱者を労る気持ちを育む教育の充実が必要と思う。

わからない　あまり考えた事もない

障害者の人も、一般の方も、雇用側の方も、お互いに、理解を、広め努力しながら事を、進めると、良いとお思います。

幸い私自身のまわりはとても理解がある方が多いです。

その人その人の立場にならなければわからない所が多くあると思う。最初に障害手帳をもらった段回で親切、ていねいに教えてほしい。

健常者との交流の機会を増すなど、理解を得ることが重要であると感じている。

どこの人々に対しても、理解を広める事はとても困難だと思う。小さい時からの教育しかないではないでしょうか？

１普通にあつかう。２ジロジロ見ない。３親切は有難いことですがほどほどに。

小さい頃に障害者と接する場をもつ。学校行事他で、子供がジロジロ見ることが多いので…

たすけ相の気持

広報等で毎回、障害に関する情報、記事を伝える事。

障害のある人と交流してみる。直接会わないとどういうものか分からないと思います。

実際に障害のある人たちが集まって健常者の人々とふれあうイベント等を開催してどのようなサポートが必要かなどを理解してもらえる機会をもうける。

私自身、視覚障害が発覚した時、絶望悲感、悲嘆に陥りました。視能検査士さんに寄り添われ、手帖発布に至れた時、守られた気持に。守り添う心を示せる心の教育が必要と思います。

・子供（小学生）への教育。福祉施設へ訪問し、これだけ日常生活が大変な人がいるという事を体験する場があると良いのではないかと思う。・公共施設の整備。特に障害者用駐車スペースに、健常者が堂々と駐車しているのを見ると、意識の低さを感じる。

一人になった時年金でホームに入れない

母は、ある程度の歳で病気が発症したので経済的な援助を必要とする事はなかったが、母子家庭だったので若かったら家族全員どうなっていたか考えると恐しいです。そういう方々のためにも、配慮お願いします。

国や自治体からの助成金をもっともっと多く出して、企業側に受け入れる対策が必要。また、障害者は自分のハンディは理解しているし、前向に考えている人が多いと思う。まだまだ考えれば障害者の出きる仕事はある。例えば通販のオペレーターなど電話での会話ではなく、ほとんどがネットでの会話である。これは聴覚障害者向きの仕事だ！

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

理想と現実のギャップがうまく表現出来ませんでした

私自身気持が楽感的な方であり、あまり深く考えないので答が障害者と違った答になった様に思う　結果を知る事が出来ますか？

私事ですが、自分は右手拇指に障害が有り工具や小いさな道具の使用に不都合ですし、又傷の縫合部が引きつるので関節部の屈伸が不充分の程度ですから、ほとんどの事は、自分で出来ますのでアンケートの参考には如何かとも思います。政府や役所の、質品については自分の思いを答えさせて頂きました

正確な答えが出来たか（高令のため認知もあり）ご迷惑をおかけすると思いますが悪からず

意見を区分しやすくするため、断定的が部分がありました。人も動物と同じで弱肉強食の心を持っています。しかし人間には心の痛みを感じることが出来ます。ともにわずかな人生を皆が生されている思いで助け合っていきたいものです。それが人間だと思います。

今の私は、身体障害者手帳が４級ですから、これからは、どのようになって行くか、わかりませんが、今はこのアンケートは、あまり役には、たたないと思います。今は大変元気でいますから。

正しく書いたと思いますが

障害の度合にもよりますが、障害を前に出しすぎる事も世間に甘える事になると思いますが～。まずはどんな人もどんな場合にも自分自身の努力と心がまえも生活していく上で必要なのではないですか。今の世の中あまりにも障害という言葉を重視しすぎているところも有ると私は思います。それこそが「差別」だと思いますし、甘えでも有ると思いますが～。

この調査結果で障害のある人もない人も、幸せな将来が来る事を願ってやみません。研究よろしくお願いします。お疲れ様です。Ｈ２６．１０．３記

障害者は力がないので最低の生活をしれるように手当をすべきである。

私の身体障害者手帳はミドリ色のカバーです。県によってちがうのですか？私は愛知県で取りました。

障害者手帳１、２級の方でも車運転出来、どこにでも自由に一人で出掛けることがで来る方なのにＪ．Ｒは半額、付き添いの方も半額、車購入時補助金、車税金免除。３級だと運転は医者から止められた者（脳硬塞）でも病院に行くのも、どこに行くのも妻に乗せてもらっていますが車の税金は必要ですＪ．Ｒも本人だけ（一人ではどこにもいけないのに）車購入時も補助金ナシ不思議なことです。市役所の方いわく「この世の中の矛盾です」と言われました

障害には、本人だけでなく周りの人への支援がないととてもつらくその人達の体力、時間、収入等にも影響が来る。

本調査を実施していただき、ありがたいと思います。障害者であるがゆえの、悩みや苦しみがあります。この調査をご活用いただければ、うれしいです。集計等が大変ですが、頑張って下さい。

ただのアンケートで本当のなにがわかるのか？

今日現在の状態で記入していますので後、何年後には体力も弱りますので回答が変わると思います。

ただのアンケートで本当のなにがわかるのか？

３年前に障害者手帳の交付を受けましたが、１年後の再審査で、障害者認定が無効になり、現在障害者として認定されていません。

極単な質問があり、答えにくいことも多かったです。仕事を広げてほしい、一律に障害者とならず、状況程度に応じた仕事ができるようなら、働く機会がもっとあるのではないかと思います。勤勉さにより賃金が決定できるとよいと思いますが、評価がむずかしく、心身の状態により、その人にあった勤勉さは個々異なり、むずかしいです。

白山市だけでは無いのですが運転免許証、パスポートは何年ごとに更新手続が必要な様に身障者の級等は何十も同じなのは変だと思います。私は今の所自分で生活出来ますが年齢がいくたび自由がきかなくなる事もありますしなかなか医療機関で相談しにくく以前福祉課の人に手帳の３級から２級に出来ない事も相談したら一言で駄目ですと後私は寝具を使用しているのですが新しいくして欲しいと相談したらまだ大丈夫ではとの一言冷くかんじました　手帳の級等色の変更も見直す事も大事な事だとおもいます。

自分の立場だけを考えて答えるべきか、その他の（自分と違った障害者）障害者の立場を考えた時回答に迷ようことがあったと思う

私は４級ですが、すべての障害者は依頼心を捨てて人生に立ち向う強い心を持つべきと考えます。

本来の職務外にこのような手数のかかる調査をされ、本当にご苦労様です。研究会の皆様の、ご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

私は７６才の老人です。働く事も出来まん。自分の事でいっぱいです。もうすこし考えて意見を書えて下されば幸いです

支援介護の必要がないから〇付が難しい　これからです。

アンケート調査など必要だと思いますが地域などに出向いて生の声を聞いて地域に寄って違いなどが多くあると思うので参考にしてほしい

差別してはいけませんが、リハビリに行く施設での認知症の人達、私のような者とか分かれてリハビリのする場所があれば大変助かると思っております。

障害者及びその家族の生活がより一層暮らしやすいようにこの調査が生かされることを願っています。

障害者について考えてもらえることはありがたいです。ケアする家族についても考えてくれているアンケートであることで苦労を理解してもらえているようでとてもうれしく思いました。今後もデーターや意見から色々対策がでて、よい方向にすすむようお願いします。

制度が変っても、全てがうまく行くことはあり得ない。人は昔もこの先も、同じ事を繰り返して生きて行く。世の中の大半は、気持の問題で事が収まる。比の世の問題は、人々の心が現われた景識で、実体は何一つない。

障害者にたいする思いやりをもっと考へてほしい

問３７で差別にまではいかないが、人の目が障害者に対してあわれみの目で見られる事が気になります。

障害には等級があります。見た目、日常生活では全く分からない障害～明らかに分かる障害まで。等級というもので区分しているくせに“障害者”というひとくくりの扱いには納得いきません。それぞれに見合った待偶、対処が適切かどうか、きちんと考えてもらいたい。アンケートの中に、「障害のある人も障害のない人も“平等に”」とか“同じ”とかいう表現が出てきますが、どの程度の障害かということが重要ではないですか？苦労しても何とか自分で出来る人～少しのことでも支援が必要な人もいます。その大きな差をひとくくりにして、上記のような表現は、取りようによれば、障害があるくせに同等の扱いをされたいか？というような差別的表現にきこえます。「障害と医療・福祉」研究会なのであれば、もう少し配慮のある文言が作成できるのではないかと思います。たとえ軽度であっても、同等に扱われたいという風に思ってはいけないのでしょうか？

１障害者への福祉のあり方（上から目線）と、本人の満足度（下から）とは大きな離りがあると思う。２単に物、金等があっても、精神的な不幸を抱えている人もあり、数値することが難しいと思う。３このアンケートで次のアクションが取れるのか疑問が生じる４障害者対策と、障害者を減ずる社会構築の両面から、アプローチしてほしい。５このアンケート結果のフィートバックを希望します。（自分との乖離把握の為）（何かの公報等にて可）

・この調査を記入して見て、調査の目的がわからない。単に白山市が、調査、改善をしている様なパフォーマンスにすぎないのではないか。・障害者は一人一人環境、思考が違うと思うし、無理だと思います。・私は障害者で６５才迄福祉援助を受けて来ましたが６５才を過ぎてからは介護保健に切り換わり、援助に制限が出たり、複雑になり、不便に感じます。・障害による介護等が、高令による介護かを区別してほしいと思います。・制度が複雑になるばかりで市役所の人も短期で移動があり、非常に不便を感じます。・最後にこのアンケートが税金のむだにならない様、願っています。

障害者がすみやすい社会になるようにお願いします

意識調査記入には千差万別の障害のある人がいると思いますので自分に当てはめて記入するのか私にはこんな調査は参考にならないと思います。その人その人の障害に合った調査を考えてみて下さい。大変失礼なこと書きましたがおわび申し上げます。

説問、解説が夛すぎて終りの方は疲れました。年寄りにはチョット無理なところがありました。

障害福祉についての調査記入は初めてだったので、いろいろの部門がある事を知りとても参考になりました。障害はあっても夢を持って生きたいと思いました

このアンケートは、本人に聞き取りし、施設職員が記入しましたが、ご高齢の方には大変難しいものが多く、「しらない」「わからない」の回答ばかりとなりました。今回対象者は、認知症等がなく聞き取り可能ですが、施設（老人ホーム）で高齢者には、向かないアンケートかと思れます。やはり在宅で生活されている方々の声の方が参考になるのではと思いました。

障害者の情報等を、簡単に民生委員や町内会に、見せてもらいたくはありません。私の住む新興住宅地では、民生委員や町内役員は、持ち回りでやっていますのでいつのまにか町内ほとんどすべての人に情報が知られてしまいました。個人情報も何もあったものではありません。障害者とは、見てわかる障害の方と、内部に障害のある見てわからない人がいるのです。もう少しきめ細い配慮を望みます。

・なんか、ピントのズレた質問が多い気がする。このアンケートがなんの役に立つのか？疑問だ。

ノーマライゼーション　健全な人も、障害のある人も差別なく前を向いて、個々の持てる力を発輝し社会で生きられる。そして、互いに助け合いのできる社会を地域からと思います。

設問が長すぎるので、回答してくれる人（代筆も含めて）が選ばれるのではと思いました。もっとシンプルで設問が少ない方が、回収率が高くなるのでは？（代筆者）

装具給付券を市より交付してもらっておりますが、時々の体調により若干装具が不足する場合があります。装具はかなり高価（１０００円程度）で出来るだけ長く使用しますが、もう少し補助価格（現在２ケ月１７８００円）をＵＰしてもらえれば予裕をもって交換出来ます。

イスラエルやシリアの様になればそんな事云っていられません。

私は身体障害者５級（足、手がしびれるＣＩＤＰ）以前の会社で身体障害の１級・２級（ペースメーカー、他）でも普通の人と同じ様に仕事をしていました。仕事もできないのになぜ５級なのか、等級の基準が変です。（医師は何歩、歩ける（他にも）から５級ですと）

分かりにくい事が一杯ありました。（質問の内容　自分にあてはまらない事など）

・人は体が動く限り自立すべきです（出来るだけ）・世間にあまえてばかりいると働く意欲が無くなりだめになります。

障害者に光をあてて、調査をしてくださるのは、とても嬉しいことです。感謝しております。私は肢体不自由者で誰が見ても障害者とわかり、助けを求めれば応じてくださいます。街なかにいると、「何かお手伝いできることありますか？」といった声かけをいただくこともあります。ただ精神障害の方や知的障害の方たちは理解してもらえなかったり、声をあげることができない方達もいらっしゃって難しいですね。最近は高齢者が増えて、皆が自分の行く末で自分達の問題として受け取り街なかのバリアフリー化が進み、あまり光があたらない私達障害者も随分恩恵を受けています。社会の人達の心も弱者に対して優しくなっているように感じます。とても有難いです。いろいろ書かせていただきました。大変ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

「障害福祉に関する意見調査」に関して非常に述べ辛らい事ですが、誤字がございましたので、読みづらく思いました。「答えなくても」という所や「直しがひどい」所がございまして、誠に申し訳ございません。

・新戚の為施設入院の明細は不明入院費等以外は不明

今の状態に対しての回答がしにくい項目がありました。お疲れ様です。

わかりずらい質問があり正答できなかった。

事故で障害者となって気付いた事は体の不自由な人はずい分我慢して生活しているのだなと思いました。このようなアンケート調査は健常者にも障害を持つ人をどう思うか障害者とどうつき合って行くか調査する事で社会が全体が良くなると思う。

アンケートには●●しますが白山市が障害者の住所、氏名を無断で第３者に提供したことは行政として問題がなかったかどうか検討すべきです。いろいろな人がいますから、マスコミや議会にクレームを出さないとは限りません。

障害者にとっていろいろな病気にかかり１年に何度も入院しなければならない時があるのですそんな時大室ではこまり個室にしなければなりません障害者が大病にかかると大変お金がかかります　夫婦２人の年金で生活しているのですがこまる時が多いのです　ケアーセンターで一日過ごしてもお金がいります　娘は仕事に出ていて見てもらえません。障害者年金を今もらっていませんがいつかもらうことができるのでしょうか。

金沢市は年に１万円ほどの見舞金があるのに白山市は無い。タクシー券も少ない。白山市は福祉に力を入れてないと思う。

この調査問答は、障害の種類人によってかたよると思う。各々の用語解説に書いてあるように、障害者別の問答が欲しかった。これでは目的がハッキリしないと思う。それよりも一番改善すべきことは、国、県、市、共に障害者支給給付金が、若い時は病院で払わず処理出来たのが、ある年令（６０才か６５才か？）になったら病院に支払いをし、月毎に市役所の障害福祉課へ領収書をもって行き、３ケ月後に口座へ振込まれるが、これが現在一番苦痛であり、これこそ差別であると思う。若い時なら良いが年令が行ってからは苦痛の何物でも無い。早急なる改善を要望する。市役所で何回言っても県が、県がとの答えばかり。年金生活なのに３ヶ月後の振込もおかしい。給付金をもれっているのでなかなか言えないが、絶対改善してほしい。

こういう調査は、もっとやってほしいです。世間様にわかってほしいと思います。
年金減り、税金上がり、住みにくい日本

特にないです。調査等には余りかんけいない事ですが…点字ブロック等は少し問題があります。足の悪い人達は、ブロックですべったり、足がひっかかったりする事があるので、全体的に考えてほしいですね。

障害の程度によって質問の内容が答えにくい点もありました。自分自身は現状では生活に不自由な事は少ないのですが、手帳を取得してから、年月もたち障害程度も悪化しています。先のことを考えると不安になりますが、なるべく自立心を持って社会生活に参入していたいと思っています。

今は自分で思っている事が出来ますのでこゝに記されている様な問いについて深く考えたことはありません。たいへん良くしていたゞいていると思っています。

とても緊張しました。何度も読み返して答えを出したつもりです。調査のお役に立てたら倖です。

・質問の記載の仕方・返答の仕方がおかしいです。・特に「障害や差別について」の質問が失礼だと感じました。・健常者も障害者も同じ命を生きています。

質問の意味が理解出来ない所もあった。

・緊急時、避難（災害）等に関する意見交換が必要と思われる。実際どの様な行動、必要品等どうするのか？各組織団体との、つながりがあるのか？社会福祉協議会、障害福祉課、民生委員、消防、警察、その他　・「ＨＥＬＰカード」は不自由児だけですか？大人（高齢者）わ必要ないのですか？白山市には、ない様ですが？・調査の結果をお知らせ下さい。お願い致します。
何気なく毎日過ごして来ましたが、夫婦２人になりお互い６５才を過ぎ、福祉医療にますます、お世話になる事と思い老老介護にならないように日々、元気に過せたらなあと思います。
脳神経ため退院したばかりあま深い考い居る事出来ませんので御免なさい　迷う問題ばかり、よく考いると用語の問題ですね
障害者になって８年になります。市の福祉、サービスなどは今の所、満足してます。始めの頃は右片まひですが一諸に買い物、散歩したり楽しみもありましたが最近外出は病院の通院だけです。家の近くを散歩するのが楽しみですが、きれいに道路はなってますがまだまだ段差が多く、不便な事もあります。
障害にも軽度と重度があると思うので今１つわからない部分があります。 設問が理解しにくい面があり適切な回答が得られないのではないか
現在の状況を基準にして回答しました。障害の程度が進行しつつ中、回答が変わってくると思います。
多くの人に助けていただきながら在宅療養しています。本人の出来る事は自が呼吸のみですが、この調査に協力出来た事を嬉しく思います。家族代筆
突然送り付けられて困惑した。回答はするが、やり方がぶしつけではないか。
私は手が振るえて字が上手に書けません　御理解お願いします　交換神経の病気です
・現在老々介護で困っています。在宅介護料の支援を望みます。寝具のクリニングに関してですけど毛布などは、家庭の洗たく機で洗えますが洋毛のフトンは利用出来ずに綿のフトンだけだそうですが時代に合わないサービスとなっています。改良する様に…・この調査は現在の状態で書いたものですけど頭も体も日毎に弱わっていきますので心配の度合いが又変って来ます。
国民年金を６０才でもらい、６５才で発病しました。障害者年金がもらえませんかね　何んとかして欲しいです。
障害にも様々な方々がおられます。総合して考えになり質問にうまく答えられておりません。保護されるのが当然とは思いません。考え方を前むきに変えられるチャンスが行政からあると思うこともあります。まわりに求めるだけでなく、必要とされたいと考えます。お役に立てば幸いです。
難解で答えられない質問がある
施設職員が回答させて頂きました。ご本人様精神疾患あり、回答むずかしくわかる範囲で記入しました。不備あると思いますがよろしくお願いします。
多さんの設問があり、多少つかれました。
眼がわるいので大変つかれました

障害者は精神的苦痛が多大なる事が大で皆様にめいわくがかからないか不安な毎日を送っています。どんな事にも消極的になり、心のケアが重要だと思います。
大変良く出来た企画だったと思います。色々勉強させて頂きました。なかなかむつかしい面もありました。
障害者の理解、福祉の向上に役立てば幸いです。
障害者と同じ立場でないと、その人の痛や苦しみは、わかりません。すべて人ごとです
障害の程度にもよるし、色々な考えの人もいるので問４４、４５はとてもむずかしい。
私は指先がしびれ感覚が有りませんが無差別にこのような書類を送りつけてくるのはどうかと思います　そのような事も孝りょして下さい
現在の障害と将来確実に進行するであろう障害とを考えた時にどちらに当てはまるのか悩んでしまいました。
大変遅くなり申し訳御座居ませんでした。
私にはあまり関係ない項目があり全部書けませんでした。
近くに入院できる病院があるといいです　リハビリ出来る場所
障害者にもいろいろあるので、最後の質問はむずかしい
当アンケートについて有り返答を書きたく有りません
めいわくだと思いました。私も７０才になりました。人よりも体は小さく（１５０ｃｍ−４０ｋｇ）子供がいないため、体の限界は６５才です。今、小池病院にいます。私達の事はテレビに写る時その他で写るのです。その為にめがねをかけ書くのはたいへんです。
返信が遅くなり申し訳ありません
視覚障害で（３級）、このようなアンケート回答は非常に苦しい作業でした。でも、最後まで辿り着けて喜んでいます。ありがとうございました。
自分の障害の状況が今後どのようになっていくか…不安に思っている時に、この質問は、不安を増幅させ、一度ではできませんでした。（一応固定された時に判定を受けますが。早晩、新たに障害の事態になると聞いていますので。）どちらにもとれる解答を、どのように分析？結論づけられるのでしょうか？結果をお教えいただけるのですね？
私は、変形型股関節症で正座したり、ひざを曲げて座ったりできないし、歩き方も、足をひきずるようにしているが、ほとんどの移動は車であり、仕事もできている。自身は障害者を意識した事は生活する上であまりないが町内の草むしり等は参加できない。協力金を払っているが、時々、疑問に思う。
回答の期間が短かすぎると思います。家族がわとして、障害に対する知識がなかったので、当初困りました。分かりやすい様にして下さると助かります。
この冊子を理解している人に説明してもらえたらうれしい　わからなすぎ
遅くなって申し分けありませんでした。

資料２

障害福祉に関する意識調査
（知的障害のある人）

障害福祉に関する調査

２０１４年１０月

調査へのご協力のお願い

１．この調査は、障害のある人びとの生活全般の向上をめざし、安心して暮らせる福祉社会の実現に向けての基礎資料とするために、白山市と金沢大学「障害と医療・福祉」研究会が共同で実施するものです。調査の目的をご理解いただき、率直なご意見をご記入いただきますようお願いいたします。

２．この調査は、あなたさまをはじめ、市内にお住まいの障害者に関する手帳をお持ちの方々から、くじ引きに似た方法（無作為抽出法）で１５００名を選ばせていただきました。

３．回答は、**封筒の宛名のご本人**が記入してください。**ご本人が記入できない場合は、ご家族などどなたかに代筆していただくか、ご本人の意思を尊重して、ご回答ください。**

４．この調査は無記名ですので、どなたのご回答であるのか特定されることはございません。みなさま方個人および、ご家族の方々のことが外部にもれることは絶対にありません。また、この調査票で得られたデータは、白山市の福祉行政を実現する施策づくりおよび大学での研究目的以外には使用いたしません。

５．ご記入いただきましたら、**１０月１４日（火）**までに同封の返信用封筒に入れてご投函ください。**※切手は不要です。封筒裏面に差出人のお名前を記入する必要もありません。**

６．以上の点をご理解いただき、なにとぞご協力をお願いいたします。この調査に関するご質問がございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

【実施責任者】

白山市健康福祉部障害福祉課

金沢大学「障害と医療・福祉」研究会

【問い合わせ先】

白山市健康福祉部障害福祉課

Ｔｅｌ：０７６－２７４－９５２６

Ｆａｘ：０７６－２７５－２２１１

調査票記入上の注意事項

◎ご記入は、黒または青色のボールペン・ペン・鉛筆でお願いいたします。

◎回答のしかた

（１）ほとんどの質問は、あてはまるものの番号（**１２３・・・の数字**）を**○印**でかこんで、お答えください。

（２）いくつかの質問には、枠内に文字・数字を直接ご記入ください。

（３）答えにくい質問があるかもしれませんが、できるだけすべての質問にお答えいただければ幸いです。

■まず、あなたご自身のことについてお聞きします。

問１　このアンケートにご記入いただくのはどなたですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. ご本人が記入	**3.** ご家族がご本人に代わって回答
2. ご家族が代筆	**4.** その他（　　）

問２　あなたの性別はどちらですか。つぎの中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 男性	**2.** 女性

問３　あなたは白山市のどの地域にお住まいですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 松任	**3.** 鶴来
2. 美川	**4.** 河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰

問４　あなたの年齢は何歳ですか。〔２０１４（平成２６）年１０月１日現在でお答えください〕

満　　**歳**

問５　あなたの世帯は、あなたを含めて何人家族ですか。

　　人家族

問６　あなたが**同居されている**ご家族を、つぎの１～１２の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。ただし、亡くなっているかたは除いてください。

1. 配偶者（夫・妻）	**5.** 配偶者の父母	**9.** 配偶者の祖父母
2. 子ども	**6.** 自分の兄弟姉妹	**10.** 孫
3. 子どもの配偶者	**7.** 配偶者の兄弟姉妹	**11.** その他
4. 自分の父母	**8.** 自分の祖父母	**12.** あてはまる人はいない

問７　あなたのお住まいについてお聞きします。

（１）　現在のお住まいは、つぎのなかのどれですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 持ち家（一戸建て住宅）	**4.** グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム
2. 持ち家（集合住宅〔マンションなど〕）	**5.** 民間の借家・賃貸アパート・マンション
3. 市営・県営などの公的賃貸住宅	**6.** その他（具体的に：　　）

（２）　これからの生活をどこで送りたいですか。つぎの１～７の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 持ち家（一戸建て住宅）	**5.** 民間の借家・賃貸アパート・マンション
2. 持ち家（集合住宅〔マンションなど〕）	**6.** 入所施設
3. 市営・県営などの公的賃貸住宅	**7.** その他（具体的に：　　）
4. グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	

■あなたの障害の種類、等級（程度）などについてお聞きします。

問８　あなたのお持ちの療育手帳についてお聞きします。

（１）　あなたの療育手帳の判定は、つぎのいずれですか。つぎの１～３の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1．Ａ	**2**．Ｂ１	**3**．Ｂ２

（２）　あなたが療育手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか。

満 [　　] 歳

問９　（１）　あなたは、療育手帳のほかに、身体障害者手帳をお持ちですか。

1. 持っている⇒問９（２）へ	**2.** 持っていない⇒問１０へ

（２）　【問９（１）で**1**と答えた方にのみお聞きします。】身体障害者手帳の等級は、総合等級では何級ですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1．１級	**3**．３級	**5**．５級
2．２級	**4**．４級	**6**．６級

（３）　では、あなたの障害はどのような障害ですか。つぎの１～５の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1．視覚障害	**4**．肢体不自由
2．聴覚障害、平衡機能障害	**5**．内部障害〔心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう・直腸、小腸、肝臓、免疫機能の障害など〕
3．音声・言語機能障害、そしゃく機能障害	

（４）　あなたの障害の原因はなんですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1．交通事故	**4**．先天性（生まれつき）
2．労働災害	**5**．疾病
3．その他の事故	**6**．その他（　　）

問１０　（１）　あなたは、療育手帳のほかに、精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。

1. 持っている⇒問１０（２）へ	**2.** 持っていない⇒問１１へ

（２）　【問１０（１）で**1**と答えた方にのみお聞きします。】では、精神障害者保健福祉手帳の等級は、何級ですか。つぎの１～３の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1．１級	**2**．２級	**3**．３級

問１１　あなたは難病（特定疾患）の認定を受けていますか。

1. はい	**2.** いいえ

問１２　あなたは発達障害（自閉症、学習障害など）の診断を受けていますか。

1. はい	**2.** いいえ

問１３　障害支援区分についてお聞きします。
（１）　あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。

1. 受けている⇒**問１３（２）へ**	**2.** 受けていない⇒**問１４へ**

（２）　**【問１３（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**その障害支援区分は、つぎのどれにあたりますか。つぎの１～７の中からあてはまる**番号**<u>**１つに**</u>○をつけてください。

1. 区分１	**5.** 区分５
2. 区分２	**6.** 区分６
3. 区分３	**7.** わからない
4. 区分４	

■あなたの収入の状況についてお聞きします。

問１４　あなたは何により生活費を得ていますか。つぎの１～１１の中からあてはまる**番号**<u>**すべてに**</u>○をつけてください。

1. 勤め先の給与や賃金	**5**. 事業収入（自営業など）	**9**. 特別障害者手当
2. 通所施設・作業所などの工賃	**6**. 財産収入（家賃など）	**10**. 生活保護
3. 同居家族の扶養	**7**. 障害年金	**11**. その他（　　）
4. 別居家族や親戚の援助	**8**. 障害年金以外の年金	

問１５　あなたのご家庭の、現在の暮らし向きについてどう思われますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる**番号**<u>**１つに**</u>○をつけてください。

1. 良い	**4.** どちらかといえば悪い
2. どちらかといえば良い	**5.** 悪い
3. 良くも悪くもない	

■あなたの日常生活上の支援者についてお聞きします。

問１６　あなたは、どのようなときに、どなたの支援が必要ですか。

（１）支援が必要と思うのは、どのようなときですか。ａ～ｍのそれぞれについて、つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

（２）【問１６（１）で**2か3**と答えた場合にお答えください。】では、実際に支援をお願いするのはどなたですか。ａ～ｍのそれぞれについて、つぎの１～４の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

	１．自分でできる	２．ときどき支援が必要	３．つねに支援が必要	→	１．家族や親戚	２．ボランティア	３．友人・近所の人・ヘルパー・施設の職員	４．その他（　　）
ａ．食事をするとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｂ．トイレを利用するとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｃ．薬を飲んだり保管するとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｄ．入浴するとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｅ．着替えをするとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｆ．掃除・洗濯をするとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｇ．炊事をするとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｈ．外出するとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｉ．家の中で移動するとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｊ．家族以外の人とコミュニケーションするとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｋ．生活費などお金の管理	1	2	3	→	1	2	3	4
ｌ．日常の暮らしに必要な事務手続き	1	2	3	→	1	2	3	4
ｍ．緊急時に避難・連絡したいとき	1	2	3	→	1	2	3	4

問１７　あなたの日常生活上の主な支援者についておたずねします。

（１）　主な支援者は、つぎのうちどなたですか。つぎの１～１２の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1．配偶者（夫・妻）	**5**．配偶者の父母	**9**．配偶者の祖父母
2．子ども	**6**．自分の兄弟姉妹	**10**．孫
3．子どもの配偶者	**7**．配偶者の兄弟姉妹	**11**．支援者はいない⇒**問１８へ**
4．自分の父母	**8**．自分の祖父母	**12**．その他（　　）

（２）　主な支援者に対して必要だと思われるケアやサポートがありますか。つぎの１～１０の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 仕事ができるようなサポート	**6.** 経済的な援助
2. 外出できるようなサポート	**7.** 相談する相手
3. 代わりに支援を頼めること	**8.** 緊急時のサポート
4. 支援者本人が自分の時間を持てるようにすること	**9.** 特にない
5. 支援の方法に関するアドバイス	**10.** その他（　　）

（３）　主な支援者が高齢、病気などで将来支援ができなくなった場合は、どうしますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 親族の支援を受ける
2. ホームヘルパーなどを利用し、自宅で暮らしたい
3. グループホーム・ケアホーム・福祉ホームで暮らしたい
4. 施設に入所する
5. その他（　　）

問１８　あなたは悩みや困ったことがある場合、どちらに相談されますか。つぎの１～２２の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 家族	**12**. 発達相談センター
2. 親戚	**13**. 配偶者の兄弟姉妹
3. 友人・知人	**14**. 高齢者支援センター
4. 市役所、児童相談所などの行政機関	**15**. 社会福祉協議会
5. 障害者団体、患者団体や家族会	**16**. 医師や看護師などの医療関係者
6. 民生委員・児童委員	**17**. 学校の先生
7. 障害者相談員	**18**. 職場の人
8. 相談支援事業所	**19**. 障害者就業・生活支援センター
9. 施設や作業所の職員	**20**. 相談したいができない（しない）
10. グループホームの世話人	**21**. 悩みや困ったことはない
11. 居宅介護のヘルパー	**22**. その他（　　）

問１９　自宅で入浴、排せつ、食事などの支援・介助を受けたり、調理、洗濯、そうじなどの支援を受けたりする居宅介護（ホームヘルプサービス）の利用について、あてはまる番号に○をつけてください。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 利用している
2. 今は利用していないが、利用したことはある
3. 利用したことはないが、今後利用したい
4. 利用したことはなく、今後も利用しない
5. サービスについて知らない

■お仕事についてお聞きします。

問２０　あなたの仕事や通学の状況はつぎのどれにあたりますか。つぎの１～３の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 仕事をしている（就労移行支援・就労継続支援・作業所などを含む）⇒**問２１（１）へ**
2. 仕事はしていない⇒**問２２（１）へ**
3. 通学・職業訓練中⇒**問２３へ**

問２１　**【問２０で１と答えた方にのみお聞きします。】**

（１）　あなたは現在、どのような形で働いていますか。つぎの１～６の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 常勤（正規の職員・社員）
2. パート、アルバイト、臨時雇い（派遣社員を含む）
3. 家の仕事（自営業、手伝い）
4. 就労移行支援・就労継続支援・作業所など
5. 内職
6. その他（　　）

（２）　仕事の悩みや困っていることがありますか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 仕事（細かい作業など）がむずかしい
2. 障害について理解や協力をしてもらえない
3. 職場までの通勤が不便である（距離が遠い、交通手段が限られているなど）
4. 職場の建物や机などの設備が使いにくい
5. 職場でのコミュニケーションがうまくとれない
6. 障害がない人と比べて仕事の内容や昇進などに差がある
7. 障害がない人と比べて給料が安い
8. 職場での人間関係がうまくいかない
9. とくに困っていることや悩みはない
10. その他（　　）

（３）　就職するときに、どこの支援を受けましたか。つぎの１～８の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. ハローワーク
2. 学校
3. 石川障害者職業センター
4. 金沢障害者就業・生活支援センター
5. 小松障害者就業・生活支援センター
6. 就労移行支援事業所
7. 支援を受けていない
8. その他（　　）

（４）　あなたの仕事による１年間の収入は、つぎのどれにあたりますか。つぎの１～１４の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. なし	**8.** ５００～６００万円未満
2. ５０万円未満	**9.** ６００～７００万円未満
3. ５０～１００万円未満	**10.** ７００～８００万円未満
4. １００～２００万円未満	**11.** ８００～９００万円未満
5. ２００～３００万円未満	**12.** ９００～１０００万円未満
6. ３００～４００万円未満	**13.** １０００万円以上
7. ４００～５００万円未満	**14.** わからない

問２２　**【問２０で2と答えた方にのみお聞きします。】**

（１）　働いていない理由はなんですか。つぎの１～８の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 働く所がないため	**5.** 病気のため
2. 通勤が困難なため	**6.** 重度の障害のため
3. 自分にあった仕事がないため	**7.** 家事に専念しているため
4. 高齢のため	**8.** その他（　　）

（２）　今後、働きたいとお考えですか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 働きたい	**4.** 働く必要がない
2. 働きたいが、自分の心身の状況などを考えるとむずかしい	**5.** わからない
3. 働きたくない	

（３）　どのような形で働きたいと思いますか。つぎの１～６の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 常勤（正規の職員・社員）	**4.** 就労移行支援・就労継続支援・作業所など
2. パート、アルバイト、臨時雇い（派遣社員を含む）	**5.** 内職
3. 家の仕事（自営業、手伝い）	**6.** その他（　　）

問２３　**【すべての方にお聞きします。】**あなたは障害のある人が就労しやすくするために、なにが必要と考えますか。つぎの１～７の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 就労に必要な技術や知識を身につけるための訓練の場
2. 通勤するための移動サービス
3. 行政の雇用支援（ジョブコーチ制度、企業への助成制度など）
4. 障害のある人の雇用に対する雇用者側の理解と努力
5. 障害のある人自身の就労に対する意識改革
6. 市民に対する障害のある人の就労に関する啓発
7. その他（　　）

■外出についてお聞きします。

問２４　あなたは過去１年間にどれくらい外出しましたか。つぎの１～６の中からもっともあてはまる番号<u>１つに</u>○をつけてください。

1. ほぼ毎日	**4.** 月に３～４回
2. 週に４～５回	**5.** 月に１～２回
3. 週に２～３回	**6.** ほとんど外出していない

問２５　あなたの主な外出先・用件はどちらですか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号<u>すべてに</u>○をつけてください。

1. 通院	**6.** 金融機関
2. 通学・通勤	**7.** 団体等の会議・催し
3. 買い物	**8.** 余暇活動
4. 親戚・友人・知人宅	**9.** デイサービスなどの福祉施設
5. 役所	**10.** その他（　　）

問２６　あなたは外出されるとき、主にどなたと外出されますか。つぎの１～９の中からもっともあてはまる番号<u>１つに</u>○をつけてください。

1. 単独（白杖歩行・盲導犬を含む）	**6.** 友人・知人
2. 家族・親戚	**7.** 近所の人
3. ガイドヘルパー	**8.** ボランティア
4. ホームヘルパー	**9.** その他（　　）
5. デイなどの施設の職員	

問２７　あなたの外出のときの主な移動手段は何ですか。つぎの１～８の中からもっともあてはまる番号<u>１つに</u>○をつけてください。

1. 徒歩	**5.** タクシー
2. 自転車	**6.** 自家用車（自分で運転する）
3. バス	**7.** 自家用車（乗せてもらう）
4. 電車	**8.** その他（　　）

問２８　外出時における移動の支援などのお手伝いをする同行援護または移動支援事業などの障害福祉サービスを利用していますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号<u>１つに</u>○をつけてください。

1. 利用している	**4.** 利用したことはなく、今後も利用しない
2. 今は利用していないが、過去に利用したことがある	**5.** サービスについて知らない
3. 利用したことはないが、今後利用したい	

問２９　あなたが外出するうえで、なにか困っていることがありますか。つぎの１～１１の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. バス・電車などが容易に利用できるよう改良されていない
2. 乗物や公共施設の案内表示がわかりにくい
3. 道路や駅に段差や階段、障害物などが多い
4. 出入口や階段、トイレなど建物が容易に利用できるよう改良されていない
5. 車などに危険を感じる
6. まわりが気にかかる
7. 支援者がいないので外出できない
8. 人とのコミュニケーションがとりにくい
9. ほとんど外出しないのでわからない
10. とくに困ることはない
11. その他（　　）

問３０　文化やレジャーなどの活動についてお聞きします。

	（１）あなたは、この１年間にどのようなことをしましたか。ａ～ｊのそれぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。		（２）今後、どのようなことをしたいと思いますか。ａ～ｊのそれぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。	
	１．した	２．しない	１．したい	２．したくない
ａ．コンサートの鑑賞や観劇など	**1**	**2**	**1**	**2**
ｂ．スポーツ教室、大会などへの参加	**1**	**2**	**1**	**2**
ｃ．旅行・キャンプ・つりなど	**1**	**2**	**1**	**2**
ｄ．学習活動	**1**	**2**	**1**	**2**
ｅ．趣味の同好会への参加	**1**	**2**	**1**	**2**
ｆ．ボランティアなどの社会活動	**1**	**2**	**1**	**2**
ｇ．障害のある仲間との交流（ふれあい）	**1**	**2**	**1**	**2**
ｈ．町会・地域活動	**1**	**2**	**1**	**2**
ｉ．特にない	**1**	**2**	**1**	**2**
ｊ．その他（　　）	**1**	**2**	**1**	**2**

■災害時の対応についてお聞きします。

問３１　あなたの災害時の対応についておたずねします。

（１）　地震などの災害時の避難場所を、あなたは知っていますか。

1. 知っている	**2.** 知らない

（２）　地震などの災害時に、あなたは一人で避難できますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. できる	**2.** できない	**3.** わからない

（３）　家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. いる	**2.** いない	**3.** わからない

（４）　地震などの災害時にすぐに困ると思われることは何ですか。つぎの１～１２の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 投薬や治療を受けられない
2. 補装具の使用が困難になる
3. 補装具や日常生活用具の入手ができなくなる
4. 自分の状況が周囲の人に理解してもらえない
5. 安全なところまで、迅速に避難することができない
6. 被害状況、避難所の場所、物資の入手方法などの情報が入ってこない
7. 周囲の人とコミュニケーションがとれない
8. 避難所の設備（トイレなど）について不安
9. 家族の安否情報がとりづらい
10. 救助を求めることができない
11. とくにない
12. その他（　　）

問３２　白山市では、災害時要援護者に対する支援として、災害時要援護者マップを作成しています。

（１）　このマップについて知っていますか。

1. 知っている	**2.** 知らない

（２）　では、災害時要援護者マップの作成に同意をされていますか。つぎの１～３の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 同意している⇒**問３３へ**	**2.** 同意していない⇒**問３２（３）へ**	**3.** わからない⇒**問３２（３）へ**

（３）　**【問３２（２）で2か3と答えた方にのみお聞きします。】**今後、マップ作成に同意するつもりはありますか。

1. 同意するつもりはない⇒**問３２（４）へ**	**2.** 同意するつもりだ⇒**問３３へ**

（４）　**【問３２（３）で1と答えた方にのみお聞きします。】**マップ作成に同意するつもりはない理由は何ですか。つぎの１～７の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 支援が期待できないから
2. 家族の支援を受けられるから
3. 個人情報を知られたくない
4. 依頼できる支援者がいないから
5. 町内会や自主防災組織などが組織的な取り組みをしていないのでなんとなく不安だから
6. 知っているが制度がよく理解できないため
7. その他（　　）

■あなたの医療や福祉サービスなどについてお聞きします。

問３３　あなたは医療のことで、なにか困っていることがありますか。つぎの１～７の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 通院するとき付き添いをしてくれる人がいない
2. 医師・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない
3. 医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない
4. 専門的な治療をしてくれる病院が近くにない
5. 医療費の負担が大きい
6. とくに困っていることはない
7. その他（　　）

問３４　あなたは医療・福祉サービスなどについてどちらに相談していますか。つぎの１～１３の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 民生委員・児童委員
2. 身体障害者相談員
3. 相談支援事業所・相談支援専門員
4. 市役所の相談窓口
5. 保健所・福祉健康センター
6. 医療機関
7. 障害福祉施設
8. 社会福祉協議会
9. 介護保険のケアマネージャー
10. 同じ障害のある人の団体・グループ
11. 相談するところがない
12. どこに相談に行ったらよいかわからない
13. その他（　　）

問３５　あなたが、暮らしやすくなるために、とくにしてほしいことはどのようなことですか。つぎの１～１７の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 毎日の生活の手助けがもっとほしい
2. 外出（買物など）の支援をしてほしい
3. 障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい
4. 障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい
5. 一般企業で働くことが難しいので、就労支援施設などを増やしてほしい
6. ジョブコーチ制度を充実させてほしい
7. リハビリ訓練の場所を増やしてほしい
8. 障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい
9. 外出しやすい環境や交通機関の利便を図ってほしい
10. いつでも何でも相談できる窓口を用意してほしい
11. いつでも何でも話し合える相談相手や仲間がほしい
12. 年金などの経済的な援助を増やしてほしい
13. スポーツ・レクリエーション・教育・文化活動に対する援助をしてほしい
14. 福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい
15. 円滑なコミュニケーションができるように、障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい
16. とくにない
17. その他（　　）

問３６　つぎのサービスをボランティアが行うとしたら、あなたは、どれを受け入れたいと思いますか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 調理	**6.** 病院などへの送迎・外出支援
2. 洗濯	**7.** 買い物
3. 部屋のそうじ・庭の手入れ	**8.** 代筆・代読
4. 話し相手、相談相手	**9.** ボランティアのサービスは受け入れない
5. 家屋内外の簡単な修理	**10.** その他（　　）

■ここからは障害や差別についてお聞きします。

問３７　障害に関する差別についてお聞きします。

（１）　あなたはこれまでに障害があるために差別をされたと感じたことがありますか。

1. ある⇒問３７（２）へ	**2.** ない⇒問３８へ

（２）　**【問３７（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**それはどのような分野での差別でしたか。つぎの１～９の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 医療	**4**. 防災	**7**. 文化活動
2. 教育・療育	**5**. 情報バリアフリー	**8**. 政治参加
3. 交通や建物のバリアフリー化	**6**. 行政手続き	**9**. その他（　　）

（３）　それはどのような経験でしたか。さしつかえなければ、具体的にお教えください。

問３８　障害者権利条約では、障害のある人がない人と同じように生活するために過大な負担とならない範囲で行う配慮や工夫を「合理的配慮」としています。また、「合理的配慮」を行わないことは差別として位置づけられています。あなたは、このような「合理的配慮」について知っていましたか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 合理的配慮の考え方について知っている
2. 合理的配慮という言葉は聞いたことがある
3. 合理的配慮については知らない

問３９　あなたは、障害のある人もない人も、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 知っている　　**2.** 言葉だけは知っている　　**3.** 知らない

問４０　障害と仕事に関する次のような意見についてどう思いますか。ａ～ｄのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる**番号**<u>**１つに**</u>○をつけてください。

	1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う	3．どちらともいえない	4．どちらかといえばそう思わない	5．そう思わない
ａ．障害のある人の雇用をうながすためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｂ．企業は、障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備しなければならない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｃ．企業が、障害のある人にとって働きにくい職場の施設を改善しないことは差別である	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｄ．障害のある人に特化した就労支援が必要である	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問４１　障害のある人を支援するための政策として、以下にあげた政策のうち、もっとも重要なことはどれだとお考えですか。つぎの１～６の中から、<u>**もっとも**</u>重要なこと、<u>**その次に**</u>重要なことの番号を回答欄のなかに記入してください。

1. 障害のある人の権利や尊厳を守ること
2. 障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること
3. 障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること
4. 障害のある人に世間並みの住居を提供すること
5. 障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること
6. 障害のある人をケアしている人を支援すること

もっとも重要なこと　□　　次に重要なこと　□

問４２　白山市の人びとに対して、障害への理解を広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下にご自由にご記入ください。

問４３　あなたは障害に関する以下のことについて、どのように思いますか。ａ～ｆのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う	3．どちらともいえない	4．どちらかといえばそう思わない	5．そう思わない
a．人の幸せと障害の有無は関係ないと思う	1	2	3	4	5
b．障害のある人が望めば、障害のない人と同じ教育を受けられるようにすべきだ	1	2	3	4	5
c．「障害者」という表現は、不適切な表現であると指摘されることもあるため、別の表現に書き改める必要がある	1	2	3	4	5
d．同じ時間働いたならば、障害のせいで成果が低かったとしても、障害のある人も障害のない人も同じ賃金であるべきだ	1	2	3	4	5
e．障害のある人も他の人と同じように責任や義務を果たすべきだ	1	2	3	4	5
f．たとえ負担が大きくなったとしても、障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましい	1	2	3	4	5

問４４　政府の役割に関するつぎの意見についてどのように思いますか。ａ～ｅのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う	3．どちらともいえない	4．どちらかといえばそう思わない	5．そう思わない
a．政府は、最低限の生活水準をすべての人に保障すべきである	1	2	3	4	5
b．政府は、働きたいというすべての人に働く機会を提供すべきである	1	2	3	4	5
c．政府は、障害のある人の賃金を障害のない人と平等にするためのコストを負担するべきだ	1	2	3	4	5
d．政府のやることは無駄が多いので、できるだけ民間に任せるべきだ	1	2	3	4	5
e．政府は、豊かな人と貧しい人の所得の差を縮めるために対策を取るべきだ	1	2	3	4	5

問４５　差別に関するつぎの意見についてどのように思いますか。a～ｆのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

	1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う	3．どちらともいえない	4．どちらかといえばそう思わない	5．そう思わない
a．差別について深く知ることによって、差別をなくすことができる	1	2	3	4	5
b．差別される側の気持ちを考えることは難しい	1	2	3	4	5
c．いまの世の中には、差別される人々を保護するためとして、いきすぎた逆差別がある	1	2	3	4	5
d．差別される人々とあまり接触しないほうが、社会のなかで問題が生じることが少ない	1	2	3	4	5
e．差別があるのは、差別される側にも原因があるからだ	1	2	3	4	5
f．この世の中で、差別がなくなることはない	1	2	3	4	5

問４６　あなたは、現在の障害者福祉の水準について、どのように思いますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. とても低い
2. やや低い
3. どちらともいえない
4. やや高い
5. とても高い

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

以上で質問は終わりです。

何かご記入もれはありませんか。ご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れてご投函ください。

お忙しいところ、貴重なお時間をさいていただきありがとうございました。

障害福祉に関する意識調査（知的障害のある人）

単純集計表

問１　このアンケートにご記入いただくのはどなたですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
ご本人が記入	39	26.7
ご家族が代筆	23	15.8
ご家族が本人に変わって回答	64	43.8
その他	20	13.7
合計(有効ケース)	146	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	148	

問２　あなたの性別はどちらですか。

	度数	%
男性	66	44.9
女性	81	55.1
合計(有効ケース)	147	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	148	

問３　あなたは白山市のどの地域にお住まいですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
松任	85	63.4
美川	16	11.9
鶴来	25	18.7
河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰	8	6.0
合計(有効ケース)	134	100.0
無回答	14	
合計(全ケース)	148	

問４　あなたの年齢は何歳ですか。〔２０１４（平成２６）年１０月１日現在でお答えください〕

	度数	%
10代	8	5.6
20代	42	29.3
30代	33	22.9
40代	31	21.5
50代	14	9.7
60代	15	10.4
70代	1	0.7
合計(有効ケース)	144	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	148	

問５　あなたの世帯は、あなたを含めて何人家族ですか。

	度数	%
1	23	16.2
2	12	8.5
3	31	21.8
4	36	25.4
5	18	12.7
6	11	7.7
7	10	7.0
9	1	0.7
合計(有効ケース)	142	100.0
無回答	6	
合計(全ケース)	148	

問６　あなたが**同居されている**ご家族を、つぎの１～１２の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。ただし、亡くなっているかたは除いてください。

	度数	%
配偶者（夫・妻）	7	4.9
子ども	5	3.5
子どもの配偶者	0	0
自分の父母	101	71.1
配偶者の父母	4	2.8
自分の兄弟姉妹	67	47.2
配偶者の兄弟姉妹	0	0
自分の祖父母	27	19.0
配偶者の祖父母	0	0
孫	1	0.7
その他	16	11.3
あてはまる人はいない	17	12.0
合計(有効ケース)	142	
無回答	6	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問７　あなたのお住まいについてお聞きします。

（１）　現在のお住まいは、つぎのなかのどれですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
持ち家（一戸建て住宅）	101	68.7
持ち家（集合住宅）	0	0
市営・県営などの公的賃貸住宅	2	1.4
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	16	10.9
民間の借家・賃貸アパート・マンション	4	2.7
その他	24	16.3
合計(有効ケース)	147	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	148	

（２）　これからの生活をどこで送りたいですか。つぎの１～７の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
持ち家（一戸建て住宅）	66	46.2
持ち家（集合住宅）	4	2.8
市営・県営などの公的賃貸住宅	2	1.4
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	34	23.8
民間の借家・賃貸アパート・マンション	5	3.5
入所施設	28	19.6
その他	4	2.8
合計(有効ケース)	143	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	148	

問８　あなたのお持ちの療育手帳についてお聞きします。

（１）　あなたの療育手帳の判定は、次のいずれですか。つぎの１～３の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
A	65	46.1
B１	44	31.2
B２	29	20.6
B	3	2.1
合計(有効ケース)	141	100.0
無回答	7	
合計(全ケース)	148	

（２）　あなたが療育手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか。

	度数	%
10歳未満	33	26.4
10代	57	45.6
20代	19	15.2
30代	11	8.8
40代	4	3.2
50代	1	0.8
合計(有効ケース)	125	100.0
無回答	23	
合計(全ケース)	148	

問９　（１）　あなたは、療育手帳のほかに、身体障害者手帳をお持ちですか。

	度数	%
持っている	32	21.8
持っていない	115	78.2
合計(有効ケース)	147	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	148	

（２）　あなたの身体障害者手帳の等級は、総合等級では何級ですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
１級	15	48.4
２級	8	25.8
３級	5	16.1
４級	1	3.2
５級	1	3.2
６級	1	3.2
合計(有効ケース)	31	100.0
無回答・非該当	117	
合計(全ケース)	148	

（３）　では、あなたの障害はどのような障害ですか。つぎの１～５の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
視覚障害	6	18.8
聴覚障害、平衡機能障害	4	12.5
音声・言語機能障害、そしゃく機能障害	3	9.4
肢体不自由	22	68.8
内部障害	2	6.3
合計(有効ケース)	32	
無回答・非該当	116	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

（４）　あなたの障害の原因はなんですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
交通事故	0	0
労働災害	0	0
その他の事故	4	13.3
先天性	18	60.0
疾病	2	6.7
その他	6	20.0
合計(有効ケース)	30	100.0
無回答・非該当	118	
合計(全ケース)	148	

問１０　（１）　あなたは、療育手帳のほかに、精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。

	度数	%
持っている	1	0.7
持っていない	141	99.3
合計(有効ケース)	142	100.0
無回答	6	
合計(全ケース)	148	

（２）　では、精神障害者福祉保健手帳の等級は何級ですか。つぎの１～３の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
１級	1	100.0
２級	0	0
３級	0	0
合計(有効ケース)	1	100.0
無回答・非該当	147	
合計(全ケース)	148	

問１１　あなたは難病（特定疾患）の認定を受けていますか。

	度数	%
はい	6	4.4
いいえ	131	95.6
合計(有効ケース)	137	100.0
無回答	11	
合計(全ケース)	148	

問１２　あなたは発達障害（自閉症、学習障害など）の診断を受けていますか。

	度数	%
はい	40	30.1
いいえ	93	69.9
合計(有効ケース)	133	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	148	

問１３　障害支援区分についてお聞きします。

（１）　あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。

	度数	%
受けている	68	51.5
受けていない	64	48.5
合計(有効ケース)	132	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	148	

（２）　その障害支援区分は、つぎのどれにあたりますか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
区分１	1	1.5
区分２	6	9.1
区分３	10	15.2
区分４	14	21.2
区分５	13	19.7
区分６	16	24.2
わからない	6	9.1
合計(有効ケース)	66	100.0
無回答・非該当	82	
合計(全ケース)	148	

問１４　あなたは何により生活費を得ていますか。つぎの１～１１の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
勤め先の給与や賃金	27	18.2
通所施設・作業所などの工賃	50	33.8
同居家族の扶養	59	39.9
別居家族や親戚の援助	0	0
事業収入	0	0
財産収入	0	0
障害年金	117	79.1
障害年金以外の年金	2	1.4
特別障害者手当	10	6.8
生活保護	3	2.0
その他	1	0.7
合計(有効ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問１５　あなたのご家庭の、現在の暮らし向きについてどう思われますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
良い	40	27.8
どちらかといえば良い	33	22.9
良くも悪くもない	46	31.9
どちらかといえば悪い	20	13.9
悪い	5	3.5
合計(有効ケース)	144	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	148	

問１６　あなたは、どのようなときに、どなたの支援が必要ですか。
（１）　支援が必要と思うのは、どのようなときですか。ａ～ｍのそれぞれについて、つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．食事をするとき

	度数	%
自分でできる	95	65.5
ときどき支援が必要	18	12.4
つねに支援が必要	32	22.1
合計(有効ケース)	145	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	148	

ｂ．トイレを利用するとき

	度数	%
自分でできる	95	65.1
ときどき支援が必要	23	15.8
つねに支援が必要	28	19.2
合計(有効ケース)	146	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	148	

ｃ．薬を飲んだり保管するとき

	度数	%
自分でできる	56	38.6
ときどき支援が必要	27	18.6
つねに支援が必要	62	42.8
合計(有効ケース)	145	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	148	

ｄ．入浴するとき

	度数	%
自分でできる	81	55.9
ときどき支援が必要	27	18.6
つねに支援が必要	37	25.5
合計(有効ケース)	145	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	148	

ｅ．着替えをするとき

	度数	%
自分でできる	89	61.4
ときどき支援が必要	25	17.2
つねに支援が必要	31	21.4
合計(有効ケース)	145	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	148	

ｆ．掃除・洗濯をするとき

	度数	%
自分でできる	33	22.8
ときどき支援が必要	35	24.1
つねに支援が必要	77	53.1
合計(有効ケース)	145	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	148	

ｇ．炊事をするとき

	度数	%
自分でできる	19	13.5
ときどき支援が必要	17	12.1
つねに支援が必要	105	74.5
合計(有効ケース)	141	100.0
無回答	7	
合計(全ケース)	148	

ｈ．外出するとき

	度数	%
自分でできる	30	20.5
ときどき支援が必要	35	24.0
つねに支援が必要	81	55.5
合計(有効ケース)	146	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	148	

ｉ．家の中で移動するとき

	度数	%
自分でできる	109	76.2
ときどき支援が必要	18	12.6
つねに支援が必要	16	11.2
合計(有効ケース)	143	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	148	

ｊ．家族以外の人とコミュニケーションするとき

	度数	%
自分でできる	41	28.7
ときどき支援が必要	50	35.0
つねに支援が必要	52	36.4
合計(有効ケース)	143	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	148	

ｋ．生活費などのお金の管理

	度数	%
自分でできる	14	9.7
ときどき支援が必要	19	13.1
つねに支援が必要	112	77.2
合計(有効ケース)	145	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	148	

ｌ．日常の暮らしに必要な事務手続き

	度数	%
自分でできる	8	5.6
ときどき支援が必要	19	13.3
つねに支援が必要	116	81.1
合計(有効ケース)	143	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	148	

ｍ．緊急時に避難・連絡したいとき

	度数	%
自分でできる	19	13.2
ときどき支援が必要	23	16.0
つねに支援が必要	102	70.8
合計(有効ケース)	144	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	148	

問１７　あなたの日常生活を支援してくれる人についておたずねします。

（１）　主な支援者は、つぎのうちどなたですか。つぎの１～１２の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
配偶者	4	2.8
子ども	0	0
子どもの配偶者	0	0
自分の父母	92	63.9
配偶者の父母	2	1.4
自分の兄弟姉妹	10	6.9
配偶者の兄弟姉妹	0	0
自分の祖父母	3	2.1
配偶者の祖父母	0	0
孫	0	0
支援者はいない	4	2.8
その他	29	20.1
合計(有効ケース)	144	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	148	

（2） 主な支援者に対して必要だと思われるケアやサポートがありますか。つぎの１～１０の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
仕事ができるようなサポート	11	8.0
外出できるようなサポート	14	10.1
代わりに支援を頼めること	20	14.5
支援者本人が自分の時間を持てるようにすること	4	2.9
支援の方法に関するアドバイス	6	4.3
経済的な援助	16	11.6
相談する相手	14	10.1
緊急時のサポート	23	16.7
特にない	27	19.6
その他	3	2.2
合計(有効ケース)	138	100.0
無回答	10	
合計(全ケース)	148	

（3） 主な支援者が高齢、病気などで将来介助ができなくなった場合は、どうしますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
親族の支援を受ける	24	18.3
ホームヘルパーなどを利用し、自宅で暮らしたい	15	11.5
グループホーム・ケアホーム・福祉ホームで暮らしたい	47	35.9
施設に入所する	36	27.5
その他	9	6.9
合計(有効ケース)	131	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	148	

問１８　あなたは悩みや困ったことがある場合、どちらに相談されますか。つぎの１～２２の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
家族	102	70.3
親戚	18	12.4
友人・知人	17	11.7
市役所、児童相談所などの行政機関	29	20.0
障害者団体、患者団体や家族会	7	4.8
民生委員・児童委員	6	4.1
障害者相談員	19	13.1
相談支援事業所	20	13.8
施設や作業所の職員	73	50.3
グループホームの世話人	13	9.0
居宅介護のヘルパー	1	0.7
発達相談センター	4	2.8
配偶者の兄弟姉妹	2	1.4
高齢者支援センター	1	0.7
社会福祉協議会	6	4.1
医師や看護師などの医療関係者	12	8.3
学校の先生	2	1.4
職場の人	14	9.7
障害者就業・生活支援センター	12	8.3
相談したいができない（しない）	7	4.8
悩みや困ったことはない	2	1.4
その他	8	5.5
合計(有効ケース)	145	
無回答	3	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問１９　自宅で入浴、排せつ、食事などの支援・介助を受けたり、調理、洗濯、そうじなどの支援を受けたりする居宅介護（ホームヘルプサービス）の利用について、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
利用している	9	6.8
今は利用していないが、利用したことはある	8	6.0
利用したことはないが、今後利用したい	45	33.8
利用したことはなく、今後も利用しない	41	30.8
サービスについて知らない	30	22.6
合計(有効ケース)	133	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	148	

問２０　あなたの仕事や通学の状況はつぎのどれにあたりますか。つぎの１～３の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
仕事をしている	100	68.5
仕事はしていない	43	29.5
通学・職業訓練中	3	2.1
合計(有効ケース)	146	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	148	

問２１

（1）　あなたは現在、どのような形で働いていますか。つぎの１～６の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
常勤	5	5.1
パート、アルバイト、臨時雇い	19	19.2
家の仕事	1	1.0
就労移行支援・就労継続支援・作業所など	73	73.7
内職	0	0
その他	1	1.0
合計(有効ケース)	99	100.0
無回答・非該当	49	
合計(全ケース)	148	

（2）　仕事の悩みや困っていることがありますか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
仕事が難しい	17	17.7
障害について理解や協力をしてもらえない	7	7.3
職場までの通勤が不便である	10	10.4
職場の建物や机などの設備が使いにくい	2	2.1
職場でのコミュニケーションがうまくとれない	23	24.0
障害がない人と比べて仕事の内容や昇進などに差がある	6	6.3
障害がない人と比べて給料が安い	25	26.0
職場での人間関係がうまくいかない	13	13.5
とくに困っていることや悩みはない	32	33.3
その他	3	3.1
合計(有効ケース)	96	
無回答・非該当	52	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

（3）　就職するときに、どこの支援を受けましたか。つぎの１～８の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
ハローワーク	21	23.3
学校	43	47.8
石川障害者職業センター	13	14.4
金沢障害者就業・生活支援センター	4	4.4
小松障害者就業・生活支援センター	2	2.2
就労移行支援事業所	16	17.8
支援を受けていない	12	13.3
その他	10	11.1
合計(有効ケース)	90	
無回答・非該当	58	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

（4） あなたの仕事による１年間の収入は、つぎのどれにあたりますか。つぎの１～１４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
なし	4	4.0
５０万円未満	62	62.6
５０～１００万円未満	15	15.2
１００～２００万円未満	12	12.1
２００～３００万円未満	1	1.0
３００～４００万円未満	0	0
４００～５００万円未満	0	0
５００～６００万円未満	0	0
６００～７００万円未満	0	0
７００～８００万円未満	0	0
８００～９００万円未満	0	0
９００～１０００万円未満	0	0
１０００万円以上	0	0
わからない	5	5.1
合計(有効ケース)	99	100.0
無回答・非該当	49	
合計(全ケース)	148	

問２２

（1） 働いていない理由はなんですか。つぎの１～８の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
働く所がないため	6	14.6
通勤が困難なため	0	0
自分にあった仕事がないため	3	7.3
高齢のため	4	9.8
病気のため	2	4.9
重度の障害のため	20	48.8
家事に専念しているため	0	0
その他	6	14.6
合計(有効ケース)	41	100.0
無回答・非該当	107	
合計(全ケース)	148	

（2） 今後、働きたいとお考えですか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
働きたい	5	14.3
働きたいが、自分の心身の状況などを考えると難しい	11	31.4
働きたくない	4	11.4
働く必要がない	6	17.1
わからない	9	25.7
合計(有効ケース)	35	100.0
無回答	113	
合計(全ケース)	148	

（3） どのような形で働きたいと思いますか。つぎの１～６の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
常勤	1	5.3
パート・アルバイト・臨時雇い	3	15.8
家の仕事	1	5.3
就労移行支援・就労継続支援・作業所など	7	36.8
内職	0	0
その他	7	36.8
合計(有効ケース)	19	100.0
無回答・非該当	129	
合計(全ケース)	148	

問２３ あなたは障害のある人が就労しやすくするため、何が必要と考えますか。つぎの１～７の中からもっともあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
就労に必要な技術や知識を身につけるための訓練の場	58	44.6
通勤するための移動サービス	47	36.2
行政の雇用支援	54	41.5
障害のある人の雇用に対する雇用者側の理解と努力	81	62.3
障害のある人自身の就労に対する意識改革	34	26.2
市民に対する障害のある人の就労に関する啓発	43	33.1
その他	8	6.2
合計(有効ケース)	130	
無回答	18	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問２４　あなたは過去１年間にどれくらい外出しましたか。つぎの１～６の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
ほぼ毎日	61	42.1
週に４～５回	25	17.2
週に２～３回	14	9.7
月に３～４回	23	15.9
月に１～２回	21	14.5
ほとんど外出していない	1	0.7
合計(有効ケース)	145	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	148	

問２５　あなたの主な外出先・用件はどちらですか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
通院	46	31.5
通学・通勤	67	45.9
買い物	104	71.2
親戚・友人・知人宅	26	17.8
役所	5	3.4
金融機関	11	7.5
団体等の会議・催し	9	6.2
余暇活動	55	37.7
デイサービスなどの福祉施設	23	15.8
その他	24	16.4
合計(有効ケース)	146	
無回答	2	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問２６　あなたは外出されるとき、主にどなたと外出されますか。つぎの１～９の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
単独	19	13.1
家族・親戚	65	44.8
ガイドヘルパー	16	11.0
ホームヘルパー	0	0
デイなどの施設の職員	30	20.7
友人・知人	6	4.1
近所の人	0	0
ボランティア	0	0
その他	9	6.2
合計(有効ケース)	145	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	148	

問２７　あなたの外出のときの主な移動手段は何ですか。つぎの１～８の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
徒歩	14	9.7
自転車	16	11.1
バス	8	5.6
電車	5	3.5
タクシー	8	5.6
自家用車（自分で運転する）	4	2.8
自家用車（乗せてもらう）	76	52.8
その他	13	9.0
合計(有効ケース)	144	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	148	

問２８　あなたは外出する時に、移動の支援などのお手伝いをする移動支援事業などの障害福祉サービスを利用していますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
利用している	53	37.9
今は利用していないが、過去に利用したことがある	12	8.6
利用したことはないが、今後利用したい	20	14.3
利用したことはなく、今後も利用しない	34	24.3
サービスについて知らない	21	15.0
合計(有効ケース)	140	100.0
無回答	8	
合計(全ケース)	148	

問２９　あなたが外出するうえで、なにか困っていることがありますか。つぎの１～１１の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
バス・電車などが容易に利用できるよう改良されていない	20	14.9
乗り物や公共施設の案内表示がわかりにくい	19	14.2
道路や駅に段差や階段、障害物などが多い	24	17.9
出入り口や階段、トイレなど建物が用意に利用できるよう改良されていない	19	14.2
車などに危険を感じる	30	22.4
まわりが気にかかる	26	19.4
支援者がいないので外出できない	12	9.0
人とのコミュニケーションがとりにくい	42	31.3
ほとんど外出しないのでわからない	4	3.0
とくに困ることはない	29	21.6
その他	11	8.2
合計(有効ケース)	134	
無回答	14	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３０　文化やレジャーなどの活動についてお聞きします。

（1）あなたは、この１年間にどのようなことをしましたか。ａ～ｊのそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

ａ．コンサートの鑑賞や観劇など

	度数	%
した	40	30.3
しない	92	69.7
合計(有効ケース)	132	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	148	

ｂ．スポーツ教室、大会などへの参加

	度数	%
した	57	43.2
しない	75	56.8
合計(有効ケース)	132	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	148	

ｃ．旅行・キャンプ・つりなど

	度数	%
した	94	67.6
しない	45	32.4
合計(有効ケース)	139	100.0
無回答	9	
合計(全ケース)	148	

ｄ．学習活動

	度数	%
した	23	17.8
しない	106	82.2
合計(有効ケース)	129	100.0
無回答	19	
合計(全ケース)	148	

e．趣味の同好会への参加

	度数	%
した	17	12.8
しない	116	87.2
合計(有効ケース)	133	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	148	

f．ボランティアなどの社会活動

	度数	%
した	17	13.2
しない	112	86.8
合計(有効ケース)	129	100.0
無回答	19	
合計(全ケース)	148	

j．障害のある仲間との交流

	度数	%
した	71	52.6
しない	64	47.4
合計(有効ケース)	135	100.0
無回答	13	
合計(全ケース)	148	

k．町会・地域活動

	度数	%
した	36	27.9
しない	93	72.1
合計(有効ケース)	129	100.0
無回答	19	
合計(全ケース)	148	

l．特にない

	度数	%
した	10	30.3
しない	23	69.7
合計(有効ケース)	33	100.0
無回答・非該当	115	
合計(全ケース)	148	

m．その他

	度数	%
した	6	30.0
しない	14	70.0
合計(有効ケース)	20	100.0
無回答	128	
合計(全ケース)	148	

（2）今後、どのようなことをしたいと思いますか。a～j のそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

a． コンサートの鑑賞や観劇など

	度数	%
したい	49	54.4
したくない	41	45.6
合計(有効ケース)	90	100.0
無回答	58	
合計(全ケース)	148	

b． スポーツ教室、大会などへの参加

	度数	%
したい	38	45.2
したくない	46	54.8
合計(有効ケース)	84	100.0
無回答	64	
合計(全ケース)	148	

c． 旅行・キャンプ・つりなど

	度数	%
したい	77	81.1
したくない	18	18.9
合計(有効ケース)	95	100.0
無回答	53	
合計(全ケース)	148	

d． 学習活動

	度数	%
したい	31	34.4
したくない	59	65.6
合計(有効ケース)	90	100.0
無回答	28	
合計(全ケース)	148	

e． 趣味の同好会への参加

	度数	%
したい	34	38.2
したくない	55	61.8
合計(有効ケース)	89	100.0
無回答	59	
合計(全ケース)	148	

f．ボランティアなど社会活動

	度数	%
したい	26	28.6
したくない	65	71.4
合計(有効ケース)	91	100.0
無回答	57	
合計(全ケース)	148	

g． 障害のある仲間との交流

	度数	%
したい	48	57.1
したくない	36	42.9
合計(有効ケース)	84	100.0
無回答	64	
合計(全ケース)	148	

h． 町会・地域活動

	度数	%
したい	33	38.4
したくない	53	64.6
合計(有効ケース)	86	100.0
無回答	62	
合計(全ケース)	148	

i．特にない

	度数	%
したい	6	24.0
したくない	19	76.0
合計(有効ケース)	25	100.0
無回答・非該当	123	
合計(全ケース)	148	

j．その他

	度数	%
したい	7	36.8
したくない	12	63.2
合計(有効ケース)	19	100.0
無回答	129	
合計(全ケース)	148	

問３１　あなたの災害時の対応についておたずねします。
（１）　地震などの災害時の避難場所を、あなたは知っていますか。

	度数	%
知っている	48	33.6
知らない	95	66.4
合計(有効ケース)	143	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	148	

（２）　地震などの災害時に、あなたは一人で避難できますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
できる	21	14.6
できない	90	62.5
わからない	33	22.9
合計(有効ケース)	144	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	148	

（３）　家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
いる	26	19.4
いない	53	39.6
わからない	55	41.0
合計(有効ケース)	134	100.0
無回答	14	
合計(全ケース)	148	

（４）　地震などの災害時にすぐに困ると思われることは何ですか。つぎの１～１２の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
投薬や治療を受けられない	47	33.6
補装具の使用が困難になる	9	6.4
補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	17	12.1
自分の状況が周囲の人に理解してもらえない	73	52.1
安全なところまで、迅速に避難することができない	81	57.9
被害状況、避難所の場所、物資の入手方法などの情報が入ってこない	48	34.3
周囲の人とコミュニケーションがとれない	65	46.4
避難所の設備について不安	52	37.1
家族の安否情報がとりづらい	42	30.0
救助を求めることができない	55	39.3
とくにない	13	9.3
その他	9	6.4
合計(有効ケース)	140	
無回答	8	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３２　白山市では、災害時要援護者に対する支援として、災害時要援護者マップを作成しています。
（１）　このマップについて知っていますか。

	度数	%
知っている	32	22.4
知らない	111	77.6
合計(有効ケース)	143	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	148	

（2）では、災害時要援護者マップの作成に同意をされていますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
同意している	24	17.120
同意していない		14.3
わからない	96	68.6
合計(有効ケース)	140	100.0
無回答	8	
合計(全ケース)	148	

（3）　今後、マップ作成に同意するつもりはありますか。

	度数	%
同意するつもりはない	36	32.4
同意するつもりだ	75	67.6
合計(有効ケース)	111	100.0
無回答・非該当	37	
合計(全ケース)	148	

（4）マップ作成に同意するつもりはない理由は何ですか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
支援が期待できないから	9	22.0
家族の支援を受けられるから	14	34.1
個人情報を知られたくない	7	17.1
依頼できる支援者がいないから	0	0
町内会や自主防災組織などが組織的な取り組みをしていないのでなんとなく不安だから	4	9.8
知っているが制度がよく理解できないため	08	19.5
その他	07	17.1
合計(有効ケース)	41	
無回答・非該当	107	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３３　あなたは医療のことで、なにか困っていることがありますか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
通院するとき付き添いをしてくれる人がいない	6	4.3
意思・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない	50	36.2
医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない	28	20.3
専門的な治療をしてくれる病院が近くにない	14	10.1
医療費の負担が大きい	11	8.0
とくに困っていることはない	57	41.3
その他	19	13.8
合計(有効ケース)	138	
無回答	10	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３４　あなたは医療・福祉サービスなどについてどちらに相談していますか。つぎの１～１３の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
民生委員・児童委員	3	2.1
身体障害者相談員	3	2.1
相談支援事業所・相談支援専門員	40	27.8
市役所の相談窓口	52	36.1
保健所・福祉健康センター	3	2.1
医療機関	17	11.8
障害福祉施設	53	36.8
社会福祉協議会	7	4.9
介護保険のケアマネージャー	4	2.8
同じ障害のある人の団体・グループ	24	16.7
相談するところがない	4	2.8
どこに相談に行ったらよいかわからない	15	10.4
その他	9	6.3
合計(有効ケース)	144	
無回答	4	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３５　あなたが、暮らしやすくなるために、とくにしてほしいことはどのようなことですか。つぎの１～１７からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
毎日の生活の手助けがもっとほしい	14	10.1
外出の支援をしてほしい	24	17.3
障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい	61	43.9
障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい	38	27.3
一般企業で働くことが難しいので、就労支援施設などを増やしてほしい	26	18.7
ジョブコーチ制度を充実させてほしい	21	15.1
リハビリ訓練の場所を増やしてほしい	7	5.0
障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい	17	12.2
外出しやすい環境や交通機関の利便を図ってほしい	29	20.9
いつでもなんでも相談できる窓口を用意してほしい	41	29.5
いつでも何でも話し合える相談相手や仲間がほしい	35	25.2
年金などの経済的な援助を増やしてほしい	58	41.7
スポーツ・レクリエーション・教育・文化活動に対する援助をしてほしい	17	12.2
福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい	32	23.0
円滑なコミュニケーションができるように、障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい	40	28.8
とくにない	16	11.5
その他	8	5.8
合計(有効ケース)	139	
無回答	9	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３６　つぎのサービスをボランティアが行うとしたら、あなたは、どれを受け入れたいと思いますか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
調理	29	23.0
洗濯	22	17.5
部屋の掃除・庭の手入れ	27	21.4
話し相手、相談相手	43	34.1
家屋内外の簡単な修理	10	7.9
病院などへの送迎・外出支援	58	46.0
買い物	36	28.6
代筆・代読	15	11.9
ボランティアのサービスは受け入れない	12	9.5
その他	19	15.1
合計(有効ケース)	126	
無回答	22	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問３７　障害に関する差別についてお聞きします。

（１）　あなたはこれまでに障害があるために差別をされたと感じたことがありますか。

	度数	%
ある	74	56.9
ない	56	43.1
合計(有効ケース)	130	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	148	

（２）　それはどのような分野での差別でしたか。つぎの１～９の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
医療	14	16.7
教育・療育	43	51.2
交通や建物のバリアフリー化	8	9.5
防災	1	1.2
情報バリアフリー	4	4.8
行政手続き	8	9.5
文化活動	4	4.8
政治参加	0	0
その他	18	21.4
合計(有効ケース)	84	
無回答・非該当	64	
合計(全ケース)	148	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

（３）　それはどのような経験でしたか。さしつかえなければ、具体的にお教えください。

	度数	%
記述あり	39	42.4
記述なし	53	57.6
合計(有効ケース)	92	100.0
非該当	56	
合計(全ケース)	148	

問３８　障害者権利条約では、障害のある人がない人と同じように生活するために過大な負担とならない範囲で行う配慮や工夫を「合理的配慮」としています。また、「合理的配慮」を行わないことは差別として位置づけられています。あなたは、このような「合理的配慮」について知っていましたか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
合理的配慮の考え方について知っている	5	3.7
合理的配慮という言葉は聞いたことがある	15	11.1
合理的配慮については知らない	115	85.2
合計(有効ケース)	135	100.0
無回答	13	
合計(全ケース)	148	

問３９　あなたは、障害のある人もない人も、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
知っている	20	14.4
言葉だけは知っている	32	23.0
知らない	87	62.6
合計(有効ケース)	139	100.0
無回答	9	
合計(全ケース)	148	

問４０　障害と仕事に関する次のような意見についてどう思いますか。ａ～ｄのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．障害のある人の雇用を促すためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ

	度数	%
そう思う	71	54.6
どちらかといえばそう思う	35	26.9
どちらともいえない	20	15.4
どちらかといえばそう思わない	2	1.5
そう思わない	2	1.5
合計(有効ケース)	130	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	148	

ｂ．企業は、障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備しなければならない

	度数	%
そう思う	62	48.4
どちらかといえばそう思う	39	30.5
どちらともいえない	22	17.2
どちらかといえばそう思わない	5	3.9
そう思わない	0	0
合計(有効ケース)	128	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	148	

ｃ．企業が、障害のある人にとって働きやすい職場の施設を改善しないことは差別である

	度数	%
そう思う	47	37.0
どちらかといえばそう思う	31	24.4
どちらともいえない	42	33.1
どちらかといえばそう思わない	2	1.6
そう思わない	5	3.9
合計(有効ケース)	127	100.0
無回答	21	
合計(全ケース)	148	

ｄ．障害のある人に特化した就労支援が必要である

	度数	%
そう思う	75	58.1
どちらかといえばそう思う	34	26.4
どちらともいえない	17	13.2
どちらかといえばそう思わない	3	2.3
そう思わない	0	0
合計(有効ケース)	129	100.0
無回答	19	
合計(全ケース)	148	

問４１　障害のある人を支援するための政策として、以下にあげた政策のうち、もっとも重要なことはどれだとお考えですか。つぎの１～６の中から、**もっとも**重要なこと、**その次に**重要なことの番号を回答欄のなかに記入してください。

もっとも重要なこと

	度数	%
障害のある人の権利や尊厳を守ること	57	42.9
障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること	37	27.8
障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること	24	18.0
障害のある人に世間並みの住居を提供すること	2	1.5
障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること	5	3.8
障害のある人をケアしている人を支援すること	8	6.0
合計(有効ケース)	133	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	148	

次に重要なこと

	度数	%
障害のある人の権利や尊厳を守ること	17	13.2
障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること	28	21.7
障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること	25	19.4
障害のある人に世間並みの住居を提供すること	7	5.4
障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること	10	7.8
障害のある人をケアしている人を支援すること	42	32.6
合計(有効ケース)	129	100.0
無回答	19	
合計(全ケース)	148	

問４２　白山市の人びとに対して、障害への理解を広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下にご自由にご記入ください。

	度数	%
記述あり	37	25.0
記述なし	111	75.0
合計(全ケース)	148	100.0

問４３　あなたは障害に関する以下のことについて、どのように思いますか。ａ～ｆのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．人の幸せと障害の有無は関係ないと思う

	度数	%
そう思う	51	39.2
どちらかといえばそう思う	22	16.9
どちらともいえない	33	25.4
どちらかといえばそう思わない	3	2.3
そう思わない	21	16.2
合計(有効ケース)	130	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	148	

b．障害のある人が望めば、障害のない人と同じ教育を受けられるようにすべきだ

	度数	%
そう思う	54	41.5
どちらかといえばそう思う	38	29.2
どちらともいえない	30	23.1
どちらかといえばそう思わない	4	3.1
そう思わない	4	3.1
合計(有効ケース)	130	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	148	

c．「障害者」という表現は、不適切な表現であると指摘されることもあるため、別の表現に書き改める必要がある

	度数	%
そう思う	35	27.6
どちらかといえばそう思う	35	27.6
どちらともいえない	40	31.5
どちらかといえばそう思わない	8	6.3
そう思わない	9	7.1
合計(有効ケース)	127	100.0
無回答	21	
合計(全ケース)	148	

d．同じ時間働いたならば、障害のせいで成果が低かったとしても、障害のある人も障害のない人も同じ賃金であるべきだ

	度数	%
そう思う	30	23.3
どちらかといえばそう思う	18	14.0
どちらともいえない	48	37.2
どちらかといえばそう思わない	16	12.4
そう思わない	17	13.2
合計(有効ケース)	129	100.0
無回答	19	
合計(全ケース)	148	

e．障害のある人も他の人と同じように責任や義務を果たすべきだ

	度数	%
そう思う	30	23.1
どちらかといえばそう思う	29	22.3
どちらともいえない	39	30.0
どちらかといえばそう思わない	9	6.9
そう思わない	23	17.7
合計(有効ケース)	130	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	148	

f．たとえ負担が大きくなったとしても、障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましい

	度数	%
そう思う	42	32.1
どちらかといえばそう思う	45	34.4
どちらともいえない	35	26.7
どちらかといえばそう思わない	3	2.3
そう思わない	6	4.6
合計(有効ケース)	131	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	148	

問４４　政府の役割に関するつぎの意見についてどのように思いますか。ａ～ｅのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．政府は、最低限の生活水準をすべての人に保障すべきである

	度数	%
そう思う	84	65.6
どちらかといえばそう思う	19	14.8
どちらともいえない	21	16.4
どちらかといえばそう思わない	2	1.6
そう思わない	2	1.6
合計(有効ケース)	128	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	148	

b．政府は、働きたいというすべての人に働く機会を提供すべきである

	度数	%
そう思う	71	55.9
どちらかといえばそう思う	38	29.9
どちらともいえない	17	13.4
どちらかといえばそう思わない	0	0
そう思わない	1	0.8
合計(有効ケース)	127	100.0
無回答	21	
合計(全ケース)	148	

c．政府は、障害のある人の賃金を障害のない人と平等にするためのコストを負担するべきだ

	度数	%
そう思う	48	37.8
どちらかといえばそう思う	19	15.0
どちらともいえない	44	34.6
どちらかといえばそう思わない	12	9.4
そう思わない	4	3.1
合計(有効ケース)	127	100.0
無回答	21	
合計(全ケース)	148	

d．政府のやることは無駄が多いので、できるだけ民間に任せるべきだ

	度数	%
そう思う	19	15.1
どちらかといえばそう思う	23	18.3
どちらともいえない	66	52.4
どちらかといえばそう思わない	7	5.6
そう思わない	11	8.7
合計(有効ケース)	126	100.0
無回答	22	
合計(全ケース)	148	

e．政府は、豊かな人と貧しい人の所得の差を縮めるために対策を取るべきだ

	度数	%
そう思う	62	48.4
どちらかといえばそう思う	39	30.5
どちらともいえない	21	16.4
どちらかといえばそう思わない	2	1.6
そう思わない	4	3.1
合計(有効ケース)	128	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	148	

問４５　差別に関するつぎの意見についてどのように思いますか。a～ｆのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

a．差別について深く知ることによって、差別をなくすことができる

	度数	%
そう思う	55	43.0
どちらかといえばそう思う	37	28.9
どちらともいえない	26	20.3
どちらかといえばそう思わない	6	4.7
そう思わない	4	3.1
合計(有効ケース)	128	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	148	

b．差別される側の気持ちを考えることは難しい

	度数	%
そう思う	30	24.0
どちらかといえばそう思う	30	24.0
どちらともいえない	26	20.8
どちらかといえばそう思わない	14	11.2
そう思わない	25	20.0
合計(有効ケース)	125	100.0
無回答	23	
合計(全ケース)	148	

ｃ．いまの世の中には、差別される人々を保護するためとして、いきすぎた逆差別がある

	度数	%
そう思う	18	14.6
どちらかといえばそう思う	21	17.1
どちらともいえない	63	51.2
どちらかといえばそう思わない	13	10.6
そう思わない	8	6.5
合計(有効ケース)	123	100.0
無回答	25	
合計(全ケース)	148	

ｄ．差別される人々とあまり接触しないほうが、社会のなかで問題が生じることが少ない

	度数	%
そう思う	8	6.3
どちらかといえばそう思う	11	8.7
どちらともいえない	44	34.9
どちらかといえばそう思わない	20	15.9
そう思わない	43	34.1
合計(有効ケース)	126	100.0
無回答	22	
合計(全ケース)	148	

ｅ．差別があるのは、差別される側にも原因があるからだ

	度数	%
そう思う	8	6.3
どちらかといえばそう思う	15	11.9
どちらともいえない	54	42.9
どちらかといえばそう思わない	12	9.5
そう思わない	37	29.4
合計(有効ケース)	126	100.0
無回答	22	
合計(全ケース)	148	

ｆ．この世の中で、差別がなくなることはない

	度数	%
そう思う	54	42.2
どちらかといえばそう思う	27	21.1
どちらともいえない	30	23.4
どちらかといえばそう思わない	6	4.7
そう思わない	11	8.6
合計(有効ケース)	128	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	148	

問４６　あなたは、現在の障害者福祉の水準について、どのように思いますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
とても低い	23	17.6
やや低い	31	23.7
どちらともいえない	61	46.6
やや高い	14	10.7
とても高いい	2	1.5
合計(有効ケース)	131	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	148	

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

	度数	%
記入なし	111	75.0
記入あり	37	25.0
合計(有効ケース)	148	100.0

障害福祉に関する意識調査（知的障害のある人）
記述回答一覧

※　同一文言による回答は一つのみ記載した。

問３７（３）　障害に関する差別についてお聞きします。あなたはこれまでに障害があるために差別をされたと感じたことがありますか。それはどのような経験でしたか。さしつかえなければ、具体的にお教えください。

１．Ｓ５０年頃「あいつ１＋１も判らん」とあざけりの言葉をあびた。２．Ｓ６０年頃投石された。
あんな者と一諸にするなと云われた
（いじめや排除）・友達から差別的な言葉を手本として渡され、それを自分のノートに書いていた。・運動会の時に、本人も出る競技のときに、友達から来るなと言われてしまい、行けなかった（あとで、参加できるようになった-父親が本人が一人だけでいるのを発見してなんとかなる）
地域の学校の子どもに「バカ」と言われたり相手にされず居場所がなかったこともある
昔、近所の人たちに「だら」だと言われたりして、仲間はずれやからかいを受けた。お金をだましとられた。
今はそんな事はないのですが障害者雇用枠で入社したのですが同僚のパートさん達に配慮のない言葉や悪口を言われて帰宅時に泣いていた時もありました。本人の努力と会社の協力でなくなりました。
同じ職場の人達の目先と態度と悪口が多くて、差別されてると思いました。
近所の年上の人に人生設計は厳しく聞かれていやな思いをした。（２５年のスポーツ大会後ふき）その人から呼び捨てでよぶれるのはやめてほしい
仲間に入る事が出来ず孤立する
祖父母から「家の恥だ」と言われた
いやな顔をされ短時間で処理された。
花見時期有料駐車場で車いすなので障害者専用Ｐにとめさせてほしいと受付でお願いしたところ受付の人が子供を見て、ブツブツと文句を言ってきた。小さい声でなにを言っているかわからなかったがとても嫌な思いをした。
べつ視する。
ある店で大きな声をはっして店長らしき人から足をけられた。買物をしてレジをうっている人からじろじろ見られた。障害手続きや変更のさいの書類が多すぎる。（同じ様なことが何枚も書かなくてはならない簡単にできないのか節約と言いながらおかしい！）
グループホーム設立い時、近隣住民から反対されて断念した地域があった。（保護者の経験）

中学校でひどいいじめにあった。
バカやと言う事で泥を食べさせられたりした事が小学校の時にあった。
学校に行っていたときにうけた。
クラスメイトや、下級生に悪口を言われたり、からかわれたりした。
小学校の時支援学校にいて、他のお子さんから、からかいがあり、とてもいやな思いをした。
小学校に入学する時、付きそいが必要で、親が都合で学校に行けない日は、「学校を休め」と言われた。
学校の先生から拒否された。
中学生の時、普通学級を望んだのに、障害児学級に在籍になり、同級生との学習時間が制限された
障害が重く、普通学校の普通学級に入りたいと教育委員会と何度も話し合ったこと。
小学校入学前にいろんな学校を見学したとき、ある先生に「うちの学校はある程度いろんなことができる子にだけ入ってきてほしい」と言われたことがある。障害者の中にも差別があるのだと感じました。
共生社会という言葉が最近よく言われるようになって来ましたがまだまだ社会通念として、障害児は支援学校支援学級へという考え方が強いと思います。障害があっても健常児と共に学ばせたいと思ってもなかなか受け入れられなかった。最近少しずつそうした考えも受け入れられるようになって来て学校を選ぶことも本人、親の主張が通るようになったことは嬉しいと思います
パスポート申請時のサインの代筆時、どうしても本人に書かせろと言われた。何度も説明したがなかなか認めてもらえなかった。「自分の名前も書けないのか？おかしいだろう」と言われた。
市役所の窓口の人が、何人も交代して、そのたびに待たなくてはいけない。
事故等で交通がマヒし、駅が人でいっぱいになっても何が起こったか、どうすればいいかわからず、結局家族が動かないことを伝えに駅まで迎えにいった。見かけはふつうに見えるし、何言われてもハイと返事してしまう為、違う場所にいったり迷子になったり。又高級ホテル等の使用は、こちらからやめさせてもらう。迷惑になるので、それにあまりいい顔もされない。障害者であることがわからない医者がいる。悪いところがあって治らないから障害者なのに、異常ありとしてしまう。
歯・ヒフ疾患の治療がなかなか受けられませんでした。他の病気はほとんどしたことがありませんので病気の時が不安です
身体障害にもなってしまった２０才の頃、ケガで、リハビリ入院していた時、知的障害者の本人はコミニケーション他どうしても、看護師や、他の患者さんから誤解を受けやすい。不快な言葉や態度を取られて、やむなく即、退院させられた。母親の私としては、悔しくて、涙が出た。２度入院して２回も経験して、つらい思いをしました。「本人は仕方がない」と理解はしてくれました。

障害の程度が外見からわからないので差別を受けたのではなく、教育者が、それを知っていて、十分理解しないで、一般人と比較して異常だと反応したこと。教育者もその程度かと、非常にがっかりした。障害者を理解すると言うことは、頭で考えるだけでは、ダメだと言うことだと思う。心が大切！！
ずい分、バリアフリーされた施設は多くなりましたが、いつも不便に思うことは運動のため、プールを利用したいが更衣室は男、女別々になっているため、息子をプールに私が連れていくと一緒に更衣室に入れないので、とても困ります。トイレのように障害者用の更衣室があると良いのにと思います。あと、障害があると入れる生命保険が限られるように思います。
・クレインのプールでプールのすみに行けと言われた。・障害者が利用出来る施設がなくなっている。市長の方針？バードハミングのプールがなくなり、野球場が出来る。差別と言えると思う。
入浴施設の段差、床のすべりやすい事。
相手の話しに理解できなかった時。買物にいって代金を支払う時。
一人で生活している時は、家はゴミの山、その中で殆んど横になって過ごしていたとの報告有り
駅で待っている時に若い子がホームに（床に）平気で座っている事に付いて変な人もいるもんだと思えた時です。
書きたくないからかかない。

問４２　白山市の人々に対して、障害への理解を広げるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下に自由にご記入ください。

福祉施設等が取行う事業なと（バザーなど）に参加してもらう事にする。
地域活動に参加できる機会を多く設ける
福祉活動という形ではなく、もっと自然な形で市民活動に参加出来れば障害があっても楽しい活動が出来るし、理解してもらえると思う。最初は招待されるなどのキッカケがあれば、良いが、現状は自分から参加する勇気が持てない。
白山市の人々というのは広いはんいなので、まず民生員の方とか、障がいに興味のある方に、生の障がい者を見てもらう、接してもらう、コミニュケーションをしてもらうような会を企画出来れば良いと思います。勉強してても、いかせるものではないと思います。会って、初めて、障がい者がどんな感じなのかがわかると思うので！！
健常者と言われる一般の人達が参加するあらゆる機会に障害のある人たちも普通に参加していけるような、それによって障害者に対する理解が深められるような政策が大切だと思います
・白山市の行政バス（あるかわからないが）名所をまわったりする中に福祉ふれあいセンターのカフェで休けいしてもらう。・広報に障害を紹介するコーナーを作ってもらう。
障害者に対する偏見みたいなものをなくすような取り組みはやってほしいと思うが、（例えば障害があることによって普通にくらしている人とどんなに生活が違い、どんなに苦労して、嫌な思いをしてきたかを知ってもらえるような情報を発信する）、その反面、うちの場合はあまり子供の詳しい情報は出したくない気持ちもあり、本人を特定されない配慮はしてほしい。←サギとか障害者をねらった犯罪にあわないために
福祉まつりの中で障害についてもっといろんな人に理解してほしい。
キャンペーン期間をもうけ、市民にアピールして欲しい　学校教育の場に於ても、老人福祉、障害者福祉について皆が考える事である旨、教えて欲しい。教育の１環として、福祉の現場を見学させる。
せめて年に一回でもいいから、白山市の就労支援施設及び作業所で働いている（又は、その場に来ている）障害者達の日常を、簡単なパンフレット等にして、広報等を通して、一般の方々に紹介する。時には、ハプニング（笑えるようなもの）等も紹介したり、ここでは、何をしているのか等、一般の方々にわかり易く紹介してほしい。全施設一同にではなく、１～２ケ所ずつ位、順番に紹介していってくれると、もっと、障害福祉が身近かに考えられる様になるかも。これをずっと続けていってほしいと思います。
障害者のリストを作成し公表する。
小学校など、子供の頃から、障害を持つ人への教育
多くの人は障害者と接することが少ないため、大変めずらしそうに見られることが多い。知ってもらう機会は必要だと思います。
だれにでも支援すること
金銭的、人的援助してくれる事
障害のある人をケアしていく人を支援してほしい。

子供の頃から交流の機会を増やしていけばよいと思う。うちの子は小・中学校と地域で過ごしたので周りの人はみんな知っているし支援学校との交流もあったように思うので小さい頃から色々な子たちのことを知るというのは良いのではないか。少しでも理解してくれるとうれしいし、何より知らないという事が問題だと思う。

子ども（幼児）の時から、健常者の中で過すことにより、保護者、子どもに理解が深まると思う。教育の門扉を広くすることが必要。なかなか地域の学校に入れず、入ってからも気をもまず安心して過せるには教員の質によっても難しいことがある。理解のある方だととても意義ある学校生活（障害のある子健常の子にとっても）になる。意義ある学校生活になると地域の方とも良い関係がもてる。障がいのある側も、勇気（勇気と書きたくはないが）をもって地域に溶けこまないと（支援学校又は、支援学級にいる限りは）本当の意味で、他の人に理解されないと思う。

障害者及び家族に対する、ご近所様の理解と認識、そしてあたたかく見守ってくれる心のゆとりがほしい。

・障害のある人の理解を深めて欲しい。（白山市だけの問題ではない。）（スポーツ、レクリエーション等）

グループホーム、ケアホーム、又は、いろいろな支援制度を利用しながら地域で生活できるようにとの方針ですが、最重度の子を抱え親の高齢化でその支援を利用するにも親が行動し、手続き、書類記入等と年を取ると結構不担になってきています。我が子はグループホーム、ケアホームがよいのか入所施設がよいのか今は解かりません。ケアホーム等もまだまだ数が少ない。やはり従来の入所施設（５０名程）が必要なのではないでしょうか。

・障害者の方は自分の思いを言えない分、奇声を発したりするが決して怖い人間ではないし、犯罪を犯す事はないのでそれを理解してほしい。その上で共生社会を築く為にも障害の方が働ける作業所やグループホームを作って欲しい。

白山市は、他の市町村に比べ、とても恵まれていると思う。それに対して感謝し、喜んでいる。しかし、この頃は、障がい者が利用しているプール等の施設の閉さがあり、残念です。公共の施設では、（クレインプール）障害者という事で、プールに入れなかった…という事も聞きました。だんだん、利用場所が無くなっていきますね。

日中は市内の授産施設で仕事をして、宿泊は市外の障害者支援施設於て、土曜、日曜、祭日等は自宅に帰ってきます。遠方の他市で宿泊するのでなく白山市でそういう施設があればと思います。（ただ障害の程度によりますけれど、なかなか困難です。）

障害者を馬鹿にしたら何らかの対応してくれる機関がほしい

まずはどういう人を障害者というのか、ふつうの人とどう違うのか、そこからです。障害者を支援するとはどういうことなのか、言葉だけがひとり歩きしているように思う。ひと昔前に比べたら何かしら関心を持ちサービスなどをうけられるようにはなってはきたけれど、ふつうの人以上あるいは、ふつうの人と同じことを望むのは申し分けないと思う。

障害者やその家族に対して白い目で見る人が多い。そう人には理解を求めるにはむずかしい面があるが有効な方法は無い等しい。有効な方法があったとしても一時限りである。

むずかしい（余談）（正直小さい頃は可愛いくなかった…）親としては、障害者を持って育てる事の大変さを沢山味わって来ました。金沢社会福祉事務所へも、何回も相談に行きました。相談員が、「同じ目線で」とか教えてくれましたが、その位ではとても参考になりませんでした。もっと適切なアドバイスが欲しかった。普通児とは違うのですから、他人の目や親せきの目も冷たかった。でも、今は大切な我が子です。手がかかりますが…

障害者及び家族は、自己で出来ることは、それなりに処理することが基本だと思う。障害者だからと、他から援助を求めてあたりまえだとの考は、不都合な面がある。しかし、いろいろの事情で、出来なくなった場合、一般の人と比べて急に負担が大きくなってしまうのが障害者及び家族の現状である。高令者問題と同じ対策が必要と思う。たまたま、問題発生が早かっただけだから。

町に出るとジロジロ見る。子供をつれている人が多い様に思う。
すごく大変で答えるのがメッチャー大の苦手ですよー仕事は休みでもアルバイト他はかわりたいです絶体に！

今は思いつかない

わかりません

わからない。

どうしたら理解を広めればいいかわかりません。障害を理解することはとても難しいと思います。同じ立場にならないとわからないことだと思っています。

全てを理解してもらうことは難しい事だと思います。障害を持った親でなければ分からないと思う。それでも少しでも理解して頂く事が大切でその子が好きで障害を持って生まれて来たのではないのだから。心から理解して下さる方が一人でも多くなる様親も努力しなければいけません。

現今では障害者への理解が白山市ではとてもよい方向にむかっていると思います。

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

この調査結果を是非公表して下さるようおねがいします。
家族の要望により、施設職員として代筆しましたが、本人が重度の知的障害であり、言葉は全くしゃべれないので、本人の意志確認も全くできず、ほとんどの項目に答えることができません。アンケートとしては成立しないと思われます。
このアンケート調査でその中でいくつか？で問題の所に１から５まで１つ選んで下さいとか書いてありましたがすべて３番のどちらともいえないとの方にしか選ばなかったのでどちらに選ぶのか？迷いましたので、３番の所ばっかり〇をつけました。すいません、お願いします。
全介助が必要な人の為の調査ではないと思う
調査項目が多すぎる。
知的障害のある者には、理解できるはずなどありません。一般的に障害者というのは身体障害者のことをさしているのではありませんか？“差別”というのは、特に障害者にかぎったことではありませんけれど、“差別”がなくなることは決してなく、もっと臨機応変に対応していくことが、大事かと思います。知的障害は認知症の方と似たような者が多いです。ここまで問わなければならないのかと考えればそうなんでしょうが、これはやはり“体が不自由で頭はふつう”という人に対しての調査だと感じます。今の日本という国にこれ以上望むのは無理だと思うし、結局は一般の人の理解の問題だと思いますよ。Ｐ．Ｓ．他の国では、障害者に対してどういうふうにしているのか、テレビ等で紹介してもらいたいです。
障害福祉に関する問いかけですが身体障害者と知的障害者に分けた問題提供だったら分かりやすく、答え易かったのでないかと思いました。
身体と精神を区別して実施すべき。本人と親とも区別して実施すべき。・どうせやるなら、もっと具体的なアンケート内容に。市役所の今後の方針を何処にするかだけの内容であり生活実能調査の方が、どうすれば良いかとの答が出てくる。
・障害種別によって解答がわからない点が多い　知的、身体では答え方がわからない。・本人は何と答えていいか理解しにくい面がある･法律が毎年のようにかわり障害に対して政治家（障害に対して理解していない政治家が多い。）はもっと意見を聞きわかりやすいようにしてほしい。
本人がこのアンケートの内容を理解できることはほとんどなく、答えながら、「本人だったら…」と思えたところはそのように、「質問の意味も用語も全くわからないだろうな」と思えたところはつい回答者の家族の意見でマルをつけてしまい、統一感がなくなったような気がします。お役に立ててないかもしれません。申し訳ありません。
娘は知的障害があります。本人がこの調査を記入することはまず無理です。代って母親の私が記入するにしても、あくまで本人ではないので、こちらがこうだろうかああだろうかと本人の気持を想像して答えているだけで、自分の気持か本人の気持かよくわからなくなる所もありました。このアンケートは知的障害だとしても軽度の方、また身体障害があっても知的に問題のない人を前提として作られていると感じました。本人が記入出来るものと代筆者記入のものと別々に最初から作られた方がよいのではないかという気もしました。

本人は読み書きができず重度の障害者です。本人の能力は今しかなく私（母）が代筆しましたが全記入は書けませんでした。（本人からの回答なし）
うちの場合は、知的障害なのでアンケートの内容が本人には理解出来なかったり自分の要望等分からないことがありますので回答は私が（母）書きましたが理解しにくかったり職業などは水準が高く思いました。
言葉のいみがわからないところがあってよくわからなくて質問の答えを書くのに時間がかかったものがあったので、あまり難しい言葉をつかわないでほしい。例えば問４６の水準など。
本人に代わっての回答には難しい質問が多く回答がないものが多くなってしまいました。私の方が子供が、どんなふうに考えているか知りたいぐらいです。
むずかしい質問が多かった。
知的障害者には回答が難しい。
書いてあることが難しすぎて答えにくかったです。
難しくてわかりませんでした。
・「障害」ということが悪用されることがない社会なのかどうか？・障害の種類によっては、このアンケートに答えるのはむずかしい点もある
質問の内容が難しく、答える事が困難でした。障害によって、質問の内容を変えた方が良い様に思いました。
むずかしい　余談ですが、民間の企業にも、ケガをするまで４～５年働いていた子。一生懸命働いていた時は給料もしっかりもらっていたが、いざ、ケガをした時、企業はとても冷たかった。１度目は労災。２度目は私道で不りょの事故（仕事の帰り道）命さえあやしい手術をした。会社から、即、退社手続きの用紙が届いた。人間は商品か？と辛い思いをしました。母親より
障害者である本人が記入したのですが問４０、４１、４３、４４、４５は、本人が判断するのが難しく思いました。社会全体が成果主義の時代で国民の意識がすこしでも障害者にやさしくあってほしいと思っています。（母）
親が亡くなった後の子どもの将来がとても心配です。そうでなくても親も体調不良、高齢になっていきます。早めにグループホームや施設で慣らしてあげたいですが、受け入れ先がなかなかありません。
人間は、弱い面があり、福祉の充実に、あまえてしまうこともある。行政側から、「あまえ」なのか「実際つらい」なのかの区別は、むずかしい。現況のきびしい社会情況の中で、「実際つらい」障害者及び家族に対して、正しい理解が出来るシステムを考えてもらいたい。
今、現在は、福祉に守られて（？）平安な生活を送ることができていますが、この先、将来には不安がいっぱいです。テレビで、障害のある６５才くらいの人がサービスが減ったというのを知りました。介護保険と福祉サービスの兼ね合いがどうなるのか…こわいです。
どうにもならない事が沢山あり過ぎて、なかなか前へ進めない。生活のために思う様に本人に尽くす事が出来ない。気持ちと行動がうまく均等が取れないです。順番からいけば親は先に逝ってしまいます。現実です。
自分の意志を表現出来ない障害者のアンケートもお願いします。

行政は、国全体の障害者福祉を、全体的にレベルアップさせる為に、もっと、地方間に専任のスペシャリストを配属させて、常に多角的に現状を見極め、個又は地域のニーズをすい上げて問題、又は、提言にもっと積極的に耳を傾けて、即、対応していくという行動が今とても必要だと思う。地域は又、他の複数の地域間の交流を密に持ち、問題を共有し善処し、時に協同で行政に対して、もっと要望を発信していってほしい　障害者と保護者を置き去りにしないで常に現状を共有して進んで行きたい。この調査により、少しでも、現状をアピール出来れば、良いと思う。
差別問題はモラルの問題であり深く知ったとしてもりかいが互いにえられなければ全く意味がないので個人一人一人がなすべき行動をできなければ難しい問題だと思う。
世界を見まわしてみると日本は恵まれているなあと思うが一部の先進国に比べれば福祉の面でまだ足りないと思う事はたくさんある。将来の事を考えれば入所施設が今いっぱいという話をよくきくので増やしてほしい。
・国に求める政策について書れていましたが、何でもかんでも国にやってもらおうという考えは間違いだと思います。国に求めるのは、障害者が孤独になった時で、その時は「死」を意味するのでそうなった時こそ支援が必要だと思います。・差別についての質問が出てきましたが、生活水準が低いだけで差別するのは違うと思います。人権弾圧が差別になると思っています。なので人権弾圧をしている中国や北朝鮮にこそ問うべきです。
こちらから発信していない（しにくい）からかもしれませんが、どこへ相談すれば良いかよくわかりません。（問題によっても相談先が違うこともありますので）
年令的に婚活を考えている様ででも障害者の出合いの場所がわかりません。怪しい人にひっかかってもいやだし…。
仕事上イライラする人が居ても気にしないでがまんするのにげんかいが近いようですがどうしたら割り切れますか
障害者だとしても、努力し、がんばっていれば、周囲の人たちはちゃんと理解し、サポートしてくれます。何もせず、人からのサポートを待っているだけでは、良い結果につながりません。障害がある事にあまえていては、いけないと思っています。
今回の調査でこれまで知らなかった用語や内容を知ることが出来ました。そしてさまざまな支援を誠にありがとうございます　“差別のない世界”それは理想ですが現実問題そんな世界はどこにもありませんでした。親亡き後、安心な制度を切にお願い致します。

資料３

障害福祉に関する意識調査
（精神障害のある人）

障害福祉に関する意識調査

２０１４年１０月

調査へのご協力のお願い

１．この調査は、障害のある人びとの生活全般の向上をめざし、だれもが安心して暮らせる福祉社会の実現に向けての基礎資料とするために、白山市と金沢大学「障害と医療・福祉」研究会が共同で実施するものです。調査の目的をご理解いただき、率直なご意見をご記入いただきますようお願いいたします。

２．この調査は、あなたさまをはじめ、市内にお住まいの障害者に関する手帳をお持ちの方々から、くじ引きに似た方法（無作為抽出法）で１５００名を選ばせていただきました。

３．回答は、**封筒の宛名のご本人**が記入してください。**ご本人が記入できない場合は、ご本人のお考えをご家族などどなたかに代筆していただくか、ご本人の立場に立ってご回答ください。**

４．この調査は無記名ですので、どなたが回答したか特定されることはございません。みなさま方個人および、ご家族の方々のことが外部にもれることは絶対にありません。また、この調査票で得られたデータは、白山市の福祉行政を実現する施策づくりおよび大学での研究目的以外には使用いたしません。

５．ご記入いただきましたら、**１０月１４日（火）**までに同封の返信用封筒に入れてご投函ください。**※切手は不要です。封筒裏面に差出人のお名前を記入する必要もありません。**

６．以上の点をご理解いただき、なにとぞご協力をお願いいたします。この調査に関するご質問がございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

【実施責任者】
白山市健康福祉部障害福祉課
金沢大学「障害と医療・福祉」研究会

【問い合わせ先】
白山市健康福祉部障害福祉課
Ｔｅｌ：０７６－２７４－９５２６
Ｆａｘ：０７６－２７５－２２１１

調査票記入上の注意事項

◎ご記入は、黒または青色のボールペン・ペン・鉛筆でお願いいたします。
◎回答のしかた
（１）ほとんどの質問は、あてはまるものの番号（**１２３･･･の数字**）を**○印**でかこんで、お答えください。
（２）いくつかの質問には、枠内に文字・数字を直接ご記入ください。
（３）答えにくい質問があるかもしれませんが、できるだけすべての質問にお答えいただければ幸いです。

■まず、あなたご自身のことについてお聞きします。

問１　このアンケートにご記入いただくのはどなたですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. ご本人が記入	**3.** ご家族がご本人に代わって回答
2. ご家族が代筆	**4.** その他（　　）

問２　あなたの性別はどちらですか。

1. 男性	**2.** 女性

問３　あなたは白山市のどの地域にお住まいですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 松任
2. 美川
3. 鶴来
4. 河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰

問４　あなたの年齢は何歳ですか。〔２０１４（平成２６）年１０月１日現在でお答えください〕

満 □□ **歳**

問５　あなたの世帯は、あなたを含めて何人家族ですか。

□□ **人家族**

問６　あなたが**同居されている**ご家族を、つぎの１～１２の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。ただし、亡くなっているかたは除いてください。

1. 配偶者（夫・妻）	**5**. 配偶者の父母	**9**. 配偶者の祖父母
2. 子ども	**6**. 自分の兄弟姉妹	**10**. 孫
3. 子どもの配偶者	**7**. 配偶者の兄弟姉妹	**11**. その他
4. 自分の父母	**8**. 自分の祖父母	**12**. あてはまる人はいない

問７　あなたのお住まいについてお聞きします。

（１）　現在のお住まいは、つぎのなかのどれですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 持ち家（一戸建て住宅）	**4**. グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム
2. 持ち家（集合住宅〔マンションなど〕）	**5**. 民間の借家・賃貸アパート・マンション
3. 市営・県営などの公的賃貸住宅	**6**. その他（具体的に：　　）

（２）　これからの生活をどこで送りたいですか。つぎの１～７の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1．持ち家（一戸建て住宅）	**5**．民間の借家・賃貸アパート・マンション
2．持ち家（集合住宅〔マンションなど〕）	**6**．入所施設
3．市営・県営などの公的賃貸住宅	**7**．その他（具体的に：　　）
4．グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	

■あなたの障害の種類、等級（程度）などについてお聞きします。

問８　あなたのお持ちの精神障害者保健福祉手帳についてお聞きします。

（１）　あなたの精神障害者保健福祉手帳の等級は、何級ですか。つぎの１～３の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1．１級	**2**．２級	**3**．３級

（２）　あなたは、現在、精神科（神経科、心療内科）で治療を受けていますか。つぎの１～３の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1．通院中	**2**．入院中	**3**．治療は受けていない

（３）　１ヶ月以上、治療を中断したことがありますか。

1．ある	**2**．ない

（４）　あなたが精神障害者保健福祉手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか。

満　□□　**歳**

問９　（１）　あなたは、精神障害者保健福祉手帳のほかに、身体障害者手帳をお持ちですか。

1．持っている⇒問９（２）へ	**2**．持っていない⇒問１０（１）へ

（２）　**【問９（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**あなたの身体障害者手帳の等級は、総合等級では何級ですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1．１級	**3**．３級	**5**．５級
2．２級	**4**．４級	**6**．６級

（３）　では、あなたの障害はどのような障害ですか。つぎの１～５の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1．視覚障害	**4**．肢体不自由
2．聴覚障害、平衡機能障害	**5**．内部障害〔心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう・直腸、小腸、肝臓、免疫機能の障害など〕
3．音声・言語機能障害、そしゃく機能障害	

（４）　あなたの障害の原因はなんですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1．交通事故	**4**．先天性（生まれつき）
2．労働災害	**5**．疾病
3．その他の事故	**6**．その他（　　）

問１０　（１）　あなたは、精神障害者保健福祉手帳のほかに、療育手帳をお持ちですか。

1. 持っている⇒**問１０（２）へ**	**2.** 持っていない⇒**問１１へ**

（２）　**【問１０（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**では、療育手帳の判定は、つぎのいずれですか。つぎの１～３の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1．Ａ	**2**．Ｂ１	**3**．Ｂ２

問１１　あなたは難病（特定疾患）の認定を受けていますか。

1. はい	**2.** いいえ

問１２　あなたは発達障害（自閉症、学習障害など）の診断を受けていますか。

1. はい	**2.** いいえ

問１３　障害支援区分についてお聞きします。
（１）　あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。

1. 受けている⇒**問１３（２）へ**	**2.** 受けていない⇒**問１４へ**

（２）　**【問１３（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**その障害支援区分は、つぎのどれにあたりますか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 区分１	**5.** 区分５
2. 区分２	**6.** 区分６
3. 区分３	**7.** わからない
4. 区分４	

■あなたの収入の状況についてお聞きします。

問１４　あなたは何により生活費を得ていますか。つぎの１～１１の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1．勤め先の給与や賃金	**5**．事業収入（自営業など）	**9**．特別障害者手当
2．通所施設・作業所などの工賃	**6**．財産収入（家賃など）	**10**．生活保護
3．同居家族の扶養	**7**．障害年金	**11**．その他（　　）
4．別居家族や親戚の援助	**8**．障害年金以外の年金	

問１５　あなたのご家庭の、現在の暮らし向きについてどう思われますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 良い	**4.** どちらかといえば悪い
2. どちらかといえば良い	**5.** 悪い
3. 良くも悪くもない	

■あなたの日常生活上の支援者についてお聞きします。

問１６　あなたは、どのようなときに、どなたの支援が必要ですか。

（１）支援が必要と思うのは、どのようなときですか。ａ～ｍのそれぞれについて、つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

（２）**【問１６（１）で2か3と答えた場合にお答えください。】**では、実際に支援をお願いするのはどなたですか。ａ～ｍのそれぞれについて、つぎの１～４の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	１．自分でできる	２．ときどき支援が必要	３．つねに支援が必要	→	１．家族や親戚	２．友人・近所の人・ボランティア	３．ヘルパー・施設の職員	４．その他（　　）
ａ．食事をするとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｂ．トイレを利用するとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｃ．薬を飲んだり保管するとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｄ．入浴するとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｅ．着替えをするとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｆ．掃除・洗濯をするとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｇ．炊事をするとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｈ．外出するとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｉ．家の中で移動するとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｊ．家族以外の人とコミュニケーションするとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｋ．生活費などお金の管理	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｌ．日常の暮らしに必要な事務手続き	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**
ｍ．緊急時に避難・連絡したいとき	**1**	**2**	**3**	→	**1**	**2**	**3**	**4**

問１７　あなたの日常生活を支援してくれる人についておたずねします。

（１）　主な支援者は、つぎのうちどなたですか。つぎの１～１２の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1．配偶者（夫・妻）	**5**．配偶者の父母	**9**．配偶者の祖父母
2．子ども	**6**．自分の兄弟姉妹	**10**．孫
3．子どもの配偶者	**7**．配偶者の兄弟姉妹	**11**．支援者はいない⇒**問１８へ**
4．自分の父母	**8**．自分の祖父母	**12**．その他（　　）

（２）　主な支援者に対して必要だと思われるケアやサポートがありますか。つぎの１～１０の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 仕事ができるようなサポート	**6.** 経済的な援助
2. 外出できるようなサポート	**7.** 相談する相手
3. 代わりに介助を頼めること	**8.** 緊急時のサポート
4. 介助者本人が自分の時間を持てるようにすること	**9.** 特にない
5. 介助の方法に関するアドバイス	**10.** その他（　　）

（３）　主な支援者が高齢、病気などで将来介助ができなくなった場合は、どうしますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 親族の支援を受ける
2. ホームヘルパーなどを利用し、自宅で暮らしたい
3. グループホーム・ケアホーム・福祉ホームで暮らしたい
4. 施設に入所する
5. その他（　　）

問１８　あなたは悩みや困ったことがある場合、どちらに相談されますか。つぎの１～２２の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1．家族	**12**．発達相談センター
2．親戚	**13**．配偶者の兄弟姉妹
3．友人・知人	**14**．高齢者支援センター
4．市役所、児童相談所などの行政機関	**15**．社会福祉協議会
5．障害者団体、患者団体や家族会	**16**．医師や看護師などの医療関係者
6．民生委員・児童委員	**17**．学校の先生
7．障害者相談員	**18**．職場の人
8．相談支援事業所	**19**．障害者就業・生活支援センター
9．施設や作業所の職員	**20**．相談したいができない（しない）
10．グループホームの世話人	**21**．悩みや困ったことはない
11．居宅介護のヘルパー	**22**．その他（　　）

問１９　自宅で入浴、排せつ、食事などの支援・介助を受けたり、調理、洗濯、そうじなどの支援を受けたりする居宅介護（ホームヘルプサービス）の利用について、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 利用している
2. 今は利用していないが、利用したことはある
3. 利用したことはないが、今後利用したい
4. 利用したことはなく、今後も利用しない
5. サービスについて知らない

■お仕事についてお聞きします。

問２０　あなたの仕事や通学の状況はつぎのどれにあたりますか。つぎの１～３の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 仕事をしている（就労移行支援・就労継続支援・作業所などを含む）⇒**問２１（１）へ**
2. 仕事はしていない⇒**問２２（１）へ**
3. 通学・職業訓練中⇒**問２３へ**

問２１　**【問２０で１と答えた方にのみお聞きします。】**

（１）　あなたは現在、どのような形で働いていますか。つぎの１～６の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 常勤（正規の職員・社員）
2. パート、アルバイト、臨時雇い（派遣社員を含む）
3. 家の仕事（自営業、手伝い）
4. 就労移行支援・就労継続支援・作業所など
5. 内職
6. その他（　　）

（２）　仕事の悩みや困っていることがありますか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. 仕事（細かい作業など）がむずかしい
2. 障害について理解や協力をしてもらえない
3. 職場までの通勤が不便である（距離が遠い、交通手段が限られているなど）
4. 職場の建物や机などの設備が使いにくい
5. 職場でのコミュニケーションがうまくとれない
6. 障害がない人と比べて仕事の内容や昇進などに差がある
7. 障害がない人と比べて給料が安い
8. 職場での人間関係がうまくいかない
9. とくに困っていることや悩みはない
10. その他（　　）

（３）　就職するときに、どこの支援を受けましたか。つぎの１～８の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. ハローワーク
2. 学校
3. 石川障害者職業センター
4. 金沢障害者就業・生活支援センター
5. 小松障害者就業・生活支援センター
6. 就労移行支援事業所
7. 支援を受けていない
8. その他（　　）

（４）　あなたの仕事による１年間の収入は、つぎのどれにあたりますか。つぎの１～１４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. なし
2. ５０万円未満
3. ５０～１００万円未満
4. １００～２００万円未満
5. ２００～３００万円未満
6. ３００～４００万円未満
7. ４００～５００万円未満
8. ５００～６００万円未満
9. ６００～７００万円未満
10. ７００～８００万円未満
11. ８００～９００万円未満
12. ９００～１０００万円未満
13. １０００万円以上
14. わからない

問２２　**【問２０で2と答えた方にのみお聞きします。】**

（１）　働いていない理由はなんですか。つぎの１～８の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 働く所がないため	**5.** 病気のため
2. 通勤が困難なため	**6.** 重度の障害のため
3. 自分にあった仕事がないため	**7.** 家事に専念しているため
4. 高齢のため	**8.** その他（　　）

（２）　今後、働きたいとお考えですか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 働きたい	**4.** 働く必要がない
2. 働きたいが、自分の心身の状況などを考えるとむずかしい	**5.** わからない
3. 働きたくない	

（３）　どのような形で働きたいと思いますか。つぎの１～６の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 常勤（正規の職員・社員）	**4.** 就労移行支援・就労継続支援・作業所など
2. パート、アルバイト、臨時雇い（派遣社員を含む）	**5.** 内職
3. 家の仕事（自営業、手伝い）	**6.** その他（　　）

問２３　**【ここからまたすべての方にお聞きします。】**あなたは障害のある人が就労しやすくするため、何が必要と考えますか。つぎの１～７の中からもっともあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. 就労に必要な技術や知識を身につけるための訓練の場
2. 通勤するための移動サービス
3. 行政の雇用支援（ジョブコーチ制度、企業への助成制度など）
4. 障害のある人の雇用に対する雇用者側の理解と努力
5. 障害のある人自身の就労に対する意識改革
6. 市民に対する障害のある人の就労に関する啓発
7. その他（　　）

■外出についてお聞きします。

問２４　あなたは過去１年間にどれくらい外出しましたか。つぎの１～６の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. ほぼ毎日	**4.** 月に３～４回
2. 週に４～５回	**5.** 月に１～２回
3. 週に２～３回	**6.** ほとんど外出していない

問２５　あなたの主な外出先・用件はどちらですか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 通院	**6.** 金融機関
2. 通学・通勤	**7.** 団体等の会議・催し
3. 買い物	**8.** 余暇活動
4. 親戚・友人・知人宅	**9.** デイサービスなどの福祉施設
5. 役所	**10.** その他（　　）

問２６　あなたは外出されるとき、主にどなたと外出されますか。つぎの１～９の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 単独（白杖歩行・盲導犬を含む）	**6.** 友人・知人
2. 家族・親戚	**7.** 近所の人
3. ガイドヘルパー	**8.** ボランティア
4. ホームヘルパー	**9.** その他（　　）
5. デイなどの施設の職員	

問２７　あなたの外出のときの主な移動手段は何ですか。つぎの１～８の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 徒歩	**5.** タクシー
2. 自転車	**6.** 自家用車（自分で運転する）
3. バス	**7.** 自家用車（乗せてもらう）
4. 電車	**8.** その他（　　）

問２８　あなたは外出する時に、移動の支援などのお手伝いをする移動支援事業などの障害福祉サービスを利用していますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 利用している
2. 今は利用していないが、過去に利用したことがある
3. 利用したことはないが、今後利用したい
4. 利用したことはなく、今後も利用しない
5. サービスについて知らない

問２９　あなたが外出するうえで、なにか困っていることがありますか。つぎの１～１１の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. バス・電車などが容易に利用できるよう改良されていない
2. 乗物や公共施設の案内表示がわかりにくい
3. 道路や駅に段差や階段、障害物などが多い
4. 出入口や階段、トイレなど建物が容易に利用できるよう改良されていない
5. 車などに危険を感じる
6. まわりが気にかかる
7. 介助者がいないので外出できない
8. 人とのコミュニケーションがとりにくい
9. ほとんど外出しないのでわからない
10. とくに困ることはない
11. その他（　　）

問３０　文化やレジャーなどの活動についてお聞きします。

	（1）あなたは、この１年間にどのようなことをしましたか。a～jのそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。		（2）今後、どのようなことをしたいと思いますか。a～jのそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。	
	1．した	2．しない	1．したい	2．したくない
a．コンサートの鑑賞や観劇など	**1**	**2**	**1**	**2**
b．スポーツ教室、大会などへの参加	**1**	**2**	**1**	**2**
c．旅行・キャンプ・つりなど	**1**	**2**	**1**	**2**
d．学習活動	**1**	**2**	**1**	**2**
e．趣味の同好会への参加	**1**	**2**	**1**	**2**
f．ボランティアなどの社会活動	**1**	**2**	**1**	**2**
g．障害のある仲間との交流（ふれあい）	**1**	**2**	**1**	**2**
h．町会・地域活動	**1**	**2**	**1**	**2**
i．特にない	**1**	**2**	**1**	**2**
j．その他（　　）	**1**	**2**	**1**	**2**

■災害時の対応についてお聞きします。

問３１　あなたの災害時の対応についておたずねします。

（1）　地震などの災害時にすぐに困ると思われることは何ですか。つぎの１～１２の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 投薬や治療を受けられない
2. 補装具の使用が困難になる
3. 補装具や日常生活用具の入手ができなくなる
4. 自分の状況が周囲の人に理解してもらえない
5. 安全なところまで、迅速に避難することができない
6. 被害状況、避難所の場所、物資の入手方法などの情報が入ってこない
7. 周囲の人とコミュニケーションがとれない
8. 避難所の設備（トイレなど）について不安
9. 家族の安否情報がとりづらい
10. 救助を求めることができない
11. とくにない
12. その他（　　）

（2）　地震などの災害時の避難場所を、あなたは知っていますか。

1. 知っている　　**2.** 知らない

（３）　地震などの災害時に、あなたは一人で避難できますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. できる	**2.** できない	**3.** わからない

（４）　家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. いる	**2.** いない	**3.** わからない

問３２　白山市では、災害時要援護者に対する支援として、災害時要援護者マップを作成しています。
（１）　このマップについて知っていますか。

1. 知っている	**2.** 知らない

（２）　では、災害時要援護者マップの作成に同意をされていますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 同意している⇒**問３３へ**
2. 同意していない⇒**問３２（３）へ**
3. わからない⇒**問３２（３）へ**

（３）　**【問３２（２）で2か3と答えた方にのみお聞きします。】**今後、マップ作成に同意するつもりはありますか。

1. 同意するつもりはない⇒**問３２（４）へ**	**2.** 同意するつもりだ⇒**問３３へ**

（４）　**【問３２（３）で1と答えた方にのみお聞きします。】**マップ作成に同意するつもりはない理由は何ですか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. 支援が期待できないから
2. 家族の支援を受けられるから
3. 個人情報を知られたくないから
4. 依頼できる支援者がいないから
5. 町内会や自主防災組織などが組織的な取り組みをしていないのでなんとなく不安だから
6. 知っているが制度がよく理解できないから
7. その他（　　）

■あなたの医療や福祉サービスの利用などについてお聞きします。

問３３　あなたは医療のことで、なにか困っていることがありますか。つぎの１～７の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. 通院するとき付き添いをしてくれる人がいない
2. 医師・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない
3. 医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない
4. 専門的な治療をしてくれる病院が近くにない
5. 医療費の負担が大きい
6. とくに困っていることはない
7. その他（　　）

問３４　あなたは医療・福祉サービスなどについてどちらに相談していますか。つぎの１～１３の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 民生委員・児童委員	**8.** 社会福祉協議会
2. 身体障害者相談員	**9.** 介護保険のケアマネージャー
3. 相談支援事業所・相談支援専門員	**10.** 同じ障害のある人の団体・グループ
4. 市役所の相談窓口	**11.** 相談するところがない
5. 保健所・福祉健康センター	**12.** どこに相談に行ったらよいかわからない
6. 医療機関	**13.** その他（　　）
7. 障害福祉施設	

問３５　つぎのサービスをボランティアが行うとしたら、あなたは、どれを受け入れたいと思いますか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 調理	**6.** 病院などへの送迎・外出介助
2. 洗濯	**7.** 買い物
3. 部屋のそうじ・庭の手入れ	**8.** 代筆・代読
4. 話し相手、相談相手	**9.** ボランティアのサービスは受け入れない
5. 家屋内外の簡単な修理	**10.** その他（　　）

問３６　あなたが、暮らしやすくなるために、とくにしてほしいことはどのようなことですか。つぎの１～１７からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 毎日の生活の手助けがもっとほしい
2. 外出（買物など）の支援をしてほしい
3. 障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい
4. 障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい
5. 一般企業で働くことが難しいので、就労支援施設などを増やしてほしい
6. ジョブコーチ制度を充実させてほしい
7. リハビリ訓練の場所を増やしてほしい
8. 障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい
9. 外出しやすい環境や交通機関の利便を図ってほしい
10. いつでも何でも相談できる窓口を用意してほしい
11. いつでも何でも話し合える相談相手や仲間がほしい
12. 年金などの経済的な援助を増やしてほしい
13. スポーツ・レクリエーション・教育・文化活動に対する支援をしてほしい
14. 福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい
15. 円滑なコミュニケーションができるように、障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい
16. とくにない
17. その他（　　）

■ここからは障害や差別についてお聞きします。

問３７　障害に関する差別についてお聞きします。
（１）　あなたはこれまでに障害があるために差別をされたと感じたことがありますか。

1. ある⇒問３７（２）へ　　**2.** ない⇒問３８へ

（２）　**【問３７（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**それはどのような分野での差別でしたか。つぎの１～９の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1．医療	**4**．防災	**7**．文化活動
2．教育・療育	**5**．情報バリアフリー	**8**．政治参加
3．交通や建物のバリアフリー化	**6**．行政手続き	**9**．その他（　　）

（３）　それはどのような経験でしたか。さしつかえなければ、具体的にお教えください。

問３８　障害者権利条約では、障害のある人がない人と同じように生活するために過大な負担とならない範囲で行う配慮や工夫を「合理的配慮」としています。また、「合理的配慮」を行わないことは差別として位置づけられています。あなたは、このような「合理的配慮」について知っていましたか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 合理的配慮の考え方について知っている
2. 合理的配慮という言葉は聞いたことがある
3. 合理的配慮については知らない

問３９　あなたは、障害のある人もない人も、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 知っている	**2.** 言葉だけは知っている	**3.** 知らない

問４０　障害と仕事に関する次のような意見についてどう思いますか。ａ～ｄのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	１．そう思う	２．どちらかといえばそう思う	３．どちらともいえない	４．どちらかといえばそう思わない	５．そう思わない
ａ．障害のある人の雇用をうながすためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｂ．企業は、障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備しなければならない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｃ．企業が、障害のある人にとって働きにくい職場の施設を改善しないことは差別である	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｄ．障害のある人に特化した就労支援が必要である	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問４１　白山市の人びとに対して、障害への理解を広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下にご自由にご記入ください。

問４２　障害のある人を支援するための政策として、以下にあげた政策のうち、もっとも重要なことはどれだとお考えですか。つぎの１～６の中から、**もっとも**重要なこと、**その次に**重要なことの番号を回答欄のなかに記入してください。

1. 障害のある人の権利や尊厳を守ること
2. 障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること
3. 障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること
4. 障害のある人に世間並みの住居を提供すること
5. 障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること
6. 障害のある人をケアしている人を支援すること

もっとも重要なこと　□　　次に重要なこと　□

問４３　あなたは障害に関する以下のことについて、どのように思いますか。ａ～ｆのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	１．そう思う	２．どちらかといえばそう思う	３．どちらともいえない	４．どちらかといえばそう思わない	５．そう思わない
ａ．人の幸せと障害の有無は関係ないと思う	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｂ．障害のある人が望めば、障害のない人と同じ教育を受けられるようにすべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｃ．「障害者」という表現は、不適切な表現であると指摘されることもあるため、別の表現に書き改める必要がある	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｄ．同じ時間働いたならば、障害のせいで成果が低かったとしても、障害のある人も障害のない人も同じ賃金であるべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｅ．障害のある人も他の人と同じように責任や義務を果たすべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｆ．たとえ負担が大きくなったとしても、障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましい	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問４４　政府の役割に関するつぎの意見についてどのように思いますか。ａ～ｅのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う	3．どちらともいえない	4．どちらかといえばそう思わない	5．そう思わない
a．政府は、最低限の生活水準をすべての人に保障すべきである	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
b．政府は、働きたいというすべての人に働く機会を提供すべきである	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
c．政府は、障害のある人の賃金を障害のない人と平等にするためのコストを負担するべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
d．政府のやることは無駄が多いので、できるだけ民間に任せるべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
e．政府は、豊かな人と貧しい人の所得の差を縮めるために対策を取るべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問４５　差別に関するつぎの意見についてどのように思いますか。a～ｆのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う	3．どちらともいえない	4．どちらかといえばそう思わない	5．そう思わない
a．差別について深く知ることによって、差別をなくすことができる	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
b．差別される側の気持ちを考えることは難しい	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
c．いまの世の中には、差別される人々を保護するためとして、いきすぎた逆差別がある	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
d．差別される人々とあまり接触しないほうが、社会のなかで問題が生じることが少ない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
e．差別があるのは、差別される側にも原因があるからだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
f．この世の中で、差別がなくなることはない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問４６　あなたは、現在の障害者福祉の水準について、どのように思いますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. とても低い	**4.** やや高い
2. やや低い	**5.** とても高い
3. どちらともいえない	

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

以上で質問は終わりです。

何かご記入もれはありませんか。ご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れてご投函ください。

お忙しいところ、貴重なお時間をさいていただきありがとうございました。

障害福祉に関する意識調査（精神障害のある人）

単純集計表

問１　このアンケートにご記入いただくのはどなたですか。つぎの 1～4 の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
ご本人が記入	102	73.4
ご家族が代筆	14	10.1
ご家族がご本人に代わって回答	20	14.4
その他	3	2.2
合計(有効ケース)	139	100.0

問２　あなたの性別はどちらですか。

	度数	%
男性	76	54.7
女性	63	45.3
合計(有効ケース)	139	100.0

問３　あなたは白山市のどの地域にお住まいですか。つぎの 1～4 の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
松任	94	68.6
美川	17	12.4
鶴来	24	17.5
河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰	2	1.5
合計(有効ケース)	137	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	139	

問４　あなたの年齢は何歳ですか。[2014(平成 26)年 10 月 1 日現在でお答えください]

	度数	%
20 代	18	13.0
30 代	38	27.5
40 代	31	22.5
50 代	17	12.3
60 代	22	15.9
70 代	12	8.7
合計(有効ケース)	138	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	139	

問５　あなたの世帯は、あなたを含めて何人家族ですか。

	度数	%
1	21	15.4
2	39	28.7
3	38	27.9
4	19	14.0
5	10	7.4
6	7	5.1
7	1	0.7
8	1	0.7
合計(有効ケース)	136	100.0
非該当・無回答	3	
合計(全ケース)	139	

問６　あなたが**同居されている**ご家族を、つぎの 1～12 の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。ただし、亡くなっているかたは除いてください。

	度数	%
配偶者（夫・妻）	33	26.0
子ども	23	18.1
子どもの配偶者	2	1.6
自分の父母	77	60.6
配偶者の父母	7	5.5
自分の兄弟姉妹	29	22.8
配偶者の兄弟姉妹	1	0.8
自分の祖父母	10	7.9
配偶者の祖父母	0	0
孫	3	2.4
その他	7	5.5
あてはまる人はいない	8	6.3
合計(有効ケース)	127	
無回答	12	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問７　あなたのお住まいについてお聞きします。

(1)　現在のお住まいは、つぎのなかのどれですか。つぎの 1～6 の中からあてはまる番号 **1 つに**○をつけてください。

	度数	%
持ち家(一戸建て住宅)	103	74.6
持ち家(集合住宅[マンションなど])	1	0.7
市営・県営などの公的賃貸住宅	6	4.3
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	9	6.5
民間の借家・賃貸アパート・マンション	14	10.1
その他(具体的に：)	5	3.6
合計(有効ケース)	138	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	139	

(2)　これからの生活をどこで送りたいですか。つぎの 1～7 の中からあてはまる番号 **1 つに**○をつけてください。

	度数	%
持ち家(一戸建て住宅)	87	64.9
持ち家(集合住宅[マンションなど])	5	3.7
市営・県営などの公的賃貸住宅	9	6.7
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	16	11.9
民間の借家・賃貸アパート・マンション	10	7.5
入所施設	3	2.2
その他(具体的に：)	4	3.0
合計(有効ケース)	134	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	139	

問８　あなたのお持ちの精神障害者保健福祉手帳についてお聞きします。

(1)　あなたの精神障害者保健福祉手帳の等級は、何級ですか。つぎの 1～3 の中からあてはまる番号 **1 つに**○をつけてください。

	度数	%
1 級	5	3.9
2 級	108	83.7
3 級	16	12.4
合計(有効ケース)	129	100.0
無回答	10	
合計(全ケース)	139	

(2)　あなたは、現在、精神科(神経科、心療内科)で治療を受けていますか。つぎの 1～3 の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
通院中	115	85.8
入院中	12	9.0
治療は受けていない	8	6.0
合計(有効ケース)	134	
無回答	5	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

(3) 一か月以上、治療を中断したことがありますか。

	度数	%
ある	19	14.3
ない	114	85.7
合計(有効ケース)	133	100.0
無回答	6	
合計(全ケース)	139	

(4) あなたが精神障害者保健福祉手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか。

	度数	%
10歳未満	1	0.8
10代	2	1.7
20代	39	32.5
30代	34	28.3
40代	21	17.5
50代	10	8.3
60代	13	10.8
合計(有効ケース)	138	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	139	

問9

(1) あなたは、精神障害者保健福祉手帳のほかに、身体障害者手帳をお持ちですか

	度数	%
持っている⇒**問9(2)へ**	8	5.9
持っていない⇒**問10(1)へ**	127	94.1
合計(有効ケース)	135	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	139	

(2) 【問9(1)で1と答えた方にのみお聞きします。】身体障害者手帳の等級は、総合等級では何級ですか。つぎの1～6の中からあてはまる番号**1つに**○をつけてください。

	度数	%
1級	3	42.9
2級	2	28.6
3級	1	14.3
4級	1	14.3
5級	0	0
6級	0	0
合計(有効ケース)	7	100.0
無回答	132	
合計(全ケース)	139	

(3) では、あなたの障害はどのような障害ですか。つぎの1～5の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
視覚障害	2	20.0
聴覚障害、平衡機能障害	0	0
音声・言語障害、そしゃく機能障害	0	0
肢体不自由	4	40.0
内部障害	2	20.0
合計(有効ケース)	10	
無回答	129	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

(4) あなたの障害の原因はなんですか。つぎの1～6の中からあてはまる番号**1つに**○をつけてください。

	度数	%
交通事故	1	11.1
労働災害	0	0
その他の事故	0	0
先天性(生まれつき)	0	0
疾病	6	66.7
その他	2	22.2
合計(有効ケース)	9	100.0
無回答・非該当	130	
合計(全ケース)	139	

問 10　(1)あなたは、精神障害者保健福祉手帳のほかに、療育手帳をお持ちですか。

	度数	%
持っている⇒**問 10(2)へ**	5	3.8
持っていない⇒**問 11 へ**	128	96.2
合計(有効ケース)	133	100.0
無回答	6	
合計(全ケース)	139	

(1)　**【問 10(1)で 1 と答えた方にのみお聞きします。】**では、療育手帳の判定は、つぎのいずれですか。つぎの 1～3 の中からあてはまる番号**1 つに**つけてください。

	度数	%
A	0	0
B1	1	33.3
B2	2	66.7
合計(有効ケース)	3	100.0
無回答・非該当	136	
合計(全ケース)	139	

問 11　あなたは難病(特定疾患)の認定を受けていますか。

	度数	%
はい	6	4.9
いいえ	116	95.1
合計(有効ケース)	122	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	139	

問 12　あなたは発達障害(自閉症、学習障害など)の診断を受けていますか

	度数	%
はい	16	13.0
いいえ	107	87.0
合計(有効ケース)	123	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	139	

問 13　障害支援区分についてお聞きします。
(1)あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。

	度数	%
受けている⇒**問 13(2)へ**	20	16.4
受けていない⇒**問 14 へ**	102	83.6
合計(有効ケース)	122	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	139	

(2)　【問 13(1)で 1 と答えた方にのみお聞きします。】その障害支援区分は、つぎのどれにあたりますか。つぎの 1～7 の中からあてはまる番号**1 つに**○をつけてください。

	度数	%
区分 1	2	10.0
区分 2	2	10.0
区分 3	3	15.0
区分 4	0	0
区分 5	1	5.0
区分 6	0	0
わからない	12	60.0
合計(有効ケース)	20	100.0
無回答	119	
合計(全ケース)	139	

問 14　あなたは何により生活費を得ていますか。つぎの 1～11 の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
勤め先の給与や賃金	28	20.6
通所施設・作業所などの工賃	8	5.9
同居家族の扶養	53	39.0
別居家族や親戚の援助	7	5.1
事業収入	4	2.9
財産収入	0	0
障害年金	89	65.4
障害年金以外の年金	14	10.3
特別障害者手当	1	0.7
生活保護	6	4.3
その他	10	7.2
合計(有効ケース)	136	
無回答	3	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 15　あなたのご家庭の、現在の暮らし向きについてどう思われますか。つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる番号**1 つに**○をつけてください。

	度数	%
良い	22	16.5
どちらかといえば良い	26	19.5
良くも悪くもない	39	29.3
どちらかと言えば悪い	25	18.8
悪い	21	15.8
合計(有効ケース)	133	100.0
無回答	6	
合計(全ケース)	139	

問 16　あなたは、どのようなときに、どなたの支援が必要ですか。

(1)　支援が必要と思うのは、どのようなときですか。a～m のそれぞれについて、つぎの 1～3 の中からもっともあてはまる番号**1 つに**○をつけてください。

a．食事をするとき

	度数	%
自分でできる	115	89.8
ときどき支援が必要	10	7.8
常に支援が必要	3	2.3
合計(有効ケース)	128	100.0
無回答	11	
合計(全ケース)	139	

b．トイレを利用するとき

	度数	%
自分でできる	122	93.8
ときどき支援が必要	4	3.1
常に支援が必要	4	3.1
合計(有効ケース)	130	100.0
無回答	9	
合計(全ケース)	139	

c．薬を飲んだり保管するとき

	度数	%
自分でできる	102	78.5
ときどき支援が必要	15	11.5
常に支援が必要	13	10.0
合計(有効ケース)	130	100.0
無回答	9	
合計(全ケース)	139	

d．入浴するとき

	度数	%
自分でできる	112	86.2
ときどき支援が必要	9	6.9
常に支援が必要	9	6.9
合計(有効ケース)	130	100.0
無回答	9	
合計(全ケース)	139	

e．着替えをするとき

	度数	%
自分でできる	120	92.3
ときどき支援が必要	6	4.6
常に支援が必要	4	3.1
合計(有効ケース)	130	100.0
無回答	9	
合計(全ケース)	139	

f．掃除・洗濯をするとき

	度数	%
自分でできる	80	62.0
ときどき支援が必要	28	21.7
常に支援が必要	21	16.3
合計(有効ケース)	129	100.0
無回答	10	
合計(全ケース)	139	

g．炊事をするとき

	度数	%
自分でできる	62	48.1
ときどき支援が必要	38	19.5
常に支援が必要	29	22.5
合計(有効ケース)	129	100.0
無回答	10	
合計(全ケース)	139	

h．外出するとき

	度数	%
自分でできる	80	61.1
ときどき支援が必要	31	23.7
常に支援が必要	20	15.3
合計(有効ケース)	131	100.0
無回答	8	
合計(全ケース)	139	

i．家の中で移動するとき

	度数	%
自分でできる	120	93.0
ときどき支援が必要	5	3.9
常に支援が必要	4	3.1
合計(有効ケース)	129	100.0
無回答	10	
合計(全ケース)	139	

j．家族以外の人とコミュニケーションするとき

	度数	%
自分でできる	75	58.6
ときどき支援が必要	42	32.8
常に支援が必要	11	8.6
合計(有効ケース)	128	100.0
無回答	11	
合計(全ケース)	139	

k．生活費などのお金の管理

	度数	%
自分でできる	69	52.3
ときどき支援が必要	35	26.5
常に支援が必要	28	21.2
合計(有効ケース)	132	100.0
無回答	7	
合計(全ケース)	139	

l．日常の暮らしに必要な事務手続き

	度数	%
自分でできる	51	39.2
ときどき支援が必要	45	34.6
常に支援が必要	34	26.2
合計(有効ケース)	130	100.0
無回答	9	
合計(全ケース)	139	100.0

m．緊急時に避難・連絡したいとき

	度数	%
自分でできる	64	49.6
ときどき支援が必要	36	27.9
常に支援が必要	29	22.5
合計(有効ケース)	129	100.0
無回答	10	
合計(全ケース)	139	

問17　あなたの日常生活を支援してくれる人についておたずねします。

(1)　主な支援者は、つぎのうちどなたですか。つぎの1～12の中からもっともあてはまる**番号 1つに**○をつけてください。

	度数	%
配偶者(夫・妻)	27	19.9
子ども	4	2.9
子どもの配偶者	0	0
自分の父母	69	50.7
配偶者の父母	3	2.2
自分の兄弟姉妹	10	7.4
配偶者の兄弟姉妹	2	1.5
自分の祖父母	0	0
配偶者の祖父母	0	0
孫	0	0
支援者はいない⇒**問 18 へ**	11	8.1
その他	10	7.4
合計(有効ケース)	136	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	139	

(2)　主な支援者に対して必要だと思われるケアやサポートがありますか。つぎの1～10の中からあてはまる**番号 1つに**○をつけてください。

	度数	%
仕事ができるようなサポート	15	12.3
外出できるようなサポート	8	6.6
代わりに介助を頼めること	0	0
介助者本人が自分の時間を持てるようにすること	2	1.6
介助の方法に関するアドバイス	3	2.5
経済的な援助	31	25.4
相談する相手	28	23.0
緊急時のサポート	7	5.7
特にない	25	20.5
その他	3	2.5
合計(有効ケース)	122	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	139	

(3)　主な支援者が高齢、病気などで将来支援ができなくなった場合は、どうしますか。つぎの1～5の中からもっともあてはまる番号**1つに**○をつけてください。

	度数	%
親族の支援を受ける	26	20.8
ホームヘルパーなどを利用し、自宅で暮らしたい	32	25.6
グループホーム・ケアホーム・福祉ホームで暮らしたい	28	22.4
施設に入所する	21	16.8
その他	18	14.4
合計(有効ケース)	125	100.0
無回答	14	
合計(全ケース)	139	

問 18　あなたは悩みや困ったことがある場合、どちらに相談されますか。つぎの 1～22 の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
家族	104	75.9
親戚	27	19.7
友人・知人	43	31.4
市役所、児童相談所などの行政機関	25	18.2
障害者団体、患者団体や家族会	5	3.6
民生委員・児童委員	4	2.9
障害者相談員	16	11.7
相談支援事業所	15	10.9
施設や作業所の職員	17	12.4
グループホームの世話人	8	5.8
居宅介護のヘルパー	1	0.7
発達相談センター	5	3.6
配偶者の兄弟姉妹	1	0.7
高齢者支援センター	2	1.5
社会福祉協議会	5	3.6
医師や看護師などの医療関係者	58	42.3
学校の先生	1	0.7
職場の人	7	5.1
障害者就業・生活支援センター	14	10.2
相談したいができない（しない）	15	10.9
悩みや困ったことはない	3	2.2
その他	6	4.4
合計(有効ケース)	137	
無回答	2	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 19　自宅で入浴、排せつ、食事などの支援・介助を受けたり、調理、洗濯、掃除などの支援を受けたりする居宅介護(ホームヘルパーサービス)の利用について、つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる番号**1 つに**○をつけてください。

	度数	%
利用している	4	3.1
今は利用していないが、利用したことはある	3	2.3
利用したことはないが、今後利用したい	22	17.1
利用したことはなく、今後も利用しない	63	48.8
サービスについて知らない	37	28.7
合計(有効ケース)	129	100.0
無回答	10	
合計(全ケース)	139	

問 20　あなたの仕事や通学の状況はつぎのうちどれにあたりますか。つぎの 1～3 の中からあてはまる番号**1 つに**○をつけてください。

	度数	%
仕事をしている(就労移行支援・就労継続支援・作業所などを含む)⇒**問 21(1)へ**	41	29.7
仕事はしていない⇒**問 22 へ**	92	66.7
通学・職業訓練中⇒**問 23 へ**	5	3.6
合計(有効ケース)	138	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	139	

問 21**【問 20 で 1 と答えた方にのみお聞きします。】**

(1)　あなたは現在、どのような形で働いていますか。つぎの 1～10 の中からあてはまる番号**1 つに**つけてください。

	度数	%
常勤(正規の職員、社員)	7	17.1
パート、アルバイト、臨時雇い(派遣社員含む)	21	51.2
家の仕事(自営業、手伝い)	3	7.3
就労移行支援・就労継続支援・作業所など	10	24.4
内職	0	0
その他	0	0
合計(有効ケース)	41	100.0
無回答・非該当	98	
合計(全ケース)	139	

(2)　仕事の悩みや困っていることがありますか。つぎの 1～10 の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
仕事が難しい	7	17.1
障害について理解や協力をしてもらえない	10	24.4
職場までの通勤が不便である	9	22.0
職場の建物や机などの設備が使いにくい	3	7.3
職場でのコミュニケーションがうまくとれない	14	34.1
障害がない人と比べて仕事の内容や昇進などに差がある	4	9.8
障害がない人と比べて給料が安い	6	14.6
職場での人間関係がうまくいかない	8	19.5
とくに困っていることや悩みはない	11	26.8
その他	5	12.2
合計(有効ケース)	41	
無回答	98	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

(3)　就職するときに、どこの支援を受けましたか。つぎの 1～8 の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
ハローワーク	22	55.0
学校	4	10.0
石川障害者職業センター	14	35.0
金沢障害者就業・生活支援センター	2	5.0
小松障害者就業・生活支援センター	0	0
就労移行支援事業所	5	12.5
支援を受けていない	7	17.5
その他	6	15.0
合計(有効ケース)	40	
無回答・非該当	99	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

(4)　あなたの仕事による 1 年間の収入は、つぎのうちどれにあたりますか。つぎの 1～14 の中からあてはまる番号 **1 つに**○をつけてください。

	度数	%
なし	1	2.4
50 万円未満	16	39.0
50 万円～100 万円未満	9	22.0
100 万円～200 万円未満	12	29.3
200 万円～300 万円未満	1	2.4
300 万円～400 万円未満	1	2.4
400 万円～500 万円未満	0	0
500 万円～600 万円未満	0	0
600 万円～700 万円未満	0	0
700 万円～800 万円未満	0	0
800 万円～900 万円未満	0	0
900 万円～1000 万円未満	0	0
1000 万円以上	0	0
わからない	1	2.4
合計(有効ケース)	41	100.0
無回答・非該当	98	
合計(全ケース)	139	

問 22 **【問 20 で 2 と答えた方にのみお聞きします。】**

(1)　働いていない理由は何ですか。つぎの 1～8 の中からもっともあてはまる番号 **1 つに**○をつけてください。

	度数	%
働く所がないため	5	5.5
通勤が困難なため	0	0
自分にあった仕事がないため	5	5.5
高齢のため	11	12.1
病気のため	55	59.3
重度の障害のため	4	4.4
家事に専念するため	6	6.6
その他	6	6.6
合計(有効ケース)	91	100.0
無回答・非該当	48	
合計(全ケース)	139	

(2)　今後、働きたいとお考えですか。つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる番号 **1 つに**○をつけてください。

	度数	%
働きたい	22	23.9
働きたいが、自分の心身の状況を考えるとむずかしい	39	41.3
働きたくない	9	9.8
働く必要がない	7	7.6
わからない	16	17.4
合計(有効ケース)	92	100.0
無回答・非該当	47	
合計(全ケース)	139	

(3)　どのような形で働きたいと思いますか。つぎの 1～6 の中からもっともあてはまる番号 **1 つに**○をつけてください

	度数	%
常勤(正規の職員・社員)	10	13.0
パート、アルバイト、臨時雇い(派遣社員を含む)	26	33.8
家の仕事	6	7.8
就労移行支援・就労継続支援・作業所など	15	19.5
内職	7	9.1
その他	13	16.9
合計(有効ケース)	77	100.0
無回答・非該当	62	
合計(全ケース)	139	

問 23　あなたは障害のある人が就労しやすくするため、何が必要と考えますか。つぎの 1～7 の中からもっともあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
就労に必要な技術や知識を身につけるための訓練の場	58	46.4
通勤するための移動サービス	34	27.2
行政の雇用支援	46	36.8
障害のある人の雇用に対する雇用者側の理解と努力	85	68.0
障害のある人自身の就労に対する意識改革	43	34.4
市民に対する障害のある人の就労に関する啓発	34	27.2
その他	14	11.2
合計(有効ケース)	125	
無回答	14	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 24　あなたは過去 1 年間にどれくらい外出しましたか。つぎの 1～6 の中からあてはまる番号 **1 つに**○をつけてください。

	度数	%
ほぼ毎日	46	33.8
週に 4～5 回	24	17.6
週に 2～3 回	27	19.9
月に 3～4 回	18	13.2
月に 1～2 回	9	6.6
ほとんど外出していない	12	8.8
合計(有効ケース)	136	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	139	

問 25　あなたの主な外出先・要件はどちらですか。つぎの 1～10 の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
通院	98	72.1
通学・通勤	37	27.2
買い物	100	73.5
親戚・友人・知人宅	31	22.8
役所	30	22.1
金融機関	41	30.1
団体等の会議・催し	8	5.9
余暇活動	22	16.2
デイサービスなどの福祉施設	21	15.4
その他	19	14.0
合計(有効ケース)	136	
無回答	3	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 26　あなたは外出されるとき、主にどなたと外出されますか。つぎの 1～9 の中からあてはまる番号**1 つに**○をつけてください。

	度数	%
単独(白杖歩行・盲導犬を含む)	62	44.6
家族・親戚	63	45.3
ガイドヘルパー	0	0
ホームヘルパー	0	0
デイなどの施設の職員	3	2.2
友人・知人	4	2.9
近所の人	1	0.7
ボランティア	0	0
その他	6	4.3
合計(有効ケース)	139	100.0

問 27　あなたの外出のときの主な移動手段は何ですか。つぎの 1～8 の中からあてはまる番号 **1 つに**○をつけてください。

	度数	%
徒歩	13	9.5
自転車	18	13.1
バス	3	2.2
電車	2	1.5
タクシー	6	4.4
自家用車(自分で運転する)	50	36.5
自家用車(乗せてもらう)	41	29.9
その他	4	2.9
合計(有効ケース)	137	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	139	

問 28　外出時における移動の支援などのお手伝いをする移動支援事業などの障害福祉サービスを利用していますか。つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる番号 **1 つに**○をつけてください。

	度数	%
利用している	7	5.2
今は利用していないが、過去に利用したことがある	6	4.5
利用したことはないが、今後利用したい	17	12.7
利用したことはなく、今後も利用しない	49	36.6
サービスについて知らない	55	41.0
合計(有効ケース)	134	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	139	

問 29　あなたが外出するうえで、なにか困っていることがありますか。つぎの 1～11 の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
バス・電車などが容易に利用できるよう改良されていない	19	14.5
乗り物や公共施設の案内表示がわかりにくい	9	6.9
道路や駅に段差や階段、障害物などが多い	5	3.8
出入り口や階段、トイレなど建物が用意に利用できるよう改良されていない	5	3.8
車などに危険を感じる	13	9.9
まわりが気にかかる	32	24.4
支援者がいないので外出できない	1	0.8
人とのコミュニケーションがとりにくい	26	19.8
ほとんど外出しないのでわからない	12	9.2
とくに困ることはない	58	44.3
その他	17	13.0
合計(有効ケース)	131	
無回答	8	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 30 文化やレジャーなどの活動についてお聞きします。

(1)　あなたは、この 1 年間にどのようなことをしましたか。a～j のそれぞれについてあてはまるものに○をつけてください。

a．コンサートの鑑賞や観劇など

	度数	%
した	23	20.0
しない	92	80.0
合計(有効ケース)	115	100.0
無回答	24	
合計(全ケース)	139	

b．スポーツ教室、大会などへの参加

	度数	%
した	14	12.2
しない	101	87.8
合計(有効ケース)	115	100.0
無回答	24	
合計(全ケース)	139	

c．旅行・キャンプ・つりなど

	度数	%
した	37	32.5
しない	77	67.5
合計(有効ケース)	114	100.0
無回答	25	
合計(全ケース)	139	

d．学習活動

	度数	%
した	22	19.3
しない	92	80.7
合計(有効ケース)	114	100.0
無回答	25	
合計(全ケース)	139	

e．趣味の同好会への参加

	度数	%
した	15	13.2
しない	99	86.8
合計(有効ケース)	114	100.0
無回答	25	
合計(全ケース)	139	

f．ボランティアなどの社会活動

	度数	%
した	11	9.6
しない	104	90.4
合計(有効ケース)	115	100.0
無回答	24	
合計(全ケース)	139	

g．障害のある仲間との交流(ふれあい)

	度数	%
した	36	31.3
しない	79	68.7
合計(有効ケース)	115	100.0
無回答	24	
合計(全ケース)	139	

h．町会・地域活動

	度数	%
した	20	17.5
しない	94	82.5
合計(有効ケース)	114	100.0
無回答	25	
合計(全ケース)	139	

i．特にない

	度数	%
した	20	30.8
しない	45	69.2
合計(有効ケース)	65	100.0
無回答	74	
合計(全ケース)	139	

j．その他

	度数	%
した	9	22.5
しない	31	77.5
合計(有効ケース)	40	100.0
無回答	99	
合計(全ケース)	139	

(2)　今後、どのようなことをしたいと思いますか。a～j のそれぞれについてあてはまるものに○をつけてください。

a．コンサートの鑑賞や観劇など

	度数	%
したい	61	64.2
したくない	34	35.8
合計(有効ケース)	95	100.0
無回答	44	
合計(全ケース)	139	

b．スポーツ教室、大会などへの参加

	度数	%
したい	32	34.4
したくない	61	65.6
合計(有効ケース)	93	100.0
無回答	46	
合計(全ケース)	139	

c．旅行・キャンプ・つりなど

	度数	%
したい	63	67.0
したくない	31	33.0
合計(有効ケース)	94	100.0
無回答	45	
合計(全ケース)	139	

d．学習活動

	度数	%
したい	46	49.5
したくない	47	50.5
合計(有効ケース)	93	100.0
無回答	46	
合計(全ケース)	139	

e．趣味の同好会への参加

	度数	%
したい	41	44.1
したくない	52	55.9
合計(有効ケース)	93	100.0
無回答	46	
合計(全ケース)	139	

f．ボランティアなどの社会活動

	度数	%
したい	33	34.7
したくない	62	65.3
合計(有効ケース)	95	100.0
無回答	44	
合計(全ケース)	139	

g．障害のある仲間との交流(ふれあい)

	度数	%
したい	42	45.7
したくない	50	54.3
合計(有効ケース)	92	100.0
無回答	47	
合計(全ケース)	139	

h．町会・地域活動

	度数	%
したい	26	27.4
したくない	69	72.6
合計(有効ケース)	95	100.0
無回答	44	
合計(全ケース)	139	

i．特にない

	度数	%
したい	16	30.2
したくない	37	69.8
合計(有効ケース)	53	100.0
無回答	86	
合計(全ケース)	139	

j．その他

	度数	%
したい	10	29.4
したくない	24	70.6
合計(有効ケース)	34	100.0
無回答	105	
合計(全ケース)	139	

問 31　あなたの災害時の対応についておたずねします。

(1)　地震などの災害時にすぐ困ると思われることは何ですか。つぎの 1～12 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
投薬や治療を受けられない	98	73.7
補装具の使用が困難になる	7	5.3
補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	12	9.0
自分の状況が周囲の人に理解してもらえない	60	45.1
安全なところまで、迅速に避難することができない	42	31.6
被害状況、避難所の場所、物資の入手方法などの情報が入ってこない	22	16.5
周囲の人とコミュニケーションがとれない	46	34.6
避難所の設備について不安	43	32.3
家族の安否情報がとりづらい	38	28.6
救助を求めることができない	19	14.3
とくにない	12	9.0
その他	10	7.5
合計(有効ケース)	133	
無回答	6	
合計(全ケース)	139	

*．%は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

(2) 地震などの災害時の避難場所を、あなたは知っていますか。

	度数	%
知っている	54	41.2
知らない	77	58.8
合計(有効ケース)	131	100.0
無回答	8	
合計(全ケース)	139	

(3) 地震などの災害時に、あなたは一人で避難できますか。つぎの 1～3 の中からあてはまる番号 **1つに**○をつけてください。

	度数	%
できる	63	46.3
できない	29	21.3
わからない	44	32.4
合計(有効ケース)	136	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	139	

(4) 家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。つぎの 1～3 の中からあてはまる番号 **1つに**○をつけてください。

	度数	%
いる	18	13.6
いない	61	46.2
わからない	53	40.2
合計(有効ケース)	132	100.0
無回答	7	
合計(全ケース)	139	

問 32 白山市では、災害時要援護者に対する支援として、災害時要援護者マップを作成しています。

(1) このマップを知っていますか。

	度数	%
知っている	12	8.9
知らない	123	91.1
合計(有効ケース)	135	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	139	

(2) では災害時要援護者マップの作成に同意されていますか。つぎの 1～3 の中からあてはまる番号 **1つに**○をつけてください。

	度数	%
同意している⇒**問 33 へ**	16	12.5
同意していない⇒**問 32(3)へ**	20	15.6
分からない⇒**問 32(3)へ**	92	71.9
合計(有効ケース)	128	100.0
無回答	11	
合計(全ケース)	139	

(3) **【問 32(2)で 2 か 3 と答えた方にのみお聞きします。】**今後、マップ作成に同意するつもりはありますか。

	度数	%
同意するつもりはない⇒**問 32(4)へ**	45	43.3
同意するつもりだ⇒**問 33 へ**	59	56.7
合計(有効ケース)	104	100.0
無回答・非該当	35	
合計(全ケース)	139	

(4) **【問 32(3)で 1 と答えた方にのみお聞きします。】**マップ作成に同意するつもりはない理由は何ですか。つぎの 1～7 の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
支援が期待できないから	7	11.9
家族の支援を受けられるから	15	25.4
個人情報を知られたくない	16	27.1
依頼できる支援者がいないから	5	8.5
町内会や自主防災組織などが組織的な取り組みをしていないのでなんとなく不安だから	7	11.9
知っているが制度がよく理解できないため	8	13.6
その他	8	13.6
合計(有効ケース)	59	
無回答・非該当	80	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 33　あなたの医療のことで、なにか困っていることがありますか。つぎの 1～7 の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
通院するとき付き添いをしてくれる人がいない	3	2.3
意思・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない	26	20.3
医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない	10	7.8
専門的な治療をしてくれる病院が近くにない	14	10.9
医療費の負担が大きい	23	18.0
とくに困っていることはない	60	46.9
その他	16	12.5
合計(有効ケース)	128	
無回答	11	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 34　あなたは医療・福祉サービスなどについてどちらに相談していますか。つぎの 1～13 の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
民生委員・児童委員	3	2.2
身体障害者相談員	1	0.7
相談支援事業所・相談支援専門員	12	8.9
市役所の相談窓口	49	36.3
保健所・福祉健康センター	7	5.2
医療機関	64	47.4
障害福祉施設	15	11.1
社会福祉協議会	2	1.4
介護保険のケアマネージャー	5	3.7
同じ障害のある人の団体・グループ	11	8.1
相談するところがない	12	8.9
どこに相談に行ったらよいかわからない	29	21.5
その他	6	4.4
合計(有効ケース)	135	
無回答	4	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 35　つぎのサービスをボランティアが行うとしたら、あなたは、どれを受け入れたいと思いますか。つぎの 1～10 の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
調理	23	18.4
洗濯	11	8.8
部屋の掃除・庭の手入れ	26	20.8
話し相手、相談相手	44	35.2
家屋内外の簡単な修理	18	14.4
病院などへの送迎・外出支援	21	16.8
買い物	15	12.0
代筆・代読	6	4.8
ボランティアのサービスは受け入れない	37	29.6
その他	8	6.4
合計(有効ケース)	125	
無回答	14	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問36　あなたが、暮らしやすくなるために、とくにしてほしいことはどのようなことですか。つぎの1～17の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
毎日の生活の手助けがもっとほしい	7	5.5
外出の支援をしてほしい	12	9.4
障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい	55	43.3
障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい	50	39.4
一般企業で働くことが難しいので、就労支援施設などを増やしてほしい	34	26.8
ジョブコーチ制度を充実させてほしい	16	12.6
リハビリ訓練の場所を増やしてほしい	5	3.9
障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい	12	9.4
外出しやすい環境や交通機関の利便を図ってほしい	24	18.9
いつでもなんでも相談できる窓口を用意してほしい	45	35.4
いつでも何でも話し合える相談相手や仲間がほしい	47	37.0
年金などの経済的な援助を増やしてほしい	72	56.7
スポーツ・レクリエーション・教育・文化活動に対する援助をしてほしい	7	5.5
福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい	21	16.5
円滑なコミュニケーションができるように、障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい	22	17.3
とくにない	12	9.4
その他	7	5.5
合計(有効ケース)	127	
無回答	12	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問37　障害に関する差別についてお聞きします。

(1) あなたはこれまでに障害があるために差別をされたと感じたことがありますか。

	度数	%
ある⇒**問37(2)へ**	52	39.4
ない⇒**問38へ**	80	60.6
合計(有効ケース)	132	100.0
無回答	7	
合計(全ケース)	139	

(2)　**【問37(1)で1と答えた方にのみお聞きします。】**それはどのような分野での差別でしたか。つぎの1～の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	度数	%
医療	12	21.8
教育・療育	16	29.1
交通や建物のバリアフリー化	4	7.3
防災	0	0
情報バリアフリー	1	1.8
行政手続き	8	14.5
文化活動	3	5.5
政治参加	3	5.5
その他	22	40.7
合計(有効ケース)	55	
無回答・非該当	84	
合計(全ケース)	139	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

(3) それはどのような経験でしたか。さしつかえなければ、具体的にお教えください。

	度数	%
記述なし	38	64.4
記述あり	21	35.6
合計(有効ケース)	59	100.0
無回答・非該当	80	
合計(全ケース)	139	

問38　障害者権利条約では、障害のある人がない人と同じように生活するために過大な負担とならない範囲で行う配慮や工夫を「合理的配慮」としています。また、「合理的配慮」を行わないことは差別として位置づけられています。あなたは、このような「合理的配慮」について知っていましたか。つぎの1～3の中からもっともあてはまる番号**1つに**○をつけてください。

	度数	%
合理的配慮の考え方について知っている	4	3.1
合理的配慮という言葉は聞いたことがある	8	6.3
合理的配慮について知らない	116	90.6
合計(有効ケース)	128	100.0
無回答	11	
合計(全ケース)	139	

問 39　あなたは、障害のある人もない人も、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。つぎの 1～3 の中からもっともあてはまる番号**1 つに**○をつけてください。

	度数	%
知っている	14	10.4
言葉だけは知っている	29	21.6
知らない	91	67.9
合計(有効ケース)	134	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	139	

問 40　障害と仕事に関する次のような意見についてどう思いますか。a～d のそれぞれについて、つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる番号**1 つに**○をつけてください。

a．障害のある人の雇用をうながすためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ

	度数	%
そう思う	70	57.9
どちらかといえばそう思う	21	17.4
どちらともいえない	26	21.5
どちらかといえばそう思わない	1	0.8
そう思わない	3	2.5
合計(有効ケース)	121	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	139	

b．企業は、障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備しなければならない

	度数	%
そう思う	67	56.3
どちらかといえばそう思う	29	24.4
どちらともいえない	22	18.5
どちらかといえばそう思わない	0	0
そう思わない	1	0.8
合計(有効ケース)	119	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	139	

c．企業が、障害のある人にとって働きにくい職場の施設を改善しないことは差別である

	度数	%
そう思う	42	35.6
どちらかといえばそう思う	34	28.8
どちらともいえない	35	29.7
どちらかといえばそう思わない	4	3.4
そう思わない	3	2.5
合計(有効ケース)	118	100.0
無回答	21	
合計(全ケース)	139	

d．障害のある人に特化した就労支援が必要である。

	度数	%
そう思う	68	56.2
どちらかといえばそう思う	27	22.3
どちらともいえない	19	15.7
どちらかといえばそう思わない	3	2.5
そう思わない	4	3.3
合計(有効ケース)	121	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	139	

問 41　白山市の人々に対して、障害への理解を広げるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下に自由にご記入ください。

	度数	%
記入なし	104	74.8
記入あり	35	25.2
合計(有効ケース)	139	100.0

問 42　障害のある人を支援するための政策として、以下にあげた政策のうち、もっとも重要なことはどれだとお考えですか。つぎの 1～6 の中から、**もっとも**重要なこと、**その次に**重要なことの番号を回答欄のなかに記入してください。

もっとも重要なこと

	度数	%
障害のある人の権利や尊厳を守ること	33	26.8
障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること	46	37.4
障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること	24	19.5
障害のある人に世間並みの住居を提供すること	3	2.4
障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること	8	6.5
障害のある人をケアしている人を支援すること	9	7.3
合計(有効ケース)	123	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	139	

次に重要なこと

	度数	%
障害のある人の権利や尊厳を守ること	11	9.1
障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること	23	19.0
障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること	38	31.4
障害のある人に世間並みの住居を提供すること	11	9.1
障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること	7	5.8
障害のある人をケアしている人を支援すること	31	25.6
合計(有効ケース)	121	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	139	

問 43　あなたは障害に関する以下のことについて、どのように思いますか。 a～f のそれぞれについて、つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる番号**1 つに**○をつけてください。

a．人の幸せと障害の有無は関係ないと思う

	度数	%
そう思う	50	40.0
どちらかといえばそう思う	16	12.8
どちらともいえない	22	17.6
どちらかといえばそう思わない	9	7.2
そう思わない	28	22.4
合計(有効ケース)	125	100.0
無回答	14	
合計(全ケース)	139	

b．障害のある人が望めば、障害のない人と同じ教育を受けられるようにすべきだ

	度数	%
そう思う	65	52.8
どちらかといえばそう思う	31	25.2
どちらともいえない	21	17.1
どちらかといえばそう思わない	3	2.4
そう思わない	3	2.4
合計(有効ケース)	123	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	139	

c．　「障害者」という表現は不適切な表現であると指摘されることもあるため、別の表現に書き改める必要がある

	度数	%
そう思う	28	22.8
どちらかといえばそう思う	24	19.5
どちらともいえない	46	37.4
どちらかといえばそう思わない	6	4.9
そう思わない	19	15.4
合計(有効ケース)	123	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	139	

d．　同じ時間働いたならば、障害のせいで成果が低かったとしても、障害のある人も障害のない人も同じ賃金であるべきだ

	度数	%
そう思う	29	23.4
どちらかといえばそう思う	28	22.6
どちらともいえない	41	33.1
どちらかといえばそう思わない	11	8.9
そう思わない	15	12.1
合計(有効ケース)	124	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	139	

e．障害のあるひとも他の人と同じように責任や義務を果たすべきだ

	度数	%
そう思う	30	24.2
どちらかといえばそう思う	33	26.6
どちらともいえない	41	33.1
どちらかといえばそう思わない	11	8.9
そう思わない	9	7.3
合計(有効ケース)	124	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	139	

f．たとえ負担が大きくなったとしても、障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましい

	度数	%
そう思う	48	39.0
どちらかといえばそう思う	40	32.5
どちらともいえない	31	25.2
どちらかといえばそう思わない	1	0.8
そう思わない	3	2.4
合計(有効ケース)	123	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)		

問 44　政府の役割に関するつぎの意見についてどのように思いますか。a～e のそれぞれについて、つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる番号 **1 つに**○をつけてください。

a．政府は、最低限の生活水準をすべての人に保障すべきである

	度数	%
そう思う	86	68.3
どちらかといえばそう思う	23	18.3
どちらともいえない	12	9.5
どちらかといえばそう思わない	2	1.6
そう思わない	3	2.4
合計(有効ケース)	126	100.0
無回答	13	
合計(全ケース)	139	

b．政府は、働きたいというすべての人に働く機会を提供すべきである

	度数	%
そう思う	71	58.2
どちらかといえばそう思う	25	20.5
どちらともいえない	20	16.4
どちらかといえばそう思わない	2	1.6
そう思わない	4	3.3
合計(有効ケース)	122	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	139	

c．政府は、障害のある人の賃金を障害のない人と平等にするためのコストを負担するべきだ

	度数	%
そう思う	43	35.5
どちらかといえばそう思う	32	26.4
どちらともいえない	34	28.1
どちらかといえばそう思わない	7	5.8
そう思わない	5	4.1
合計(有効ケース)	121	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	139	

d．政府のやることは無駄が多いので、できるだけ民間に任せるべきだ

	度数	%
そう思う	21	17.2
どちらかといえばそう思う	16	13.1
どちらともいえない	67	54.9
どちらかといえばそう思わない	9	7.4
そう思わない	9	7.4
合計(有効ケース)	122	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	139	

e．政府は、豊かな人と貧しい人の所得の差を縮めるために対策を取るべきだ

	度数	%
そう思う	65	52.8
どちらかといえばそう思う	30	24.4
どちらともいえない	24	19.5
どちらかといえばそう思わない	3	2.4
そう思わない	1	0.8
合計(有効ケース)	123	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	139	

問45　差別に関するつぎの意見についてどのように思いますか。a～fのそれぞれについて、1～5の中からもっともあてはまる番号**1つに**○をつけてください。

a．差別について深く知ることによって、差別をなくすことができる

	度数	%
そう思う	45	36.6
どちらかといえばそう思う	29	23.6
どちらともいえない	37	30.1
どちらかといえばそう思わない	5	4.1
そう思わない	7	5.7
合計(有効ケース)	123	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	139	

b．差別される側の気持ちを考えることは難しい

	度数	%
そう思う	41	33.3
どちらかといえばそう思う	35	28.5
どちらともいえない	24	19.5
どちらかといえばそう思わない	8	6.5
そう思わない	15	12.2
合計(有効ケース)	123	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	139	

c．今の世の中には、差別される人々を保護するためとして、いきすぎた逆差別がある

	度数	%
そう思う	23	18.9
どちらかといえばそう思う	24	19.7
どちらともいえない	64	52.5
どちらかといえばそう思わない	3	2.5
そう思わない	8	6.6
合計(有効ケース)	122	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	139	

d．差別される人々とあまり接触しない方が、社会のなかで問題が生じることが少ない

	度数	%
そう思う	15	12.3
どちらかといえばそう思う	17	13.9
どちらともいえない	54	44.3
どちらかといえばそう思わない	15	12.3
そう思わない	21	17.2
合計(有効ケース)	122	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	139	

e．差別があるのは、差別される側にも原因があるからだ

	度数	%
そう思う	10	8.2
どちらかといえばそう思う	24	19.7
どちらともいえない	44	36.1
どちらかといえばそう思わない	12	9.8
そう思わない	32	26.2
合計(有効ケース)	122	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	139	

f．この世の中で、差別がなくなることはない

	度数	%
そう思う	55	44.7
どちらかといえばそう思う	32	26.0
どちらともいえない	29	23.6
どちらかといえばそう思わない	3	2.4
そう思わない	4	3.3
合計(有効ケース)	123	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	139	

問46　あなたは、現在の障害者福祉の水準について、どのように思いますか。つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる番号**1つに**○をつけてください。

	度数	%
とても低い	24	18.9
やや低い	32	25.2
どちらともいえない	60	47.2
やや高い	11	8.7
とても高い	0	0
合計(有効ケース)	127	100.0
無回答	12	
合計(全ケース)	139	

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

	度数	%
記入なし	105	75.5
記入あり	34	24.5
合計(有効ケース)	139	100.0

障害福祉に関する意識調査（精神障害のある人）
記述回答一覧

※　同一文言による回答は一つのみ記載した。

問３７（３）　障害に関する差別についてお聞きします。あなたはこれまでに障害があるために差別をされたと感じたことがありますか。それはどのような経験でしたか。さしつかえなければ、具体的にお教えください。

医師がなんの説明もなく３級から２級へ等級を上げた。法律用語の「為す」を安易に使用する人達が居た。
就職活動で面接に行った際、障害の内容についてだけ質問され、それについて答えただけで面接を打ち切られた。面接は不合格であった。
感情障害（双極）があります。・考え方が固くて、キッチリしすぎて、周囲が疲れているのに気が付かないのか？と言われた。・体調が悪くて帰りたいと訴えても、周囲が気を遣うからと帰宅させてくれなかった。他、いろいろあって、それで今入院しています。
毎日のように主人にことばのＤＶ、そううつがはじまったのは２０年以上、くるしかった病院生活わかってくれず時代サクゴ　みっとんねい、かくせいわたしたちこころのやまいいち●●●●　身内からかやの外の状態。とくにダメ母、主人、姉２人、妹。ヨメ→ダンナの実家のヨメたち→社会生活はうまくやっている
正直に病名を書くと書類選考で落とされ、書かないと面接までいく
身体障害児で体が弱く学校を休んで学校教育の差し閊えで涙したことがある。
いじめられたり、いやがらせを受けたことが多くあります。
一方的に相手に嫌らわれて、みんな逃げていく。理解が自分ではできない。
電車の中にいる時、人からばかにされた。
５年前自動車事故を起こした後から、この様な事になりました。現状ではだいぶよくなったと思っています
子供の学校の先生に不信がられた。
小・中学校ではやらないのではなく出来ないということが理解してもらえずいじめを受けた
障害者（精神）と分かると、雇い先がない。社会のクズだと言われて中傷にあう。今の会社は、社長のみしか知らない。知ったらかげ口を言われるし解雇される恐れがある
精神疾患で治療を受けていると話したら、“精神疾患なんて自分で治すものだ”と云われた。自分で治せないから、治療しているのに心無い事を云われつらく思った。
就業オープンにすると雇用されない。クローズドだと継続困難・資格をもっているが、活かせるような仕事のしくみない。
学校でのいじめ・いやがらせ等

病院に入院中、喫煙所で話していた人が「頭がおかしくなったら精神科行きや。」と言っていた。・キチガイやうつという言葉がふざけ言葉として使われていて、それを我慢
主な医学などの知識で「障害者や」と言ったら信じなかった。・障害者の就職面接会で履歴書を渡すか渡さないかの合い間の１分ぐらいで「不採用」と言われました。
外出（日中）出来ない
私もギター演奏したりしていますが、障がい者の方が気楽にお金がかからずに演奏できる場所が少ない。高校生時代にほぼある先生に毎日クズよばわりされました。（勉強ができなかった。）始めて就職した会社で工場長から直属の上司まで、養護学校出身のことで誹謗中傷を受けてうとういじめられ朝８：００～夜８：００までこき使われた。もちろんきちんとちんぎん支払われなかった。好きで障害者に生まれたわけではない。
医師による偏見。
中学校の担任が、じゃまくさい者あつかいでした。とりあえず、１年間、問題なく、卒業してほしい様子でした。心のない方は、教育現場に、いっぱいいます。

問４１　白山市の人びとに対して、障害への理解を広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。

精神・知的・身体に障害があっても人としての価値はみなさんと一緒。１―方法としてみんながんばっている姿、苦しんでいる姿などを載せた文集を行政が月に１度でもポスティングする　２―行政がセッティングして交流会を行う。
健常者と障害者とが、お互い触れ合える機会をもっと沢山もうけてほしい。
和をもって尊となす。聖徳太子の言葉です。あの時代誰に解いたのでしょうか。一般庶民が理解して生きてゆけるでしょうか。乱世、戦国時代、そして戦争の時代　誰かが和をもって尊となすと言わなければならない　言う人は立割社会を望むものでないが一般庶民でない事は確か上に立つ人が、共生社会を望んでいるか？
新聞広告、テレビ番組（最近は地域情報を特集する番組が多いので、そういった番組で取り上げてもらう）、回覧板、義務教育の場で教育する。
障害の特性を理解して欲しい
難かしい質問ですね…私は精神疾患なので、よく“障害者には見えない”と言われますが、嬉しい言葉でない事を理解する人は少ないです。その言葉自体に壁があることを現しているのだと知らないんですよね。北海道の“べてるの家”のように、チマチマした企業でなく、町中に大きな障害者企業があると面白いかも。
障害者の人と白山市の人とが共に楽しめるイベントを開く。
障害者の事をもっと理解して丁寧に説明してほしいです。
障害障害といってもいろいろあり。自分の生まれたころのちの問題　わたしらみたいな精神年金だってすごいちがい２ケ月８万でどう生きろというのだ　もうばくはつしそう
障がい者の有名人の講演会など。
分からない。国や市町村の役場の人が考えて欲しい
公報などで障害者の人数等を公開する。
健常者と障害者のディスカッションの場を設ける
いろんな障害に対しての勉強会に参加することや、コミュニケーションを上手に取れるようにするためにいろんな人達と会話をすることを継続的に行えるようにすることが必要
障害者の生の声を行政機関が市民に知らせる
障害者雇用法制の充実・罰則の強化・上乗せ条例、罰則の義務化
どのような障害があるのかを説明する行事があればいいと思う。
市民への理解は要らない。企業の仕事の受け入れ方が柔軟であれば、自然と理解が得られると思う。理解を得ようとＰＲしても、理解は得られない。
白山市でというより、国全体で障害に対する教養を深めることが必要ではないかと思います。
講演会、セミナー等。公共機関や病院などに冊子を置く。一口に障害と言っても色々あるので知られていないことが沢山あると思う。偏見や誤解をまず無くした方が良いと思います。
協力して明るく生活出来る職場づくり
障害者と健常者とのふれあいを増やすこと。

難しいです。
精神障害は見た目で分かりにくい。車にマークが有ると良いかもしれない。理解するのは簡単だと思う。正しく理解するか分からない。誤って理解されると差別やへんけんになる。例えば講えんをする、その後、どのように考えたか聞く。逆に健常者がどこまで障害に理解しているか私は知りたい。
今も障害者スポーツ大会やイベントが行われているので普通に健常者の方とのコミュニケーションが取れていると思うので十分であると思う
健常者と大差ない障害者と健常者との交流会を聞く。障害者でも健常者と変わらない人もいると実感させ、障害者に対する偏見を軽くする。
講座や意見交換会などを開き、私たち当事者と交流する機会を増やす。・中学校の教育に障がいの理解をする時間をつくる。・ＮＨＫなどで障がいに関わる問題などを今以上に取り上げて放送する。・あさがおＴＶで、障がいに関連した番組をつくる。・中学校の教育に社会見学として、福祉施設などの見学をする時間をつくる。
市報、ＰＲ情報提供の場（市長さんの活動わからないと娘の弁）・人々が集う場所での健康人、障害者参加する
私たち障がい者は世間ではバケモノ扱い　笑いのタネにされている。私たちは同じ人間だ。もし、自分の大切なパートナーが障害を持ってしまった時同じように扱えるの
言いたくても声に出せない障害者が沢山います。精神的、身体的、目に見えない報告されない虐待も沢山あります。もっと実体を知ってほしい。その為には現場をもっと見てほしい。
企業や役所で障害者の管理職を作る。（身体以外の人も　その場合市長から表彰されて白山市の人権推進企業となる。）白山市内の企業での障害者雇用率を５％以上にする。白山市内の温泉施設は障害者の方が利用するときは無料とか半額　白山市内の企業で働く人は障害者施設での一週間ほどのボランティア活動の義務づけ　公務員の職についた人も障害者施設でのボランティアをする。※もっと企業の経営者がさまざまな形での障害者雇用に積極的にとりくんでほしいです。
病院の投薬を改善してほしい。
大人自体が人に対してのおもいやりが出来ていない人が多いのに障害への理解を広めるのはむずかしいのではないでしょうか。子供の時から道徳的なことを勉強させなくていけないと思います。

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

とても良い所を突いてると思いました。自分も含めてですが障害者は自分との戦いです。私は素直に回答しました。この用紙が届いた方々が自分にも未来はあると思っていただければ幸いです。障害者は負けではない。いつか訪れる幸せを信じて日々を送ってほしい。ぼくはこの世で一人。あなたもこの世でたった一人の大切な人と伝えたい。

私は健常者です。障害者でありません

どうか障害者の本音の意見として、このアンケートを利用して下さい！

逆差別　差別を無くそうとして生れた言葉　こんな言葉が生まれるのは色々な人が居て、色々な考え方が有るなどと、差別が意見の相異や考え方の異いで起る　ほんとにそうでしょうか。障害者に特化せずこの国で差別とは何か知っている人は少数派でそんな事知らないでいる方が、生きてゆきやすいのではと思う。

何とか、この苦しい病状から一日も早く、だっしたい。

あんけーとを書くのにむずかしかった。およめさんに聞きながら書いた

今回の調査が何らかの形で障がいのある者の１つの声として実現して欲しいと願ってます。・特に経済的な面やサービスは精神障害の人はありません。又、頑張って就労しても持続の難しさ、就労支援でも、最低賃金…。頑張っているんですよネ。大変失礼だけど、生活保護の方々と、障害年金の差って何でしょう？知識不足な点もあり、勝手な事を記しました。それも、皆様への応援の言葉として受け取めて下されば幸いです。

こういう私のような障害をもつ人の意見を聞いていただいて、ありがとうございました。

あんまりためにならないといおうか、いみのとおらないことかいてしまいましたが、今わたしは主人のＤＶやしがらみがぬけて、すっきりして主人がなにをわめこうがちんもくしています。友人・知とおてがみして、いっしょうけんめい努力してきて、こんないいチャンスいただきありがとうございました。へたくそな字でごめんなさい。

精神障害者には、人により症状が違いますが、このような調査は、読むことがめんどうで、考えることもめんどうです。回数は多くても、少しずつの方がありがたいです。又、字数も多いです。

自分は他の患者さんと異なり、よくあるケースですが、警察に入院させられました。特別だと自分の場合は思います。過去にシークレットサービスで入院をくり返したと思います。僕自信２０年以上、病を抱えていますが、早くかんかい程度になるように、したいと思います。早く、自由が欲しいです。僕の場合、立場は異常です。警察や検察庁に対し、おわびをして欲しいです。

特に期待していない。

できればみんなと仲良くやりたいが、自分が障害者である自覚のない人が中にはいるので、こまっている。

親戚の為金銭的なもの。入院費支払等のみ面倒みている。くわしい事は不明　家族３名全員施設へ入院中

問１３障害者支援区分の意味がわからない。質問が難しい。わからない所は空欄にしました。

本人に代って回答しました。私も年老いて、子供を殺して、死にたいと思うことが、何度も有ります。ともあれ、自分に「生きるのだ、生きるのだ」と言い聞かせて、頑張ってます。本人が一番つらいだと思いますが、障害者を持つことは本当に苦しいものです。アンケートに役立てれば幸いです。

障害者はハンデを背負っているという事を健常者は認識してほしい。この調査では障害者にとって負担であり学と労力と時間と良心が必要であると思います。この調査は障害者にとってよりよい社会のためであると思いますが正直疲れるし途中で嫌になります。しかしこの調査で障害者にとってよりよい社会になる事を望みます。障害者は国民の中において一番大切にされるべき人間だと思います。誰かが背負わなければならない重荷を障害者は負っていると思います。現実問題今の障害年金は低いと思います。日本で最底辺の生活水準になると思います。すぐ下は生活保護になります。

血管障害の為、ほとんどの質問は分かりません。私（妻）がほとんどの事をしています。一番つらいのは週２回の洗い物、ディサービス２回の着替を取りに行ったり、来たりと、主はホームにお世話になっていますが、洗い物は、家族がしなければ成りません。業者さんにお願いする事も出来るそうですが一点が１００～１５０円では、とても支払って行けるものでは有りません。もう少し安い所が有ればと思いますが

本調査がどのように活用され、白山市の障害福祉施策に反映されたのか、具体的な事例が出たなら、おしえて欲しい。・大学での研究で、論文が作成されたのなら大学のＨＰで閲読したい。（ＰＤＦ形式でいいので）上記旨、ハガキでもいいので、後日通知して欲しい。（別に何年かかってもいいので）

障害があってもくじけずに生きられる世の中にしてほしい。

一個人の意見が反映されるとは思えない。また、時間のかかる問題。しかし、これから生まれる我が子の時代に、私の障害のせいで悩んでほしくない。

差別と障害の問題は、個別に深い問題があるため、一緒に考えてしまうのは危ういのではないかと思います。

質問の数が多過ぎる。少し疲れます。初め見た時びっくりした

すなおに記入させて頂きましたが、これで良かったのでしょうか。市民の一員として協力して良い市政に参加したいと思います。

個人情報なので、悪用されないことを願います。

本人は精神障害者の為、母親が代筆しました。その為、よく判らないところもあり適切でない解答もあったことと思います。失礼しました。又解答が遅れ申し訳ありませんでした

くやしいことに身体障害者には人の理解はそれなりにあっても、経度の知的や発達障害や精神障害にはあまり理解が少ない。とくに発達障害や精神障害にかんしては、きびしいと思っています。市の方で障害者が運転する（所有）車のガソリン代が少し負担軽減できるようにしてほしい。必ずしも収入の状況がそれないに良いとはかぎらないので　※企業の経営者にいろいろと障害者の雇用をきちんと考えてほしい。人の道こそ商道につうじて企業の繁栄につながることをしってほしい。障害者年金が上がれば助かる。よのなかもっとよくなってほしいです。

障害者でありながら、障害に対する知識が乏しいので、これからは、もっと障害に対して勉強しなければいけないなと思いました。
少しでも役に立てるなら光栄です。“障害者に耳をかたむける”それだけでこれから先福祉、企業等が変わる事を願います。
私（娘）は障害者２級手帳と、障害年金をいただいて親の扶養で生活していますが、親が停年、病気になると１人でどう暮らしていくか不安。就労できず苦労している為。最近、支援してくださるシステムが市、県、相談所があるとわかったが、発症当時、保健所、病院などと、連絡とれず大変な思いをした。どこにどんな相談すればいいか困っている人は沢山いると思う。声をきくこんな機会があり親としては嬉しい。娘がゴミ箱へ捨てる前に開いてかきました
自動車を運転出来る状態の人が運転出来ない人を付き添うのと同じように障害者自身も色々のところから書類を書かされるのは大変なわけです。文章が解りにくいので、図や写真や絵等が有れば解りやすいと思いました。大変沢山の質問が有りました。答えるのが大変なので、まとめるだけまとめて欲しかったです。身近な事ですが障害者に文句を言う人が居ますが、その人の障害を理解してから文句を言うのなら解ります。
精神障害と身体障害とでは「障害」と言うだけで、アンケートに答えにくいものがありました。分けてあればもっと具体的に考えることができたかもしれません。質問内容も高度なものもありました。遅くなり申し訳ありませんでした。
病気の症状として幻聴等があり本人の思いこみがはげしく他人とコミュニケーションがとれないので社会とあまりかかわりなく家ですごしているので差別や就労の事は、分からないです。今のところは災害時の事、親がサポート出来なくなった時が心配です。
医師、支援センターの良心的な姿整を望む。

資料４

障害福祉に関する意識調査
（障害のある児童）

障害福祉に関する調査

２０１４年１０月

調査へのご協力のお願い

１.この調査は、障害のある人びとが安心して暮らせる社会をつくる基礎資料とするために、白山市と金沢大学「障害と医療・福祉」研究会が共同で実施するものです。調査の目的をご理解いただき、率直なご意見をご記入いただきますようお願いいたします。

２．この調査は、あなたさまをはじめ、市内にお住まいの障害のある方々から、くじ引きに似た方法（無作為抽出法）で１５００名を選ばせていただきました。

３.回答は、**封筒の宛名のご本人**が記入してください。**ご本人が記入できない場合は、ご家族などどなたかに代筆していただくか、ご本人の意思を尊重して、ご回答ください。**

４．この調査は無記名ですので、どなたのご回答であるのか特定されることはございません。みなさま方個人および、ご家族の方々のことが外部にもれることは絶対にありません。また、この調査票で得られたデータは、白山市の福祉行政を実現する施策づくりおよび大学での研究目的以外には使用いたしません。

５．ご記入いただきましたら、**１０月１４日（火）**までに同封の返信用封筒に入れてご投函ください。**※切手は不要です。封筒裏面に差出人のお名前を記入する必要もありません。**

６．以上の点をご理解いただき、なにとぞご協力をお願いいたします。この調査に関するご質問がございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

【実施責任者】

白山市健康福祉部障害福祉課

金沢大学「障害と医療・福祉」研究会

【問い合わせ先】

白山市健康福祉部障害福祉課

Ｔｅｌ：０７６－２７４－９５２６

Ｆａｘ：０７６－２７５－２２１１

調査票記入上の注意事項

◎ご記入は、黒または青色のボールペン・ペン・鉛筆でお願いいたします。

◎回答のしかた

（１）ほとんどの質問は、あてはまるものの番号（**１２３・・・の数字**）を**○印**でかこんで、お答えください。

（２）いくつかの質問には、枠内に文字・数字を直接ご記入ください。

（３）答えにくい質問があるかもしれませんが、できるだけすべての質問にお答えいただければ幸いです。

■まず、あなたご自身のことについてお聞きします。

問１　このアンケートにご記入いただくのはどなたですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. ご本人が記入	**3.** ご家族がご本人に代わって回答
2. ご家族が代筆	**4.** その他（　　）

問２　あなたの性別はどちらですか。つぎの中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 男性	**2.** 女性

問３　あなたは白山市のどの地域にお住まいですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 松任	**3.** 鶴来
2. 美川	**4.** 河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰

問４　あなたの年齢は何歳ですか。〔２０１４（平成２６）年１０月１日現在でお答えください〕

満 □□ **歳**

問５　あなたの世帯は、あなたを含めて何人家族ですか。

□□ **人家族**

問６　あなたが**同居されている**ご家族を、つぎの１～７の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。ただし、亡くなっているかたは除いてください。

1. おとうさん	**5**. きょうだい
2. おかあさん	**6**. 親戚の人
3. おじいさん	**7**. その他（　　）
4. おばあさん	

問７　あなたのお住まいについてお聞きします。

（１）　現在のお住まいは、つぎのなかのどれですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 持ち家（一戸建て住宅）	**4**. グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム
2. 持ち家（集合住宅〔マンションなど〕）	**5**. 民間の借家・賃貸アパート・マンション
3. 市営・県営などの公的賃貸住宅	**6**. その他（具体的に：　　）

（２）　これからの生活をどこで送りたいですか。つぎの１～７の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 持ち家（一戸建て住宅）	**5**. 民間の借家・賃貸アパート・マンション
2. 持ち家（集合住宅〔マンションなど〕）	**6**. 入所施設
3. 市営・県営などの公的賃貸住宅	**7**. その他（具体的に：　　）
4. グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	

■あなたの障害の種類、等級（程度）などについてお聞きします。

問８　（１）　あなたは、療育手帳をお持ちですか。

1. 持っている⇒問８（２）へ	**2.** 持っていない⇒問９（１）へ

（２）　**【問８（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**あなたの療育手帳の判定は、つぎのいずれですか。つぎの１～３の中からあてはまる番号<u>１つに</u>○をつけてください。

1．Ａ	**2**．Ｂ１	**3**．Ｂ２

（３）　あなたが療育手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか。

満　　**歳**

問９　（１）　あなたは、身体障害者手帳をお持ちですか。

1. 持っている⇒問９（２）へ	**2.** 持っていない⇒問１０（１）へ

（２）　**【問９（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**身体障害者手帳の等級は、総合等級では何級ですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号<u>１つに</u>○をつけてください。

1．１級	**3**．３級	**5**．５級
2．２級	**4**．４級	**6**．６級

（３）　では、あなたの障害はどのような障害ですか。つぎの１～５の中からあてはまる番号<u>すべてに</u>○をつけてください。

1．視覚障害
2．聴覚障害、平衡機能障害
3．音声・言語機能障害、そしゃく機能障害
4．肢体不自由
5．内部障害〔心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう・直腸、小腸、肝臓、免疫機能の障害など〕

（４）　あなたの障害の原因はなんですか。つぎの１～６の中からあてはまる番号<u>１つに</u>○をつけてください。

1．交通事故
2．労働災害
3．その他の事故
4．先天性（生まれつき）
5．疾病
6．その他（　　）

（5）　あなたが身体障害者手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか。

満 [　　] 歳

問１０　（1）　あなたは、精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。

1. 持っている⇒**問１０（２）へ**	**2.** 持っていない⇒**問１１へ**

（2）　**【問１０（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**では、精神障害者保健福祉手帳の等級は、何級ですか。つぎの１～３の中からあてはまる**番号**<u>**１つに**</u>○をつけてください。

1．１級	**2**．２級	**3**．３級

（3）　あなたが精神障害者保健福祉手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか。

満 [　　] 歳

問１１　あなたは難病（特定疾患）の認定を受けていますか。

1. はい	**2.** いいえ

問１２　あなたは発達障害（自閉症、学習障害など）の診断を受けていますか。

1. はい	**2.** いいえ

■あなたの日常生活上の支援者についてお聞きします。

問１３　あなたは、どのようなときに、どなたの支援が必要ですか。

（１）支援が必要と思うのは、どのようなときですか。ａ～ｍのそれぞれについて、つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

（２）**【問１３（１）で2か3と答えた場合にお答えください。】**では、実際に支援をお願いするのはどなたですか。ａ～ｍのそれぞれについて、つぎの１～４の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

	１．自分でできる	２．ときどき支援が必要	３．つねに支援が必要	→	１．家族や親戚	２．ボランティア	３．友人・近所の人・ヘルパー・施設の職員	４．その他（　　）
ａ．食事をするとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｂ．トイレを利用するとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｃ．薬を飲んだり保管するとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｄ．入浴するとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｅ．着替えをするとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｆ．掃除・洗濯をするとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｇ．炊事をするとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｈ．外出するとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｉ．家の中で移動するとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｊ．家族以外の人とコミュニケーションするとき	1	2	3	→	1	2	3	4
ｋ．生活費などお金の管理	1	2	3	→	1	2	3	4
ｌ．日常の暮らしに必要な事務手続き	1	2	3	→	1	2	3	4
ｍ．緊急時に避難・連絡したいとき	1	2	3	→	1	2	3	4

問１４　あなたの日常生活上の主な支援者についておたずねします。

（１）　主な支援者は、つぎのうちどなたですか。つぎの１～１２の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1．配偶者（夫・妻）	**5**．配偶者の父母	**9**．配偶者の祖父母
2．子ども	**6**．自分の兄弟姉妹	**10**．孫
3．子どもの配偶者	**7**．配偶者の兄弟姉妹	**11**．支援者はいない⇒**問１７へ**
4．自分の父母	**8**．自分の祖父母	**12**．その他（　　）

（２）　主な支援者に対して必要だと思われるケアやサポートがありますか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 仕事ができるようなサポート	**6.** 経済的な援助
2. 外出できるようなサポート	**7.** 相談する相手
3. 代わりに支援を頼めること	**8.** 緊急時のサポート
4. 支援者本人が自分の時間を持てるようにすること	**9.** 特にない
5. 支援の方法に関するアドバイス	**10.** その他（　　）

（３）　主な支援者が高齢、病気などで将来支援ができなくなった場合は、どうしますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 親族の支援を受ける
2. ホームヘルパーなどを利用し、自宅で暮らしたい
3. グループホーム・ケアホーム・福祉ホームで暮らしたい
4. 施設に入所する
5. その他（　　）

問１５　あなたは悩みや困ったことがある場合、どちらに相談されますか。つぎの１～２２の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 家族	**12**. 発達相談センター
2. 親戚	**13**. 配偶者の兄弟姉妹
3. 友人・知人	**14**. 高齢者支援センター
4. 市役所、児童相談所などの行政機関	**15**. 社会福祉協議会
5. 障害者団体、患者団体や家族会	**16**. 医師や看護師などの医療関係者
6. 民生委員・児童委員	**17**. 学校の先生
7. 障害者相談員	**18**. 職場の人
8. 相談支援事業所	**19**. 障害者就業・生活支援センター
9. 施設や作業所の職員	**20**. 相談したいができない（しない）
10. グループホームの世話人	**21**. 悩みや困ったことはない
11. 居宅介護のヘルパー	**22**. その他（　　）

問１６　自宅で入浴、排せつ、食事などの支援・介助を受けたり、調理、洗濯、そうじなどの支援を受けたりする居宅介護（ホームヘルプサービス）の利用について、あてはまる番号に○をつけてください。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 利用している
2. 今は利用していないが、利用したことはある
3. 利用したことはないが、今後利用したい
4. 利用したことはなく、今後も利用しない
5. サービスについて知らない

■通園・通学などについてお聞きします。

問１７　通園・通学などの状況についてお聞きします。

（１）あなたは、どちらに通園・通学（在宅訪問教育も含む）されていますか。つぎの１～１２の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。		（２）【問１７（１）で5～7と答えた方のみお答えください。】では、通われているのはどれにあたりますか。つぎの１～３の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。
1. 障害児通所施設（児童発達支援）		
2. 幼稚園		
3. 保育園		
4. 認定こども園		
5. 小学校・小学部	⇒	**1.** 通常の学級　**2.** 特別支援学級　**3.** 特別支援学校
6. 中学校・中学部	⇒	**1.** 通常の学級　**2.** 特別支援学級　**3.** 特別支援学校
7. 高等学校・高等部	⇒	**1.** 通常の学級　**2.** 特別支援学校
8. 専門学校・専修学校・各種学校		
9. 職業訓練校		
10. 仕事をしている	⇒	問２４へ
11. 就園・就学しないで家にいる	⇒	問２３（１）へ
12. その他（　　）		

問１８　通園・通学などでとくに困っていることがありますか。つぎの１～１１の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 通うのに付き添いが必要
2. 授業についていけない・よくわからない
3. 設備などが障害のある児童に配慮されていない
4. 学校内・園内での介助が十分でない
5. 友だちができない
6. 先生の配慮や生徒たちの理解が得られない
7. 「特別支援学級」に入れてもらえない
8. 「通常の学級」に入れてもらえない
9. 教科指導が十分に受けられない
10. とくに困っていることはない
11. その他（　　）

問１９　学校で勉強する場合に、どのような形を望みますか。つぎの１～４の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 障害のあるなしにかかわらず、一緒のクラスで勉強したい
2. 同じような障害のある仲間たちのクラスで勉強したい
3. 障害のある仲間たちのクラスで勉強しながら、障害のない仲間たちとも勉強する機会を持ちたい
4. その他（　　）

問２０　放課後に児童をあずかる放課後児童クラブについてお聞きします。放課後児童クラブを障害のある児童が利用することについて、つぎの１～７の中からもっともあてはまる**番号**<u>**１つに**</u>○をつけてください

1. 放課後児童クラブに通っている。または、通っていた
2. いままでは利用していないが、これからは利用したい
3. 小学校へ入学したら利用したい
4. 希望したが、入れてもらえなかった
5. 希望しない。または、希望しなかった
6. 放課後児童クラブは知らない。または、知らなかった
7. その他（　　）

問２１　放課後や夏休みなどの長期休暇中に障害のある児童が利用する放課後等デイサービスについてお聞きします。放課後等デイサービスを利用することについて、つぎの１～７の中からもっともあてはまる**番号**<u>**１つに**</u>○をつけてください。

1. 放課後等デイサービスに通っている。または、通っていた
2. いままでは利用していないが、これからは利用したい
3. 小学校へ入学したら利用したい
4. 希望したが、入れてもらえなかった
5. 希望しない。または、希望しなかった
6. 放課後等デイサービスは知らない。または、知らなかった
7. その他（　　）

問２２　今の学校を卒業したあとのことを、どのように考えていますか。つぎの１～９の中からもっともあてはまる**番号**<u>**１つに**</u>○をつけてください。

1. 高校・大学・専門学校などに進学したい	**6.** 就職したい
2. 通常の学級に進学したい	**7.** 家にいたい
3. 特別支援学級・特別支援学校などに進学したい	**8.** とくに考えていない
4. 施設に入りたい	**9.** その他
5. 施設に通いたい	（　　）

問２３　**【問１７（１）で11と答えた方にのみお聞きします。】**

（１）　家にいる理由はなんですか。つぎの１～６の中からもっともあてはまる**番号**<u>**１つに**</u>○をつけてください。

1. まだ学校に通う年齢になっていないから
2. 受け入れてくれる幼稚園・保育園・障害児通所施設（児童発達支援）がないから
3. 受け入れてくれる学校がないから
4. 就園・就学できる健康状態ではないから
5. 就園・就学したくないから
6. その他（　　）

（２）　今後はどのようにしたいと思いますか。つぎの１～４の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 障害児通所施設（児童発達支援）に通いたい	**3.** このまま家にいたい
2. 幼稚園・保育園・学校に通いたい	**4.** その他（　　）

問２４　**【問１７（１）で10と答えた方にのみお聞きします。】**あなたは現在、どのような形で働いていますか。つぎの１～６の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 常勤（正規の職員・社員）	**4.** 就労移行支援・就労継続支援・作業所など
2. パート、アルバイト、臨時雇い（派遣社員を含む）	**5.** 内職
3. 家の仕事（自営業、手伝い）	**6.** その他（　　）

問２５　**【ここからまたすべての人にお聞きします。】**高等学校・高等部卒業後、あなたはどのように暮らしたいとお考えですか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 家族と一緒に自宅で暮らしたい	**4.** 入所施設に入りたい
2. 家族から独立して暮らしたい	**5.** その他（　　）
3. グループホーム・ケアホームで暮らしたい	

■外出についてお聞きします。

問２６　あなたは過去１年間にどれくらい外出しましたか。つぎの１～６の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. ほぼ毎日	**4.** 月に３～４回
2. 週に４～５回	**5.** 月に１～２回
3. 週に２～３回	**6.** ほとんど外出していない

問２７　あなたの主な外出先・用件はどちらですか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 通院	**6.** 金融機関
2. 通学・通勤	**7.** 団体等の会議・催し
3. 買い物	**8.** 余暇活動
4. 親戚・友人・知人宅	**9.** デイサービスなどの福祉施設
5. 役所	**10.** その他（　　）

問２８　あなたは外出されるとき、主にどなたと外出されますか。つぎの１～９の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 単独（白杖歩行・盲導犬を含む）	**6.** 友人・知人
2. 家族・親戚	**7.** 近所の人
3. ガイドヘルパー	**8.** ボランティア
4. ホームヘルパー	**9.** その他（　　）
5. デイなどの施設の職員	

問２９　あなたの外出のときの主な移動手段は何ですか。つぎの１～８の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 徒歩	**5.** タクシー
2. 自転車	**6.** 自家用車（自分で運転する）
3. バス	**7.** 自家用車（乗せてもらう）
4. 電車	**8.** その他（　　）

問３０　外出時における移動の支援などのお手伝いをする同行援護または移動支援事業などの障害福祉サービスを利用していますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 利用している	**4.** 利用したことはなく、今後も利用しない
2. 今は利用していないが、過去に利用したことがある	**5.** サービスについて知らない
3. 利用したことはないが、今後利用したい	

問３１　あなたが外出するうえで、なにか困っていることがありますか。つぎの１～１１の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. バス・電車などが容易に利用できるよう改良されていない
2. 乗物や公共施設の案内表示がわかりにくい
3. 道路や駅に段差や階段、障害物などが多い
4. 出入口や階段、トイレなど建物が容易に利用できるよう改良されていない
5. 車などに危険を感じる
6. まわりが気にかかる
7. 支援者がいないので外出できない
8. 人とのコミュニケーションがとりにくい
9. ほとんど外出しないのでわからない
10. とくに困ることはない
11. その他（　　）

問３２　文化やレジャーなどの活動についてお聞きします。

	（１）あなたは、この１年間にどのようなことをしましたか。ａ～ｊのそれぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。		（２）今後、どのようなことをしたいと思いますか。ａ～ｊのそれぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。	
	１．した	２．しない	１．したい	２．したくない
ａ．コンサートの鑑賞や観劇など	**1**	**2**	**1**	**2**
ｂ．スポーツ教室、大会などへの参加	**1**	**2**	**1**	**2**
ｃ．旅行・キャンプ・つりなど	**1**	**2**	**1**	**2**
ｄ．学習活動	**1**	**2**	**1**	**2**
ｅ．趣味の同好会への参加	**1**	**2**	**1**	**2**
ｆ．ボランティアなどの社会活動	**1**	**2**	**1**	**2**
ｇ．障害のある仲間との交流（ふれあい）	**1**	**2**	**1**	**2**
ｈ．町会・地域活動	**1**	**2**	**1**	**2**
ｉ．特にない	**1**	**2**	**1**	**2**
ｊ．その他（　　）	**1**	**2**	**1**	**2**

■災害時の対応についてお聞きします。

問３３　あなたの災害時の対応についておたずねします。

（１）　地震などの災害時の避難場所を、あなたは知っていますか。

1. 知っている	**2.** 知らない

（２）　地震などの災害時に、あなたは一人で避難できますか。つぎの１～３の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. できる	**2.** できない	**3.** わからない

（３）　家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。つぎの１～３の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. いる	**2.** いない	**3.** わからない

（4）　地震などの災害時にすぐに困ると思われることは何ですか。つぎの１～１２の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 投薬や治療を受けられない
2. 補装具の使用が困難になる
3. 補装具や日常生活用具の入手ができなくなる
4. 自分の状況が周囲の人に理解してもらえない
5. 安全なところまで、迅速に避難することができない
6. 被害状況、避難所の場所、物資の入手方法などの情報が入ってこない
7. 周囲の人とコミュニケーションがとれない
8. 避難所の設備（トイレなど）について不安
9. 家族の安否情報がとりづらい
10. 救助を求めることができない
11. とくにない
12. その他（　　）

問３４　白山市では、災害時要援護者に対する支援として、災害時要援護者マップを作成しています。
（1）　このマップについて知っていますか。

1. 知っている　　**2.** 知らない

（2）　では、災害時要援護者マップの作成に同意をされていますか。つぎの１～３の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 同意している⇒問３５へ　　**2.** 同意していない⇒問３４（３）へ　　**3.** わからない⇒問３４（３）へ

（3）　**【問３４（２）で2か3と答えた方にのみお聞きします。】**今後、マップ作成に同意するつもりはありますか。

1. 同意するつもりはない⇒問３４（４）へ　　**2.** 同意するつもりだ⇒問３５へ

（4）　**【問３４（３）で1と答えた方にのみお聞きします。】**マップ作成に同意するつもりはない理由は何ですか。つぎの１～７の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 支援が期待できないから
2. 家族の支援を受けられるから
3. 個人情報を知られたくない
4. 依頼できる支援者がいないから
5. 町内会や自主防災組織などが組織的な取り組みをしていないのでなんとなく不安だから
6. 知っているが制度がよく理解できないため
7. その他（　　）

■あなたの医療や福祉サービスなどについてお聞きします。

問３５　あなたは医療のことで、なにか困っていることがありますか。つぎの１～７の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 通院するとき付き添いをしてくれる人がいない
2. 医師・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない
3. 医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない
4. 専門的な治療をしてくれる病院が近くにない
5. 医療費の負担が大きい
6. とくに困っていることはない
7. その他（　　）

問３６　あなたは医療・福祉サービスなどについてどちらに相談していますか。つぎの１～１３の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 民生委員・児童委員
2. 身体障害者相談員
3. 相談支援事業所・相談支援専門員
4. 市役所の相談窓口
5. 保健所・福祉健康センター
6. 医療機関
7. 障害福祉施設
8. 社会福祉協議会
9. 介護保険のケアマネージャー
10. 同じ障害のある人の団体・グループ
11. 相談するところがない
12. どこに相談に行ったらよいかわからない
13. その他（　　）

問３７　あなたが、暮らしやすくなるために、とくにしてほしいことはどのようなことですか。つぎの１～１７の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 毎日の生活の手助けがもっとほしい
2. 外出（買物など）の支援をしてほしい
3. 障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい
4. 障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい
5. 一般企業で働くことが難しいので、就労支援施設などを増やしてほしい
6. ジョブコーチ制度を充実させてほしい
7. リハビリ訓練の場所を増やしてほしい
8. 障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい
9. 外出しやすい環境や交通機関の利便を図ってほしい
10. いつでも何でも相談できる窓口を用意してほしい
11. いつでも何でも話し合える相談相手や仲間がほしい
12. 年金などの経済的な援助を増やしてほしい
13. スポーツ・レクリエーション・教育・文化活動に対する援助をしてほしい
14. 福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい
15. 円滑なコミュニケーションができるように、障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい
16. とくにない
17. その他（　　）

問３８　つぎのサービスをボランティアが行うとしたら、あなたは、どれを受け入れたいと思いますか。つぎの１～１０の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 調理	**6.** 病院などへの送迎・外出支援
2. 洗濯	**7.** 買い物
3. 部屋のそうじ・庭の手入れ	**8.** 代筆・代読
4. 話し相手、相談相手	**9.** ボランティアのサービスは受け入れない
5. 家屋内外の簡単な修理	**10.** その他（　　）

■ここからは障害や差別についてお聞きします。

問３９　障害に関する差別についてお聞きします。

（１）　あなたはこれまでに障害があるために差別をされたと感じたことがありますか。

1. ある⇒問３９（２）へ	**2.** ない⇒問４０へ

（２）　**【問３９（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**それはどのような分野での差別でしたか。つぎの１～９の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 医療	**4.** 防災	**7.** 文化活動
2. 教育・療育	**5.** 情報バリアフリー	**8.** 政治参加
3. 交通や建物のバリアフリー化	**6.** 行政手続き	**9.** その他（　　）

（３）　それはどのような経験でしたか。さしつかえなければ、具体的にお教えください。

問４０　障害者権利条約では、障害のある人がない人と同じように生活するために過大な負担とならない範囲で行う配慮や工夫を「合理的配慮」としています。また、「合理的配慮」を行わないことは差別として位置づけられています。あなたは、このような「合理的配慮」について知っていましたか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 合理的配慮の考え方について知っている
2. 合理的配慮という言葉は聞いたことがある
3. 合理的配慮については知らない

問４１　あなたは、障害のある人もない人も、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 知っている	**2.** 言葉だけは知っている	**3.** 知らない

問４２　障害と仕事に関する次のような意見についてどう思いますか。ａ～ｄのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる**番号**<u>**１つに**</u>○をつけてください。

	1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う	3．どちらともいえない	4．どちらかといえばそう思わない	5．そう思わない
ａ．障害のある人の雇用をうながすためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｂ．企業は、障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備しなければならない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｃ．企業が、障害のある人にとって働きにくい職場の施設を改善しないことは差別である	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｄ．障害のある人に特化した就労支援が必要である	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問４３　障害のある人を支援するための政策として、以下にあげた政策のうち、もっとも重要なことはどれだとお考えですか。つぎの１～６の中から、**<u>もっとも</u>**重要なこと、**<u>その次に</u>**重要なことの番号を回答欄のなかに記入してください。

1. 障害のある人の権利や尊厳を守ること
2. 障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること
3. 障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること
4. 障害のある人に世間並みの住居を提供すること
5. 障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること
6. 障害のある人をケアしている人を支援すること

もっとも重要なこと　□　　次に重要なこと　□

問４４　白山市の人びとに対して、障害への理解を広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下にご自由にご記入ください。

問４５　あなたは障害に関する以下のことについて、どのように思いますか。ａ～ｆのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う	3．どちらともいえない	4．どちらかといえばそう思わない	5．そう思わない
a．人の幸せと障害の有無は関係ないと思う	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
b．障害のある人が望めば、障害のない人と同じ教育を受けられるようにすべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
c．「障害者」という表現は、不適切な表現であると指摘されることもあるため、別の表現に書き改める必要がある	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
d．同じ時間働いたならば、障害のせいで成果が低かったとしても、障害のある人も障害のない人も同じ賃金であるべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
e．障害のある人も他の人と同じように責任や義務を果たすべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
f．たとえ負担が大きくなったとしても、障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましい	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

以上で質問は終わりです。

何かご記入もれはありませんか。ご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れてご投函ください。

お忙しいところ、貴重なお時間をさいていただきありがとうございました。

障害福祉に関する意識調査（障害のある児童）

単純集計表

問１　このアンケートにご記入いただくのはどなたですか。つぎの 1～4 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
ご本人が記入	4	4.9
ご家族が代筆	26	31.7
ご家族がご本人に代わって回答	52	63.4
その他	0	0
合計(有効ケース)	82	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	83	

問２　あなたの性別はどちらですか。つぎの中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください

	度数	%
男性	52	62.7
女性	31	37.3
合計(有効ケース)	83	100.0

問３　あなたは白山市のどの地域にお住まいですか。つぎの 1～4 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
松任	53	63.9
美川	9	10.8
鶴来	19	22.9
河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰	2	2.4
合計(有効ケース)	83	100.0

問４　あなたの年齢は何歳ですか。[2014(平成 26)年 10 月 1 日現在でお答えください]

	度数	%
1～6 歳	23	28.4
7～12 歳	28	34.6
13～15 歳	15	18.5
16～18 歳	15	18.5
合計(有効ケース)	81	100.0

問５　あなたの世帯は、あなたを含めて何人家族ですか。

	度数	%
2	2	2.4
3	15	18.1
4	30	36.1
5	21	25.3
6	8	9.6
7	5	6.0
8	2	2.4
合計(有効ケース)	83	100.0

問６　あなたが**同居されている**ご家族を、つぎの 1～7 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください

	度数	%
おとうさん	78	94.0
おかあさん	79	95.2
おじいさん	18	21.7
おばあさん	23	27.7
きょうだい	62	74.7
親戚の人	1	1.2
その他	1	1.2
合計(有効ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問７　あなたのお住まいについてお聞きします。

(1)　現在のお住まいは、つぎのなかのどれですか。つぎの 1～6 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
持ち家(一戸建て住宅)	73	88.0
持ち家(集合住宅[マンションなど])	0	0
市営・県営などの公的賃貸住宅	3	3.6
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	1	1.2
民間の借家・賃貸アパート・マンション	5	6.0
その他(具体的に：)	1	1.2
合計(有効ケース)	83	100.0

(2)　これからの生活をどこで送りたいですか。つぎの 1～7 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
持ち家(一戸建て住宅)	72	87.8
持ち家(集合住宅[マンションなど])	0	0
市営・県営などの公的賃貸住宅	0	0
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	2	2.4
民間の借家・賃貸アパート・マンション	3	3.7
入所施設	4	4.9
その他(具体的に：)	1	1.2
合計(有効ケース)	82	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	83	

問８

(1) あなたは、療育手帳をお持ちですか。

	度数	%
持っている⇒**問 8(2)へ**	61	73.5
持っていない⇒**問 9(1)へ**	22	26.5
合計(有効ケース)	83	100.0

(2)　**【問 8(1)で 1 と答えた方にのみお聞きします。】**あなたの療育手帳の判定は、つぎのいずれですか。つぎの 1～3 の中からあてはまる**番号 1 つに**つけてください。

	度数	%
A	19	32.2
B1	19	32.2
B2	19	32.2
Bとしか分からない	2	3.4
合計(有効ケース)	59	100.0
無回答・非該当	24	
合計(全ケース)	83	

(3) あなたが療育手帳をはじめて取得したのは何歳ですか。

	度数	%
1～5 歳	35	59.3
6～10 歳	14	23.7
11～15 歳	10	16.9
合計(有効ケース)	59	100.0
無回答・非該当	24	
合計(全ケース)	83	

問９

(1) あなたは、身体障害者手帳をお持ちですか

	度数	%
持っている⇒**問 9(2)へ**	26	32.9
持っていない⇒**問 10(1)へ**	53	67.1
合計(有効ケース)	79	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	83	

(2)　【問 9(1)で 1 と答えた方にのみお聞きします。】身体障害者手帳の等級は、総合等級では何級ですか。つぎの 1～6 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
1 級	13	50.0
2 級	6	23.1
3 級	6	23.1
4 級	0	0
5 級	0	0
6 級	1	3.8
合計(有効ケース)	26	100.0
無回答・非該当	57	
合計(全ケース)	83	

(3)　では、あなたの障害はどのような障害ですか。つぎの 1～5 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
視覚障害	1	3.4
聴覚障害、平衡機能障害	8	27.6
音声・言語機能障害、そしゃく機能障害	1	3.4
肢体不自由	14	48.3
内部障害	7	24.1
合計(有効ケース)	29	
無回答・非該当	54	
合計(全ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

(4)　あなたの障害の原因はなんですか。つぎの 1～6 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
交通事故	0	0
労働災害	0	0
その他の事故	0	0
先天性(生まれつき)	21	80.8
疾病	1	3.8
その他	4	15.4
合計(有効ケース)	26	100.0
無回答・非該当	57	
合計(全ケース)	83	

(5) あなたが身体障害者手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか。

	度数	%
1	4	26.7
2	5	33.3
3	2	13.3
4	3	20.0
5	1	6.7
合計(有効ケース)	15	100.0
無回答・非該当	68	
合計(全ケース)	83	

問 10

(1) あなたは、精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。

	度数	%
持っている⇒**問 10(2)へ**	4	5.3
持っていない⇒**問 11 へ**	71	94.7
合計(有効ケース)	75	100.0
無回答	8	
合計(全ケース)	83	

(2)　【問 10(1)で 1 と答えた方にのみお聞きします。】では、精神障害者保健福祉手帳の等級は、何級ですか。つぎの 1～3 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
1 級	0	0
2 級	4	100.0
3 級	0	0
合計(有効ケース)	4	100.0
無回答・非該当	79	
合計(全ケース)	83	

(3)あなたが精神障害者保健福祉手帳をはじめて取得したのは何歳でしたか。

	度数	%
4	1	25.0
9	1	25.0
11	1	25.0
15	1	25.0
合計(有効ケース)	4	100.0
無回答・非該当	79	
合計(全ケース)	83	

問11　あなたは難病(特定疾患)の認定を受けていますか。

	度数	%
はい	6	8.7
いいえ	63	91.3
合計(有効ケース)	69	100.0
無回答	14	
合計(全ケース)	83	

問12　あなたは発達障害(自閉症、学習障害など)の診断を受けていますか

	度数	%
はい	39	54.9
いいえ	32	45.1
合計(有効ケース)	71	100.0
無回答	12	
合計(全ケース)	83	

問13　あなたは、どのようなときに、どなたの支援が必要ですか。

(1)　支援が必要と思うのは、どのようなときですか。a～mのそれぞれについて、つぎの1～3の中からもっともあてはまる**番号1つに**○をつけてください。

a．食事をするとき

	度数	%
自分でできる	44	53.0
ときどき支援が必要	21	25.3
常に支援が必要	18	21.7
合計(有効ケース)	83	100.0

b．トイレを利用するとき

	度数	%
自分でできる	37	44.6
ときどき支援が必要	22	26.5
常に支援が必要	24	28.9
合計(有効ケース)	83	100.0

c．薬を飲んだり保管するとき

	度数	%
自分でできる	12	14.5
ときどき支援が必要	16	19.3
常に支援が必要	55	66.3
合計(有効ケース)	83	100.0

d．入浴するとき

	度数	%
自分でできる	27	32.5
ときどき支援が必要	20	24.1
常に支援が必要	36	43.4
合計(有効ケース)	83	100.0

e．着替えをするとき

	度数	%
自分でできる	35	42.7
ときどき支援が必要	22	26.8
常に支援が必要	25	30.5
合計(有効ケース)	82	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	83	

f．掃除・洗濯をするとき

	度数	%
自分でできる	5	6.1
ときどき支援が必要	15	18.3
常に支援が必要	62	75.6
合計(有効ケース)	82	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	83	

g．炊事をするとき

	度数	%
自分でできる	5	6.2
ときどき支援が必要	8	9.9
常に支援が必要	68	84.0
合計(有効ケース)	81	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

h．外出するとき

	度数	%
自分でできる	9	10.8
ときどき支援が必要	12	14.5
常に支援が必要	62	74.7
合計(有効ケース)	83	100.0

i．家の中で移動するとき

	度数	%
自分でできる	54	65.1
ときどき支援が必要	17	20.5
常に支援が必要	12	14.5
合計(有効ケース)	83	100.0

j．家族以外の人とコミュニケーションするとき

	度数	%
自分でできる	19	23.2
ときどき支援が必要	41	50.0
常に支援が必要	22	26.8
合計(有効ケース)	82	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	83	

k．生活費などのお金の管理

	度数	%
自分でできる	2	2.5
ときどき支援が必要	8	9.9
常に支援が必要	71	87.7
合計(有効ケース)	81	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

l．日常の暮らしに必要な事務手続き

	度数	%
自分でできる	2	2.5
ときどき支援が必要	6	7.5
常に支援が必要	72	90.0
合計(有効ケース)	80	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	83	

m．緊急時に避難・連絡したいとき

	度数	%
自分でできる	2	2.4
ときどき支援が必要	10	12.2
常に支援が必要	70	85.4
合計(有効ケース)	82	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	83	

問 14　あなたの日常生活上の主な支援者についておたずねします。

(1)　主な支援者はつぎのうちどなたですか。つぎの 1～12 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
配偶者	4	4.9
子ども	1	1.2
子どもの配偶者	0	0
自分の父母	71	86.6
配偶者の父母	0	0
自分の兄弟姉妹	2	2.4
配偶者の兄弟姉妹	0	0
自分の祖父母	2	2.4
配偶者の祖父母	0	0
孫	0	0
支援者はいない⇒**問 17 へ**	0	0
その他	2	2.4
合計(有効ケース)	82	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	83	

(2)　主な支援者に対して必要だと思われるケアやサポートがありますか。つぎの 1～10 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
仕事ができるようなサポート	40	49.4
外出できるようなサポート	19	23.5
代わりに支援を頼めること	40	49.4
支援者本人が自分の時間を持てるようにすること	19	23.5
支援の方法に関するアドバイス	32	39.5
経済的な援助	33	40.7
相談する相手	30	37.0
緊急時のサポート	36	44.4
特にない	9	11.1
その他	1	1.2
合計(有効ケース)	81	
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

(3)　主な支援者が高齢、病気などで将来支援ができなくなった場合は、どうしますか。つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
親族の支援を受ける	24	30.4
ホームヘルパーを利用し、自宅で暮らしたい	17	21.5
グループホーム・ケアホーム・福祉ホームで暮らしたい	17	21.5
施設に入所する	13	16.5
その他	8	10.1
合計(有効ケース)	79	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	83	

問 15　あなたは悩みや困ったことがある場合、どちらに相談されますか。つぎの 1～22 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
家族	69	85.2
親戚	7	8.6
友人・知人	18	22.2
市役所、児童相談所などの行政機関	20	24.7
障害者団体、患者団体や家族会	9	11.1
民生委員・児童委員	0	0
障害者相談員	9	1.1
相談支援事業所	11	13.6
施設や作業所の職員	10	12.3
グループホームの世話人	2	2.5
居宅介護のヘルパー	0	0
発達相談センター	14	17.3
配偶者の兄弟姉妹	0	0
高齢者支援センター	0	0
社会福祉協議会	1	1.2
医師や看護師などの医療関係者	13	16.0
学校の先生	33	40.7
職場の人	2	2.5
障害者就業・生活支援センター	5	6.2
相談したいができない（しない）	4	4.9
悩みや困ったことはない	2	2.5
その他	3	3.7
合計(有効ケース)	81	
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 16　自宅で入浴、排せつ、食事などの支援・介助を受けたり、調理、洗濯、掃除などの支援を受けたりする居宅介護(ホームヘルパーサービス)の利用について、あてはまる番号に○をつけてください。つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
利用している	1	1.3
今は利用していないが、利用したことはある	2	2.5
利用したことはないが、今後利用したい	14	17.5
利用したことはなく、今後も利用しない	25	31.3
サービスについて知らない	38	47.5
合計(有効ケース)	80	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	83	

問 17

(1)　あなたは、どちらに通園・通学(在宅訪問教育も含む)されていますか。つぎの 1～12 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
障害児通所施設	3	3.6
幼稚園	1	1.2
保育園	12	14.5
認定こども園	0	0
小学校・小学部	30	36.1
中学校・中学部	16	19.3
高等学校・高等部	16	19.3
専門学校・専修学校・各種学校	0	0
職業訓練校	0	0
仕事をしている	0	0
就園・就学しないで家にいる	5	6.0
その他	0	0
合計(有効ケース)	83	100.0

(2)　【問 17(1)で 5～7 と答えた方のみお答えください】では、通われているのはどれにあたりますか。つぎの 1～3 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
通常の学級	8	13.1
特別支援学級	38	62.3
特別支援学校	15	24.6
合計(有効ケース)	61	100.0
無回答・非該当	22	
合計(全ケース)	83	

問 18　通園・通学などでとくに困っていることがありますか。つぎの 1～11 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
通うのに付き添いが必要	18	24.0
授業についていけない・よくわからない	9	12.0
設備などが障害のある児童に配慮されていない	7	9.3
学校内・園内での介助が十分でない	8	10.7
友だちができない	8	10.7
先生の配慮や生徒たちの理解が得られない	8	10.7
「特別支援学級」に入れてもらえない	0	0
「通常の学級」に入れてもらえない	5	6.7
教科指導が十分に受けられない	5	6.7
とくに困っていることはない	33	44.0
その他	7	9.3
合計(有効ケース)	75	
無回答	8	
合計(全ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 19　学校で勉強する場合にどのような形を望みますか。つぎの 1～4 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
障害のあるなしに関わらず一緒のクラスで勉強したい	18	24.3
同じような障害のある仲間たちのクラスで勉強したい	11	14.9
障害のある仲間たちのクラスで勉強しながら、障害のない仲間たちとも勉強する機会を持ちたい	39	52.7
その他	6	8.1
合計(有効ケース)	74	100.0
無回答・非該当	9	
合計(全ケース)	83	

問 20　放課後に児童をあずかる放課後児童クラブについてお聞きします。放課後児童クラブを障害のある児童が利用することについて、つぎの 1～7 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
放課後児童クラブに通っている。または通っていた	16	20.8
いままでは利用していないが、これからは利用したい	0	0
小学校へ入学したら利用したい	9	11.7
希望したが、入れてもらえなかった。	2	2.6
希望はしない。または、希望しなかった。	39	50.6
放課後児童クラブを知らない。または知らなかった	6	7.8
その他	5	6.5
合計(有効ケース)	77	100.0
無回答・非該当	6	
合計(全ケース)	83	

問 21　放課後や夏休みなどの長期休暇中に障害のある児童が利用する放課後等デイサービスについてお聞きします。放課後等デイサービスを利用することについて、つぎの 1～7 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
放課後等デイサービスに通っている。または通っていた	38	50.0
いままでは利用していないが、これからは利用したい	5	6.6
小学校へ入学したら利用したい	5	6.6
希望したが、入れてもらえなかった。	0	0
希望はしない。または、希望しなかった。	10	13.2
放課後等デイサービスを知らない。または知らなかった	15	19.7
その他	3	3.9
合計(有効ケース)	76	100.0
無回答・非該当	7	
合計(全ケース)	83	

問 22　今の学校を卒業したあとのことを、どのように考えていますか。つぎの 1～9 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
高校・大学・専門学校などに進学したい	6	7.8
通常の学級に進学したい	12	15.6
特別支援学級・特別支援学校などに進学したい	32	41.6
施設に入りたい	3	3.9
施設に通いたい	3	3.9
就職したい	12	15.6
家にいたい	0	0
特に考えていない	4	5.2
その他	5	6.5
合計(有効ケース)	77	100.0
無回答・非該当	6	
合計(全ケース)	83	

問 23　【問 17(1)で 11 と答えた方にのみお聞きします。】

(1) 家にいる理由は何ですか。つぎの 1～6 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
まだ学校に通う年齢になっていないから	2	40.0
受け入れてくれる幼稚園・保育園・障害児通所施設(児童発達支援)がないから	0	0
受け入れてくれる学校がないから	0	0
就園・就学できる健康状態ではないから	2	4.0.
就園・就学したくないから	0	0
その他	1	20.0
合計(有効ケース)	5	100.0
無回答・非該当	78	
合計(全ケース)	83	

(2)　今後はどのようにしたいと思いますか。つぎの 1～4 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
障害児通所施設(児童発達支援)に通いたい	1	20.0
幼稚園・保育園・学校に通いたい	4	80.0
このまま家にいたい	0	0
その他	0	0
合計(有効ケース)	5	100.0
無回答・非該当	78	
合計(全ケース)	83	

問 24　【問 17(1)で 10 と答えた方にのみお聞きします。】あなたは現在、どのような形で働いていますか。つぎの 1～6 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
常勤(正規の職員・社員)	0	0
パート、アルバイト、臨時雇い（派遣社員を含む）	0	0
家の仕事(自営業、手伝い)	0	0
就労移行支援・就労継続支援・作業所など	0	0
内職	0	0
その他	0	0
合計(有効ケース)	0	0
無回答・非該当	83	
合計(全ケース)	83	

問 25　【ここからまたすべての人にお聞きします】高等学校・高等部卒業後、あなたはどのように暮らしたいとお考えですか。つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
家族と一緒に自宅で暮らしたい	59	76.6
家族から独立して暮らしたい	7	9.1
グループホーム・ケアホームで暮らしたい	3	3.9
入所施設に入りたい	4	5.2
その他	4	5.2
合計(有効ケース)	77	100.0
無回答	6	
合計(全ケース)	83	

問 26　あなたは過去 1 年間にどれくらい外出しましたか。つぎの 1～6 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
ほぼ毎日	59	71.1
週に 4～5 回	13	15.7
週に 2～3 回	3	3.6
月に 3～4 回	5	6.0
月に 1～2 回	1	1.2
ほとんど外出していない	2	2.4
合計(有効ケース)	83	100.0

問 27　あなたの主な外出先・要件はどちらですか。つぎの 1～10 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
通院	3	3.6
通学・通勤	63	75.9
買い物	9	10.8
親戚・友人・知人宅	1	1.2
役所	0	0
金融機関	0	0
団体等の会議・催し	1	1.2
余暇活動	0	0
デイサービスなどの福祉施設	4	4.8
その他	2	2.4
合計(有効ケース)	83	100.0

問 28　あなたは外出されるとき、主にどなたと外出されますか。つぎの 1～9 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
単独(白杖歩行・盲導犬を含む)	12	14.6
家族・親戚	57	69.5
ガイドヘルパー	2	2.4
ホームヘルパー	0	0
デイなどの施設の職員	3	3.7
友人・知人	3	3.7
近所の人	1	1.2
ボランティア	0	0
その他	4	4.9
合計(有効ケース)	82	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	83	

問 29　あなたの外出のときの主な移動手段は何ですか。つぎの 1～8 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
徒歩	13	16.0
自転車	5	6.2
バス	1	1.2
電車	5	6.2
タクシー	0	0
自家用車(自分で運転する)	1	1.2
自家用車(乗せてもらう)	54	66.7
その他	2	2.5
合計(有効ケース)	81	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

問 30　外出時における移動の支援などのお手伝いをする同行援護または移動支援事業などの障害福祉サービスを利用していますか。つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
利用している	17	21.3
今は利用していないが、過去に利用したことがある	2	2.5
利用したことはないが、今後利用したい	19	23.8
利用したことはなく、今後も利用しない	13	16.3
サービスについて知らない	29	36.3
合計(有効ケース)	80	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	83	

問 31　あなたが外出するうえで、なにか困っていることがありますか。つぎの 1～11 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
バス・電車などが容易に利用できるよう改良されていない	12	16.0
乗り物や公共施設の案内表示がわかりにくい	10	13.3
道路や駅に段差や階段、障害物などが多い	7	9.3
出入り口や階段、トイレなど建物が用意に利用できるよう改良されていない	10	13.3
車などに危険を感じる	21	28.0
まわりが気にかかる	16	21.3
支援者がいないので外出できない	5	6.7
人とのコミュニケーションがとりにくい	24	32.0
ほとんど外出しないのでわからない	3	4.0
とくに困ることはない	23	30.7
その他	5	6.7
合計(有効ケース)	75	
無回答	8	
合計(全ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 32 文化やレジャーなどの活動についてお聞きします。

(1)　あなたは、この 1 年間にどのようなことをしましたか。a～j のそれぞれについてあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

a．コンサートの鑑賞や観劇など

	度数	%
した	29	39.2
しない	45	60.8
合計(有効ケース)	74	100.0
無回答	9	
合計(全ケース)	83	

b．スポーツ教室、大会などへの参加

	度数	%
した	33	44.6
しない	41	55.4
合計(有効ケース)	74	100.0
無回答	9	
合計(全ケース)	83	

c．旅行・キャンプ・つりなど

	度数	%
した	50	606.7
しない	25	33.3
合計(有効ケース)	75	100.0
無回答	8	
合計(全ケース)	83	

d．学習活動

	度数	%
した	46	62.2
しない	28	37.8
合計(有効ケース)	74	100.0
無回答	9	
合計(全ケース)	83	

e．趣味の同好会への参加

	度数	%
した	9	12.5
しない	63	87.5
合計(有効ケース)	72	100.0
無回答	11	
合計(全ケース)	83	

f．ボランティアなどの社会活動

	度数	%
した	10	14.1
しない	61	85.9
合計(有効ケース)	71	100.0
無回答	12	
合計(全ケース)	83	

g．障害のある仲間との交流(ふれあい)

	度数	%
した	48	64.0
しない	27	36.0
合計(有効ケース)	75	100.0
無回答	8	
合計(全ケース)	83	

h．町会・地域活動

	度数	%
した	44	60.3
しない	29	39.7
合計(有効ケース)	73	100.0
無回答	10	
合計(全ケース)	83	

i．特にない

	度数	%
した	3	14.3
しない	18	85.7
合計(有効ケース)	22	100.0
無回答	61	
合計(全ケース)	83	

j．その他

	度数	%
した	1	5.9
しない	16	94.1
合計(有効ケース)	17	100.0
無回答	66	
合計(全ケース)	83	

(2)　今後、どのようなことをしたいと思いますか。a～j のそれぞれについてあてはまる番号１つに○をつけてください。

a．コンサートの鑑賞や観劇など

	度数	%
したい	56	80.0
したくない	14	20.0
合計(有効ケース)	70	100.0
無回答	13	
合計(全ケース)	83	

b．スポーツ教室、大会などへの参加

	度数	%
したい	50	71.4
したくない	20	28.6
合計(有効ケース)	70	100.0
無回答	13	
合計(全ケース)	83	

c．旅行・キャンプ・つりなど

	度数	%
したい	59	84.3
したくない	11	15.7
合計(有効ケース)	70	100.0
無回答	13	
合計(全ケース)	83	

d．学習活動

	度数	%
したい	49	74.2
したくない	17	25.8
合計(有効ケース)	66	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	83	

e．趣味の同好会への参加

	度数	%
したい	37	56.9
したくない	28	43.1
合計(有効ケース)	65	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	83	

f．ボランティアなどの社会活動

	度数	%
したい	31	48.4
したくない	33	51.6
合計(有効ケース)	64	100.0
無回答	19	
合計(全ケース)	83	

g．障害のある仲間との交流(ふれあい)

	度数	%
したい	52	78.8
したくない	14	21.2
合計(有効ケース)	66	100.0
無回答	17	
合計(全ケース)	83	

h．町会・地域活動

	度数	%
したい	50	78.1
したくない	14	21.9
合計(有効ケース)	64	100.0
無回答	19	
合計(全ケース)	83	

ｉ．特にない

	度数	%
したい	3	17.6
したくない	14	82.4
合計(有効ケース)	17	100.0
無回答	66	
合計(全ケース)	83	

ｊ．その他

	度数	%
したい	3	18.8
したくない	13	81.3
合計(有効ケース)	16	100.0
無回答	67	
合計(全ケース)	83	100.0

問33　あなたの災害時の対応についておたずねします。
(1) 地震などの災害時の避難場所を、あなたは知っていますか。

	度数	%
知っている	27	33.3
知らない	54	66.7
合計(有効ケース)	81	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

(2)　地震などの災害時に、あなたは一人で避難できますか。つぎの 1～3 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
できる	3	3.7
できない	62	76.5
わからない	16	19.8
合計(有効ケース)	81	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

(3)　家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。つぎの 1～3 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
いる	18	22.5
いない	31	38.8
わからない	31	38.8
合計(有効ケース)	80	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	83	

(4)　地震などの災害時にすぐ困ると思われることは何ですか。つぎの 1～12 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
投薬や治療を受けられない	20	25.0
補装具の使用が困難になる	11	13.8
補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	13	16.3
自分の状況が周囲の人に理解してもらえない	43	53.8
安全なところまで、迅速に避難することができない	50	62.5
被害状況、避難所の場所、物資の入手方法などの情報が入ってこない	24	30.0
周囲の人とコミュニケーションがとれない	46	57.5
避難所の設備について不安	27	33.8
家族の安否情報がとりづらい	37	46.3
救助を求めることができない	41	51.2
とくにない	1	1.3
その他	5	6.3
合計(有効ケース)	80	
無回答	3	
合計(全ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問34　白山市では、災害時要援護者に対する支援として、災害時要援護者マップを作成しています。
(1) このマップを知っていますか。

	度数	%
知っている	29	35.4
知らない	53	64.6
合計(有効ケース)	82	100.0
無回答	1	
合計(全ケース)	83	

(2)　では災害時要援護者マップの作成に同意されていますか。つぎの 1～3 の中からあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
同意している⇒**問 35 へ**	21	25.9
同意していない⇒**問 34(3)へ**	9	11.1
分からない⇒**問 34(3)へ**	51	63.0
合計(有効ケース)	81	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

(3)　**【問 34(2)で 2 か 3 と答えた方にのみお聞きします。】**今後、マップ作成に同意するつもりはありますか。

	度数	%
同意するつもりはない⇒**問 34(4)へ**	14	24.1
同意するつもりだ⇒**問 35 へ**	44	75.9
合計(有効ケース)	58	100.0
無回答	25	
合計(全ケース)	83	

(4)　**【問 34(3)で 1 と答えた方にのみお聞きします。】**マップ作成に同意するつもりはない理由は何ですか。つぎの 1～7 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
支援が期待できないから	0	0
家族の支援を受けられるから	8	50.0
個人情報を知られたくない	4	25.0
依頼できる支援者がいないから	1	6.3
町内会や自主防災組織などが組織的な取り組みをしていないのでなんとなく不安だから	0	0
知っているが制度がよく理解できないため	5	31.3
その他	2	12.5
合計(有効ケース)	16	
無回答・非該当	67	
合計(全ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 35　あなたの医療のことで、なにか困っていることがありますか。つぎの 1～7 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
通院するとき付き添いをしてくれる人がいない	2	2.6
意思・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない	17	21.8
医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない	10	12.8
専門的な治療をしてくれる病院が近くにない	14	17.9
医療費の負担が大きい	4	5.1
とくに困っていることはない	41	52.6
その他	7	9.0
合計(有効ケース)	78	
無回答	5	
合計(全ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 36　あなたは医療・福祉サービスなどについてどちらに相談していますか。つぎの 1～13 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
民生委員・児童委員	2	2.5
身体障害者相談員	3	3.7
相談支援事業所・相談支援専門員	26	32.1
市役所の相談窓口	34	42.0
保健所・福祉健康センター	11	13.6
医療機関	28	34.6
障害福祉施設	17	21.0
社会福祉協議会	2	2.5
介護保険のケアマネージャー	0	0
同じ障害のある人の団体・グループ	17	21.0
相談するところがない	2	2.5
どこに相談に行ったらよいかわからない	9	11.1
その他	4	4.9
合計(有効ケース)	81	
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 37　あなたが、暮らしやすくなるために、とくにしてほしいことはどのようなことですか。つぎの 1～17 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
毎日の生活の手助けがもっとほしい	11	13.4
外出の支援をしてほしい	7	8.5
障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい	49	59.8
障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい	45	54.9
一般企業で働くことが難しいので、就労支援施設などを増やしてほしい	33	40.2
ジョブコーチ制度を充実させてほしい	26	31.7
リハビリ訓練の場所を増やしてほしい	21	25.6
障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい	11	13.4
外出しやすい環境や交通機関の利便を図ってほしい	22	26.8
いつでもなんでも相談できる窓口を用意してほしい	22	26.8
いつでも何でも話し合える相談相手や仲間がほしい	18	22.0
年金などの経済的な援助を増やしてほしい	35	42.7
スポーツ・レクリエーション・教育・文化活動に対する援助をしてほしい	18	22.0
福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい	37	45.1
円滑なコミュニケーションができるように、障害の状況に応じた適切な支援を充実してほしい	37	45.1
とくにない	6	7.3
その他	8	9.8
合計(有効ケース)	82	
無回答	1	
合計(全ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 38　つぎのサービスをボランティアが行うとしたら、あなたは、どれを受け入れたいと思いますか。つぎの 1～10 の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
調理	16	21.3
洗濯	11	14.7
部屋の掃除・庭の手入れ	11	14.7
話し相手、相談相手	16	21.3
家屋内外の簡単な修理	7	9.3
病院などへの送迎・外出支援	32	42.7
買い物	19	25.3
代筆・代読	10	13.3
ボランティアのサービスは受け入れない	8	10.7
その他	13	17.3
合計(有効ケース)	75	
無回答	8	
合計(全ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

問 39　障害に関する差別についてお聞きします。

(1) あなたはこれまでに障害があるために差別をされたと感じたことがありますか。

	度数	%
ある⇒**問 39(2)へ**	38	46.9
ない⇒**問 40 へ**	43	53.1
合計(有効ケース)	81	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

(2)　問 39(1)で 1 と答えた方にのみお聞きします。】それはどのような分野での差別でしたか。つぎの 1～の中からあてはまる**番号すべてに**○をつけてください。

	度数	%
医療	5	13.2
教育・療育	29	76.3
交通や建物のバリアフリー化	2	5.3
防災	0	0
情報バリアフリー	2	5.3
行政手続き	4	10.5
文化活動	5	13.2
政治参加	0	0
その他	7	18.4
合計(有効ケース)	38	
無回答・非該当	45	
合計(全ケース)	83	

*. %は有効ケースに対する各項目ごとの度数の割合

(3) それはどのような経験でしたか。さしつかえなければ、具体的にお教えください。

	度数	%
記述なし	15	37.5
記述あり	25	62.5
合計(有効ケース)	40	100.0
無回答・非該当	43	
合計(全ケース)	83	

問 40　障害者権利条約では、障害のある人がない人と同じように生活するために過大な負担とならない範囲で行う配慮や工夫を「合理的配慮」としています。また、「合理的配慮」を行わないことは差別として位置づけられています。あなたは、このような「合理的配慮」について知っていましたか。つぎの 1～3 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
合理的配慮の考え方について知っている	5	6.2
合理的配慮という言葉は聞いたことがある	7	8.6
合理的配慮について知らない	69	85.2
合計(有効ケース)	81	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

問 41　あなたは、障害のある人もない人も、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。つぎの 1～3 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

	度数	%
知っている	15	18.1
言葉だけは知っている	15	18.1
知らない	53	63.9
合計(有効ケース)	83	100.0

問 42　障害と仕事に関する次のような意見についてどう思いますか。a～d のそれぞれについて、つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

a．障害のある人の雇用をうながすためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ

	度数	%
そう思う	45	55.6
どちらかといえばそう思う	17	21.0
どちらともいえない	17	21.0
どちらかといえばそう思わない	2	2.5
そう思わない	0	0
合計(有効ケース)	81	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

b．企業は、障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備しなければならない

	度数	%
そう思う	42	51.9
どちらかといえばそう思う	17	21.0
どちらともいえない	21	25.9
どちらかといえばそう思わない	1	1.2
そう思わない	0	0
合計(有効ケース)	81	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

c．企業が、障害のある人にとって働きにくい職場の施設を改善しないことは差別である

	度数	%
そう思う	31	38.3
どちらかといえばそう思う	16	19.8
どちらともいえない	28	34.6
どちらかといえばそう思わない	3	3.7
そう思わない	3	3.7
合計(有効ケース)	81	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

d．障害のある人に特化した就労支援が必要である。

	度数	%
そう思う	49	60.5
どちらかといえばそう思う	18	22.2
どちらともいえない	11	13.6
どちらかといえばそう思わない	2	2.5
そう思わない	1	1.2
合計(有効ケース)	81	100.0
無回答	2	
合計(全ケース)	83	

問 43　障害のある人を支援するための政策として、以下にあげた政策のうち、もっとも重要なことはどれだとお考えですか。つぎの 1～6 の中から、**もっとも**重要なこと、**その次に**重要なことの番号を回答欄のなかに記入してください。

もっとも重要なこと

	度数	%
障害のある人の権利や尊厳を守ること	27	33.8
障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること	17	21.3
障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること	29	36.3
障害のある人に世間並みの住居を提供すること	1	1.3
障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること	1	1.3
障害のある人をケアしている人を支援すること	5	6.3
合計(有効ケース)	80	100.0
無回答	3	
合計(全ケース)	83	

次に重要なこと

	度数	%
障害のある人の権利や尊厳を守ること	4	5.1
障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に援助すること	21	26.9
障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること	23	29.5
障害のある人に世間並みの住居を提供すること	2	2.6
障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること	10	12.8
障害のある人をケアしている人を支援すること	18	23.1
合計(有効ケース)	78	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	83	

問 44　白山市の人々に対して、障害への理解を広げるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下に自由にご記入ください。

	度数	%
記入なし	52	62.7
記入あり	31	37.3
合計(有効ケース)	83	100.0

問 45　あなたは障害に関する以下のことについて、どのように思いますか。a～f のそれぞれについて、つぎの 1～5 の中からもっともあてはまる**番号 1 つに**○をつけてください。

a．人の幸せと障害の有無は関係ないと思う

	度数	%
そう思う	34	43.0
どちらかといえばそう思う	17	21.5
どちらともいえない	17	21.5
どちらかといえばそう思わない	3	3.8
そう思わない	8	10.1
合計(有効ケース)	79	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	83	

b．障害のある人が望めば、障害のない人と同じ教育を受けられるようにすべきだ

	度数	%
そう思う	40	50.6
どちらかといえばそう思う	23	29.1
どちらともいえない	12	15.2
どちらかといえばそう思わない	3	3.8
そう思わない	1	1.3
合計(有効ケース)	79	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	83	

c．「障害者」という表現は不適切な表現であると指摘されることもあるため、別の表現に書き改める必要がある

	度数	%
そう思う	16	20.3
どちらかといえばそう思う	19	24.1
どちらともいえない	27	34.2
どちらかといえばそう思わない	9	11.4
そう思わない	8	10.1
合計(有効ケース)	79	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	83	

d．同じ時間働いたならば、障害のせいで成果が低かったとしても、障害のある人も障害のない人も同じ賃金であるべきだ

	度数	%
そう思う	21	26.9
どちらかといえばそう思う	13	16.7
どちらともいえない	24	30.8
どちらかといえばそう思わない	15	19.2
そう思わない	5	6.4
合計(有効ケース)	78	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	83	

e．障害のあるひとも他の人と同じように責任や義務を果たすべきだ

	度数	%
そう思う	8	10.3
どちらかといえばそう思う	19	24.4
どちらともいえない	31	39.7
どちらかといえばそう思わない	8	10.3
そう思わない	12	15.4
合計(有効ケース)	78	100.0
無回答	5	
合計(全ケース)	83	

f．たとえ負担が大きくなったとしても、障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましい

	度数	%
そう思う	29	36.7
どちらかといえばそう思う	25	31.6
どちらともいえない	20	25.3
どちらかといえばそう思わない	3	3.8
そう思わない	2	2.5
合計(有効ケース)	79	100.0
無回答	4	
合計(全ケース)	83	

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

	度数	%
記入なし	54	65.1
記入あり	29	34.9
合計(有効ケース)	83	100.0

障害福祉に関する意識調査（障害のある児童）
記述回答一覧

※　同一文言による回答は一つのみ記載した。

問３７（３）　障害に関する差別についてお聞きします。あなたはこれまでに障害があるために差別をされたと感じたことがありますか。それはどのような経験でしたか。さしつかえなければ、具体的にお教えください。

小学校内で、子供同士のつきあいの中で、軽い仲間外れのたぐいのもの。親切な友達がいない。
学校で係のグループぎめにさんかできなかったらクラス（先生も）にそのまま私だけがグループに入れなかったなど
いじめ
学校でのいじめ
小学校の時特別支援級にいて、通常学級のお子さんが「おまえしょうがいじや！」「へんなやつや！」「あたまわるいげん！」とからかいにあいました。
通常クラスの下たばこの場所をえらい人がくるとき、どかされた。
通常学級を望んだが、入れてもらえなかった。
・通常学級で学習したいと希望したが、特別支援学級を強く言われ入ることになった。
小学校への進学時、校長先生からしつこく特別支援学校への進学を勧められ、特別支援学級への進学でさえ嫌がられた
町内の子ども会に入れてもらえず、ラジオ体操に参加させてもらえなかった。子ども会行事の情報も入ってこないし、支援学校の子は入会ＮＧと言われた。
障害がある為兄弟と同じ学資保険に入れない。（入れる保険が少ない）ケガの保険では他の兄弟よりも掛金の高いものにしか入れない。
差別なのかどうかわかりませんが小さい頃、（幼、保育園に入る前）児童館や、子育てセンターに行くとそこの職員に目のかたきにされ、（女性）何もやっていないのに帰るころその人に何回事務室に呼びだされ、「おたくのおこさん、○○ちゃん（くん）に乱暴した、あとで家に電話をしてあやまって下さい」と家の電話番号がかいた用紙を渡されました。あとでかけると、おかあさんらしい人がでて、ありがとうと言われたこともあるし「そうなの、でもおたくのおこさんかは私は知らない」と言われました。そういう子を連れてくるなと言われたことはないが、いろいろ問題もおこるしはっきりいって私困るのねーみたいな態度をスタッフからは毎回とられました。市役所のまど口にも言ったが（福し課）聞いてもらえませんでした。
どうせいなにもできないんでしょっていわれた
８番らーめん駅西店でおいっ子がさわいだら、「出ていけ」と言われた。こちらも子供をなだめていたがまだ理解されていない。

スイミングクラブの入会を断わられた
・産院で障害が分かり、医師から「ろくな子に育たない」等と否定的に言われた。・学校では行政からの指示のもと、支援学級の生徒は交流学級の付け足しの様な扱いを受ける。（書類、名簿など）子ども同士に差別意識は無いのに大人がその邪魔をしているように思える。・校長先生が変わると扱いが急に変わり、子どももとまどっている。
どうしても大きな声が出てしまうのでお店の人に注意を受けたり、他のお客さんから怒鳴られたり、にらまれたりした。
６．支援サービスの申請時に意思の伝えられない人に移動支援サービスは提供できないと言われてしまった。サービスを受けることに対してからかわれた。２．部活動の参加を拒まれ、予定表など配布されない。発表会等は本人にも他の部員にも観覧席の方々にもマイナスだと言われたこと。１．産前検査にて多重奇形と診断され、医師の方から処置を施さない方がいいと提案されたこと。
・クレインのプールで係員に大きな声で騒ぐな、プールのすみで遊べと言われた。・バードハミングのプールがなくなった。障害者が唯一リハビリをかねて遊べるプールであったがなくなった。新聞などで問題視されたが市長の方針で却下された。健生児しか利用できない野球場を建設予定である。障害者が利用出来る施設がなくなってきている。
障害が目に見えて分からない為障害がある事身体を分かってもらえない。その為、健常者と同じ事を求められる。
保育園が加配の先生を、おねがいするにあたり療育手帳をとるように言われました。当然の事なのですが…すごく、つらい気持ちになりました。
学校にエレベーターが設置されていない。学校に入学するだけなのに教育委員会との話し合いがあること。
差別とは違うが予防接種を個人で受けに行くと、あばれて受けられないので特別支援学校内か、障がいのある子にも接種できるような場を作ってほしい。
普通校（小学校）の教師は、障害の理解が乏しい。ものを扱うように１日つきっきりでいる特別支援学級の教師の対応に差別を感じた。

問４４　白山市の人々に対して、障害への理解を広げるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下に自由にご記入ください。

理解は徐々にされていくと思うが、平等認知には致らないと思う。
・広報などにコラムをのせる・障害のある人を雇用しているなら、社内での勉強会などの実施
・白山市長が障害者に対してもっと理解を示し、接極的な施策をとる。・障害者リストを作成し市民に公表する。どこに誰が障害者なのか、知らせることにより、もっと理解が深まる。
障害者が多方面で活躍している姿をメディア等で広く周知、ＰＲする。
まだ学生なので、わからないことがたくさんあります。でも、地域にこんな障害をもっている人がいるということを周知していかないといけないのではないでしょうか。
障害者に対して特化した行政サービスを行っている自治体として広報活動（メディア等）する。その上で、市の祭りやワークショップ等へ積極的に参加させ周知される様にする。（先に情報を周知する事で差別をなくし共感を得られやすくする）
障害のある人が社会へ出ていくことが必要だと思う。私は自閉症の子どもをどんなときでもどこへ行くにでも連れていきますが、外出先などで、同じような障害をもつ人をみたことがありません。支援学校の母親たちも、子どもを連れて買い物や旅行に行けないと言います。理由は「人の目」だそうです。私は人の目を全く気にしてないので連れ歩きますが、それができない人達が沢山いるので、障害がある子ども達がもっと外へ出ていろんな物をみて体験できるように、「人の目」←障害者への理解がなされていってほしいと思います。
障がいのある人も社会の中へでて、いろんなことに参加し、各種イベントなどでも障がい者のコーナーを設けるなどしてほしい。
障害者自身が積極的に外に出る。（いろいろな人がいるという経験がどんな人もできるようになると感じるから）
もっと障害者本人の体験談などを聞いて（または聞く時間、場所）を作ってほしい。学校など集会などで子供達に話を聞く機会を作ってほしい。
一人一人が少しでも思いやりの気持ちを持って接してもらえればいいと思います。講演会など行なうことも良いことだと思います。
発達障害は、目に見えない障害です。それを目に見える形で体験をさせてくれる団体があります。理解を深めるために、いろいろな場所で、それができたら良いと思う。障害という名前がバリアとなっていて、障害のことを聞いてはいけないのではないか？障害があるから、がまんしなければいけないのか、など、お互いにバリアができて、近づけないと思う。平均して、できなければいけない考え方は、障害をもつ人にとって、生きにくい。出きる出来ないではなくて得意、不得意として、とらえ個性を尊重できる社会になれば良いと思う。
私（の子ども）は現在、様々な支援、配慮のおかげで、安定した状態で生活できていますが、中でも最も大きいのが担任の先生の理解、支援だと思います。担任の先生の接し方や周囲との橋渡しにより、障がいを持たない周囲の子や保護者、他の先生方の理解度も違ってくるからです。なので、白山市でも金沢市のように、特別支援級の担任の先生を対象に、年に一回程度の研修を行うことが、あらゆる障がいへの理解を深めることへの一歩として有効だと考えます。

話せる聴覚障害は軽視されやすく、学校等でのサポートもあとまわしにされやすい。障害別でどんなサポートが必要か教育者に指導していただきたい。
親自体は、障害を理解されていますが、子供に対しても理解してもらえる様、教育を行ってほしいです。学校の教育科目に入れてみてはどうでしょうか。
息子は小学校へ通っていますが、同学年はもちろん、他の学年の子供達にも「障害について」の学習、教育の時間を今以上に増やして理解してくれたらいいなと思います。
・市がコミュニケーションを取るための施策を考える。・市長が全面的に障害福祉をサポートしている事をアピールする。・各施設（デイサービス等）に地域の人に遊びにきてもらい、理解してもらう。
年令関係なく障害者との交流・ふれあいが必要だと思う
できるだけ支援級ではなく、普通級で健常者、障害者が共に学べるように小さい時から自然に隣にちょっと手伝ってあげなきゃいけない子がいるという環境をつくってあげる方が良いのでは。小さければ小さい程自然に受け入れてる気がします。大きくなって差が大きくなってからいきなり隣に来ても敬遠してしまうと思うので
幼い頃から地或の保育園～中学校にあたりまえに通い、同年代の子どもや生徒と一緒に過ごす事がとても大切に思います。行き場を探す為に右往左往しなければならない事が多く感じます。住んでいる地域で生きて行ける様になれば身近な周囲の人の理解が得られやすいのではないでしょうか。
まずは障がいのある人とない人が一緒に生活し関わることからだと思います。障害の程度によって分けられる社会があたり前で、教育を受けることで障がいを持っている人と家族は差別を受けます。光多朗は幼少期から地域の中で育っているので、地域の中ではとても過ごしやすいです。そして一緒に育つ子どもたちは素直に光多朗の存在を認め助けてくれます。差別をつくり出しているのは大人です。教育現場から早急に理解を求めることが重要かと思いますが…。障がいがあるからという理由で支援学校へしか行けないと思われる方が多いです。ここは行政がしっかりと伝えることが必要だと思います。障がいを持った方々と関わることは本当に大切な事はなにか気付けるチャンスです。
小さな頃より、障害のある人々と生活する機会を増やしていく。
地域との交流を深めること（なるべく自分からすすんで何にでも参加する、やってみるをモットーにしています）
・障害者又は、その人を支援している人達が積極的に、まわりの人々と関わっていく事。・市民が障害者の就労施設の文化祭等に積極的に参加する事、気軽に立ち寄ったりできる様になること。
１障害児と健常児が、交流できる機会を増やすこと。
小さいうちから関わりを持てるような機会がもてれば、少しは偏見はなくなるかな？？小学校へ行くとか、その反対に小学生が支援学校の子と交流もつとか？？
興味を持つこと　同じ人間だという目線をもつこと
リハビリ施設、内容を増やしてほしい。

いまだに、障害の子を持つ親（家族）にも、「あのうちはしょうがい者おるから」と特別あつかいされたりします。子どももつらいですが、親もとてもつらい日々を送っています。でも理解者もたくさんいてくれて、支えられる時があります。イベントなどの参加もそうですが、飲食店にも気軽に入れるようにしたいです。嫌がられたり、さけられたりもしますから、時間をずらして食べに行ったりもします。
まずは、福祉サービスの制度を紹介する立場にある人や障害者本人に対して支援を行う人が、障害について正しく理解していただきたいです。
こんなアンケートが来るなんて、びっくりしました。いろんな人がいるのでもっと封筒に配慮してほしいです。プライバシーを、考えてもらえると嬉しいです。

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

「世間並み」という表現を使った意図がわからない。「一般的な」とか「平均的な」とか他の表現に置きかえようという指摘が、作成前に出なかったのか、不思議だ。
障がい者に「害」の字がつくことがわざわいや悪影響を及ぼすみたいで嫌です。
「障害」という言葉は、親にとっても周囲の人にとっても、壁になり、積極性を欠く言いまわしに思えます。言葉ぐらいと思うこともありますが、日本の社会は、特に、同じことを好む人が多いため、差別につながっていると思う。若いときから、ボランティアや障害の方々と共に、すごせる機会がある人は（支援する大人もきちんと理解できている上で）自然なつき合い方をしている人が多い。もっと違うことをおもしろいと思える考え方ができる人たちが増えていくことを願います。調査にとどまらず！！できるだけ、これをもとに、何か実行、実現をしてほしい。・発達障害の手帳があれば・・・。
ｅについて、ですが、障害にも重い軽いがあります。障害があるものが、事件、事故を起すニュースがありました。一概には決める事は出来ないと思います。
記入する人物が子どもだった場合にはいりょがたりない。
療育手帳を返環したので、このアンケートがなぜ送られてきたのか…わかりかねます。たぶんお役に立てないと思います。すみません。
・個人に対しても必要であるが、ほとんどが親族が面倒見ているので、親族の意見調査も必要であると思う。・障害者自身アンケート内容を理解出来きないと思う。理解出来るなら、ほとんど自分で出来る。（自閉の場合）・身体と精神では、アンケートの質問が異なる。もっと区別して実施すべきではないか。
１６才の高校生が返答していますので、後半の質問に関しては、まだ未知の世界、言葉の意味も、社会の組織、しくみもわからない事だらけで、返答しております。研究の役に立たるかどうか、わかりませんが…
アンケート結果がしっかりと障害福祉施策に反映されているという実感がほしい。またはデータ結果の公表やその結果をもとにどういう施策にとりくんでいくかなど課題を明確にして対処していただきたいです。身障者がどのように感じているかだけの統計的な調査では意味はないと思うからです。
このアンケート結果を集約したものを郵送下さるとうれしいです。
・サンプリング調査と言うことでしたが、市もこういう事をするのであればあらかじめ説明しておいてほしい。・個人情報保護法（２３条）の的用外の所でやっているので同意なしでやれる事は、知っていますが、出きれば同意書をとってほしい。・アンケートを記入した以上は、該当者に対してフィードバッグをしてほしい。※色々書きましたが障害者のためがんばってください。
アンケート内容が難しい。
本人はまだ幼い（１才０ケ月）なので質問内容が難しかったです。
自閉症の息子に代わって回答しました。本人でないと回答できないものは白紙にて提出します。もう少し設問の内容がやさしければ、本人の意志を反映して回答できたと思います。

問４５の質問ですが責任や義務という事を理解できる子供ならよいですが私の子はむずかしい言葉は理解できないのでそういう事をわかってもらえるような社会（周りの人）になってほしいと思います
名簿の処分が予定となっております。「いつまでに？」期日を決めてください。
両親は白山市の住民ですが、本人は、金沢市なのに白山市から調査がくるのでしょうか？
障害福祉について、もっと知る機会、学ぶ機会が必要だと思う。障害福祉サービスはもっともっと閉ざされていないものになる必要がある。その為に調査や、研究などを数多くされることを望みます。また、発達障害についてもっともっと深く調べ、目に見える形にしてほしいと思います。
資料とするだけでは無く、役立った地域作りをお願い致します。
障害をもった子ども達が生きやすい世の中になるように改善していって下さい。白山市は他の市町村に比べて障害をもつ人に対して優しい街だと思います。どうか良い方向にだけ動いていって下さい。
もっと障害者に対して理解の深まる社会になることを願っています。障害者も住みやすい社会になりますように…
障害のある人（特に発達障害のような外見を見て障害があるとわからないような人）も住みやすく働くことのできる市（町）を作って下さい。いつか医療が発達して障害が治る…そんな時代がきますように…。
本人がまだ６歳しかも知的にも身体とも重度なので答えるのが難しい部分が多々ありました。
子供がまだ５才なので、未来の事は考えられないので確実な回答なのか不明です。又、内部障害の為、苦労する面も現在は、あまりなく、アンケートに参加するべきなのかと考え、なかなか書けませんでした！
・本人の意思表示がむずかしいので親の推測で記入せざるをえなかった部分があります。
５才なので本人の記入はできませんでした。本人の意思を尊重してとありますが、実際どうか分かりません。調査の結果で、何が変わるのか分かりませんが、障害者福祉施策の充実のために頑張って頂きたいと思います。提出が遅くなりすみませんでした。
提出おそくなりすみません。
前のページに書きました。
調査を実施して下さり、ありがとうございます。

資料５

障害福祉に関する市民意識調査

障害福祉に関する市民意識調査

２０１４年１０月

調査へのご協力のお願い

１．この調査は、障害のある人びとの生活全般の向上をめざし、だれもが安心して暮らせる福祉社会の実現に向けての基礎資料とするために、白山市と金沢大学「障害と医療・福祉」研究会が共同で実施するものです。調査の目的をご理解いただき、率直なご意見をご記入いただきますようお願いいたします。

２．この調査は、白山市にお住まいの２０歳から７９歳までの方々から、くじ引きに似た方法（無作為抽出法）で１５００名を選ばせていただきました。

３．回答は、**封筒の宛名のご本人**が記入してください。ご本人が回答できない場合は、調査票に記入せずにそのままご返送ください。

４．この調査は無記名ですので、どなたが回答したか特定されることはございません。みなさま方個人および、ご家族の方々のことが外部にもれることは絶対にありません。また、この調査票で得られたデータは、白山市の福祉行政を実現する施策づくりおよび大学での研究目的以外には使用いたしません。

５．ご記入いただきましたら、**１０月１４日（火）**までに同封の返信用封筒に入れてご投函ください。**※切手は不要です。封筒裏面に差出人のお名前を記入する必要もありません。**

６．以上の点をご理解いただき、なにとぞご協力をお願いいたします。この調査に関するご質問がございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

【実施責任者】
白山市健康福祉部障害福祉課
金沢大学「障害と医療・福祉」研究会

【問い合わせ先】
白山市健康福祉部障害福祉課
Ｔｅｌ：０７６－２７４－９５２６
Ｆａｘ：０７６－２７５－２２１１

調査票記入上の注意事項

◎ご記入は、黒または青色のボールペン・ペン・鉛筆でお願いいたします。
◎回答のしかた
（１）ほとんどの質問は、あてはまるものの番号（**１２３・・・の数字**）を**○印**でかこんで、お答えください。
（２）いくつかの質問には、枠内に文字・数字を直接ご記入ください。
（３）答えにくい質問があるかもしれませんが、できるだけすべての質問にお答えいただければ幸いです。

■まず、あなたご自身のことについてお聞きします。

問１　あなたの性別はどちらですか。

1. 男性	**2.** 女性

問２　あなたの年齢は何歳ですか。〔２０１４（平成２６）年１０月１日現在でお答えください〕

満 □□ **歳**

問３　あなたは白山市のどの地域にお住まいですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 松任
2. 美川
3. 鶴来
4. 河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰

問４　あなたは白山市（合併前の旧市町村も含む［平成１７年２月に合併］）に住んで、今年で何年目になりますか。白山市以外にお住まいの期間を除いて、合計年でお答えください。

□□ **年目**

■障害のある人との交流などについてお聞きします。

問５　あなたのこれまでの日常生活において、以下のような障害のある人が身近にいましたか。

（１）　**発達障害や精神障害のある人**が身近にいらっしゃいましたか。あてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. 家族にいる（いた）	**5.** 職場の同僚にいる（いた）
2. 親戚にいる（いた）	**6.** 自身に発達障害や精神障害がある（あった）
3. 友人にいる（いた）	**7.** 身近にはいない（いなかった）
4. 近所にいる（いた）	**8.** その他（具体的に：　　）

（２）　**身体障害のある人**が身近にいらっしゃいましたか。あてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1. 家族にいる（いた）	**5.** 職場の同僚にいる（いた）
2. 親戚にいる（いた）	**6.** 自身に身体障害がある（あった）
3. 友人にいる（いた）	**7.** 身近にはいない（いなかった）
4. 近所にいる（いた）	**8.** その他（具体的に：　　）

（３）　知的障害のある人が身近にいらっしゃいましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 家族にいる（いた）	**5.** 職場の同僚にいる（いた）
2. 親戚にいる（いた）	**6.** 自身に知的障害がある（あった）
3. 友人にいる（いた）	**7.** 身近にはいない（いなかった）
4. 近所にいる（いた）	**8.** その他（具体的に：　　）

問６　以下にあげる障害について、どの程度ご存知ですか。ａ～ｌのそれぞれについて、つぎの１～４の中からあてはまる番号１つに○をつけてください。

	１．まったく知らない	２．名前は知っているが、内容はよくわからない	３．名前は知っており、内容も多少知っている	４．名前も内容もよく知っている
ａ．注意欠陥多動性障害（ADHD）	**1**	**2**	**3**	**4**
ｂ．自閉症	**1**	**2**	**3**	**4**
ｃ．身体障害	**1**	**2**	**3**	**4**
ｄ．アスペルガー症候群	**1**	**2**	**3**	**4**
ｅ．摂食障害	**1**	**2**	**3**	**4**
ｆ．知的障害	**1**	**2**	**3**	**4**
ｇ．双極性障害	**1**	**2**	**3**	**4**
ｈ．高機能自閉症	**1**	**2**	**3**	**4**
ｉ．統合失調症	**1**	**2**	**3**	**4**
ｊ．発達障害	**1**	**2**	**3**	**4**
ｋ．学習障害（LD）	**1**	**2**	**3**	**4**
ｌ．精神障害	**1**	**2**	**3**	**4**

問７　身体障害と聞いて、あなたはどのような人のことを思い浮かべますか。なるべく具体的にお答えください。

問８　以下にあげる法律やその他の項目について、どの程度ご存知ですか。ａ～ｇのそれぞれについて、あてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	１．まったく知らない	２．名前は知っているが、内容はよくわからない	３．名前は知っており、内容も多少知っている	４．名前も内容もよく知っている
ａ．障害者基本法	**1**	**2**	**3**	**4**
ｂ．障害者総合支援法	**1**	**2**	**3**	**4**
ｃ．障害者雇用促進法（障害者の雇用の促進等に関する法律）	**1**	**2**	**3**	**4**
ｄ．発達障害者支援法	**1**	**2**	**3**	**4**
ｅ．障害者虐待防止法	**1**	**2**	**3**	**4**
ｆ．障害者権利条約（障害者の権利に関する条約）	**1**	**2**	**3**	**4**
ｇ．障害者相談支援専門員	**1**	**2**	**3**	**4**

問９　あなたのこれまでの障害のある人との関わりについてお聞きします。

（１）　**発達障害や精神障害のある人**とどのように関わってきましたか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 積極的に関わっていた
2. どちらかというと積極的に関わっていた
3. あまり関わりはなかった
4. 関わりをさけていた
5. 発達障害や精神障害のある人と出会ったことはない

（２）　**身体障害のある人**とどのように関わってきましたか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 積極的に関わっていた
2. どちらかというと積極的に関わっていた
3. あまり関わりはなかった
4. 関わりをさけていた
5. 身体障害のある人と出会ったことはない

（３）　**知的障害のある人**とどのように関わってきましたか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 積極的に関わっていた
2. どちらかというと積極的に関わっていた
3. あまり関わりはなかった
4. 関わりをさけていた
5. 知的障害のある人と出会ったことはない

問１０　あなたは**最近の３年間**で、障害のある人のためのボランティア活動にどのような頻度で参加しましたか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 週に１回以上参加した	**4.** ここ３年間に１回くらい参加した
2. 月に１回くらい参加した	**5.** ここ３年間参加したことはない
3. 年に１回から数回参加した	

問１１　あなたはこれまでに障害に関する授業や講演、研修を受けたことがありますか。つぎの１～４の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 受けたことはない	**3.** 何度かある
2. １回ある	**4.** 頻繁（ひんぱん）にある

問１２　障害と仕事に関する次のような意見についてどう思いますか。ａ～ｄのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	１．そう思う	２．どちらかといえばそう思う	３．どちらともいえない	４．どちらかといえばそう思わない	５．そう思わない
ａ．障害のある人の雇用をうながすためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｂ．企業は、障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備しなければならない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｃ．企業が、障害のある人にとって働きにくい職場の施設を改善しないことは差別である	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｄ．障害のある人に特化した就労支援が必要である	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問１３　白山市の人びとに対して、障害ある人への理解を広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下にご自由にご記入下さい。

■ここからは障害に関するお考えについてお聞きします。

問１４　障害のある人の生活についてどのように思いますか。ａ～ｄのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う	3．どちらともいえない	4．どちらかといえばそう思わない	5．そう思わない
a．障害のある人の生活は家族や親族が支えるべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
b．障害のある人は施設で生活するほうがよい	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
c．障害のある人が自立して生活していくことは難しい	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
d．障害のある人の生活は地域で支えるべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問１５　障害のある人を支援するための政策として、以下にあげた政策のうち、重要なことはどれだとお考えですか。つぎの１～６の中から、**もっとも**重要なこと、**その次に**重要なことの番号を回答欄のなかに記入してください。

1. 障害のある人の権利や尊厳を守ること
2. 障害のある人が世間並みの生活ができるように経済的に支援すること
3. 障害のある人に働く機会を提供したり、働きやすい環境を整えたりすること
4. 障害のある人に世間並みの住居を提供すること
5. 障害のある人がさまざまな社会活動に参加することができるようにすること
6. 障害のある人をケアしている人を支援すること

もっとも重要なこと　□　　次に重要なこと　□

問１６　障害に関して、あなた自身のことについてお聞きします。ａ～ｅのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	1．そう思う	2．どちらかといえばそう思う	3．どちらともいえない	4．どちらかといえばそう思わない	5．そう思わない
a．障害のある人のためのボランティア活動に参加したい	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
b．障害のある人と一緒に仕事をしても、十分うまくやっていける	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
c．障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたい	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
d．障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方だ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
e．自分は、障害のある子どもの親になったとしても十分うまくやっていける	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問１７　あなたは障害に関する以下のことについて、どのように思いますか。ａ～ｇのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	１．そう思う	２．どちらかといえばそう思う	３．どちらともいえない	４．どちらかといえばそう思わない	５．そう思わない
ａ．人の幸せと障害の有無は関係ないと思う	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｂ．障害のある人が望めば、障害のない人と一緒に教育を受けられるようにすべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｃ．「障害者」という表現は、不適切な表現であると指摘されることもあるため、別の表現に書き改める必要がある	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｄ．同じ時間働いたならば、障害のせいで成果が低かったとしても、障害のある人も障害のない人も同じ賃金であるべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｅ．近所に障害のある人たちの施設やグループホームなどができることに不安を感じる	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｆ．障害のある人も他の人と同じように責任や義務を果たすべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｇ．たとえ負担が大きくなったとしても、障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましい	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

■差別のことについてお聞きします。

問１８　障害のある人に対する差別についてお聞きします。

（１）　あなたは、現在、日本の社会には障害のある人に対して、障害を理由とする差別があると思いますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. かなりあると思う⇒**問１８（２）**
2. 多少はあると思う⇒**問１８（２）**
3. どちらともいえない⇒**問１９**
4. あまりないと思う⇒**問１９**
5. まったくないと思う⇒**問１９**

（２）　**【問１８（１）で1か2と答えた方にのみお聞きします。】**それはどのような分野での差別ですか。つぎの１～９の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

1．医療
2．教育・療育
3．交通や建物のバリアフリー化
4．防災
5．情報バリアフリー
6．行政手続き
7．文化活動
8．政治参加
9．その他（　　）

（３）　では、その差別はどのようなものですか。具体的にお書きください。

問１９　あなたは、５年前と比べて障害のある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. かなり改善されている	**4.** あまり改善されていない
2. 少しずつ改善されている	**5.** まったく改善されていない
3. どちらともいえない	

問２０　日本において、つぎのような差別があると思いますか。ａ～ｉのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない	5. そう思わない
a．女性に対する差別	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
b．身体障害者に対する差別	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
c．精神障害者に対する差別	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
d．知的障害者に対する差別	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
e．在日韓国・朝鮮人に対する差別	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
f．その他の外国人に対する差別	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
g．同和地区住民に対する差別	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
h．同性愛者に対する差別	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
i．高齢者に対する差別	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問２１　障害者権利条約では、障害のある人がない人と同じように生活するために過大な負担とならない範囲で行う配慮や工夫を「合理的配慮」としています。また、「合理的配慮」を行わないことは差別として位置づけられています。あなたは、このような「合理的配慮」について知っていましたか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 合理的配慮の考え方について知っている
2. 合理的配慮という言葉は聞いたことがある
3. 合理的配慮については知らない

問２２　あなたは、障害のある人もない人も、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 知っている
2. 言葉だけは知っている
3. 知らない

問２３　障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（いわゆる「障害者差別解消法」）についてご存知ですか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 知っている
2. 言葉だけ知っている
3. 知らない

問２４　国や地方公共団体で、障害のある人に対する理解を深めるための、広報や行事等を行っていますが、その効果についてあなたはどのように感じていますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. かなり理解は深まってきている
2. やや理解は深まってきている
3. どちらともいえない
4. あまり理解は深まってきていない
5. まったく理解は深まってきていない

問２５　障害のある人の生活上の困難は、おもにどのような原因によるものだと思いますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. 個人の心身の機能の問題である
2. 社会的な障壁の問題である
3. 個人の心身の機能と社会的な障壁という両方の問題がある

問２６　あなたは、現在の障害者福祉の水準について、どのように思いますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

1. とても低い
2. やや低い
3. どちらともいえない
4. やや高い
5. とても高い

■社会一般のことについてお聞きします。

問２７　あなたはつぎにあげることについて、どのように思いますか。ａ～ｉのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	１．そう思う	２．どちらかといえばそう思う	３．どちらともいえない	４．どちらかといえばそう思わない	５．そう思わない
ａ．子育ての責任はすべて親にある	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｂ．女性はつねに守られるべき存在である	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｃ．患者は医師の指示によって生活を制限されても仕方がない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｄ．未成年の子どものことはできるかぎり親が決めた方がよい	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｅ．高齢者の生活は介助者の言うことを聞いていればうまくいく	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｆ．権威のある人々には常に敬意を払わなければいけない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｇ．以前からなされていたやり方を守ることが、最上の結果を生む	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｈ．伝統や慣習にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題をひきおこすことになる	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｉ．この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問２８　あなたはつぎにあげる意見について、どのように思いますか。ａ～ｃのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	１．そう思う	２．どちらかといえばそう思う	３．どちらともいえない	４．どちらかといえばそう思わない	５．そう思わない
ａ．財産や収入を分配する最も公平な方法は、みなに等しく分けることだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｂ．結果として貧富の差が生じたとしても、機会の平等さえあれば公平だといえる	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｃ．すべての人が必要なモノを手に入れるために、自分が必要とする以上に稼いでいる人びとからお金を集めることになっても仕方がない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問２９　差別に関するつぎの意見についてどのように思いますか。a～ｆのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	１．そう思う	２．どちらかといえばそう思う	３．どちらともいえない	４．どちらかといえばそう思わない	５．そう思わない
ａ．差別について深く知ることによって、差別をなくすことができる	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｂ．差別される側の気持ちを考えることは難しい	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｃ．いまの世の中には、差別される人々を保護するためとして、いきすぎた逆差別がある	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｄ．差別される人々とあまり接触しないほうが、社会のなかで問題が生じることが少ない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｅ．差別があるのは、差別される側にも原因があるからだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｆ．この世の中で、差別がなくなることはない	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

問３０　政府の役割に関するつぎの意見についてどのように思いますか。ａ～ｅのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	１．そう思う	２．どちらかといえばそう思う	３．どちらともいえない	４．どちらかといえばそう思わない	５．そう思わない
ａ．政府は、最低限の生活水準をすべての人に保障すべきである	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｂ．政府は、働きたいというすべての人に仕事を与えるべきである	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｃ．政府は、障害のある人の賃金を障害のない人と平等にするためのコストを負担するべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｄ．政府のやることは無駄が多いので、できるだけ民間に任せるべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**
ｅ．政府は、豊かな人と貧しい人の所得の差を縮めるために対策を取るべきだ	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**

■最後に、家庭生活やお仕事などについてお聞きします。

問３１　あなたは現在、結婚していらっしゃいますか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 未婚	**2.** 既婚	**3.** 離別	**4.** 死別

問３２　お子さんについておたずねします。
（１）　あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。

1. いない	**2.** いる

（２）　**【（１）で2と答えた方にお聞きします。】**
お子さんの人数をご記入ください。

□□ **人**

問３３　あなたが最後に卒業した（または現在通っている）学校は、つぎのどれにあたりますか。あてはまる番号１つに○をつけてください。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。

1. 中学校	**5.** 大学
2. 高等学校	**6.** 大学院
3. 短期大学・高等専門学校（高専）	**7.** その他（具体的に：　　）
4. 専門学校・各種専門学校	

問３４　お仕事についてお聞きします。
（１）　あなたは現在、ご職業をお持ちですか。

1. 有職 ⇒問３４（２）にお進みください	**2.** 無職 ⇒問３５にお進みください	**3.** 学生 ⇒問３５にお進みください

（２）　**【（１）で1と答えた方にのみお聞きします。】**現在のお仕事は、次のうちどれにあてはまりますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 経営者、役員（会社組織の）
2. 常時雇用されている一般従業者
3. 臨時雇用、契約社員、パート、アルバイト
4. 派遣社員
5. 自営業主、自由業者（会社組織でないもの）
6. 家族従業者
7. 内職
8. その他（具体的に：　　）

（３）　現在のお仕事は次の表の分類のうち、どれにあたりますか。あてはまる番号**1つに**○をつけてください。あてはまる分類のない方、どの分類にあてはまるかわからない方は、**13**に○をつけて、お仕事の内容をご記入下さい。

1.	事務的な仕事	総務・企画、受付・案内、営業・販売などの事務員、集金人、その他の外勤事務員、運輸事務員、タイピスト、計算機オペレーター、レジスター係員などのかた
2.	販売的な仕事	小売店主、卸売り店主、飲食店主、販売店員、外交員などのかた
3.	サービス的な仕事	理容師、家政婦、料理人、ウエイトレス、旅行ガイド、ホテル支配人、ビル管理人などのかた
4.	通信的な仕事	有線通信士、電話交換手、郵便・電報外務員などのかた
5.	保安的な仕事	自衛官、警察官、消防士、守衛などのかた
6.	専門的、技術的な仕事	科学研究者、建築・土木・農林技術者、システムエンジニア、医師、看護師、薬剤師、裁判官、弁護士、会計士、学校教員、個人教師、芸術家、記者、船舶機関長、航空士、無線技術者などのかた
7.	管理的な仕事	会社役員、課長以上の会社員、駅長、局長、学校長、管理職的公務員のかた
8.	建築請負的な仕事	土木・建築請負、大工、左官、とび職、配管工、畳職、起重機・建設機械など運転作業者などのかた
9.	運輸的な仕事	自動車運転者、電車運転士、車掌、鉄道員、船員などのかた
10.	労務的な仕事	道路工夫、鉄道線路工夫、運搬担当者、清掃員などのかた
11.	製造的な仕事	金属・機械・繊維・飲食料品製造などの生産従事者、織物・木・プラスチック製品・紙製品製造者、自動車修理工などのかた
12.	農林漁業の仕事	農業・林業・漁業作業者などのかた
13.	その他	［具体的にお書き下さい］

問３５　あなたのご家庭の、現在の暮らし向きについてどう思われますか。以下の中からあてはまる番号**１つ**に○をつけてください。お選びください。

1. 良い
2. どちらかといえば良い
3. 良くも悪くもない
4. どちらかといえば悪い
5. 悪い

問３６　過去１年間の**あなた個人**の収入は税込みでどのくらいでしょうか。臨時収入、副収入も含めて、以下の中からあてはまる番号**１つ**に○をつけてください。

1. なし
2. ７０万円未満
3. ７０～１５０万円未満
4. １５０～２５０万円未満
5. ２５０～３５０万円未満
6. ３５０～４５０万円未満
7. ４５０～５５０万円未満
8. ５５０～６５０万円未満
9. ６５０～７５０万円未満
10. ７５０～８５０万円未満
11. ８５０～１０００万円未満
12. １０００～１２００万円未満
13. １２００～１４００万円未満
14. １４００～１６００万円未満
15. １６００～１８５０万円未満
16. １８５０～２３００万円未満
17. ２３００万円以上

問３７　過去１年間の<u>世帯全体</u>の収入は税込みでどのくらいでしょうか。臨時収入、副収入も含めて、以下の中からあてはまる番号<u>１つ</u>に○をつけてください。

1. なし	**10.** ７５０～８５０万円未満
2. ７０万円未満	**11.** ８５０～１０００万円未満
3. ７０～１５０万円未満	**12.** １０００～１２００万円未満
4. １５０～２５０万円未満	**13.** １２００～１４００万円未満
5. ２５０～３５０万円未満	**14.** １４００～１６００万円未満
6. ３５０～４５０万円未満	**15.** １６００～１８５０万円未満
7. ４５０～５５０万円未満	**16.** １８５０～２３００万円未満
8. ５５０～６５０万円未満	**17.** ２３００万円以上
9. ６５０～７５０万円未満	

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

以上で質問は終わりです。

<u>何かご記入もれはありませんか。ご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れてご投函ください。</u>

お忙しいところ、貴重なお時間をさいていただきありがとうございました。

障害福祉に関する市民意識調査

単純集計表

問１　あなたの性別はどちらですか。

	度数	%
男性	297	40.9
女性	429	59.1
合計(全ケース)	726	100.0

問２　あなたの年齢は何歳ですか。〔２０１４（平成２６）年１０月１日現在でお答えください〕

	度数	%
20代	56	7.8
30代	86	11.9
40代	129	17.9
50代	137	19.0
60代	190	26.3
70代	124	17.2
合計(有効ケース)	722	100.0
無回答	4	

問３　あなたは白山市のどの地域にお住まいですか。つぎの１～４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
松任	452	62.5
美川	75	10.4
鶴来	149	20.6
河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰	47	6.5
合計(有効ケース)	723	100.0
非該当/無回答	3	
合計(全ケース)	726	

問４　あなたは白山市（合併前の旧市町村も含む［平成１７年２月に合併］）に住んで、今年で何年目になりますか。白山市以外にお住まいの期間を除いて、合計年でお答えください。

	度数	%
10年未満	94	13.1
10～20年	92	12.8
20～30年	160	22.3
30～40年	140	19.5
40～50年	81	11.3
50～60年	60	8.4
60～70年	53	7.4
70～80年	37	5.2
合計(有効ケース)	717	100.0
無回答	9	

問５　あなたのこれまでの日常生活において、以下のような障害のある人が身近にいましたか。

（１）**発達障害や精神障害のある人**が身近にいらっしゃいましたか。あてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

家族

	度数	%
いない	660	94.4
いる	39	5.6
合計(有効ケース)	699	100.0
無回答	27	
合計(全ケース)	726	

親戚

	度数	%
いない	603	86.3
いる	96	13.7
合計(有効ケース)	699	100.0
無回答	27	
合計(全ケース)	726	

友人

	度数	%
いない	650	93.0
いる	49	7.0
合計(有効ケース)	699	100.0
無回答	27	
合計(全ケース)	726	

近所

	度数	%
いない	530	75.8
いる	169	24.2
合計(有効ケース)	699	100.0
無回答	27	
合計(全ケース)	726	

同僚

	度数	%
いない	623	89.1
いる	76	10.9
合計(有効ケース)	699	100.0
無回答	27	
合計(全ケース)	726	

自身

	度数	%
いない	696	99.6
いる	3	0.4
合計(有効ケース)	699	100.0
無回答	27	
合計(全ケース)	726	

身近にはいない

	度数	%
いない	360	51.5
いる	339	48.5
合計(有効ケース)	699	100.0
無回答	27	
合計(全ケース)	726	

その他

	度数	%
いない	650	93.0
いる	49	7.0
合計(有効ケース)	699	100.0
無回答	27	
合計(全ケース)	726	

(2) **身体障害のある人**が身近にいらっしゃいましたか。あてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

家族

	度数	%
いない	612	88.1
いる	83	11.9
合計(有効ケース)	695	100.0
無回答	31	
合計(全ケース)	726	

親戚

	度数	%
いない	601	86.5
いる	94	13.5
合計(有効ケース)	695	100.0
無回答	31	
合計(全ケース)	726	

友人

	度数	%
いない	629	90.5
いる	66	9.5
合計(有効ケース)	695	100.0
無回答	31	
合計(全ケース)	726	

近所

	度数	%
いない	569	81.9
いる	126	18.1
合計(有効ケース)	695	100.0
無回答	31	
合計(全ケース)	726	

同僚

	度数	%
いない	610	87.8
いる	85	12.2
合計(有効ケース)	695	100.0
無回答	31	
合計(全ケース)	726	

自身

	度数	%
いない	689	99.1
いる	6	0.9
合計(有効ケース)	695	100.0
無回答	31	
合計(全ケース)	726	

身近にはいない

	度数	%
いない	384	99.1
いる	311	0.9
合計(有効ケース)	695	100.0
無回答	31	
合計(全ケース)	726	

その他

	度数	%
いない	656	94.4
いる	39	5.6
合計(有効ケース)	695	100.0
無回答	31	
合計(全ケース)	726	

(3) **知的障害のある人**が身近にいらっしゃいましたか。あてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

家族

	度数	%
いない	656	97.2
いる	19	2.8
合計(有効ケース)	675	100.0
無回答	51	
合計(全ケース)	726	

親戚

	度数	%
いない	619	91.7
いる	56	8.3
合計(有効ケース)	675	100.0
無回答	51	
合計(全ケース)	726	

友人

	度数	%
いない	649	96.1
いる	26	3.9
合計(有効ケース)	675	100.0
無回答	51	
合計(全ケース)	726	

近所

	度数	%
いない	546	80.9
いる	129	19.1
合計(有効ケース)	675	100.0
無回答	51	
合計(全ケース)	726	

同僚

	度数	%
いない	645	95.6
いる	30	4.4
合計(有効ケース)	675	100.0
無回答	51	
合計(全ケース)	726	

自身

	度数	%
いない	675	100.0
合計(有効ケース)	675	100.0
無回答	51	
合計(全ケース)	726	

身近にはいない

	度数	%
いない	276	40.9
いる	399	59.1
合計(有効ケース)	675	100.0
無回答	31	
合計(全ケース)	726	

その他

	度数	%
いない	620	91.9
いる	55	8.1
合計(有効ケース)	675	100.0
無回答	51	
合計(全ケース)	726	

問６　以下にあげる障害について、どの程度ご存知ですか。ａ～１のそれぞれについて、つぎの１～４の中からあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．注意欠陥多動性障害（ＡＤＨＤ）

	度数	%
まったく知らない	379	56.2
名前は知っているが、内容はよくわからない	131	19.4
名前は知っており、内容も多少知っている	124	18.4
名前も内容もよく知っている	40	5.9
合計(有効ケース)	674	100.0
非該当/無回答	52	
合計(全ケース)	726	

ｂ．自閉症

	度数	%
まったく知らない	28	4.1
名前は知っているが、内容はよくわからない	210	30.4
名前は知っており、内容も多少知っている	355	51.4
名前も内容もよく知っている	97	14.1
合計(有効ケース)	690	100.0
非該当/無回答	36	
合計(全ケース)	726	

c．身体障害

	度数	%
まったく知らない	29	4.3
名前は知っているが、内容はよくわからない	128	18.8
名前は知っており、内容も多少知っている	357	52.3
名前も内容もよく知っている	168	24.6
合計(有効ケース)	682	100.0
非該当/無回答	44	
合計(全ケース)	726	

d．アスペルガー症候群

	度数	%
まったく知らない	400	59.3
名前は知っているが、内容はよくわからない	147	21.8
名前は知っており、内容も多少知っている	91	13.5
名前も内容もよく知っている	36	5.3
合計(有効ケース)	674	100.0
非該当/無回答	52	
合計(全ケース)	726	

e．摂食障害

	度数	%
まったく知らない	77	11.3
名前は知っているが、内容はよくわからない	211	30.9
名前は知っており、内容も多少知っている	298	43.7
名前も内容もよく知っている	96	14.1
合計(有効ケース)	682	100.0
非該当/無回答	44	
合計(全ケース)	726	

f．知的障害

	度数	%
まったく知らない	37	5.4
名前は知っているが、内容はよくわからない	196	28.7
名前は知っており、内容も多少知っている	347	50.7
名前も内容もよく知っている	104	15.2
合計(有効ケース)	684	100.0
非該当/無回答	42	
合計(全ケース)	726	

g．双極性障害

	度数	%
まったく知らない	511	70.4
名前は知っているが、内容はよくわからない	107	14.7
名前は知っており、内容も多少知っている	47	6.5
名前も内容もよく知っている	19	2.6
合計(有効ケース)	684	100.0
非該当/無回答	42	
合計(全ケース)	726	

h．高機能自閉症

	度数	%
まったく知らない	436	65.1
名前は知っているが、内容はよくわからない	140	20.9
名前は知っており、内容も多少知っている	72	10.7
名前も内容もよく知っている	222	3.3
合計(有効ケース)	670	100.0
非該当/無回答	56	
合計(全ケース)	726	

ｉ．総合失調症

	度数	%
まったく知らない	257	38.0
名前は知っているが、内容はよくわからない	266	39.3
名前は知っており、内容も多少知っている	110	16.3
名前も内容もよく知っている	43	6.4
合計(有効ケース)	676	100.0
非該当/無回答	50	
合計(全ケース)	726	

ｊ．発達障害

	度数	%
まったく知らない	70	10.2
名前は知っているが、内容はよくわからない	313	45.6
名前は知っており、内容も多少知っている	238	34.6
名前も内容もよく知っている	66	9.6
合計(有効ケース)	687	100.0
非該当/無回答	39	
合計(全ケース)	726	

ｋ．学習障害

	度数	%
まったく知らない	250	36.9
名前は知っているが、内容はよくわからない	257	37.9
名前は知っており、内容も多少知っている	127	18.7
名前も内容もよく知っている	44	6.5
合計(有効ケース)	678	100.0
非該当/無回答	48	
合計(全ケース)	726	

ｌ．精神障害

	度数	%
まったく知らない	51	7.4
名前は知っているが、内容はよくわからない	325	47.3
名前は知っており、内容も多少知っている	244	35.5
名前も内容もよく知っている	67	9.8
合計(有効ケース)	687	100.0
非該当/無回答	39	
合計(全ケース)	726	

問７　身体障害と聞いて、あなたはどのような人のことを思い浮かべますか。なるべく具体的にお答えください。

	度数	%
なし	162	22.3
あり	564	77.7
合計(有効ケース)	726	100.0
合計(全ケース)	726	

問８　以下にあげる法律やその他の項目について、どの程度ご存知ですか。ａ～ｇのそれぞれについて、あてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．障害者基本法

	度数	%
まったく知らない	425	60.3
名前は知っているが、内容はよくわからない	227	32.2
名前は知っており、内容も多少知っている	45	6.4
名前も内容もよく知っている	8	1.1
合計(有効ケース)	705	100.0
無回答	21	
合計(全ケース)	726	

b．障害者総合支援法

	度数	%
まったく知らない	465	66.7
名前は知っているが、内容はよくわからない	182	26.1
名前は知っており、内容も多少知っている	43	6.2
名前も内容もよく知っている	7	1.0
合計(有効ケース)	697	100.0
無回答	29	
合計(全ケース)	726	

c．障害者雇用促進法

	度数	%
まったく知らない	242	34.7
名前は知っているが、内容はよくわからない	277	39.7
名前は知っており、内容も多少知っている	156	22.3
名前も内容もよく知っている	23	3.3
合計(有効ケース)	698	100.0
無回答	28	
合計(全ケース)	726	

d．発達障害者支援法

	度数	%
まったく知らない	447	64.4
名前は知っているが、内容はよくわからない	196	28.2
名前は知っており、内容も多少知っている	47	6.8
名前も内容もよく知っている	4	0.6
合計(有効ケース)	694	100.0
無回答	32	
合計(全ケース)	726	

e．障害者虐待防止法

	度数	%
まったく知らない	373	53.4
名前は知っているが、内容はよくわからない	243	34.8
名前は知っており、内容も多少知っている	71	10.2
名前も内容もよく知っている	11	1.6
合計(有効ケース)	698	100.0
無回答	28	
合計(全ケース)	726	

f．障害者権利条約

	度数	%
まったく知らない	523	74.9
名前は知っているが、内容はよくわからない	134	19.2
名前は知っており、内容も多少知っている	36	5.2
名前も内容もよく知っている	5	0.7
合計(有効ケース)	698	100.0
無回答	28	
合計(全ケース)	726	

g．障害者相談支援専門員

	度数	%
まったく知らない	405	57.9
名前は知っているが、内容はよくわからない	213	30.4
名前は知っており、内容も多少知っている	69	9.9
名前も内容もよく知っている	13	1.9
合計(有効ケース)	700	100.0
無回答	26	
合計(全ケース)	726	

問９　あなたのこれまでの障害のある人との関わりについてお聞きします。

（１）　**発達障害や精神障害のある人**とどのように関わってきましたか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
積極的	17	2.4
どちらかというと積極的	113	15.8
あまり	408	57.0
関わりをさけていた	28	3.9
出会ったことない	150	20.9
合計(有効ケース)	716	100.0
非該当/無回答	10	
合計(全ケース)	726	

（２）　**身体障害のある人**とどのように関わってきましたか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
積極的	49	6.9
どちらかというと積極的	137	19.2
あまり	429	60.1
関わりをさけていた	9	1.3
出会ったことない	90	12.6
合計(有効ケース)	714	100.0
非該当/無回答	12	
合計(全ケース)	726	

（３）　**知的障害のある人**とどのように関わってきましたか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
積極的	26	3.6
どちらかというと積極的	71	9.9
あまり	448	62.7
関わりをさけていた	29	4.1
出会ったことない	141	19.7
合計(有効ケース)	715	100.0
非該当/無回答	11	
合計(全ケース)	726	

問１０　あなたは**最近の３年間**で、障害のある人のためのボランティア活動にどのような頻度で参加しましたか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
週に１回	3	0.4
月に１回	9	1.3
年に１回	28	3.9
３年間に１回	23	3.2
３年間にはない	648	91.1
合計(有効ケース)	711	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	726	

問１１　あなたはこれまでに障害に関する授業や講演、研修を受けたことがありますか。つぎの１～４の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
ない	553	76.8
１回	46	6.4
何度	101	14.0
頻繁	20	2.8
合計(有効ケース)	720	100.0
無回答	6	
合計(全ケース)	726	

問１２　障害と仕事に関する次のような意見についてどう思いますか。ａ～ｄのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．障害のある人の雇用をうながすためには、国や地方自治体からの助成金が必要だ

	度数	%
そう思う	366	51.2
どちらかといえばそう思う	250	35.0
どちらともいえない	80	11.2
どちらかといえばそう思わない	8	1.1
そう思わない	11	1.5
合計(有効ケース)	715	100.0
無回答	11	
合計(全ケース)	726	

b．企業は、障害のある人が働きやすい環境を積極的に整備しなければならない

	度数	%
そう思う	290	40.8
どちらかといえばそう思う	271	38.1
どちらともいえない	137	19.3
どちらかといえばそう思わない	10	1.4
そう思わない	3	0.4
合計(有効ケース)	711	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	726	

c．企業が、障害のある人にとって働きにくい職場の施設を改善しないことは差別である

	度数	%
そう思う	171	24.1
どちらかといえばそう思う	196	27.6
どちらともいえない	265	37.3
どちらかといえばそう思わない	40	5.6
そう思わない	39	5.5
合計(有効ケース)	711	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	726	

d．障害のある人に特化した就労支援が必要である

	度数	%
そう思う	288	40.4
どちらかといえばそう思う	289	40.6
どちらともいえない	118	16.6
どちらかといえばそう思わない	14	2.0
そう思わない	3	0.4
合計(有効ケース)	712	100.0
無回答	14	
合計(全ケース)	726	

問１３　白山市の人びとに対して、障害ある人への理解を広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下にご自由にご記入下さい。

	度数	%
記述なし	362	49.9
記述あり	364	50.1
合計(有効ケース)	726	100.0
合計(全ケース)	726	

問１４　障害のある人の生活についてどのように思いますか。ａ～ｄのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．障害のある人の生活は家族や親族が支えるべきだ

	度数	%
そう思う	118	16.6
どちらかといえばそう思う	188	26.4
どちらともいえない	285	40.0
どちらかといえばそう思わない	52	7.3
そう思わない	69	9.7
合計(有効ケース)	712	100.0
無回答	14	
合計(全ケース)	726	

ｂ．障害のある人は施設で生活するほうがよい

	度数	%
そう思う	25	3.5
どちらかといえばそう思う	86	12.0
どちらともいえない	402	56.2
どちらかといえばそう思わない	100	14.0
そう思わない	102	14.3
合計(有効ケース)	715	100.0
無回答	11	
合計(全ケース)	726	

c．障害のある人が自立して生活していくことは難しい

	度数	%
そう思う	122	17.0
どちらかといえばそう思う	260	36.3
どちらともいえない	222	31.0
どちらかといえばそう思わない	77	10.8
そう思わない	35	4.9
合計(有効ケース)	716	100.0
無回答	10	
合計(全ケース)	726	

d．障害のある人の生活は地域で支えるべきだ

	度数	%
そう思う	154	21.5
どちらかといえばそう思う	266	37.2
どちらともいえない	246	34.4
どちらかといえばそう思わない	33	4.6
そう思わない	17	2.4
合計(有効ケース)	716	100.0
無回答	10	
合計(全ケース)	1508	

問１５　障害のある人を支援するための政策として、以下にあげた政策のうち、重要なことはどれだとお考えですか。つぎの１～６の中から、**もっとも**重要なこと、**その次に**重要なことの番号を回答欄のなかに記入してください。

最も重要

	度数	%
権利や尊厳をまもる	231	32.5
経済的支援	101	14.2
就労支援	242	34.0
住居提供	4	0.6
社会活動参加	58	8.2
ケアする人の支援	75	10.5
合計(有効ケース)	711	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	726	

次に重要

	度数	%
権利や尊厳をまもる	61	8.7
経済的支援	85	12.1
就労支援	163	23.2
住居提供	11	1.6
社会活動参加	107	15.2
ケアする人の支援	277	39.3
合計(有効ケース)	704	100.0
無回答	22	
合計(全ケース)	726	

問１６　障害に関して、あなた自身のことについてお聞きします。ａ～ｅのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．障害のある人のためのボランティア活動に参加したい

	度数	%
そう思う	51	7.2
どちらかといえばそう思う	180	25.6
どちらともいえない	305	43.3
どちらかといえばそう思わない	99	14.1
そう思わない	69	9.8
合計(有効ケース)	704	100.0
無回答	22	
合計(全ケース)	726	

ｂ．障害のある人と一緒に仕事をしても、十分うまくやっていける

	度数	%
そう思う	45	6.4
どちらかといえばそう思う	219	30.9
どちらともいえない	351	49.6
どちらかといえばそう思わない	64	9.0
そう思わない	29	4.1
合計(有効ケース)	708	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	726	

c．障害のある人と地域の行事や趣味のサークルなどで交流をしたい

	度数	%
そう思う	38	5.4
どちらかといえばそう思う	197	28.0
どちらともいえない	336	47.7
どちらかといえばそう思わない	82	11.6
そう思わない	51	7.2
合計(有効ケース)	704	100.0
無回答	22	
合計(全ケース)	726	

d．障害に関する記事や放送を積極的に見聞きする方だ

	度数	%
そう思う	52	7.3
どちらかといえばそう思う	99	27.4
どちらともいえない	382	41.8
どちらかといえばそう思わない	117	16.5
そう思わない	76	7.0
合計(有効ケース)	710	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	726	

e．自分は、障害のある子どもの親になったとしても十分うまくやっていける

	度数	%
そう思う	36	5.1
どちらかといえばそう思う	99	13.9
どちらともいえない	382	53.8
どちらかといえばそう思わない	117	16.5
そう思わない	76	10.7
合計(有効ケース)	710	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	726	

問１７　あなたは障害に関する以下のことについて、どのように思いますか。ａ～ｇのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．人の幸せと障害の有無は関係ないと思う

	度数	%
そう思う	189	26.6
どちらかといえばそう思う	167	23.5
どちらともいえない	194	27.3
どちらかといえばそう思わない	94	13.2
そう思わない	67	9.4
合計(有効ケース)	711	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	726	

ｂ．障害のある人が望めば、障害のない人と一緒に教育を受けられるようにすべきだ

	度数	%
そう思う	255	35.8
どちらかといえばそう思う	268	37.6
どちらともいえない	148	20.8
どちらかといえばそう思わない	28	3.9
そう思わない	14	2.0
合計(有効ケース)	713	100.0
無回答	13	
合計(全ケース)	726	

ｃ．「障害者」という表現は、不適切な表現であると指摘されることもあるため、別の表現に書き改める必要がある

	度数	%
そう思う	105	14.8
どちらかといえばそう思う	188	26.6
どちらともいえない	272	38.4
どちらかといえばそう思わない	89	12.6
そう思わない	54	7.6
合計(有効ケース)	708	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	726	

d．同じ時間働いたならば、障害のせいで成果が低かったとしても、障害のある人も障害のない人も同じ賃金であるべきだ

	度数	%
そう思う	72	10.1
どちらかといえばそう思う	117	16.5
どちらともいえない	285	40.1
どちらかといえばそう思わない	163	23.0
そう思わない	73	10.3
合計(有効ケース)	710	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	726	

e．近所に障害のある人たちの施設やグループホームなどができることに不安を感じる

	度数	%
そう思う	12	1.7
どちらかといえばそう思う	39	5.5
どちらともいえない	150	21.2
どちらかといえばそう思わない	210	29.7
そう思わない	296	41.9
合計(有効ケース)	707	100.0
無回答	19	
合計(全ケース)	726	

f．障害のある人も他の人と同じように責任や義務を果たすべきだ

	度数	%
そう思う	73	10.3
どちらかといえばそう思う	151	21.4
どちらともいえない	324	45.9
どちらかといえばそう思わない	100	14.2
そう思わない	58	8.2
合計(有効ケース)	706	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	726	

g．たとえ負担が大きくなったとしても、障害のある人にもっと配慮した社会にすることが望ましい

	度数	%
そう思う	128	18.0
どちらかといえばそう思う	280	39.3
どちらともいえない	261	36.6
どちらかといえばそう思わない	28	3.9
そう思わない	16	2.2
合計(有効ケース)	713	100.0
無回答	13	
合計(全ケース)	726	

問１８　障害のある人に対する差別についてお聞きします。

（1）　あなたは、現在、日本の社会には障害のある人に対して、障害を理由とする差別があると思いますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
かなりある	140	19.7
多少ある	366	51.5
どちらともいえない	149	21.0
あまりない	53	7.5
まったくない	3	0.4
合計(有効ケース)	711	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	726	

（2）　それはどのような分野での差別ですか。つぎの１～９の中からあてはまる番号**すべてに**○をつけてください。

差別医療

	度数	%
なし	448	88.0
あり	61	12.0
合計(有効ケース)	509	100.0
無回答	217	
合計(全ケース)	726	

差別教育・療育

	度数	%
なし	188	36.9
あり	321	63.1
合計(有効ケース)	509	100.0
非該当・無回答	217	
合計(全ケース)	726	

差別バリアフリー化

	度数	%
なし	202	39.7
あり	307	60.3
合計(有効ケース)	509	100.0
非該当・無回答	217	
合計(全ケース)	726	

差別防災

	度数	%
なし	389	76.4
あり	120	23.6
合計(有効ケース)	509	100.0
非該当・無回答	217	
合計(全ケース)	726	

差別情報バリアフリー

	度数	%
なし	428	84.1
あり	81	15.9
合計(有効ケース)	509	100.0
非該当・無回答	217	
合計(全ケース)	726	

差別行政手続き

	度数	%
なし	436	85.7
あり	73	14.3
合計(有効ケース)	509	100.0
非該当・無回答	217	
合計(全ケース)	726	

差別文化活動

	度数	%
なし	400	85.7
あり	109	14.3
合計(有効ケース)	509	100.0
非該当・無回答	217	
合計(全ケース)	726	

差別政治参加

	度数	%
なし	434	85.3
あり	75	14.7
合計(有効ケース)	509	100.0
非該当・無回答	217	
合計(全ケース)	726	

差別その他

	度数	%
なし	455	89.4
あり	54	10.6
合計(有効ケース)	509	100.0
非該当・無回答	217	
合計(全ケース)	726	

差別記述有無

	度数	%
なし	465	64.0
あり	261	36.0
合計(有効ケース)	726	100.0
合計(全ケース)	726	

（3）　では、その差別はどのようなものですか。具体的にお書きください。

	度数	%
記述なし	465	64.0
記述あり	261	36.0
合計(有効ケース)	726	100.0
合計(全ケース)	726	

問１９　あなたは、５年前と比べて障害のある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
かなり	43	6.2
少しずつ	288	41.2
どちらともいえない	262	37.5
あまり	93	13.3
まったく	13	1.9
合計(有効ケース)	699	100.0
無回答	27	
合計(全ケース)	726	

問２０　日本において、つぎのような差別があると思いますか。ａ～ｉのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．女性に対する差別

	度数	%
そう思う	104	14.8
どちらかといえばそう思う	239	34.0
どちらともいえない	190	27.1
どちらかといえばそう思わない	103	14.7
そう思わない	66	9.4
合計(有効ケース)	702	100.0
無回答	24	
合計(全ケース)	726	

ｂ．身体障害者に対する差別

	度数	%
そう思う	111	15.8
どちらかといえばそう思う	329	46.9
どちらともいえない	175	25.0
どちらかといえばそう思わない	63	9.0
そう思わない	23	3.3
合計(有効ケース)	701	100.0
無回答	25	
合計(全ケース)	726	

ｃ．精神障害者に対する差別

	度数	%
そう思う	178	25.5
どちらかといえばそう思う	304	43.6
どちらともいえない	162	23.2
どちらかといえばそう思わない	37	5.3
そう思わない	16	2.3
合計(有効ケース)	697	100.0
無回答	29	
合計(全ケース)	726	

ｄ．知的障害者に対する差別

	度数	%
そう思う	149	21.4
どちらかといえばそう思う	324	46.6
どちらともいえない	169	24.3
どちらかといえばそう思わない	38	5.5
そう思わない	16	2.3
合計(有効ケース)	696	100.0
無回答	30	
合計(全ケース)	726	

e．在日韓国・朝鮮人に対する差別

	度数	%
そう思う	121	17.4
どちらかといえばそう思う	206	29.6
どちらともいえない	256	36.8
どちらかといえばそう思わない	69	9.9
そう思わない	43	6.2
合計(有効ケース)	695	100.0
無回答	31	
合計(全ケース)	726	

f．その他の外国人に対する差別

	度数	%
そう思う	54	7.8
どちらかといえばそう思う	136	19.6
どちらともいえない	310	44.6
どちらかといえばそう思わない	121	17.4
そう思わない	74	10.6
合計(有効ケース)	702	100.0
無回答	24	
合計(全ケース)	726	

g．同和地区住民に対する差別

	度数	%
そう思う	50	7.3
どちらかといえばそう思う	109	16.0
どちらともいえない	366	53.7
どちらかといえばそう思わない	90	13.2
そう思わない	66	9.7
合計(有効ケース)	681	100.0
無回答	45	
合計(全ケース)	726	

h．同性愛者に対する差別

	度数	%
そう思う	120	17.2
どちらかといえばそう思う	222	31.9
どちらともいえない	261	37.5
どちらかといえばそう思わない	59	8.5
そう思わない	34	4.9
合計(有効ケース)	696	100.0
無回答	30	
合計(全ケース)	726	

i．高齢者に対する差別

	度数	%
そう思う	44	6.3
どちらかといえばそう思う	131	18.7
どちらともいえない	257	36.6
どちらかといえばそう思わない	171	24.4
そう思わない	99	14.1
合計(有効ケース)	702	100.0
無回答	24	
合計(全ケース)	726	

問２１　障害者権利条約では、障害のある人がない人と同じように生活するために過大な負担とならない範囲で行う配慮や工夫を「合理的配慮」としています。また、「合理的配慮」を行わないことは差別として位置づけられています。あなたは、このような「合理的配慮」について知っていましたか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
考え方について知っている	26	3.6
言葉を聞いたことがある	91	12.7
知らない	597	83.6
合計(有効ケース)	714	100.0
無回答	12	
合計(全ケース)	726	

問２２　あなたは、障害のある人もない人も、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
知っている	91	12.7
言葉だけ	246	34.4
知らない	378	52.9
合計(有効ケース)	715	100.0
無回答	11	
合計(全ケース)	726	

問２３　障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（いわゆる「障害者差別解消法」）についてご存知ですか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
知っている	22	3.1
言葉だけ	129	18.0
知らない	564	78.9
合計(有効ケース)	715	100.0
無回答	11	
合計(全ケース)	726	

問２４　国や地方公共団体で、障害のある人に対する理解を深めるための、広報や行事等を行っていますが、その効果についてあなたはどのように感じていますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
かなり	14	2.0
やや	99	13.9
どちらともいえない	290	39.9
あまり	239	32.9
まったく	68	9.4
８	1	0.1
合計(有効ケース)	711	100.0
無回答	15	
合計(全ケース)	726	

問２５　障害のある人の生活上の困難は、おもにどのような原因によるものだと思いますか。つぎの１～３の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
個人の心身の機能	60	8.5
社会的な障壁	69	9.8
両方の問題	575	81.6
８	1	0.1
合計(有効ケース)	705	100.0
無回答	21	
合計(全ケース)	726	

問２６　あなたは、現在の障害者福祉の水準について、どのように思いますか。つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
とても低い	67	9.5
やや低い	176	24.9
どちらともいえない	402	56.9
やや高い	56	7.9
とても高い	5	0.7
合計(有効ケース)	706	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	726	

問２７　あなたはつぎにあげることについて、どのように思いますか。ａ～ｉのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．子育ての責任はすべて親にある

	度数	%
そう思う	160	22.5
どちらかといえばそう思う	335	47.2
どちらともいえない	100	14.1
どちらかといえばそう思わない	71	10.0
そう思わない	44	6.2
合計(有効ケース)	710	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	726	

b．女性はつねに守られるべき存在である

	度数	%
そう思う	35	5.0
どちらかといえばそう思う	148	20.9
どちらともいえない	330	46.7
どちらかといえばそう思わない	131	18.5
そう思わない	63	8.9
合計(有効ケース)	707	100.0
無回答	19	
合計(全ケース)	726	

c．患者は医師の指示によって生活を制限されても仕方がない

	度数	%
そう思う	78	11.0
どちらかといえばそう思う	266	37.6
どちらともいえない	233	32.9
どちらかといえばそう思わない	86	12.1
そう思わない	45	6.4
合計(有効ケース)	708	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	726	

d．未成年の子どものことはできるかぎり親が決めた方がよい

	度数	%
そう思う	69	9.7
どちらかといえばそう思う	194	27.4
どちらともいえない	281	39.7
どちらかといえばそう思わない	113	16.0
そう思わない	51	7.2
合計(有効ケース)	708	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	726	

e．高齢者の生活は介助者の言うことを聞いていればうまくいく

	度数	%
そう思う	9	1.3
どちらかといえばそう思う	66	9.3
どちらともいえない	349	49.2
どちらかといえばそう思わない	165	23.2
そう思わない	121	17.0
合計(有効ケース)	710	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	726	

f．権威のある人々には常に敬意を払わなければいけない

	度数	%
そう思う	15	2.1
どちらかといえばそう思う	60	8.5
どちらともいえない	227	32.2
どちらかといえばそう思わない	185	26.3
そう思わない	217	30.8
合計(有効ケース)	704	100.0
無回答	22	
合計(全ケース)	726	

g．以前からなされていたやり方を守ることが、最上の結果を生む

	度数	%
そう思う	12	1.7
どちらかといえばそう思う	20	2.8
どちらともいえない	255	36.3
どちらかといえばそう思わない	194	27.6
そう思わない	222	31.6
合計(有効ケース)	703	100.0
無回答	23	
合計(全ケース)	726	

h．伝統や慣習にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題をひきおこすことになる

	度数	%
そう思う	16	2.3
どちらかといえばそう思う	55	7.8
どちらともいえない	299	42.4
どちらかといえばそう思わない	171	24.2
そう思わない	165	23.4
合計(有効ケース)	706	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	726	

i．この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである

	度数	%
そう思う	28	4.0
どちらかといえばそう思う	94	13.3
どちらともいえない	287	40.7
どちらかといえばそう思わない	143	20.3
そう思わない	153	21.7
合計(有効ケース)	705	100.0
無回答	21	
合計(全ケース)	726	

問２８　あなたはつぎにあげる意見について、どのように思いますか。ａ～ｃのそれぞれについて、つぎの１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．財産や収入を分配する最も公平な方法は、みなに等しく分けることだ

	度数	%
そう思う	71	10.0
どちらかといえばそう思う	84	11.8
どちらともいえない	274	38.6
どちらかといえばそう思わない	147	20.7
そう思わない	134	18.9
合計(有効ケース)	710	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	726	

ｂ．結果として貧富の差が生じたとしても、機会の平等さえあれば公平だといえる

	度数	%
そう思う	53	7.5
どちらかといえばそう思う	196	27.7
どちらともいえない	320	45.3
どちらかといえばそう思わない	74	10.5
そう思わない	64	9.1
合計(有効ケース)	707	100.0
無回答	19	
合計(全ケース)	726	

ｃ．すべての人が必要なモノを手に入れるために、自分が必要とする以上に稼いでいる人びとからお金を集めることになっても仕方がない

	度数	%
そう思う	34	4.8
どちらかといえばそう思う	106	15.0
どちらともいえない	295	41.8
どちらかといえばそう思わない	152	21.5
そう思わない	119	16.9
合計(有効ケース)	706	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	726	

問２９　差別に関するつぎの意見についてどのように思いますか。ａ～ｆのそれぞれについて、１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．差別について深く知ることによって、差別をなくすことができる

	度数	%
そう思う	99	14.0
どちらかといえばそう思う	284	40.3
どちらともいえない	212	30.1
どちらかといえばそう思わない	58	8.2
そう思わない	52	7.4
合計(有効ケース)	705	100.0
無回答	21	
合計(全ケース)	726	

b．差別される側の気持ちを考えることは難しい

	度数	%
そう思う	81	11.5
どちらかといえばそう思う	202	28.7
どちらともいえない	201	28.5
どちらかといえばそう思わない	155	22.0
そう思わない	66	9.4
合計(有効ケース)	705	100.0
無回答	21	
合計(全ケース)	726	

c．いまの世の中には、差別される人々を保護するためとして、いきすぎた逆差別がある

	度数	%
そう思う	59	8.4
どちらかといえばそう思う	139	19.8
どちらともいえない	391	55.7
どちらかといえばそう思わない	83	11.8
そう思わない	30	4.3
合計(有効ケース)	702	100.0
無回答	24	
合計(全ケース)	726	

d．差別される人々とあまり接触しないほうが、社会のなかで問題が生じることが少ない

	度数	%
そう思う	24	3.4
どちらかといえばそう思う	73	10.3
どちらともいえない	289	40.9
どちらかといえばそう思わない	191	27.1
そう思わない	129	18.3
合計(有効ケース)	706	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	726	

e．差別があるのは、差別される側にも原因があるからだ

	度数	%
そう思う	53	7.5
どちらかといえばそう思う	137	19.4
どちらともいえない	340	48.0
どちらかといえばそう思わない	108	15.3
そう思わない	70	9.9
合計(有効ケース)	708	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	726	

f．この世の中で、差別がなくなることはない

	度数	%
そう思う	261	36.7
どちらかといえばそう思う	242	34.0
どちらともいえない	160	22.5
どちらかといえばそう思わない	34	4.8
そう思わない	15	2.1
合計(有効ケース)	712	100.0
無回答	14	
合計(全ケース)	726	

問３０　政府の役割に関するつぎの意見についてどのように思いますか。ａ～ｅのそれぞれについて、
１～５の中からもっともあてはまる番号**１つに**○をつけてください。

ａ．政府は、最低限の生活水準をすべての人に保障すべきである

	度数	%
そう思う	274	38.8
どちらかといえばそう思う	228	32.3
どちらともいえない	140	19.8
どちらかといえばそう思わない	39	5.5
そう思わない	25	3.5
合計(有効ケース)	706	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	726	

b．政府は、働きたいというすべての人に仕事を与えるべきである

	度数	%
そう思う	211	29.9
どちらかといえばそう思う	298	42.2
どちらともいえない	157	22.2
どちらかといえばそう思わない	22	3.1
そう思わない	18	2.5
合計(有効ケース)	706	100.0
無回答	20	
合計(全ケース)	726	

c．政府は、障害のある人の賃金を障害のない人と平等にするためのコストを負担するべきだ

	度数	%
そう思う	86	12.1
どちらかといえばそう思う	171	24.2
どちらともいえない	327	46.2
どちらかといえばそう思わない	89	12.6
そう思わない	35	4.9
合計(有効ケース)	708	100.0
無回答	18	
合計(全ケース)	726	

d．政府のやることは無駄が多いので、できるだけ民間に任せるべきだ

	度数	%
そう思う	80	11.3
どちらかといえばそう思う	149	21.1
どちらともいえない	355	50.4
どちらかといえばそう思わない	88	12.5
そう思わない	33	4.7
合計(有効ケース)	726	100.0
合計(全ケース)	726	

e．政府は、豊かな人と貧しい人の所得の差を縮めるために対策を取るべきだ

	度数	%
そう思う	184	25.9
どちらかといえばそう思う	245	34.5
どちらともいえない	206	29.0
どちらかといえばそう思わない	50	7.0
そう思わない	25	3.5
合計(有効ケース)	710	100.0
無回答	16	
合計(全ケース)	726	

問３１　あなたは現在、結婚していらっしゃいますか。あてはまる番号**１つに**○をつけてください。

	度数	%
未婚	97	13.5
既婚	547	76.0
離別	28	3.9
死別	48	6.7
合計(有効ケース)	720	100.0
無回答	6	
合計(全ケース)	726	

問３２　お子さんについておたずねします。
（１）　あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。

	度数	%
いない	147	20.4
いる	573	79.6
合計(有効ケース)	720	100.0
無回答	6	
合計(全ケース)	726	

（２）　お子さんの人数をご記入ください。

	度数	%
0	143	19.9
1	79	11.0
2	335	46.6
3	132	18.4
4	24	3.3
5	3	0.4
99	3	0.4
合計(有効ケース)	719	100.0
無回答	7	
合計(全ケース)	726	

問３３　あなたが最後に卒業した（または現在通っている）学校は、つぎのどれにあたりますか。あてはまる番号**１つに**○をつけてください。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。

	度数	%
中学校	78	10.8
高等学校	332	46.2
短期大学、高等専門学校	91	12.7
専門学校、各種専門学校	75	10.4
大学	132	18.4
大学院	10	1.4
その他	1	0.1
合計(有効ケース)	719	100.0
無回答	7	
合計(全ケース)	726	

問３４　お仕事についてお聞きします。
（１）　あなたは現在、ご職業をお持ちですか。

	度数	%
有職	481	66.8
無職	228	31.7
学生	11	1.5
合計(有効ケース)	720	100.0
無回答	6	
合計(全ケース)	726	

（２）　現在のお仕事は、次のうちどれにあてはまりますか。あてはまる番号**1つに**○をつけてください。

	度数	%
経営者、役員	35	7.4
一般従業者	224	47.2
臨時雇用等	130	27.4
派遣社員	10	2.1
自営業主等	49	10.3
家族従業者	18	3.8
内職	1	0.2
その他	8	1.7
合計(有効ケース)	475	100.0
非該当・無回答	239	
合計(全ケース)	726	

（３）　現在のお仕事は次の表の分類のうち、どれにあたりますか。あてはまる番号**1つに**○をつけてください。あてはまる分類のない方、どの分類にあてはまるかわからない方は、**13**に○をつけて、お仕事の内容をご記入下さい。

	度数	%
事務的な仕事	98	20.5
販売的な仕事	50	10.5
サービス的な仕事	42	8.8
通信的な仕事	1	0.2
保安的な仕事	5	1.0
専門的、技術的な仕事	93	19.5
管理的な仕事	24	5.0
建築請負的な仕事	17	3.6
運輸的な仕事	16	3.4
労務的な仕事	16	3.4
製造的な仕事	71	14.9
農林漁業の仕事	13	2.7
その他	31	6.5
合計(有効ケース)	477	100.0
非該当・無回答	249	
合計(全ケース)	726	

問３５　あなたのご家庭の、現在の暮らし向きについてどう思われますか。以下の中からあてはまる番号**１つ**に○をつけてください。お選びください。

	度数	%
良い	98	13.7
どちらかと言えば良い	163	22.9
良くも悪くもない	316	44.3
どちらかと言えば悪い	108	15.1
悪い	28	3.9
合計(有効ケース)	713	100.0
無回答	13	
合計(全ケース)	726	

問３６　過去１年間の**あなた個人**の収入は税込みでどのくらいでしょうか。臨時収入、副収入も含めて、以下の中からあてはまる番号**１つ**に○をつけてください。

	度数	%
なし	52	7.4
７０万円未満	62	8.8
７０～１５０万円未満	168	23.6
１５０～２５０万円未満	123	17.5
２５０～３５０万円未満	110	15.6
３５０～４５０万円未満	65	9.2
４５０～５５０万円未満	49	7.0
５５０～６５０万円未満	33	4.7
６５０～７５０万円未満	21	3.0
７５０～８５０万円未満	9	1.3
８５０～１０００万円未満	8	1.1
１０００～１２００万円未満	2	0.3
１２００～１４００万円未満	2	0.3
１８５０～２３００万円未満	1	0.1
２３００万円以上	1	0.1
合計(有効ケース)	1409	100.0
無回答	99	
合計(全ケース)	1508	

問３７　過去１年間の**世帯全体**の収入は税込みでどのくらいでしょうか。臨時収入、副収入も含めて、以下の中からあてはまる番号**１つ**に○をつけてください。

	度数	%
なし	8	1.2
７０万円未満	8	1.2
７０～１５０万円未満	19	2.9
１５０～２５０万円未満	58	8.8
２５０～３５０万円未満	114	17.2
３５０～４５０万円未満	77	11.6
４５０～５５０万円未満	74	11.2
５５０～６５０万円未満	61	9.2
６５０～７５０万円未満	53	8.0
７５０～８５０万円未満	51	7.7
８５０～１０００万円未満	62	9.4
１０００～１２００万円未満	35	5.3
１２００～１４００万円未満	18	2.7
１４００～１６００万円未満	12	1.8
１６００～１８５０万円未満	5	0.8
１８５０～２３００万円未満	1	0.2
２３００万円以上	6	0.9
合計(有効ケース)	662	100.0
無回答	64	
合計(全ケース)	726	

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

	度数	%
なし	558	76.9
あり	168	23.1
合計(有効ケース)	726	100.0
合計(全ケース)	726	

障害福祉に関する市民意識調査
記述回答一覧

※　同一文言による回答は一つのみ記載した。

問７　身体障害と聞いて、あなたはどのような人のことを思い浮かべますか。なるべく具体的にお答えください。

目が見えない人。耳がきこえない人。手・足がない。脳の障害で手足が動かない人。肺気腫にかかり酸素ボンベを携帯している人
車イスにのって、手、足のない方
自分の意思通りに肉体の一部を動かす事が出来無い人
体の一部が不自由な人
五体不満足の作者、乙武さん
身体的、精神的に欠陥を持っている状態の人
身体の一部に不自由がある人
日々の生活に付いて思うように身を動かせないこと
本来はたらくべき体の部分が自由自在に運動不能な状態となり、介助、介護が必要とし日常生活に不便な事が多々ある方々のことだと思う。
目が見えない人、耳がきこえない人、ことばがはなせない人、足が不自由で１人で歩けない人、車いすにのっている人
歩行が全くできない人。あるいは大いに不自由な人。盲人。唖。耳が聴えない人。
びっこ
介護が必要な人
車いすを使っている人
身体が不自由な方。
体のどこかに障害がある。たとえば目が見えない。耳が聞こえない脳硬塞などで手や足が動かしずらくなっているなど。
骨が曲がっていて歩るけない。目がみえない。耳が聞こえない。
手足とが不自由で歩行等が出来ない状況
四股、感覚器に機能障害があって、日常生活上にさしさわりがある方
盲目の人。白い杖を持った人。車イスに乗った人。
四肢に何らかの障害が有りツエ、車イス等補助的な用具を使用必要とし完治はほぼ可能性の無い障害者。
車イスを使用している人・身体に欠損箇所がある人・心臓にペースメーカーが入っている人・義足、義手を使用している人・パラリンピックに出てる人
目が見えない、耳が聞こえない、歩けないなど。生活していく上で障害がある人
手足が不自由な人。車椅子を利用している人
脳性小児まひ　背髄損傷
手や足が不自由で、車いす等を利用している方
体の一部（目や耳、手、足など）に障害があり健康な人のように自由に行動ができない人。
聴力障害、視力障害　脳性マヒ　車イスの人
四肢が不自由なこと。
手足が不自由な感じ・上手に歩けない・言葉をうまく話せない感じ・車イス、つえを使っている感じ・何を考えているかわからない感じ・一人ではうまく日常生活がおくれないであろう感じ・脳が損傷している感じ
乙武洋匡
半身が不自由な方を見ると…。
日常生活に支障があり、時に介助が必要な人もいる。・トイレ・入浴・歩行
目が見えない、耳がきこえない、など。手、足が無い人など
目や耳の不自由な人
歩行困難、目、耳、口の不自由。
なんらかの原因で身体のある部分が不自由になる（なっている）しかし脳は何ら普通の人とは、同じでむしろ優る人も多い。
目が見えぬ人、耳の遠い人、足をひく人。
体が部分的に無い方やマヒなどによって思うように体が動かせない人。
手足の不自由な人、又は失っている人、目や耳の不自由な人、声の出ない人、等
生まれもっての方もいるが、事故による方もあてはまると思ってます。
目や耳、足、手等、不自由な人
体の部分的に障害をおもちの方、このような方々は、生活する上でもどんな時でも大変だなと思います。障害でなくても指１本ケガしただけでも日々の生活に不自由を感じるからです。
日常生活が通常の人のようにできず、何らかの配慮が必要である。体が健常でなく、施設、家庭、地域等で支援すべき障害を持った人
歩行が不自由で車イスを使って生活する。・手足が自由に使えない。（病気かケガが原因）しゃべるのは常人と変わらない人もいる。・自分以外の補助を受けないと生活出来ない。
企業規模により法的に決められている顧用人員の方々と接して方
生活をしていくにおいて、何らかの不都合をかかえられている方
手、足、目、耳、など体の不自由な方
小児麻痺、半身麻痺、脱臼、耳が聞こえない人、生まれつきの人、病気やけがの後遺症で身体障害者になった。

身体の状態の中で、肉体的損傷が有り、日常の生活及び運動に一部支障をきたすも、精神的な力が強い面も持っている
私以外の家族３人が、身体障害者ですが別居しておりくわしい状況は分かりません。
身体介助なくては生活できない方
乙武さん
孫です。
手足が不自由というイメージ
誰かのささえがないと、何も出来ない。障害物があると危険
歩けれない人。
健常者とちがう点がある。車イスでの移動、義足、手足などの欠陥、マヒなど
身体に不自由な部分がある人のこと。
自分をコントロール出来ず、大声を出したり、あばれたりする人。
視覚障害、聴覚障害、聾唖障害、知覚神経障害、脊柱、頚柱損傷障害、歩行障害、薬剤による障害。
体のどこかに都合の悪い所がある人
パラリンピックの出場者
手、足、耳、目の不自由な人
手足の不自由な人、車イスの人等
手、足を切断されていて５体不満足の人
身体の一部に障害のある人
足が無かったり手が無かったりの人　目が見えない。耳が聞こえない。などの人。
身体の一部が不自由で手帳等をもっている。
手、足、臓器などのどれかに障害があり、正常な人と比べ活動に制限がある。
全身不ずいの人から歩くのに困難をきたす程度の障害を持つ人まで様々な身体的障害をもつ人が含まれる。身体的困難により、精神障害を併発している場合もある。
車イス　盲導犬
体が不自由な人
身体機能の一部に障害を生じており、日常生活に支障をきたす事がある。
歩行困難な状態の人　心臓の悪い人　目の悪い人
運動能力が先天的（または後天的）に日常生活を送る上で支障がある。他者があるいは機器による助けを必要とする。
日常生活する上で、体のどこかの異常にて普通の生活に一部支障をきたす方
車イス生活の方や、目や耳の不自由な方
日常生活において動作が十分でない人。また意志があっても身体が動かない人。

見た目が普通の健康体格とちがう人・普通に出来ることが介助がないとできない 治療や薬を続けていないとすぐに身体に異常をおこしてしまう人
病気交通事故等で普通の生活がむずかしく不便な状態。頑張ってリハビリ等で良くなっても一般の人より自由な生活を求めにくい体力で機能しない所がある
・施設（身障）で働いていたことがあるので、その時の施設の人達を思い浮かべます。・親族の人を思い浮かべる。又、近所のろうあ者を思い浮かべる。・車いすの人や、つえをついている人、目の障害の人達も→街の中などでみかけた。・手話を少し習ったことがあり、その時に出合った人を浮かべる
歩く事が困難で、喋る事も困難な人。
・手足の不自由な人・眼の不自由な人・耳の不自由な人・精神障害者・統合失調者・摂食障害者・自閉症
成人になってから、仕事につける所が、沢山あるのか。
手足の不自由や目や耳が聞こえない等
思うように動けない　車イス　目が見えない　耳が聴こえない　等
全盲の人や車椅子に乗っている人。
健常者でない人で身体に障害のある人。パラリンピックの選手を思い浮かべる。
体が不自由な人。手足が思いどおりに動かなかったり、そもそも一部がなかったり。耳や目が不自由な人や内臓疾患による人（心臓のペースメーカーを入れている人）等も入ると思う。
パラリンピックに出場している人
手足等欠損してる方達。生まれつき、脳生マヒの方達、位
体が不自由な方だと思います。身体障害者の方でも車に乗ったり、出来て、ふつうに生活をしている方もいらっしゃる。
目、耳、の障害で見ること、聞こえず、話すことが出来ず手話で伝える。歩くことが出来なく車いすで行動するか、又、見えない人に補助犬を使う。
身体が不自由な方、思うように動けない方を思います
小児マヒ、交通事故がイメージされる。
身体に損傷がある人
身のどこかに障害があり自分で何かする時に出来ないことがある
手や足などの一部や機能の一部が損なわれている人
事故などで脊椎損傷をおった人とか、高熱などで運動神経を病んだ人
歩行困難
脳こうそくによる身体障害
体が不自由で車椅子に乗っている人。人の世話を受けなければ生活が難しい人。
自分の力では歩行などできず他人の力が使用　体が一部がないなと義足、義手、車椅子を利用
身体の不自由な人

身近にいないため、よくわからない。

生まれつき５体に異常があって人の手を貸りて生活している人とか、事故などによって儀足になったりしている人。私は６月に人工膝関節の手術をして当初身体障害者になると言われましたが、４月の法案で人工膝関節については障害者扱いにならなくなりました。職場の人にその事を話すと、その人は障害者になるくらいなら手術はせん！！と強く言われました。私は理解できません　そんな目で見ている人がいる事にショックを受けました。

生まれた時から手足が不自由

気の毒だと思います。家族の方が大変なのではと思います。

身体の一部に不自由を感じる人。

手、足などが不自由で、車イス等を利用している方。

体が不自由な方

身体の一部がない、または上手く使えない

小児麻ひ等にかゝり身体に障害がのこった人のこと

実母と娘が軽度の身体障害者です。家の中を障害の程度によって改良する事で生活を楽にすることは出来ますが、心の中を楽にする事は難しいです。本人の気持ちも私の気持ちも大変です。特に娘は障害者支援で就職しましたが、うつ病になって離職しました。（現在はおちついております。）

・四肢に生まれつき、あるいは後天的に欠損がある。・視・聴覚等に不自由がある。・内臓に疾患があり不自由がある。

手・足が自由に使えず、車いす等を利用するような人

体の一部に障害を受け機能しない。手・足がない又は動かない、耳が聞えない、目が見えないなど。

体のどこかが不自由

盲人、聾唖者。片足や片手の無い人。

車イスの人

・一般的な社会生活ができにくい・個独感

半身まひ

生まれつき身体が健常者と違う障害

障害者手帳を持っている人、目が見えないや極度の弱視の人、耳が聞こえない、話しが出来ない人、車イスで移動する人

生活するのが少し人の助けがないと厳しい

日常生活に支障をきたし安定したくらしがおくれない。

身体が不自由。

事故等で片腕を失しなった人。騒音のため聴力が低下してしまった人。

自身の思い通りに体が動かない？

体の不自由な人　車イスで生活する人　装具をつけている人

事故又は病気による、四股の欠如、正常な動作がままならない人。

生まれつき身体が不自由である。病気や事故により不自由になった人。車いす生活を強いられている人。目や耳が不自由である。

普通に歩けない。車椅子が必要。（しゃべれない）先天的、後天的理由で身体機能の一部に障害がある人　手足が動かない脳性麻痺のある人。身体障害者手帳を持っている人

脳には何の障害がないが生まれつき「五体満足」でなかったり交通事故や仕事中の事故などで手足が不自由になった人

障害を持ちながら努力している姿が美しいパラリンピック走幅跳の佐藤まみさん　盲目のピアニスト辻井伸行さんの素晴らしい才能　障害に負けず努力する乙武さん

車イスを利用している

身体が自由に動かない部分があり、通常の生活に支障がある。足が不自由な方は、車いすを利用するなど生活を助ける道具や、人の手助けが要る。軽度の障害でも、不自由さは、健常者には分からない部分であるので見えない所でつらい。

自分では歩行出来ない、もしくは、寝たきりの人

兄が五年前に身体障害になり、本人はもちろん大変ですが、奥さんの方が、大変だと思います。

車イスの人や目、耳の不自由な人

程度や障害を持った時期も様々であると思いますが、思い浮かべるのは、先天的に四肢が不自由な方です。

目のみえない人

体が不自由で歩足等が困難

目が見えない。耳が聞こえない。話せない。歩けない。

車いすを常時必要な人、手話で会話が必要な人、盲導犬やつえが必要な人、義足・義手が必要な人

読んで字のごとく体が不自由な人

車いすを使っている　義足

身体の一部欠損や生活をしてゆくのに、体の機能がうまく働かない身体のこと

バリアフリーなど、住みやすい社会作りなどしているが、実際はまだまだ住みにくかったりするのだろうなと思う。

補助器具（車椅子・松葉杖）使用の歩行者　盲導犬に誘導される歩行者

体そのものの１部分が機能なさず、障害となっている。

・生活するにあたって何らかの介添えを必要とする人。・病気、けが、身体のまもうに寄って、体の欠損部分を補っている人。

協力したいが何をしたらよいかわからない。

体が不自由な人

五体といわれる体の不都合
目、耳、歩く事、話す事の不自由な方又は精神的な悩みを持っている方など
・手足が脳の障害により正常に機能しない人　・視覚障害や聴覚障害なども身体障害に含れ、日常生活活動が制限される人
小児まひ＝手・足・身体が不自由ですが、ある程度動くことも出来生活も自分で出来ます。
生活をする上で何らかの制約を受ける人。（薬の投与、運動の制限）
５体の一部に障害のある人
手、足が無い人
身体障害　摂食障害（ガン）
自分ひとりでの生活が困難である
※脳内出血等で後遺症が残った時。
手又は足が不自由な人
手がない　足がない
手足の不自由な方
以前知人で（てんかん）専門で色々とアンケートなど求めてきた事がありますが今はもっと難病がありはずされたとの事も聞いています。
身体の一部に損傷などで日常生活に不自由がある人（車イスなど）
障害の「害」が気にいらない。何ゆえに害？「障がい」とせめて表記しろ。
車いすにのるなど身体が不自由な人
車椅子の人、盲動犬を連れている人、白い杖を持っている人、耳の不自由な人。
パッと浮かぶのは車イスの方。体にハンディはあるがそれも個性でその人らしさの中に、少し私たちのサポートを必要とする人。
交通事故等々での身体障害あるいは小児マヒ。
交通事故にて、体が不自由になった方。
車イスに乗っていたり、体の一部に不自由がある方。
生まれてすぐ、又は、事故などで通常の生活ができない人。
家族は大変だと思います　お送り迎い、施設がもっと増えると良いと思います。
手足の不自由な方、し覚障害者
身体の一部損傷、車椅子利用
五体満足ではない人
身体のある部分に異状があり、一般人のように正常な活動が出来ない。
・肢体不自由者：手足、目、耳、等の機能が不自由な人・精神障害者：知的障害の有る人。
脳梗塞等の後遺症で身体に麻痺を残した人。
・下半身、上半身、右半身、左半身、せきずい等にまひや障害があり、その部位を自由に動かす事が困難な方。・視覚障害、聴覚障害等のある方。・その他身体の一部に障害がある方。・障害が軽度でも重度でも自分でできる事をしようと頑張っている。
以前は動けない人と思っていましたが、現在は、色々な方がおいでるので、一言では難しく思います。私自身の考えは、健常者とあまり変わらない様な気がします。
身体障害者の方は、身体の一部に障害がある訳ですから、手や足が不自由であったり、目が見えなかったり、耳が聞こえなかったり、という様に思い浮かべます。
手・足が自由に動かす事が出来ない。
身体のどこかに不都合な所があり、普通の日常生活に多少の障害がある人と思います。
身心と知能が遅れていて人並の生活が出来ない
身体の一部が、まひしているか、欠そんしているかどちらかの状態である。たとえば、目がみえない、手、もしくは足がない、身体を動かす事が困難な人。
生まれた時点障害者又は事故等で身体自由がきかない人
身体が不自由な人
自分自身であるけない人
手、脚、又は、五感覚の機能に欠陥のある人　車椅子の人　盲導犬又は、盲杖を利用する人
知的には正常で、身体のどこか動かせないなど（片手、片足等がない）と思っている
車いすで生活されている
日常生活が困難で歩行もつえを使って近くのみ。（親戚にいる人の場合）
体の障害身体の一部が機能しないこと
肢体不自由。移動の際、車いすや装具を必要とし、生活の一部又は全部に介助が必要な人。
体の機能が不自由
ヘレン・ケラー　「五体不満足」の人
身体の一部欠損した方や、身体の一部の機能がマヒしている方
病気や事故で、身体に障害をもつこと
車椅子等に乗っている人。
手、足などの動きが、日常生活に支障がある位不自由な場合。
足の悪い人　耳の聞こえない人　目のみえない人
特に手足の不自由及び欠陥のある人
両手、両足欠損症等かと思います。
身体が不自由な人　人の手助けが必要な人
身体に正常に機能しない所があるなど事故などによるものなどまた先天的なもの、病気など軽度、重度にかかわらず症状があること。
身体（体のどこかの部分）で、障害があり、不自由で健常者とは、同じことするが出来ないことが多い。車いすなどを使用しないといけないなど…
彼らがとてもかわいがりを見て、彼らが完全に治すことがきるのを望みます。

手足が不自由など
交通事故による身体障害頸椎損傷、四肢マヒなど
生活していくのに大変だと思う
生まれ乍らに不幸にも、体に支障を持っている人もしくは、出生後、何らかの原因で体が不自由になられた人。
耳のきこえない人　目の見えない人　リウマチ
主人が病気で身体障害に６０才位でなり看病等で大変な事も多々ありましたが市役所にもお世話になりました。
手、足などが動かない人見えない人や聞こえない人
日常の活動・行動に支障をきたす人
体に障害のある人
近所にうつ病になっている人　入退院をくりかえしていたのですが最近は少し良くなっている。
他人の手助け必要であり
手足や関節の動きがよくなかったり、欠損がある人。聾盲などの不自由がある人。障害者手帳を持っている。軽い障害の人はぱっと見でそうと分かりにくい。情緒不安定な人が多い。
自分のことにおきかえれば、大変だなと思います。
足や手等が不自由な人
行動・言動がふつうの人とちがう人
家族の負担がたいへんな人。
ダウン症の事はよくテレビで見ることがある。どの顔をみてもよく似ている。健常者よりすぐれている人がたくさんいらっしゃいます。
肢体不自由
健常者と同じようなことが、出来ない人
母親（９４才）や兄（７２才）を思い浮かべます　（母）５６才から障害になり１５年前から施設でお世話になっています　（兄）５５才から障害になり嫁のお世話になっています
脳や手足が不自由な人など。
視覚障害、聴覚障害、肢体不自由
なんらかの原因で足、手等に障害のある方
両上下肢、視力、聴力の機能に障がいのある人　その他病気で日常生活に著しく制限を受けている人など
視覚障害、聴覚障害　肢体不自由　音声、言語機能障害　心臓（ペースメーカー）、じん臓（とうせき）
何らかの病気・けがなどで、身体に障がいをもった方々。
先天的あるいは後天的に障害を持ち、知的障害を供なわない人

日常の生活において困難が生じる人
むずかしい質問ですね。
体がふじゆうで自分で生活するのがこんなんな方
手足が不自由・生まれつきや病気・事故などで。
体の一部が生まれつき又は、病気、ケガで無かったり、体の一部又は、全体が、動かなかったり、体の一部が変形していたりする人。
視覚、聴覚障害の方、肢体不自由、身体上の障害がある方
車イスの方。
体の不自由な人
体のある部分が不自由（手、足他）
ダウン症の方や、体が不自由な方、車イスの方など。
手足が不自由な方
運動能力が劣っているように思える。
歩行ができない。車イスを使う。手を使うのがおそい。
パラリンピックなどの選手の人達や、盲導犬を連れている人など、又車いすに乗っている、手足がない人達など特にアスリートを思い浮かべます。
少女時代の友人、辻井伸行君、近所の青年、娘さん。
「五体不満足」の作者の人
手、足の不自由
身体の一部が正常に機能しない人。
脳梗塞等で言語障害、身体障害の症状
乙武洋匡さん
身体に機能をさせにくい所がある方。
手足や視力、聴力が弱く不自由な人。
片脚や片腕の無い人
筋ジストロフィーの人
人の支えがないと歩行できない　車椅子を使用している　全てではありませんが、人の支えがないと日常生活ができない困難な方を思い浮かびます。
乙武さん
目が見えない。足、びっこをひく、短い。腕がない。パラリンピックに出る人。皮膚病。糖尿病。体の内、外に障害がある人。
目が見えない。耳が聞こえない。盲導犬と一緒に行動をしている人。
身体に何らかの原因で障害がおきている人。車いすの生活をしている人など。
車椅子に乗っている人。たとえば、交通事故にあって体に後遺症のある人

目の不自由な人。耳の聞えない人。小児マヒで手や足が不自由な人。
・生活上必要な移動に器具が要る人。車椅子、歩行器、杖など。生活上の不便がある。・目や耳が不自由な人。
身体的に不自由な人。歩行困難。他の人の助けがないといけない。
見た感じでなにか障害があるのかなと思うくらいで、気をつかってやらねばと思います。
日常生活の上で何かしら、身体に不都合な点があり、補助や介助（物・人）が必要な人
車いすを利用　杖を利用
イメージは良くない。「身体」の定義があいまい。
体の不自由な人、言葉の不自由な人の事を思い浮べます。
生まれつきや事故によるケガなどで身体を自由に動かす事が困難なこと。身体の老化によって日常生活に支障があるなど。
歩行困難
日常生活に誰れかの補助を受けなければ生活出来ない人。
身体が不自由な人。（車イスの方や、視覚・聴覚が不自由な人）
けがなどで一生歩けなかったり寝たきりの人
・知脳性におとろえがあり自分では行動が出来ない。・他人の手をかりなければ生活が出来ない。
体が不自由である事　健常者と同じ活動ができない人
手、足などの身体の一部が、十分機能していない人を思いうかべる。
・佐藤真海さんみたいな、障害にめげず明るく前向きで健常者にも生きる勇気を与えてくれる人。・盲人なら鍼灸との固定観念にとらわれたくないと羽咋から東京に行き「日本盲人図書館※」館長にまでなられた岩上義則さん。※名称は定かでない。
車いすに乗ってる方。人の手をかりないと生活出来ない方。
普通の生活をするのが、難かしい方。
・手が不自由な人・足が不自由な人　など身体に対して不自由がある人
生活に不自由はあるが、辛抱強く気持ちが強いイメージ。
薬、先天性、事故などで身体の一部に障害を持っている人達。それぞれが持っている特性をいかし、学習や生活に一生懸命取り組んでいる人が多い。サポートを受けながら自立した生活を営む人達にも接した事があり、学ぶことが多かった。何か役立つことができればと考えるきっかけを作ってもらった。
肢体不自由な方、視力や聴力の障害、片マヒ、下半身マヒ、透析をしている方？
・乙竹さんのようなサリドマイド・事故等で腕や足を欠落した人、失明した人等・生まれながらに、失明していた人
生まれつき、あるいは、事故などで体に不都合なところがあること？
交通事故で不自由な体になった人。生まれつき体が不自由な人

健常者と同じ運動が出来ない人
身体を自分の意思で動せない人
からだの不自由な人　助けの必要な人
行動に自由がきかず社会に対して、不自由だと思います。
６、７年前に定年退職された職場の女性で、勤務時より障害（足が不自由）をもたれ、定年前の２０年近く車イスでの勤務をされていた
車いすなどを使用している人
車いすにのっている人、目の見えない人、足が悪い人（歩き方が違う）　手話で話している人
手足不調の方
介護が必要、家族のみで抱えるのは限界があり、様々な社会資源の活用が提案されるべき。
日常生活を営んでいく上で、不都合な事がある人や、一人で生活できない重度な人
ろうあ者、おし、目の見えない人、手や足のない人
四肢又は、内臓機能に障害をもつ人
四肢麻痺・欠損・先天性・後天性などで、日常の生活に介助が必要な方
足での歩行が自由に出来ない人
おもに体に障害があることがまず頭に思い浮かぶが色々な場に出かけた時に知的障害の方や統合失調調症の方と接してより理解を深めてきたと思うしこれからも深めて行きたいと思うし又協力もしたいと思います。
パラリンピックの選手達
通常生活を自分ひとりで出来ない人
体を動かすことが自由に出来ない人。歩くことが困難な人。
体の一部、あるいは、全体が不自由で、生活が困難な人。
・大声で奇声を発する。・自立歩行が困難・四肢に欠損がある。・コミュニケーションがとりづらい。またはとれない。
体の不自由な方。車イスに乗っている。パラリンピックに出たり目指したりしている。
身体の一部が機能しない
身体に欠損のある人
（頭・顔・耳・足・手）＝身体上に障害のある人
他の人の手をかりて行動しなければならない人と思う？
肢体不自由者
先天性、後天性で身体に不自由をもっている人
手足がない　歩行が出来ない　目が見えない　音が聞こえない
１人では日常生活が出来にくい。
手・足及び視聴に障害を物つ人

手足、目、耳などが不自由な人　生まれつきの人もいれば、病気や事故、けがなどによって途中からなる人もいる。
体に不自由があり、健常と比較すると出来ない動作がある。
社会の弱者
脳卒中などの病気や事故の後遺症によって身体が不自由になった人
身体障害者といっても、先天的、後天的、一部に日々の生活を送るのが大変な人たちがいます。私の回りにも、◎少し人より劣る人◎病気で社会生活ができなくなった方◎精神障害の方、心の病
声が出ない。
・手足の不自由な方　・耳、目の不自由、行動的にｅｔｃ外観的にはっきりわかる人
身体の機能が健常者と同じには働いていない人。
・脳梗塞等の後遺症で片麻ヒ等がある人・視力障害のある人・聴力障害のある人・四肢の欠損や切断
キンジストロフィー
外見的にみて、不自由な人や、話をして、不自由な人。
知的で少し目に付人、初めて見た時はびっくりしました。話す内に独語がわかりました。
同じ人間に生まれてきて、大変なことと思います。力になってあげたいと思います。
目が見えない、耳が聞こえない、手足が不自由。
手や足などが発達しておらず、自由に動かす事ができない人。
目、耳、言葉の不自由な人　手、足、等、体の不自由な人　ペースメーカー、人工こうもん等、している人
パラリンピックに出場している人　乙武洋匡さんや目が見えないピアニストやバイオリン奏者
からだの一部に、障害があり、日常の生活に、不自由さを感じていると思われる人。（程度により思ってない人もいるかもしれない。）私たちから見ると、苦労されるだろうなぁとか、精神的に、いろんな面で、気を使われるのでは、ないか。など思うところがあります。
体の一部分が都合悪く介護を必要し会話には、支障ない方だと思っています。
身体的な機能に障害がある人、“五体満足”でない人や、視覚・聴覚等身体機能に障害がある人を思いうかべます。脳も身体の一部ですが、身体的な機能にあまり影響がない場合は身体障害のイメージはないです。
身体の一部でも不自由がある人
・自分で用足しが十分できない状態
手足や目、耳など先天的後天的な理由で不自由な人
目が見えない、耳がきこえない、歩けない等の人
車イス、補聴器、目の不十の人が使う棒（白い）、など
・身体の一部の機能が一般の人と同等に動かすことができない人。

車いすの人、補聴器をつけている人等
先天的または後天的に、身体機能が完全ではなく、日常生活において、手助けが必要な人のこと。
生まれながらに身体に障害が有る人　病気の後遺症　ケガの後遺症
普通の人より多少日常生活がこまる人
脳性マヒの人が、スーパーで自分のできることを一生懸命に働らいていた方
・肢体不自由な人・視覚、聴覚、言語に障害のある人
身体に不自由がある人
・事故（コンバイン機）による片腕を切断した人。
体が不自由
手足が不自由な人
一人で社会生活をするに於て、身体に何らかの不都合のある方
身体に障害がある人。目がみえない　耳がきこえない　体の一部が動かない　車椅子等の補助器具を使っている
車いすを使用されている人というイメージ。
五体不満足の乙武さん
車いす。杖などをついて歩行している。
パラリンピックに参加する選手達
身体のどこかしらに異常があり、一般的な生活が送りづらい人。
１．大変だなあ！身体障害にもう少し援助が必要と思う
体が生まれつき不自由な人
生まれつき手足などに障害がある人。
障害には軽度から重度があり、軽度であれば、普通の学校や職場にも行ける様、みんなで助け合う事が必要です。社会で特別視されない様理解し、ボランティア活動が大切です。
・サリドマイド障害（生まれつき）（乙武さん）　・交通事故などにより片足、片腕失った人
わかりません
寝た切りの方、車イス生活の方
・病気やケガなどで、身体の一部を失ったり、機能しなくなった部分がある。・生まれつき、身体の一部がなかったり、機能しない部分がある。
体が不自由　手、足とか話
手足が不自由であること。自分の意思で自身の行動をコントロールできない人。
外見的な障害が浮かびます。歩行困難、目・耳・口の障害等…。
・リハビリが必要な人。・リハビリ後も後遺症の残る人。
身体が自由に動かない。（一部、全部）

生活に支障がある、身体の不自由な方
車イスに乗っている人　義肢を使っている人　パラリンピックに出ている人
身体（体の一部）が、自由がきかない。
手足が不自由で歩行や食事等の日常的行動に、支障がある。
健常者に対し、身体的に障害（不自由）のある人。
身体のどこかに障害があり他の人（道具（車イス）等）の手助けが必要な人
目や耳に障害のある人のこと。白いつえを持っていたり、補聴器をつけている。
１、肢体不自由者（運動・動作等）　２、言語障害者　３、視覚障害者　４、聴覚障害者　５、心臓機能障害者
・産まれつき手・足が不自由な人・交通事故や脳などの病気の後遺症
身体が不自由な人。
目・耳・肢体が不自由な人
体が不自由な方。特に手足。車イスに乗っている方。
私が小学生の頃、学校に２名程在籍していたように思う。当時は小児マヒと聞いていた。身体が思うように動かないようで特に緊張すると顔や言語（ろれつ）に障害があった。知的には問題がなく、成人した頃にお会いした際は会社（有名な企業）に勤務されているとのことでした。
腕や脚が一部なかったり、車いすで生活している人
肢体不自由（手・足がない、動かないなど）　視覚障害　聴覚障害
手足が不自由な人
生活が不自由　一人では生活できない　パラリンピックでがんばっている人
生まれつきもしくは事故等で身体を自身で動かすことができない人
・言語障害・歩行障害・発育（達）障害・盲人
自分本人が思っている事を出来ない事がある。自ら、なりたくてなった障害ではないのに。話が上手く伝わらなかったり。
言語障害、身体障害
手、足が不自由。他人の手を必要とする
身体に障害を持ち日常生活に支障のある方
・生まれた時から身体に障害がある人　・交通事故に遭った人　・脳の障害で半身不随になった人
・車イスに乗っている人　・白いツエを持っている人
・体に不自由を持っている人　特に、耳が聴こえず、手話で会をしたり、車いすで生活する人。また、目が見えない人など
身体のどこかの部分に障害があり、健常者とは違う。心は（会話などの意思疎通）は、健常者とは、なんら変わりない。もし、街で、身体に障害のある方が困っていたら、ご本人の気持ちを傷つけない様に、接しようと思っている。

いとこに生れながらの身体障害で７才まで生きられないと医者にいわれていましたが、家族、親戚のささえで５７才まで生きました。友人に今も寝たきりで、首から下は動かない重度の障害を持った人がいます。最近目と口でパソコンを動かしていますが、神経が再生されるよう祈っています。
体の一部が不自由な人
知能はしっかりしているが、体に不自由な部分がある。先天的あるいは後天的な理由によるもの。時には、知的障害がでる事もある。手足がない、自由に動かない。
からだが不自由な人、たとえば１人で歩くことができない車イスにのっている人など。弱視とか、耳がきこえない人。
歩行ができず車イスに乗っている人　梗塞等で片マヒになった人等
生れつき、または疾病、外傷により身体に障害を有する者です。
人並の生活を送るのに支障がある方。
健常者と同じ、特別な感情はもたないが、きのどくと思う。
足に障害があって杖などを使用している人　盲目で盲導犬などを供にしている人
目、耳、手足が不自由な人
ヘレンケラー　野口英雄
小児麻痺
かわいそう
大変だと思う　なるべく普通の人と一しょな生活をしてほしい。
五体満足でなく、どこかに障害がある方。手足が不自由であったり、（又は無かったり）、半身ふずいの方も　一人では生活が困難で、助けがいる方。
手足が不自由な方、目や耳が不自由な方。
目が見えない　耳が聞こえない　体の一部障がある
手足不自由
自身の身体の一部又は全てがない又は、その機能が使えない状態にある人。例：指がない、手がない、足がない、目が、見えない、耳がきこえない等
身体的に不自由な人、精神的に障害のある人
足の不自由な人
視覚、聴覚の障害　四肢のマヒ、欠損
足が極度に短い。
手・足・動かせない伸ばせない曲られない　視聴覚全く聞こえないか見えない少々聞こえないか見えない
手足の不自由な人
生まれつき、体が不自由な人　上手に歩けない、五体満足でない　病気や事故で体が不自由になった人

ダウン症の方を見てきました。小学生から成人まで近くに生活しておりました。親は大変でした。（普通教室で学んでおりました。）
身体障害とは後天的または先天的な理由で身体機能の一部に障害を生じている人。
五体不まん足　ヘレンケラー
身体の動きが不自由で生活に障害を及ぼす人
身体が不自由
手足が不自由な方
・体のどこかに自分では自由に動かせない所がある。・生まれた時に体に障害があって生まれた方。
車イス（歩行困難）身の回りの事で自分でできないものがある。
脳血管障害による後遺症で、麻痺があり日常生活に支障を来たしている。脊椎損傷や外傷により運動障害がある。視覚・聴覚障害により、日常生活に支障をきたしている方。心臓疾患で日常生活に支障のある場合、認定がある。
病気、遺伝によって体が不自由になり、社会で働いている人との差がでてしまう人の事ではないかと思います。
乙武洋匡さん
生まれつき五体に満足と言えない、未発達部分があったり、ケガや事故により、神経のマヒや、骨折にて、体の一部が可動しなくなった方。
手、足、目、耳といった身体の機能で不自由なところがある方。
手や足が不自由で日常生活に支援の必要な人
体が不自由な人、日常生活が困難な人
・車いすに乗っている人・義足、義手の人・人工関節を使用している人
車椅子の人や、手足が動かない人。
先天性、事故などによって体に障害のある人
目に見える部位に障害がある
足の不自由な方
五体満足ではない。歩くことが出来ない。
普通の人と同じ様には動けない、不自由がある方。
思考能力や会話などは問題ないが、生まれつき、もしくは事故などにより体に不自由がある人。
足が不自由など身体のどこかが不自由である。
体が不自由（手足などが不自由）歩行が困難
身体が不自由な方
足・手の不自由な方
言葉がしゃべれない人
歩行、食事等でスムーズに動かす事が出来ない

義手、義足、車イスなど補助が必要な人
身体に障害を持っている人　例えば、手足が不自由な人　目が見えない人　耳が聞こえない人　手や足が病気やけがでない人
手足が欠損している人。視聴覚に異常がある人。車いすに乗っている。白杖を持っている
身体の不自由（手・足が使えない）な方　盲目、耳が不自由など
障害をタテにして生きぬいている人達
手・足・目・耳の不自由な人
気毒に思う
生まれつき脳性まひで生まれて身体障害になったり事故がもとで身体障害になる方もいる体が不自由な状態だと思います。
生まれつきか事故などで体の不自由な人
車イスに乗っていたりしていて、歩行等が困難な人や体の一部が欠損している人、重度の心臓病等の人。
自閉症＝対人との接点がない（変わり会話が出来ない。）
目が見えなかったり、耳が聞こえなかったり、口がきけなかったり、歩けなかったり…身体のどこかに障害がある方
よくわかりませんが、染色体異常とか突然変異ではないでしょうか。
先天性、もしくは病気やケガ等の後遺症で介助が必要な方。
不自由な身体、もし接することがあれば障害を補う
目が見えない人や耳がきこえない人。あるいは歩くのが困難など、動作に何かむずかしい事がある人のこと。
ダウン症や自閉症の子たちを思い浮かべます。
足や手等体の一部が不自由な方
何らかの理由で身体が自由に動かすことができない様子
先天性、後天性があり、障害の質も変ります。私の息子は先天性身体障害を持ち、内・外での介護は大変です。
小児マヒや、耳が聞こえない、目が見えない等
頭ではなく体のどこかが悪い人
手、足、目、耳の不自由な人
・手や足にマヒがあったり、動かなくて歩行困難な方。・歩行ができず車イス生活を送っている方
・手や足などに欠損とか動かない状態の有る方・目が見えない、耳が聞こえない、声が出ないなどの状態に有る方
車イス利用　視覚障害　聴覚障害
生まれつき又は事故等で体の一部に障害をもち日常生活が困難で介助が必要な人。

身体、手足が不自由、五感の一部欠損、生まれつき体の一部が不足もしくは、事故等による欠損、そのような事を身体にかかえる人。
身体が不自由な方。他の人の手助けが必要な方。
視力、聴力に障害がある。体の一部に障害があり、歩行や生活が困難など
身体のどこかが不自由な方
手や足、身体が自身で思うように動かせない。
身体に障害があり、生活に不自由な人
生れつきとけが・病気で障害がある方
半身麻痺、聴覚・視覚障害等の人
車椅子での生活を余儀なくされている方
五体のどこかに不自由なことがある人。
身体に不自由があり、動かすことができない。もしくは欠損がある
四肢や内臓などに日常生活に支障のある障害のある方
乙武さんのような先天性四肢欠損や不慮の事故等で身体不自由になった人。知的障害は無い人。
生れつき、精神的、身体的に発達が遅れた方々、事故等により、障害を有した方。
私の父、心臓バイパス手術
身体を動かす機能に障害が有り不自由で有る
身体障害者、本人もたいへんだが家族も何かとたいへん大きくなるにつれて、本人も、自分がまわりの人と、どこか、ちがうと感じる様な年になれば又、精神的にショックが大きく親もたいへん
車イス使用者　視覚障害で白つえ使用者　歩行困難（四肢障害）　聴覚障害
車イス
手足が不自由、言葉がききとりにくい
足や手を無くしたアスリート
体の一部分に障害が有る。車イス、義足、盲目、耳が聞えない。
五体満足ではない人
・身体の不自由な人で何らかの障害を持っている。車イスに乗っている人
いろいろな動作に支障のある人。（身体的に不自由なことで）
ケガや病気などで、自分の事を、自分一人でする事ができない方
日常生活において、常に手助けが必要。
生まれつきや事故、病気などで身体に障害を持つ方。自分の力だけでは生活が困難な方。
ストーマ（人工肛門）の患者様と関わることが多いのでストーマ造設している方のことを思い浮かべます。
身体に、生活（日常・社会）や運動等に不都合な所がある方

身体の一部の機能に問題があって、本来の動きや、働きを果たせていない人。肢体不自由　知的障害　発達障害
脳・目・耳・手・足が、不自由な事。
体が不自由で、日常生活において、介助を要する。
目が見えない　足が１本ない　車いすに乗っている
自分ひとりでは生活するのが困難で何らかの支援を必要とする。
事故（交通事故）等にあわれた方。病気等にて身体に障害が生じた（残った）方。
手・足等が不自由
身体機能の一部に障害がある。手や、足がない。正常に手足が動かない。目が見えない。耳が聞こえないなど
生活するうえで、いろいろ大変
四肢に不具合のある方、円滑な日常生活を送る事に支障が出る方
身体的に不自由で、他者のサポート等がないと歩行等が困難な方
手足が使えない人
生まれつき、又は、後天的に体の機能又は部分に欠落、欠陥がある。
行動するには、健丈者による手助けが必要となる方！！
身体の一部に障害がある。
歩く時の足の不自由な方。目、耳、不自由な人。口のきけない人。
よくわかりません
他の人の手助けが必要とされる人
身体、不自由な人。身体に障害のある人。
心ぞうがわるくてペースメーカーを入れている人　手足を事故などで、片方うしなったりする人
ろうあ者
四肢欠損などの見た目の異常。視覚・聴力などの低下
足が不自由な方。寝たきりの方
・車椅子を使用している
日常生活において、健常な人達と同様な生活を送るのに支障をきたす人　障害を線引きすることは固人的に困難なことですが、細いな行為においても、そのことが難しいのであれば、多少なりとも、障害があるのではと考えます。
生活上の困難
身体の一部に障害がある人の事。生まれつきの障害・事故での障害で、身体の一部に不自由がある人の事。
耳が聞こえない人や目が見えない人、車イスの人など
身体に障害がある人。歩けない、腕が思うように動かない等。

不自由な体なので、車いすのイメージ
手、足がない方など
生活に障害があり１名では、生活出来ない人
生活する事が難しい、又は助けが必要。
生まれもってや、事故等で身体が不自由な状態になったこと。
家族がたいへんだと思います。我が子がもしくは、親がだったら、どうせっしていいか知しきをえなくては、だめだと思います。
体のどこかに不自由のある人
・人生素直に生きて行けないだろうな？・何が楽しみなのかと思います
身体に不自由な所の有る方と思います
車いす生活を余儀なくされている人　義手、義足の人など
車イス等の、補助器具を使っている人
疾病や事故で外傷が生じてしまい、損傷が残ってしまった人。
手足の不自由な人

問１３　白山市の人びとに対して、障害ある人への理解を広めるために、どのような方法が有効だと思いますか。以下にご自由にご記入下さい。

障害といってもその程度に色々差が有ると思われるのでどういった支援が良いかは分かりません
身体障害に関しては障害のある人というより、歩道や階段など、ユニバーサルデザインを取り入れて誰でも歩きやすいよう整備すればよい。知的等の障害者の理解はどうやったら広まりますかね。完全に理解することは無理だと思います。いろいろな場所で交流を行って障害を知ってもらうところからだと思います。何も知らない人はどのように接していいかわからず、さけたくなるということもあるかもしれません
市の積極的な啓発活動
障害を差別として見ないで欲しいから市民との交流を深める行事や理解してもらえるために講演や座談会などで現状や問題点など十分見たり、話したりする方策を考える。
ふだん障害のある人達と出合ったり、直接話しをするきかいがないので、誰でもきがるに出合えるような場や、お話しなどをするきかいがあればと思います。
過剰な親切や同情をやめること。彼らの苦悩に鑑みて、こちらの方こそ負い目をもって接すること。
子供達は学校で障害のある人を理解出来るような教育が少しあるようですが、もう少し時間数を増やし、ふれ合える時間があるといいと思う。大人はもっと理解出来るチャンスがあればいいのにと思います。職場での教育をし、もっと障害がある人を受け入れていくべきだと思います。
障害のある親に聞いた話だと、金沢まで通学しているのですが、毎日親が送り迎えしているそうです。私達は、山の方で生活しているのでバスをツルギまで迎えにきてほしいけれどもだめだったと言っていました“やはり少数しかいないので私の意見は通らなかったと話していました。行政はどのようにして耳をかたむけてくれるのか？”市議会議員にたのんでもだめだったと話していました。
雇用の創出、作業所の設置
身近かに障害をもった人がいないので、具体的に理解していない。ＴＶ番組等で紹介するとか障害のある人が出てくる映画・ドラマ等で知るのが最もわかりやすいのでは…。
障害者が勤労意識が有り又そうしなければならない方々の為にも程度による支援施設等整備して行くことも必要で有ると思われます。
小中学校の授業の中で障害者に対する理解を深める教育をきちんとしていく事だと思います。
子供の学校（なかよしクラス）の生徒さんの保護者さんからお話を聴いたりするとよく分かると思いますが、身近にいないと深く考えないかもしれません。
障害ある人でも働くことができるということを知ってあげる　個人個人能力に差はあるができる人もいるということを知ってほしい
障害ある人とふれあう場や講演会等がもっと多くあればよいと思います。私個人として障害ある人に積極的に関わる自信がないのですが、関係ある人からボランティアとして頼まれれば、都合が悪くない限り引き受けたいと思っています。
障害のある人の親の切実なお話を聞ける場をつくる　幼児から小学校～子、親に対して伝える機会をふやす。授業や講演、研修をうけ、身近な人のお話をきくことで大変さや対応のしかたもわかるが、それまでの障害者に対するイメージや、接した印象は私自身もかえられない
・各障害に関する正確な知識がない為、知らない為、各障害かどのような状態のことを言うのか、どのような障害がある為そうなってしまっているのかをまず周知させる（文字だとわからないのでマンガのようにわかりやすくする。）・学校での専門、有識者の方の講演会・大きなイベント（なんでもいいと思います。食とか、子ども関係、健康とか）とのコラボとにかく、多くの人に聞いてもらう為、人が多く集まった時、所で少しでも聞いてもらう。・有名人と一緒に交流してもらう等して、話題をつくり興味をもたせ、少しでも理解してもらう。・白山市長や白山市役所、公務員の人が率先したイベントをして理解を広める。

・まず、白山市に対象になる方が何人位いるのか？・企業にすでに働いている方が何人位いるか？

現在、白山市及び障害者施設等で行われている事業で理解は、広められていると思います。ただ、感心も持って積極的に参加する人が少ないように思います。

ポスターなどつねに目にはいるとか　忘れてしまうこともあったりするから。

思いつかない。

著名人の講演会（乙武洋匡氏等）は沢山の人々を集めて理解を広げるには一番だと思うが、一般の人、御家族を含めて体験談等を聞く機会も設ければよいと思う。

ニュースなどを見ていろいろ考える事もあるがこれといってよい考えが浮かばない。

地域ごとの公民館などで講師の方をまねいてお話しいただくのがいいと思います。前に、消防士の方や、いろんな方をまねいてお話しを聞く機会があったのですが、会場がせまいとよく話も聞こえて、話の内容も理解しやすかったです。

各地域での取り組みを行ったらどうか。公民館主催の行事や意識調査をもとに、地域の中での障害者への理解を深めることが大切である。できれば、各町内会長のみや地域の有力者のみを動員するものでなく全家庭への働きかけが必要だと思う。

障害のある人に多くの施設を作る。

あまり問題化しない方が良いと思う（騒ぎたてない）特別扱いしない方が良い

広報やマスコミの活用　行政主導で、イベント等の開催を通じて地域住民との交流。小学生や中学生にボランティア活動の参加をギム付ける

健丈者と一緒に働いている人々の広報活動

障害を持たれている方々が、いかに社会に関わってかつ活役されているかが分かるような招介する機会が必要であると考えます。

社会体育大会や、クリーン作戦等市の行事への積極的参加。懸命に生きる姿を見てもらう機会を多くする。公報や回覧などで関係行事を告知する。

現在の広報方法を知らないので、理解からがスタートとかなぁ！！

私の家族は障害者ですが、白山市に住んでいないのでお答えのし様がありません。

学校の頃より、特別学級もあり、昔に比べたら関わりがあると思う

機会がある事に講演会をしてほしい

施設と環境が必要だと思います。

障害者主催のイベント−交流。

実際に障害のある人に関わらないと理解はむずかしいと思うので、障害のある人に会って話して、関わる場を持つ機会を作るのはどうでしょう。

“白山広報”に障害者の理解を得る為、毎月コーナを設置し市民に障害者の理解を求める。

職域を増やす事　偏見を取りのぞくように意識改革に努める事　障害者に対するマナーを普及する事。

障害者個人の自由ですが施設に入所するなり家族の世話になる

暇が有ればそういう人々に会う。交流があっても良いかなと思います。障害のある人達の発表会などがあればそこに行って交流すると少しは理解するようになると思います。

身近に障害のある人がいないかもしれないが、市民へチラシなどを配り、助け合いの気持ちを持つように気付かせるべき。

市の単位では無理。国や自治体が意識改革を行うべき。日本よりも障害者を社会に組み込むシステムが進んでいる。欧米等のモデルを研究すべき。

広報活動

施設の見学等（バザーに参加）出向く

学業にも学ぶ時間を取り入れる。ボランティア活動を増やす。

いやがらずに日頃近所の人に接して上げることが大切。何か困った事が多いと思うがたのまれたら協力してやる。

障害のある人とコミュニケーションがとれるイベントをたくさんする。一般の方と一緒に活動できるような運動会やお祭りなど…

障害の名前がいくらわかっても、人それぞれ個性があるように同じ障害でも個人、個人で全く異なる。まずは同じ社会に共存し、世間の目からかくしたりせずに生活すること。また、病院等以外での障害名にこだわりすぎる、教育、保育はもう一度、みなおす必要があるように思う。

障害のある人の意見を聞いた上ではあるが、各種自治体に協力してもらい、色々なイベント、活動の中に参加していく様にまた、参加しやすい様にする。障害のある人、団体が主催とすると壁が出来てしまうと思う。普通のイベント、活動の中に、自然と参加している様な型ならば、交流の場が広がるのではないかと思う

身近なところに問題がない限り、人はそのことに無関心でいるものだと思います。障害のある人が日常生活の中で関わることがない限り問題意識をもって考えていくのはむずかしいのではないでしょうか。大阪や京都のデパートで車いすの方をよく見かけます。そうできるのは気候や都市構造がそうしやすい環境であることもひとつでしょう。白山市にそれを求めるのはできないでしょうから、有効な方法はなかなかないと思います。

市が積極的に支援すべき

障害のある方がもっと地域行事に参加してほしい。家族がもっとつれ出すことで、地域の人もその人が自分の近くに住んでいると知ることができるし、健常者は障害はお互い様（だれでも障害者になる可能性はあるので）という気持ちをもっと自然に持つべきだと思う

皆さん１人１人がより障害者に対する知識を勉強して良い理解者になれる様にやさしい心を持てるとお互い通じ合えるのではと思います。しかし会館公民館に講演会があってもほとんど役員や何らかの関連のある方は参加されますが足がなかったりすると出向きません。やはり公報等でわかりやすく読みやすい様に１人でも多くの人に見てもらえる様何かで伝える。

・ふれ合いの場があるとよい（イベントでも）・以前にくらべて、障害者も地域に出る人達が目立つようになった気がする。普通に接することが良いのでは？（保育所や学校でもいっしょに活動しているので）・パラリンピック（ＴＶ）などで前よりも見近かに感じるようになっているとも思う。

少しでも何か出来る事をしていく事だと思う。

自分の身を感謝して障害のある人を慈しみ、少しでも助けになるように心がけたい

広報等で少しずつでも良いから毎月情報を知らせる。

わからない

無理のない範囲で、小さいうち、例えば小学生くらいから、教育に取り入れていく。差別がいけないことやどうしたらよいか考えさせたり、実際そうした人々との交流があれば良いのではないか？

どしどし職場とか、リクレーションとかに一諸に参加する様にすれば良い。

福祉フェスティバルの様な事を年に２回くらいする。私はそのフェスティバルやバザーなどで、障害のある方の活動を知りました。

障害は身体の中のある部分が好むと好まざる如くに病気になり、障害として残ったもので本人の苦しみはいかに大変なとか、好きで病気になったのではありません。健常者は、自分の健康を幸いとし、異状者としてみないで、助けてあげられる様に気をくばれる心を常に持っていれば差別することのない、皆かつ幸せになれる社会になると思います。

良くわからない。健常者がもっと障害者の側に近ずくべきだと思うが、方法が解らない。

白山市として積極的に雇用するとか支援策を行うこと。

パンフレットをくばったり、家庭訪問したりする。

障害の方々と交流する場所を広報などで案内する　ローカルＴＶなどで情報を流す。大型ショッピングセンターで交流会などする

講演等への市民へ周知および参加しやすさ

小・中学校での障害のある人からの講演会　どうしてそうなったのか、それによって心の変化や、現在、前向きに生きている事　その為に周りの人達の協力がどれだけ必要か…など　例えばスポーツで、車イスでテニスをしている人等に話をしてもらう。

学校の授業で、障害ある人たちが不自由や病気・痛み、理解されない苦労をしいられている現状を知ってもらう。生活の中で手助け出来る事や、障害ある人たちのために公共の場での点字の意味、バリアフリーの使用方法を教える。

すべての人は、平等であるという意識づけが必要

積極的に町内のイベントや行事に参加して、皆で助けあったり、協力しあう場を持ってはどうかと思います。
問７にも書きましたが、娘は見た目障害者だとわかりません。重い物を持ったり長く歩く事ができません。障害者用の駐車スペースに車を止めて注意されたり、私が荷物を持ってやったり、車イスを押したりしていると、「気の毒に」いう視線を感じました。当事者以外の人に理解してもらうのは難かしいです。
書物、ご自身がアスペルガー症候群だという方のかかれた書物には、その方の感じ方等が書かれていた。思いもよらぬ感じ方をしていて、考えさせられました。
役所とかスーパーとか人の集まる場所への雇用をもっとふやす
・道徳（中学校）の時間に障害のある人への接し方等を取り入れる。・障害のある人を隔離したり、特別扱いをするようなボランティア活動には参加しにくい。遠くから支援する、見守るやり方ができないか？
・学校教育に取り入れる・婦人会、老人会等で勉強会を企画する・民生委員さんの教育にも力を入れる
行政において、問８の各支援法を市民に理解するように広めて欲しい。
障害のある人に関する公報活動をもっと多くすべきだと思います。あまり、目に入ってきません。
認識が低い（当方も）→メディヤ・紙面　どうしたらよいか知るかされも無知→場がない
私の場合、年に一度のバザーには必ず参加しています。その日一日は全て忘れて障害者のことを考えてみる日に当てています。
ミニバザー　カフェ
障害がある人に対してのという考え方がある以上差別、偏見はなくならないと思う。いわゆる障害者を雇い入れる事で中小企業、零細企業は、いくばくかの見返り的に受取る、名目は解らないが金銭的な流れはいかがなのか？
イベント等を通して知ってもらう　ＮＨＫ教育テレビだけでなく民放で取りあげてもらうことは無理なのでしょうか？
障害者の集会が何時、どこにあるかまったく知らないもっと告知する町内回覧板など。古い建物（体育館）などはバリアフリー化障害者トイレ設置が遅れている。
小学校の頃から定期的に交流会を行う。どう接していいか分からないので。
障害のある人のインターン（現在就活生が行っているような職場体験プラス勉強会受け入れ企業は広報で紹介。または何らかのポイントをつける等の特典がある。１企業、年間１人１週間受け入れ等、スローガンと、結果の公表で身近な話題となるよう続ける。
・あさがおテレビ等で取材した番組を製作し、放映する・公報で特集する（紹介する）
わからない
隠したりする風潮がまだ残っている気がするので、もっとオープンにしていくことが大切。ただ、その時に「下に見て助ける」という空気を作るのではなく「対等に見ており必要な部分だけ補助する」ようにできるといい。
一般的に障害のある人に何かしてあげたい、何かしなければいけないという意識はみなさんあると思うが、むずかしい障害の名前や制度・法律を理解させるのではなく、かえってそれがハードルを上げているのではないかと思います。実際障害のある人に出会った時に具体的にどうすればいいかどうしたらいけないかがわかりやすい読み物や小冊子があるといいかなと思います。講演やボランティア活動でさえ理解のない人にとっては縁遠い気がします。
ボランティアへの参加情報を市民に分りやすく且つ頻度を多くして集る。
小学校や中学校の授業で手話をしたりして、気持ちを理解する話し合いなどがあるといいと思います。
地域住民の理解、ご近所の方々の気配りがよいのでは
・学校へボランティア活動のよびかけ　・地域・学校で積極的にこう演する
分かりません。
色々な障害、個々を助ける為に相談員を増し、個人をしっかり導びく為のレールを引いて、助ける国の機関がもっと必要

障害はひとつの個性である事を認知してもらうため、幼児期より、積極的に関われる環境の整備。
ボランティア活動の促進
わからない
若い方の障害、又は老年の障害と対応は違うと思いますが地域に応じ話合が必要ではと思います。
地方（白山独自）のＴＶ放送で流したり冊子を配布する。
・障害者に対するへんけい。学校教育の中に幼少からの教育が大事だと思われます。
市民行事に参加している様子しか見ない。
小・中・高校からの教育が必要。
障害のある人の働きやすい職場や施設を整える
色々なイベントに障害ある人も自由に参加できる様皆で考える事が必要
支援グループの催し物などある時に回覧板などで知らせる（ボランティア等募る時など）
障がいに対する認識不足が理解の妨げになっている。一人ひとりの意識改革が必要。積極的に参加できる環境づくり、や、情報発信。企業、学校の障がい施設の学習・体験研修の必須。
障害のある方にはどんどん町へ出て来て頂いて白山市民全員でできるフェスティバルだったり運動だったりイベントを通して関わりをもつ
小・中学校などから授業、講演などをして理解を広める。
直接会って話す
目をそらさないようにする
広報紙の利用　回覧の利用
パラリンピック
どの様な障害がある人がいるか、知らせる様なことが必要である。
・幼稚園からの障害のある人との学習や遊びが出来る環境整備が必要だと思います。
小学校、幼稚園を通したイベント事
フェスティバルなどイベントを頻ぱんに行う。
地域の方に、施設等に来てもらう機会をもっと増やした方がいいのでは？
方法が思いうかばない。
白山市や地元企業にて障害者への働く場所を設けることにより接触機会を増やし理解を得るようにする。また、小中学校にて障害者と過ごす時間を少し設けてはどうだろうか。
囲りの人が明かるく見守って差別のないだれにでもやさしく思いやりのある人々がたくさん増える様な市政に
障害を持った人達との交流ができる。イベントや、スポーツなどの場所を作る。
障害者共働く場所が必要
企業全対国がもっともっと力を入れるべき事と思う　障害があれば、すべての面で一になるため
例えば広報等のページを利用してみるなど
テレビ番組にする
障害者とふれあう事があればよいと思う。
保育所・小学校・中学校が積極的に障害のある子供達を受け入れること。子供の時から近くで接していれば、偏見がなくなり理解が深まると思う（保護者の方々にも）
回覧板で、その障害の症状を説明した文面を記する事によって、地域の中で理解出来き、対応する事が出来ると思います。
自分自身障害のある人との関わりがない為、関心をもつことが大事かなと思いました。
ボランティアの活動など広報に載せ、同時にボランティア募集や講演のお知らせを大きめに出す。

市、公民館及び各種団体えの啓蒙運動により理解をもとめる。

ボランティアで少し顔見知りになっても施設の方で「町中で会っても声かけたり、どこそこの施設で会ったネと云わないでネ」とプライバシーがあるからと言われ不快な気分になったことがありそれから参加しなくなりました。又、相談に行った時その人が不便と感じなかったらそれで良いのではと云われ自分の思い上りかと気持がヘシ折られたこともあったので答えはむずかしい！！

障害のある方にとって職場・環境など、改善していかないといけないのではないかと思いますが、実際白山市の予算とかで、そこまで、整備できてないのが現実だと思います。市がもう少し障害に目をむけていくことからだと思います。でも、市も他の問題もあることだと思うので一概には、言えませんが…私たち一人一人が、何か出来ることがあるなら、やっていかないといけないと思います。

障害のある方の雇用機会を増やし、地域社会との交流を増やす事

多くいくらかのイベントを組織して、彼らにうれしくて、楽しみをさせる。

コンビニをふやす

税金をどれだけ投入しどれだけ意味があったか知らせる。

地域で、差別をしない様、事細かに町内会などでも市の方から、話に来るべき。

公共の場での障害者主さいのバザーなどのイベント

広報等で１回で終わることなく連さいで「問６、問８」などわかりやすく掲さい。

健常者とのつながりの場をもっと多く持った方が、ふれ合いが多くさん出来ると思う

白山市の人々というふうに限定するのは難しいです。広くということなら、Ｉｒｉｓ　Ｇｒａｃｅさんのような活動はお手本になるかもとは思います。

社会体育運動会などで交流の場を作ればいい

そういった人が身近にいるのが、あたりまえであるという必要がないと、理解もなにもおきてこないと思う。カクリするのはいけないと思う。

我々の方からあいさつする（笑顔で）　我々の方から積極的にボランティア活動をする

市のレベルでは、障害のある人への理解を広めることは不可能。世の中の“価値感”や“成果能力主義”がある以上、あくまでも「障害者」は、健常者と同じ土俵で競い合えない。どうしても埋まらない“差”があることには理解を得ることができても、それは健常者から見た主観に基くもので、障害者のできないこと（健常者との差）を、個性として生かすことができる「社会」ではない。この問を考えた人は、「障害のある人への理解を広める」ことの次のビジョンはあるのか！！

・障害者と、ふれあう機会多くすること（イベント等）

公共の場に於いて積極的に障害者スペースを用けたりする事が有効だと思う。

交流会　学習会　就労支援

各家庭に障がい者への理解、障がいのある人と向きあうマニュアル等を配布する

身内に障害のある人がいないと、なかなか理解できない。小学校から理解してもらう様な教育が必要だと思う

広報や地区の回覧板等で読んでもらうのが良いと思います。

こまっている方がいたら手をさしのべてあげればよいと思う心がける

舞台化、絵本など。それぞれの立場でしか知りえないので、心情や情況が目や心に訴えるもの。

・障害者と健常者との交流。最初は、違和感があっても、お互い慣れてくれば、良く理解も、出来るのでは。

交流の場があれば参加させていただく

障がいの方の親ぞくや、よくそれについて知っている人が講演会などを行い、呼びかける。

広報などチラシ配布

障害者の方が、いろいろ作った物を紹介したり、展示したりして、交流を深める。

有効かどうかと云えるか分りませんが、存在を知り何が出来るかと考える事から初める事の必要性。

障害のある人がメディアに出演するなどして、興味をもってもらう。毎日メディアで見かけることで、障害のある人の日常などについて考えるようになる。また障害ある人と同じハンデを背負う体験をして、同じ目線になって、より理解できるようにする。

障害のある方と健常者との交流の場

障害に対しての、本などの、配布

回覧版に刷紙をつけて見てもらう。テレビを通して（ドラマなど）知ってもらう。

市全体で考えるとむずかしいと思うが、個々の地区で施設のバザーなどや行事に気軽に行けるよう、又、行事の案内や知人を誘うなど関りを持っている人達から少しずつ機会を作ってもらえたらと思う。何かしたいと思う人達もいると思うがきっかけがないのでは？

職場を増やす。

市や関係団体等が地域に対する広報（支援活動の必要性等）

市民フォーラムの開催　金城大学という、福祉大学をもっと利用する。→社会貢献の一つとして、市民向けシンポジュウムを企画。地域交流事業-企画。

各機関や事業所で医師等が講演を行なう。

１広報を通じて、訓細に発信していく。２アンケート調査を定期的に実施して個人、個人の意識を高める。

北鉄の駅の段差に何か対策をすると良いかと。

必要な器具は無料。医者は、損得なし。ボランティア、又は、格安料金。国の補助で至福をこやさず、自腹で。

障害者の雇用を促進する。

バリアフリーに重点を置き、障害が特別ではない町づくりが良いと思う。

学園祭などがあると思うのですが、聞こえてこないので、そうゆう事も大だい的に、知らせる、必要があると思う

幼稚園や保育所が、障害のある子供を積極的に受け入れることが大切。小さな時から、そういう子供と分け隔てなく接している健常児は、生涯にわたって、障害児や人を差別のない眼で見ることができるだろうから。

障害と云ってもこんなに多くあると云うことをみなさんに知っていただく事が大切かと思います

障害をもたない人が、様々な障害についての特性をもっと理解するための機会を増やすことで偏見をなくすことが必要である。また障害ある人が社会参加できる場を作り、交流する（接点を持つ）ことが必要である

幼稚園、小学校時代より、一緒に遊んだり、学んだりできる制度を通して、幼ないころより、自然に、これも一つの個性なのだといろいろな人が、いてあたり前と思えるように、していくべき。

国の福祉対策が関心と思う。

「問１０」にあるような障害のある人のためのボランティア活動に関わりたいと思っても情報の入手が出来ません。広報「はくさん」に載せて頂きたいです。

（文化祭）学園祭みたいなイベントをしたらいいと思います。→食に関するイベント　野菜の販売（自家菜園）味噌やジャム等、クッキ等の販売

具体的には、わかりません。

・スポーツの大会。・販売のイベント（学校の文化祭のような…）

障害を持つ人と健常者が一緒に活動できる場を設定し、広く知らせていく。公的な場（ｅｘ．市役所、博物館…）で働く人達を増やし障害を持っていても生き生きと働いている姿が見られること。

わからない

広報誌への紹介記事を載せる。施設の概要や行っている行事などを記入。募集ボランティアを広報に載せる（バザー、収護祭などの共同企画）

わからない。

軽スポーツに健常者と同時に参加して交流を深める

へんけんをもたないためにさまざまな障害を知るのは大切。目で見える障害以外は、障害のある人に、教えてもらいたい。

色々な法があるなら広く伝え、障害にも色々あると思いますが表に出てほしいです。法律が整備されているならそれらを有効かつ最大に使ってほしい。

良く分らない

障がいのある人々が、内にこもらず外に出て活動できるような町づくりをすること。人びとが障がい者に対する独特な目線をとりのぞけるようにすること。障がいについて広く知ってもらえるように番組なり広報なり冊子なりを作ること。見てもらうこと。

障害ある人の活動のメリット、成功例をアピールする場をもうける

行事に一緒に参加できるような機会があればいいと思う。

障害のある方が積極的に参加できる様なサロンの様な場があるとよい

・交流の場があればと思う。・第３者にも、色々な障害があることを理解・受容してほしい。

ボランティア等に参加しやすく、又場があったらいいと思います。

わかりません　深く考えた事はありません

今まで考えた事がありませんでしたが広報とかに載せるとかはどうでしょう。

有効な方法などない。障害のある人との関わりがない人にとって、理解する以前に関心が少ない。一見して障害があるかないかを判断するすべはないし、知識も無い。「障害のある人」とは何ぞや。ということを広く知ってもらうことが先決。

雇用機会の提供。

問１１−１問１０−５）の自分だから、ご免なさい。

ふれ合う機会があれば、いいかなと思います。

障害者の場合、事故に遭う割合は健常者より高い。設問の点に留意する必要がある。回復リハビリ向上、専門医と介護職が重要　人間的なケアで日々幸せと思えるように…！

・互いに出会う機会、交流する機会をふやす。・その立場にならないと気づきもしないことが多いので、困っていることなどを講演？（学習会を開く）する。

・障害のある人の作業場の案内、活動の啓発。・障害のある人が働くお店をつくる。

広く一般の人々が、知り、見て、聞くことが出来る場、時をもうけること。

同じ場で交流したり子どもたちのすごす場所（広場や保育所幼稚園）での交わりを持つ

白山市は田舎です。昔気質の人が多いようです。私しの主人もの一人でかも。市・県もあげて、障害者一人一人の気持になって上げることなのでは。一口で障害者とゆわないで一人、一人ちがいます。

・子供の時からの関りが良いと思う。子供（現在２８才）が保〜中学まで、クラスに居たのであまり、偏見がないのだが、私（親）の育った時は、学校からちがっていたので、偏見はないが不思議な感覚が有る。地域で、見守る必要がいると思う。

学校（学生）への周知活動

ボランティア活動や講演等は中々行きにくいので、関心のない人達も気軽に参加できるようなコミュニケーションの場があれば良いと思います。

障害ある人と接する機会をもうけるのが一番、理解できると思う。働く場所、企業を多く整備する。子供は、学校で、差別なく学習できる環境がＢＥＳＴだと思う。

広報にのせる

簡単なボランティア活動やお年より達とコミニュケーションの場をもったり、子供達とも、ふれ合い、歌ったり、踊ったり、積極的に、参加させてほしい。特に、困っている人のために、協力、お手伝い等、いろいろ、役に立つ事があるので、互いに助け合っての精神で、もっと行動を起こしてほしいと思う。

障害の個個に合わせたやり方が必要だと思います。人との対応がこれ位まで出来ますと言う情報をパンフでもよろしいので配布すれば接し方できるではないでしょうか。

・職場の中での研修や雇用によって理解が深まるのではないか・ケーブルテレビ、公報等に実例をあげての活動→（心を耕す内容のものを広く深く）食べものと笑いを受けるための番組ばかりのように思える

障害のある本人だけでなく、その家族とも、もっと直に触れてほしいと思います。小学生の頃、知的障害がある子のお母さんを見たときに、当たり前のことなのですが、「彼にも私たちと同じようにお父さんとお母さん…家族がいるのだ。」と、ハッとさせられました。その時に、何か特別な、キャラクターのように見えていた彼が、一人の、世の中のただの一員なのだと思いました。そして、自分も全く同じだと思い恥ずかしく感じたことを覚えています。私は出産後数年と子どもの頃が１番感受性が豊で、頭も柔かかった気がします。その時間に当たり前のように障害のある人と同じ空間を共有することで、課題は問題ではないと感じるようになってきました。最初抵抗があっても必ず慣れていくと思っています。できる限り共存しているということを肌で感じてもらうには、区別は最小限に抑えた方がよいのでは、と思います。エンターテイメントとして興味を持ってもらうことから始めるなら、無責任かもしれませんが、地元で“自立を支援している姿”をドラマの様にしてみてはどうでしょうか。見てみたい気もします。

障害のある人との交流の場をもつ

ボランティア活動の義務化

・よくわからないが・フェスティバル、イベントに必ず障害ある人に参加してもらい交流を深める。・障害ある人の施設があるのなら、その施設を使ったイベント等の開催。しかし周囲の強力な理解と支援が必要でしょう。

学校や会社内で講習をする機会をつくる

障害のある人が働いているところを見学して輪を広げていく

障害のある人と交流の場をもてるように工夫されたらいいかなぁ。

・様々なイベントを身近な場で行う

広報誌で紹介

精神障害に関する治療の研究（投薬以外）

わからない。

なぜ無理に理解のみを、広めるのですか？反感もあるのでは？“百聞は一見にしかず”といいます。

研修を受ける機会を増やすこと。特に勤め先で研修や講演が開かれるのであれば、理解が広がっていくかもしれない。

・理解者が少ない、というよりはＰＲが不足しているのではないかと思う。設備等の充実は制限はあると思うが、目にみえる形で増やしていかないといけないのではないか。

障害者の方の積極的なイベント参加及びそのサポート（ボランティア）

子供たちへは学校の授業でそのような時間をとる。

若い学生の人に教育した方が将来的にも有効と思う

障害のある人と関わる機会を増やす、設ける。

町内行事等参加出来る様にする事。お祭り、運動会など見学、参加。

交流する事

仏子園などが市の施設の管理などを行い、市民との接点はあるていどあるとは思うが、まだまだたりない。もっとイベントや学校でのふれあいを増やして小さい時に関わりをもったほうがよい。障害者の家族には静かにしていたい人もいるので、そういった人達の理解をえる必要もあると思う。

わかりません

公共施設の改善、町内にどのような人がいるのか分るようにすべきであり、全く情報がない。全ての行事（町内、校下）に参加しやすいような配慮をするため、情報を町内にどんな人が何人いるなど町内役員が分かるようにすべきである。

わからない。

年寄りは話を聞いた時は理解できるが時がたつと忘れてしまう事があるのでやはり小・中学生から少しずつ話をするのが良いと思う。

小学校時代からの教育カリキュラムに取り入れる

雇用促進

じちたいがせっきょくてきにさいようする。

本来“特化”しないのが理想的な姿だと思う。教育現場（学校）、職場、地域で障害のある人とそうでない人との分け隔てをなくすことが大事だ。隔離されていることが問題だ。隔離されている現状のまま、いくら授業や講演、研修をしても効果は半減だ。

交流の場を設ける

イベント等で障害者に関するブースを設けたり、障害者が共に参加できる行事等を増やす。理解は、まず、たからかと思う。

講演会やシンポジウムが考えられるが、有名人の招へいをしないと、人は興味を持たない。障害については、難しいと一般的には促えられ単に開催しても人は、集まらないと思われる。普及、啓もうとなれば、出前講座を多数回催していくことが有効であると思う。地道ではあるが、理解されやすいのではないか。

障害のある人と交流が少ないのでわからない。

障害者に対して、他人事のように考えず出来る範囲皆で助合い協力をしてあげること。

障害ある人もいろんな人がいると思うのでとても難しい問題ですが、健じょう者ばかりに理解しろというのではなく、お互い理解し合えるように、お話をする機会を設けることだと思います。私個人の意見としては、障害ある人にも、マナーやモラルは必要だと思います。何度か、嫌な思いをした事があるので。お互い言い分はあると思いますし、誤解もあると思います。なので、よろしければお話しできる場を設けて頂きたいと思います。

進で助ける。

日頃から障害のある方と接する機会（イベント）を多く設ける。やはり接して、人と人とのつながりを通して知っていかないと理解はできないと思う。

障害者施設（授産所？）製のケーキやクッキーを購入することがあり、異和感なく接していたことが思い出された。頻度や関わり度合で多少の理解ができてくると思う。

全ての家庭でこのような調査をすればよい。

差別なく、平等に生きられる社会。差別なく、幸せに生きられる社会。市民全員、理解できる環境作り。

様々な場所でかかわりあえる環境の構築、障害者の社会進出　街で自然とかかわりあえるようにできたらよいと思う　例えば公共施設はもちろんだが商業施設で車いすがスムーズに通れるような広さを確保できるようインセンティブをつける。

市民一人一人が障害に対する理解が必要であり、それぞれの「障害者」に対して何をすべきかを知る事が必要です。その為には各町会ごとに、集合（集会、告報等）の機会を作り、学習する必要があると思います。

講演会などを行って、人々への理解を得る

普段、障害のある方と接する機会が全くありません。子どもが生まれたばかりで、色々なイベントに出掛ける事もあまりありません。イベント等ではなく日常生活の中で、（例えば買い物や、市役所、銀行など）お互いがふれ合う機会を作ってもらえたら、私の認識も変わるかなと思います。

とても難しい事だと思います　自分の子供達に害となるのではと思われやすいので、一緒に活動できる、コミュニケーションのできる機会を小さい小学生の間からする。

よくわかりません。

自分に直接関係した事なら考えるが今のところはないのでよく分からない。

障害ある人が時間をかけて、職業をものにするために十分な教育と訓練を受けて、１人１人にあった職業により、社会貢献が出来て、そのための努力と技術を高めて、試してあわないときは変えて、本人が適した職業をさがしあてることが有効です。

どの様な障害の方が白山市及び自分達が住む町内にいるのかも知らない。個人情報の保護も大切だし、難しい問題。

選挙の際、投票者に資料を配布する。

難しいと思う

公民館及び町内、地域がサポートする。

９／２８（日）、福祉まつりのような行事をもっと多くするべきだと思います。

障害のある人もみんな健常者と一緒に働いたり、活動して、和の中に入ってみんなに理解してもらう。

・障害ある方の活動や支援活動についての周知（広報）・自立して生活している方へのサポート（行政・地域）模様の特集記事掲載（広報）

市民全てに理解を求める事、求めようとする事自体、愚かな行為だと私は考えているので、問いの答えを考えた事は無いし、考えようとも思わない。

最近思うこと、障害のある人がとてもふえている様に思います。なぜでしょうか

ボランティア等に参加

職場や学校など身近に障害のある人と関わりをもつ事。でも障害のある人は、そうでない人との関わりを望まないと思う。

市役所等が積極的に雇用等をする必要性があると思います。

障害のある人と積極的にかかわってもらい差別をしないこと。

広報活動が必要

国が助成金などの、お金にたいして、障害がある人の為に職場の管理などをして、その会社にも、いろんなかたちでお金を払い、障害のある方も仕事しやすい環境を作る。

健常者と障害のある人とが交流をもてるイベントがあっても良いと思う。障害者と同じような（車イス等）体験する機会を作る。

高令者や障害の凝似体験をいろいろなスペースで体験。バザーや交流の場、ボランティア活動の推進。

年に１回ある、福祉フェスティバルを小さくした規模で、町会及び各種団体に積極的に交流して行く事な、輪が広がっていくのではないかと思います。広報も必要ですが、人との交流が大事です。

自分が障害者になったらを想像させる。自分も障害者になるかもしれない、という意識を持たせる。後天的な障害もたくさんある事を知る。→なった人の話を聞く。

白山市は他の地域にくらべ、祭りが多いと思いますが、一緒に参格していけば、良いと感じますが。もっと、もっと、交流のもてる会を開催すべきです。

障害者に関する研修などで障害の内容の理解を深める。

白山市に今どれだけの障害者がいて、何に困っているかもわからないので、まずはそれ広めることが大切だと思う。

広報のはくさんもっと利用して毎回特集で企業で、障害者採用してる会社紹介など。

交流できるイベント

有効なことは分りませんが障害のある人も一生懸命に生きていられるのですから何かがあればあたたかい心で受け入れる気持ちがあります。

企業の積極的な募集があっても相方の求めるものが中々マッチしない。コーディネーターの様な人材が必要だと思う。

障害者会っても出来ない事は、手だすけをしてやる

障害のある人が色々な場所で社会活動に参加できる様にし、一般の人とのかかわりを持つ事が必要だと思います

公共の施設、交通機関のバリアフリーを進める。

問１２の覧のよう

障害について（名まえや内容）又、その法律についてを広報などに載せてみては…

イベントなどでボランティアをする機会をつくったら障害のある人に接する機会が増えると思います。

まず障害の人の家族にどのような支援がいるのかを聞いて、その支援のためにまわりの人々（その人の職場の人など）に理解をしてもらう。どうふれあえばいいのかわかっていたら関わりやすいかな。

障害のある人達の施設に関心を持つことで、行事（バザー）や手づくり品にふれてみる

障害のある方と直接会って、交流する。

市の職員にどんどん障害のある人を採用し市民と接する機会を増やす。

社会問題としてＰＲしても、身近な事でない限り記憶には残らないと思います。実際、私自身、友人の病気や障害者手帳で受けられる支援の事しか知りません。他の障害をもつ人が、どんな生活をしているのかも知らないし、何が必要なのかも分からないです。どうしたら、というのは分かりませんが、もっと身近な人として、障害のある人とない人がふつうに同じ社会で暮らしている事が大事なのでは、と思います。

障害ある人との交流する場所（イベントなど）の増やすこと。逆に、障害ある人がイベント運営サイドで活動することで、理解を広めることも有効だと思う。

身近に存在しないと関心や理解は難しい。企業単位、町内などの単位での活動が必要

障害を持っている人とのふれあいを多くもつ事。障害を持っている人を特視する傾向があるので家庭内での話し合う事や、親の障害者への理解が必要である。

行政は広報等で障害に関する情報を記事として伝えてはどうでしょうか？一般の人は回りに障害者がいなければ全然分からないし、知ろうとも思わない。その事が良くないと思います。

各施設の社会就労事業と県セルブ協事の交流

もっともっと、障害のある方を一般企業やサービス業でも受け入れて、一緒に触れ合う機会をつくる。

市の行政として理解を広める行動をもっと見える事を行ない、民間が引張られた形で取組んで行く様な方法で継続して行く事が大事と思います。積極的な取組みを実行している所には、助成金などの支援をし更に向上を図る

いろいろな活動（スポーツの大会等）に一緒に参加できる場があると良い。

障害者を障害者として見ない。（障害者を障害者という意識で見た事が無い）障害者という見方をする事がすでに上から目線であったりするわけで、普通に接っすればよい。特別という意識の中には、優位性があったり、ある意味同情、あわれみ等の感情が生じたりする。普通でよい、区別せずに接するだけでよいのでは。車イスの人がいれば、普通に手助けしてあげればよい。

結局、関係ある人しか関心を示さない問題だと思うので、これだけの問題について収集をかけても、集まらないと思います。なので、何か人が集まる全然関係ないイベントの一角にでもブースとかを設けて、チラシを配る…とか、何気に耳に（目に）入るように、ビデオを流すとかするとどうでしょうか。

地域の人々が一緒に行うことのできる町のイベントがあるといいなと思います。

職場において関わるのが有効だと思う

本人の気持次第だと思います

交流をもてるようにする。

インターネットの使用　マスメディアで特集

障害のあるなしに係らず、１人１人が生活しやすい働きやすい環境とはどのようなものかを考える機会を増やす。

障害のある人自身が主体的に活動や取り組みを行っていることをＰＲする。

国や地方自治体からある程度の安心して生活が送れる様な助成金が必要だと思います。障害をある方々には、自立出来るような、環境も必要だと思いますし、本人もがんばって行こうという気持をもってもらう事も大事だと思います。

前向な障害者の居る事を知らせる

・ふれ合い　いっぱん市民とのふれ合の場を多く・コミニケーションもうける事。バザー、運動会、リクレーションなど

公共の場への参加・講演、特に学校等で身近に接する

よくわかりません

仕事場を、増やして、自立出来る様、支援する事です。

わからないので、何をどう手伝って良いかわからない人が、自分も含めたくさんいると思います。本当は何かしたいと思っていても、こんな事自分でできるのにバカにしているのか…みたいな態度で断わられた事があり、それ以降は自分も悩むので、手伝って欲しいか欲しくないか、意思表示カードみたいなのがあれば良いと思いました。

障害あるなしにかかわらず、あまり区別、線引きをしない方が良いのでは？

施設などで作った物を大型スーパー（アピタなど）でイベント販売し、交流を深める。

・イベントの開催。ｅｘ）住宅展示の時にバリアフリーのところを作る。・学校教育　・地域の活動　・実際施設等に行く。障害のある人と接する機会を作る。

共に生きるモデルを示す。共にくらす（家）共に学ぶ（教育）共に働く（職場）共にくらす（地域、社会）

より積極的な広報。障害者の就労等で、全国のモデルになるような施策の実施、障害者スポーツの全国大会などの誘致

企業、国、地方自治体それぞれが連携し、障害者が住みやすい&働きやすい環境整備が必要！！金銭的な面でも支援が必要

ボランティア活動のＰＲ。施設等へのオープン参加。

障害の名前は、知っていても、法律は全然知らなかったので、講演や授業を通じて教えてほしい

・講演会等の開催・雇用している企業における具体的内容、状況等の共有。

福祉バザー、フェスティバル等年に１～２回？行われているのは知っているし参加した事もある。健常者と障害者のふれあう機会・頻度を高め理解しあえるような企画を行政として率先して提案・実施する事が、理解を広めると思う。

白山市の職員方等が企業等に訪問し、その説明会等を行う。

わかりません

体育大会等でも一般者と同等にし、競技に参加して頂きコミニケーションを図るべき。

・交流会などを数多く実施する。・学校などで交流をする。

・障害のある人が、働きやすい環境をつくり、整え、働きやすくして支援をすること

会話をしてその人の考えなど少しわかったりするので話し合いやなにか一っしょにする事がいいと思う

幼少期から障害ある、なしに関わらずみんなで一緒に過ごす（もちろんどうしても分けなければいけない状況はあると思いますが…）子どもの親に対しても、みんな平等に過ごすことの意義を説明し、理解を得る。

子供の時から障害の方との交流の機会を設けて、理解を求める。

子供が小学校へ通っていた頃、障害のある子供さんと共に学んでいました。そこで子供達は色々と助け合ったり、協力したり全て、社会の一員として見ることができたように思います。父兄としても又、親子さんたちの苦労を知ることが出来きこの経験は貴重なものに思います。

すぐに広めるというのはむずかしいと思いますが、たとえば、障害を持つ人を家族に持つ人のコミュニティを通して和を広げ、そこから、和をだんだん広げていけば、理解してくれる人が増えると思います。私は今、小学生を持つ親ですので、学校などで母子供に一緒に話を聞く機会があるといいなと思います。ただ、精神障害・身体障害・知的障害を持つ親子さんで、まれに知られたくないという方もおられると思うので、むずかしいですね。

障害者と普通の人々との接点を増やすことで、障害者の苦労や障害など相互理解を深めると、身近に感じ意識的に協力性が生まれると思います。

学生のうちに頻ぱんに講演会を行う。

公報で報せる。あさがおテレビ等で招介する

白山市で行われるイベントや行事に障害のある方も来やすいような設備を整え、沢山の方が健常者と同じように参加ができるような環境になれば良いと思います。（サポート面でも安心できる人材がおられると良いですね。）

障害をうけている家族本人は、すごく、社会にでていく不安があると思います　もし私なら、その不安で社会に出ていくことは、むずかしいかもしれません。どの方法がいいかわかりませんが障害をうけている人が一歩社会にふみだせる、ことができる世の中になればいいと思います。

私は福岡から１７年前に石川に来ましたがお店や町の中で車イスの方などをあまり石川ではみかけません。道であったりお店の中であったり身体の不自由な方には不便かなと思います。理解を広める為には出会いがあったり見かけたりとする事からはじまるのではないかと思います。

・障害の人の親のケア。・相談にのる。・手だすけをする。
健常者との交流による相互理解の促進
地域の運動会等へ積極的に参加する。（そのための、種目が必要）
障害のある人が身近にいないので、理解ができていないため、障害のある人がもっと社会にでてくると、出会う機会があると思うので理解できてくると思う。
バリアフリーをもっとふやし、年に１回企業でボランティア活動をすればよい

問１８（３）　では、その差別はどのようなものですか。具体的にお書きください。

道路に於ける段差
社会生活全般が健常者優先の目線で行われている
かなり進んだと思いますが、道路、歩道など外回り、野外のバリヤフリーにまだまだ問題あると思う。
交通障害者利用するタクシーがない。バス等にしても利用しにくい。バリヤフリー化たてまえでしたものが多い。
歩道などの段差
健常者と一緒に教育を受けたいと思っても受けられない事がある。不自由な方の為に作られている建物でも健常者が使用しにくくしている。弱視の方に見えにくい色（黄色以外）グレーなどを使用している。
本人の意思とは別に、各社会参加の機会がうばわれている
教育（学校）を受ける場所（義務教育）が全ての障害者にとって平等ではない。特殊学級（学校）等の存在は理解できるが必ずしも平等に受けられているとは思えない。
天災が突発的におきても障害者（程度によるが）を、わざわざ引きつれて行けるか？どうか又他の人もたぶん置いたままとなる可能性が大だ。
・飲食店の席やトイレ
車椅子のお子さんを見て、大変そうと思うし日々の親御さんのご苦労を思います。その時どんな表情で見ているのか（自分の顔）と思いますね。
病院に階段があり車椅子の人が入れない　受診料が１科しか無料でないと聞く　行政的な手続きがめんどう　日数かかる
想像するだけで具体的にはわかりません。
自立グループホーム、発達障害者支援法、普通学級などいい面もふえてはきているが、教師から特殊学校をすすめられた親は、その子に家庭教師をつけ高校うかり、通学を送るために職場をかえた。親も教師もよかったのかわるかったのかどこで判断できるのだろう
・障害がない人の中でもそうかもしれないが見た目や、偏見での差別・教育
障害者が家や施設から、一歩外へ出た時、まだまだ介助が必要な場所が多々あり、社会参加するのも、一部に限られます。しかしながら、過度の優遇政策は、健常者側の不満につながり、それが差別行動の要因とも言えます。
差別と言うのかわからないが障害のある方というふうにどうしてもみてしまって、特別に接ってしまう
バス他乗り物のローステップ化。他ｅｔｃ
別の人種のような扱いや見た目等で判断する方々が沢山いると思います。
すべての施設での対応が難しく差別という表現正しいかわからないが体の不自由な方にとって、暮しやすいとは思えない。
買物などで出かけた先で大きな声を出している子（行動が少しおかしい）には近づかない様に子供に言ってしまったりしたこと。

仕事を継続的に行えない環境。

差別ということばが差別を生んでいると考える。（差別などされていると思わないで積極的に参加出来る世の中になれば良い。子供の時に近所の子と遊ばせる。幼ななじみで皆仲良くなれる。）

歩道の高さが車道より高い為に車椅子や、目の不自由な人には、不便（一般人も同じだと思います。）

就職や社会生活等の環境の整備が必要だと思います。

昔に比べ少し良くなったとはいえ、小学生が、障害者に罵声を浴びせたり、物を投げたりする。親の教育のせいなのか？社会的に問題があるのか？弱い者イジメをしている様に思える。

必ずしもどこでもバリアフリー化にはなっていない。障害者用トイレが必ずあるわけではない。場所によっては。障害者用のスペース（駐車場など）に停めている車、すごくおかしいと思う。

例えば旅行に行きにくい、身体の障害によっては同じ施設で学べない等。息子が保育園時代、股関節を痛め車イスでの生活を１ケ月程度した際は通うことを拒否された。

３について、進路標識のろうあ者に対する、横断歩道の音声告知システムの設置ケ所はありますがまだまだ少ないように思います。７について、各自治体において障害者への文化活動を推進していますが、更に多く発進しては、どうですか。

ほとんどの公的機関、施設は障害者に無関係な目線で機能している。

車いすが通れないような段差（道路から歩道）

車いすに乗っている人が特別視されたり、そのくせに車いす用のスロープ、視覚障害車用の通路が特別な注意を払われたりしていないこと。

健常者ベースとなっているものが多い。

わからない

偏見されている事が多いのではないかと思う。

◎公共の建物に障害者専用のエレベーターが少ない　◎町内の道路が狭く、特に積雪時はデーサービスの事が個人の家の前に行けないので市道を早急に拡幅してほしい。

以前学童保育に１００社以上履歴書を送ったが就職出来ないという男性が来た。男性は３０才前半、体格もよくスポーツも出来る。しかし、彼は中卒で、解離性障害であった。

車イスで入れない場所が多い。盲導犬を連れている方を店であまり見かけないので遠慮されていると思うから。

田舎ではなかなか就職するのがむずかしいように思う。

２．の教育では、健常人と同じようにしてもらってもできないと思うので、配慮が必要だと思う。その配慮ができないこと自体が差別だと思う。４の防災では、先の東日本大震災でも明らかなように、障害者や弱者にとって災害は容赦がない。もしものことを想定した対策が必要で、それは本人たちでなければわからないことがたくさんあると思う。それに聴く耳をもたないことが差別となると思う。５、７も同様である。

まだまだわからない（知らない）差別があるように思う。

私は建築の設計を業としている者です。点字ブロックを例にしたいと思います。近年ふくしとまちづくり条例が設計する上でクリアするのに大変な状況になってきています。公道の歩道には点字ブロックがまったくない地域にもそれに接する敷地に対しては道路境界線より建物内のレジ等へそれを並べることを求められます。どうやってその敷地までたどりつけるのか私にはわかりません。スーパーを例にすると、入口の風除室には大きなマットで点字ブロックをおおいかくしています。カートを引くには障害となるのです。車いす使用者には、それが移動の際の障害とならないのでしょうか。素人のような意見で笑われるかもしれませんが、人によっては障害となるものが違うのです。

差別と呼べるかわからないけれども、スーパーなどで障害者スペースの駐車場に健常者が平気で車を止めている時に、自分の家族が障害者を乗せているのに止めれなくて、注意したら、もんくをいわれた事。

先入観があるので、どうしても差別してしまう

点字がある意味を理解していない人が多い。雪が多く降る白山市では道路等の点字版の上に雪がつもっている事が多い。

障害の違いはあるだろうけどなかなか職につけない。つけても、長続き出来ないような仕事をまかされたりするというのを聞いた事があります。

分らない！！

バリアフリーの社会には、なって来ているが、きっと障害を持った人には、まだまだ不便なところがあると思う。公共の施設は大丈夫だけど一般のお店や道路など

目にみえない障害（特に精神障害）については囲りには理解し難い為、どうしてその様な考えや行動をとるのか理解しにくいのでその行動、等に偏見が当るのはいたし方ないと思います。そこに、当然差別、偏見が生れるものと思われる。どう理解し、受け入れていけば良いか、難かしい問題ではある。

積極的に実施していない。

障がいのある人を「劣った人」と認識する風潮がある。

障害の程度で本人が希望すれば一般の普通教育を受けさせてもいいのでは普通教育が受けられない

入学、就職、結婚、社会生活

全国にどれぐらいの割合で健常者と障害者がいるのかわかりませんが、やはり同じ作業を行うと、健常者と障害者とでは差が出ますので、個々の意識の中で差別しているような気がします。それが態度として出てしまうような社会ではないかと思います。ただ、差別の仕切線の境界をどこで引くのか、非常に難しいと思います。実際自分は健常者と思っていますが、同じ健常者の中でも優劣はありますから、健常者の中でも差別はあると思います。

・バリヤフリーへの努力はされているのだが、車椅子等で移動しやすい町になっているとはまだ思いません。・視覚・聴覚障害者へは届いていない情報が多いのではないでしょうか。・自閉症児とその家族は避難者でとても居づらいと思います。

努力が失われるから

・子供の中三の時クラスに軽い知的障害の子がいて、その子は美川中学校で断わられて松任中に通っていると聞きました。全ての地域で特別の学級はあってもいいと思いました。・家をバリアフリーにする時、障害者がいると安くなると聞きました。それって“障害”という言葉を利用したやり方のような気がします。確かに玄関や手すりといった所は必要ですが将来の事を考えてバリアフリーにする家も多いと思います。
自分で知る機会がなかったりしてどのような事をしたら良いのかわからない。自分で行く方法がなかったりする。
・難病に対する医療支援　・プラットホームの転落防止の柵の設置　・生活保護に対する手続き
すばやい判断が行動力が求められる事
日本人の意識が不足です。
車イスで移動する時、まだまだ大変なことが多いと思います。
見て見ぬふりが一番。関わりたくない世の中
子どもの場合軽度の障害でも普通学級で学べない現状に疑問を感じます
公共施設においてのトイレ・通路においては、作りました的な面がいなめないのでは。特別整備しました的なことより、当り前にこうなっていることが大事なのでは。
建物のバリアフリー化が進んでない。歩道など段差が多くある　地下道などは車椅子の人１人では進行出来ない所が多い（地方では）
特別差別と感じるわけでは無いが外の階段横に必らずあるスロープ部分が急だったり端の方だったりで歩きづらいだろうなと思う事が時々ある
学校が別々である
駅など公共施設に十分なバリアフリーがなされていない　進学など就学環境が整っていない
障害のある方に対しての制度的なものは、整いつつあるのだと思うし、今後もっと改善していこうという流れなのだと思います。ただ、理解度に差があるので、障害のある方への理解が低い人からの視線や対応、無視などに差別があるのではないかと思います。
バスになかなかのられない
行政の方の障害に関して深く利解できる人が少ない。（その人が悪いのではなくもっと行政の中で勉強する環境（勉強会）を作るべきです）
精神的な理由で前職をやめており、そのことを面接で話し、非難されたから。（自分の体験）
中小企業などは会社そのものが受け入れで、特策を得たい為受け入れるのですが、会社そのものが中での働きを差別し、働きにくい立場に追いやられる様子を聞いたことがある。
車椅子の通行出来ない、公共の建て物。手すりのない階段、使用しずらいトイレ等。
・学校での学習において、体育や音楽など障害があると他人と同じ様に出来ない。その事によるいじめが発生する。・団体行動で他人と同じ様に出来ないと差別される。
公共施設や駅などはバリアフリー化もされてはいますが、公園や商店等まだまだバリアフリー化がされてない所があると思います。

義務教育を受けられない？
障害者の人を雇用したいが、事故等により会社が妃難されるのがこわい。
人による
わかりません。
働きがわるい
最近少しづつ良くなってきていると思いますがもっと皆で関心をもってあげると事が大事だと思います。
道路に段差ありすぎる
公や、多数の人が出入りする場面で、受付等で対応できる人が、少ない。
・バリアフリーになってない店、建物、トイレも障害者用がない所たくさんあります。
・スロープのない店・点字ブロックの（放送のサボートのない）道路・盲導犬が入りずらい店・みんなの目（注目されてしまう）
ニュースで見たが目の見えない方の差別的な事があった。（詳しく見ていない…）
・その場において少数派であれば隅に追いやられる・同じようにふるまえないと排除される・学校には階段しかない。制服着用以外とどんな理由があっても認められない・じろじろ見る、真似する
学校
障害者として、一般人とは区別される
・問１３でも書きましたが、幼稚園から教育、その他で障害のある人と差別なく生活できる様にする事。（精神的、環境的差別）
「障害」というイメージが悪く、身近に関わりがない人は敬遠している。
すみません。うまく説明できません。
・道路（歩道）がせますぎて車イスでは、通りにくい。・部活や授業等、ある程度の成積（結果）を出したい為に、障害のある子をはずしてしまう。・地震や災害がおこった時、障害の程度によるが、対応出来る人と出来ない人が出てしまう。
まだまだ車イスで動くには、段差があったり、障害者でもないのに、優先駐車場に車を止める人が減らない。
障害の程度によると思いますが、本人や家族が一般の学校での教育を望んでも、うけいれられないことがあったりしていませんか。地域活動においても、危険を理由に参加をいかえてくれるよう言っていると聞いたこともあります。
オリンピックとパラリンピックでも応援の仕方テレビの写つす時間も差別があると思います。
例えば教育面で、学びたくても学校の施設等がバリアフリーでなくて受け入れられない。また自分の行きたい所に行けない等
具体的にと言われればあるのでは？と思いました。理由はないです。
障害のある子が地域の小学校に入学を希望する時、まず、就学児検診で“引っ掛かる”入学までに何度も話し合いをし、親の付き添いが求められることもある。

行為、思想、自分で生活しましょう自分で処理する違い。
・地域の運動会等では、そういう方は参加していませんたとえ車椅子でもお世話次等でも、楽しんで参加してもらえそうと思います・まだまだ、家に居る人が多いのではないでしょうか。
へんけん、かげぐち
どの分野にあてはまるか分かりませんが、接客をしている時にお店に障害のある方が来店されると、人がいなくなってしまったり、という場面を何度も見ました。
いじめ
会社が経営難に陥った場合、真っ先にリストラに遭ったり、再就職が困難だと思います。
見た目と偏見によるもの
学校で健常者といっしょになっていない。子供の頃から「別の世界の人」という扱いをうけている。
医療…健常者では、“元の社会生活”に戻れるようリハビリテーションまで取り組むよう指導し、その環境も整っているが、身体に障害があれば、元の社会生活のレベルが、健常者よりも低く、ＡＤＬが元のレベルに戻れば良いとリハビリテーションのゴールが定められる。　教育・療育…教育を健常者と一緒に受けることはできても、またその健常者が、障害者に対して差別視することがなくても、点数や能力といった成果で学習の成果を計る上で、差が生じる。そうでないケースもあろうが、義務教育を支援学校で終えれば、健常者と同じ社会生活や生産的活動を行う土俵がない。療育も同じ。最初から「健常者とは違います」と差別化している。また成人しても健常者と同じ土俵で生産的活動（労働）ができない。防災…ハザードマップ等、大震災や津波に備える“健常者の社会体制”はできても、障害者個々あるいは障害者を支援することを業としている健常者に、障害者を守ることを義務化していない。
防災に関して、火災の際、障害者が自力で避難が出来ない設備が多い。
差別によって普通の学校での授業が受けれないし、中には迷惑だと思う先生もいる。
障がい者であるため受け入れてくれる病院が限られている。人工呼吸器装着していると通学できずに訪問教育に限定される。交通、建物のバリアフリーが徹底されていない。（マナー違反も多く利用しにくい）防災時は不安だらけ。（特に停電対策）障がい者であるための行政手続きが多すぎる。文化活動等。（特別コーナー等不要と思われる事もある）
ベビーカーを押すことが増え、改めて、車椅子での外出の困難さに気付いた。
障害者に対する偏見や同情（あわれみ）
行政手続きや書類が複雑に感じる。
・駅によっては、まだエレベーターがないところがある。・公共のトイレは、車イスで入れないところがある。
・障害のある方で、政治家になりにくいのでは？・盲導・介助犬を育成しやすくして、障害の方が生活出来るように
・全施設、建物がバリアフリーではないこと。
障害のある人へのいやがらせや、ヘイトスピーチなど

障害者と結婚などをしたい人はあまりいないと思うから。仕事場に障害のある人を見たことがないから（面接でおとされていると感じるから。）スーパーなどの接客でも障害のある人をみたことがないから。（やはり採用されないと感じるから）
学校での授業の受け方　施設の構造による行事、催し物への受入れ拒否
一線を引いている
歩道がぼこぼこしていて車イスには辛そう。また、歩道が狭い。
・保育所への入所拒否。・就労先の意識の低さ・障害者就労制度は変化したが中味はほとんど変っていないように感じる。工賃の低さ、職員の質。・震災時の受入れ施設量の問題。・障害種別における就労の差。
教育面で本人の希望する学校は状況を考えても回りの進めで断念せざるを得ないのが現実ではないかと思う。障害者の方々の事を詳しく知らないが為、このように考えるのかもしれません。
行政が下で止まっている。上へ行かない　時間がかかる。
知識不足のためインターネット等の情報を有効活用できない。スマートフォンなどの操作がうまくできない。
現実的に考えた場合、生活の場で個人的に持っている差別的な考えは、誰しも持ちあわせていて、表面化されなくても反映されている為、具体的に書きずらいと思う。たぶん（例えば）、子どもの入園拒否などがあるのではないかと思う。
実さいに自分のみじかで、感んじたのではないのですが、テレビなど、ニュースでみるたび、車いすで、学校へうけいれてもらえないとかを聞いたりすると、もっと行政側が、対応すべきだと思う。
・障害のある人が選挙に立候補したり当選したりということはほとんどない。・音楽会などでの車椅子用の席はあるにはあるがまだまだ少ない。
差別と云うより障害のある人に対してそこまでしなくてもと云うようなものトイレにしてもむだなものがあると思います。
社会体育大会や地域の交流にはほとんど配慮なく障害を持たない人しか参加していない。町内での行事では参加している人と会ったことがない。（参加しないという前提で物事が決まっており配慮しようという、意識ももっていない）
障害のある人ができない事やしてはならないとされてる事を、健常者のようにできるのではないかと思ってしまう。
「障害」といっても内容（程度）はさまざまです。それらを一現（元）的に等しく整備、支援することは難しいと思います。社会への参画についても、同じです。その中でも知的障害者（児）への偏見や差別は、私達健常者が住む社会に責任があると思います。
建物の段差・階段　道路（歩道）の整備…幅が狭い・傾斜・凹凸　限られた小学校でしか受け入れがない。中学校・高校（相当する学力があれば受け入れ？公立学校のバリアフリー化は？？）はなぜないのか？？
・電車に乗る時　・就学児の普通学級への入学

障害になった事もないので、人それぞれで、体の具合もよく分りませんが軽い人（見た目も分からない人が）→働らこうとしていない。医療費がいらない？→いいなと思う事もある。

障害を持った児童が地域の学校へ通学することが難しい。人的、施設的面で、まだまだ整えられていない。自分がケガをして公共の交通機関を利用した時、とても不便だった。そこから考えると障害を持った人達は、大変と思う。盲導犬、白杖についての事件、事故が報道され、驚いた。

防災の面で、健康な人でも逃げる時は大変だと思うのに、障害のある人達が１人で逃げられる（手段とか援助とか）のかなあと考えてしまう。労働の面で、働きたいと思う仕事につけないと思う。「働けるかな？」という範囲で仕事を見つけなければならないんだろうなと思う。

救急のたらい回し

就職活動では、門戸が狭い。一定割合しか採用しないので、かなり優秀で大きなコネクションがないとなかなか大企業で安定した仕事・会社には入れないような感じがする。家元もしっかりしていないとダメみたいな感じがする。

わからないけど、そうかなと思って〇を付けた

さまざまな障害。さまざまな差別。

視線や言葉でそれとわかる。本人が自覚なく発する言葉がすごく嫌です。

〇〇だから普通学級には入れないなど、希望している所にいくことが出きないから。障がいがある為に、保育園に入れることはできないと言われたから。

民間会社業ム

地域の学校に通えない

公的機関さえもバリアフリー化がすすんでいない　店舗などもバリアフリー化が整っている所は少ないと思う　例えば車をとめる所を車イス専用等と準備しても、車イスで駐車場を通るとガタガタだったり、入り口に段差があったりと何かチグハグでちゃんとしていないと思う

・障害者と買い物などで外を歩くだけで、表情にあからさまに出すような人がいます。別に危害を加えているわけもないのに何か特殊な物を見るようにじろじろ見られたりします。

差別と聞いただけで気持ちが良くありません。

教育現場で本人や家族が望む状況になっているとは思えない。※階段やトイレ、玄関の段差など。

障害者を対照とした社会になっていない

自分自身がいつ障害者になるかわからないので、差別はしていないのでわかりません。

健常者の視点からのバリアフリーであって、形だけの作りになっている

歩道の段差等

道路の段差。公共交通（バス．電車など）

・「身障」という言葉で見下す。・車イス用のスロープを設置したつもりでも急すぎて使えない。・車イス用の駐車スペースに自転車を置いてあったり、点字ブロック上に、荷物を置いたり、意識がない。・車イスを用意してある店でないと買い物に行きにくい。

差別の定義が良くわかっていないが、歩道やバス、電車ｅｔｃ、障害のある人が動きにくいようになっていると思う。

障害のある人に対しての無知、理解がすすんでいないため。

社会的理解も乏しいと思うし、生活のあり方も決して平等とは思えない

地震等の時の情報の伝わり方ｅｔｃ

建物のバリアフリーに関して、だいぶ整ってきたとは思うが、全ての建物がバリアフリーに対応しているわけではないので、少しの段差、階段の手すりがない等、で移動が困難になったりしていると思う。

やはり、就業する場所が少ない。金銭的にも支援する必要がある。

教育面では、障害者も一緒に、普通の教育を、同じ学校で学ばせてもよいのでは、と思う。職場では、客見、大事な事情の場合、障害者を、別な場所へ、移動させられていた。何かしら、不愉快に思った事がある。

健常者同士でもありますので同じだと思います。

自分より劣っていると思うこと。偏見で区別し、人に優劣をつけること。

駐車場での車イス標記　特殊学校

・道路の段差。視覚障害者のための道路（通路）が垣根に近すぎたり、車道側にはみ出ているところがある。・バリアフリーは健常者の視点でつくられているように思える。・心の内のどこかに差別をしているように思える（自分自身）

外見的差別

同等レベルの教育が受けれない

対応がおそい

例えば仕事・まず、入社試験を受けにくい。受けさせない。・試験に合格して入社したとしても、ハード的（建物ｅｔｃ）ソフト的（人の心ｅｔｃ）な対応がなされていない会社が大半。・待遇が一般社員と同等でない。→結局、辞めてしまう。差別を受けている人にしか解らない差別があると思うので今後相手の気持になって考えたいと思います。

結婚相手にもよりますが親・兄弟に障害がある人がいると相手先が、その事に対してどうしてもこだわる

障害のある人達は、両親がなくなられたら、どのような生活の場があるんだろうか？職場があるとしても自分で暮らしていけるんだろうか？

・障害者が学べる環境の場が少ない。・障害者を受け入れる会社が少ない。

差をつけること

社会的弱者に対する、言動や認識への理解が足りない。

・建物の出入口にスロープがないことが多い。・以前、赤い印のついた杖を使った人が、点字ブロックのない交通量の多い道路の端を歩いているのをみた。・学生時代、普通学級にいた生徒（耳がきこえにくい障害の人）が、翌年特別学級にうつった。（どのような経緯かはわからないが、同じ教育を受けていないよう感じた。）

健常者とは、一緒に活動するのは無理なものもあると思います。バスや電車での移動は、やはり制約があるのではないでしょうか。山のぼり等のレクリエーションも支援者や介添えがないとむりでしょう。そういうことを考えると露骨にいやな顔をする人も多いですから。
就職においてはやはり差別というか、難しいところはあると思う。実際どの会社も絶対に受け入れるというのはないのではないか。
１．程度の軽い人はなるべく普通の学校へ入学させても良いと思う　２．交通機関の設備はもっと改善すべきと思う
障害者には偏見で何をするにも遅いとか、賃金が安く使えるという感覚がある。
就労にかんしてはまだまだあると思う。
わかりません
情報がないのでいろんな行事に障害者を配慮した形を考えていない。
具体的に…とは難しいですが、例えば、ベビーカーを押して道を歩いたり建物の中を行ったりした時に、非常に不便を感じることがよくあります。ということは、車いすの人も同じでは？と思います。目や耳・身体の不自由な人が一人では出歩きにくい所ばかりだと感じます。
健常者目線でのルールづくり・社会づくりになっている。障害者に合わせるということは、ベースが健常者であるということ
公共機関、民間問わず、建物等健常者向けになっている。
社会の中で生活しにくいようにおもう
問１７のｂにあるようにすべきと考えるが、かなり高い壁があると聞く。
公共交通機関、たとえばＪＲやバスの乗車、駅の構内等でも、まだまだ不自由な面はあるのではないか。意識的差別というよりも、不便といったほうが適切かと思う。
スロープ、手すり、エレベーターがない所が多々ある。
道を歩く時障害者は不安がいっぱいあると思います。皆んなの協力があると良いと思います。
健常者側が障害者を「障害者」として見る限り、その生活の全てが差別であると考える。
障害者に対して何かがあっても避けてしまう。助け合う気持ちが少ないと思う。その他色々
同じ教育を受けられない。（知的障害者・精神障害者）体育系は、身体障害者は健じょう者と同じレベルの事が出来ない。どうしても、健じょう者が基準になるので、障害を抱えている人はつらい思いをする
体が不自由な方が利用しにくい施設。（結婚式場など）周りの人々の態度
ＴＶの報道等で精神障害者が事件を起こしたりすることが大きく取り上げられると、障害者＝恐いというイメージが付いてしまうので、マスコミ等の報道の仕方を考えた方がいい。
政治家で障害のある人を知らない。
トイレが少ない　エレベーターがない
世間の人達の視線が冷たいこともあるのでは…
交通の便等、過ごしやすい、行動等が出来る環境。世間の目。

私的に経験してないのでわかりません
「障害者」の為ではなく、行政の認可を得る為の設置であり、「障害者」が利用しずらい事が多い。
障害を持っている子供やその家族が自由に学校を選ぶ事ができない。
私もですが、普通に生活している場面で、障害のない人が中心の物の考え方や、交通（バス、歩道、信号など）になっていると思います。工事している所なども障害者にはとてもきけんに感じます。
多くの時間と多くの努力が無ければならない。そして技術も必要である。曖昧ですと差別に繋がるからです。
医療費や公共機関の料金免除
階段など昇り下りの手段
教育関係が違う
バリアフリー対応の建物・施設がまだまだ少ないと思います。
特別扱いをうけられる事も、ある種の差別であると考えます。障害の種類や、度合にもよると思うが、その人その人にできる事できない事が生じるのは、差別ではあるが、あって当然だと思う。
職場が少ない。
就労・教育
もう少し、車イスの方とかのために、道路、交通機関など、１人でもいろんな所に行ける様な、環境があれば良いと思う。
障害のある人が、集合住宅入居を希望しても中々入居が困難である。駅構内のエレベーターが少なく、案内も分りずらい。災害発生時、どのような支援で安全が確保されるのか地域で確認しておく必要があるが、取り組みは不十分と思われる。
ふつうの学校に入れない。
一緒に教室で学べない光景が浮かびます。難しいとは思いますが、その仕切りが除けない限り、差別として見なされると感じます。
車椅子で移動するには不便な段差のある建物や道路などまだまだあると思う。教育においても健常者と障害者が一緒に学ぶには無理な場合が多いと思う。障害の程度にもよるとは思うが…
知的の人と身体の人とは条件が違うので一まとめにはできない。
学校が別である
学校では、いじめ
制度上、構造上の差別というより、人々の心情に差別意識がある気がする。障害者が電車などを利用するのを迷惑と感じてしまうような。
障害者にとって、そうなんじゃないかなと思って〇をつけたので、具体的には、返答出来ません。
最近あった盲導犬の事件など弱者を傷つける最低な者はしっかり罰するべき

・車いすの方が外へ出ようとしても、歩道は通れないし、車道は危ない。何でそんな所通るの？と思われる。・普通の学校に行くと問題が生じる。
障害のある人という考え方自体が差別だと思う。自閉症のような（レベルによるけど）通常生活できる人間でも、障害として指定することで、周囲の人々まで、障害のある人と関連づけられていることがある。
その障害について理解をしようとしなかったり、信じない事から、対応がおうべになっている。
一般人の障害者への理解が少ない事。その為、障害者のメリットやデメリットを理解して社会や生活を変えていくことが遅いと思います。
市営住宅ならば流台が高い。また水道のいちも高い。
仕事の面では、簡単な業務しかできない
・これといった差別は思い浮かびませんが、学校の運動会などで、障害のある子がいると弱くなったりすると聞いたことがあります。
障害者を障害者とする事が差別、彼らは、不便でも普通にされる事を望んでいるのでは？ちなみにこのアンケートがすでに差別的。
教育関係での受け入れについて差別はあると思います。ただ、学校だけの事を考えると、１人につきっきりになるので、他の生徒にも影響がでることは、確実です。なので、やはり、そういう方の為の教育施設を充実させることが重要だと思います。
古い建物に登り降りや開閉のわかりやすさの配慮　そういった場所での活動実施
１人で交通機関を利用して外出する場合、誰かの手助けを必要とする。（すぐに誰かが手を借してくれる場合も多いが、精神障害等は外見からわからないので不自由を感じているのではないか）のではないか…その他は具体的には知らない
交通機関　特に駅、バスの停留所等に。
・偏見・理解不足からくる、いじめ、無関心
文化活動について、車イスの移動場所の確保、説明の為の映像時の字幕の徹底、イヤホーンの貸し出し等。
よくはわかりませんが、小学校などで教育を受けるには看護師がいないと受けれないと聞きました。
火災や地震の時に耳が聞こえない人が逃げ遅れたりしたこと。
・段差やトイレ等、バリアフリー化されていない所がまだかなりある　・障害のある方への対応がまだ十分ではない。教育、情報機器等の開発、研究。
企業が障害がある人の採用を積極的に行わなければならなくなった。という話は聞いているが、まだまだ自由に職業を選ぶことはできないし、採用枠も少ない。
具体的に表現するのは、むずかしい
盲導犬にらくがきしたり、ガムをつけたりするニュースを見てひどいなと思った。避難する時に、非常階段しかないイメージ。
公共の交通機関を本人だけではなかなか利用しがたいのではないかと思う。

町内の防災訓練は一般人対象としているが、障害の有る方も事前に把握し訓練内容を本人に伝えると共に安心感を持ってもらう事が無いのでは！！
具体的にはわからない。
整備されていない歩道が多いように感じる。（キレイに見えても段差があったり植え込みがあったりで危険が多い）障害をもつ児童は別の教室で学習していること。
できるだけ関わりを持たないように避ける。（無視するなど）障害者なので仕方ないという見解
障害者との関わりがないので、多少はあると思うが思いつかないです。
道路の段差、公共の場での扱いが差がありすぎる
障害者が、自由に出入りが来きにくいふんいきを出している場所が多い。
障害への理解が欠けている人がいる。テレビで盲導犬にケガをさせる人や目の見えない方が使用する点字ブロックの上に立つ方、そのような方が少なくなる事は難しいと思う。
障害とゆう名前だけで、病院へ行くと、先にゆうせんしてもらったりけど、私達はどのような障害とは、わかりません。障害本人は、自分が特別な人間と思っているんじゃないですか？私は障害の人たちも私達たちも同じ人間だと思います
道などの整備がまだまだだと思う。いろいろな障害があってもさんぽをしたり買物をしたりと思うのは同じだと思うのでだれにでもやさしい街を作らないといけないと思う。
思うように自由な活動ができないこと。
災害時に障害者のためのヒナンの経路がはっきりしない。
あまり重度の障害でなければ社会人としてあつかえばいいと思う。

■本調査に関して、ご意見などございましたらご記入ください。

在日特権を廃止して欲しい。差別を利用している在日の人が許せない。学校の教師が、日本人を差別している現状が許せない。そんなに日本が嫌いなら日本から他国へ行ってもらいたい。市役所に勤めている人の態度が許せない。一般の人を差別している態度。どれだけ赤字でも給料が減る事がほとんどない公務員が許せない。

お疲れさまです。

調査＝結果→対策＝判断→明るい社会＝幸福　ありがとう！

長い。

アンケートに要する費用、集計に要する時間などをボランティア活動などに回わされては…

今私は障害施設で調べている事があります。今は話せませんがギ問点がいくつもあります。でも一個人としては何もできません。アルミ缶やお祭りがあった時に少し手伝いをしています。どのようにしてかかわっていくか考え中です。いい時に調査表がきてよかったです。

むずかしい質問があって答えにくかった。答えた後で、解説的な文章があると理解が深まる

障害に対して真正面から向き会い考える機会が幸い（？）な事に無かった。しかし社会全体として考えるともっと理解、勉強しなければならない事が多いと思った。

以前仕事をしていた時（１５年程前）に、今で言う発達障害の男性の方がいました。周囲は大変でした。本人もなんか自分はおかしいと思っているようでした。今、どうしているか分かりませんがＬＤやＡＤＨＤという名ギあると知らせてあげて、ケアできていたら良かったと思いますし本人もまわりも辛くなかったですね。（重大なミスをおかしてクビになりました。）ママ友（ＡＤＤ？）とそのお子さん（自閉？）かも？と思ったのですが、本人に告げるのもむずかしいですね。ぱっと見外見で分かりませんし、今、おつき合いないですけどどうしてるのかなぁと思います。育つ中で、逆に目立たなくなるのかも？と思ったりしました。保育士も意外と知識がなくて驚きました。自閉症は同級生で近所にいましたので本を読んだり調べたりしていました。そこからＡＤＨＤなどに関連して知るようになりました。

・むずかしい言葉があった・ややあてはまらない選択肢があった

個人及び名簿の徹低管理をお願いします。白山市でのよりよい施策をつくり上げそれを実現、実践して下さい。意識のもちかた一つで、モノの見え方も、行動も大きく変わってくると思います。よりよい白山市になるような研究成果を必ずだして下さい。

行政は民間のサービス業や伝統行事の地域の日を配慮してほしい。一方的に日程をきめて少ない住民を市の行事のために市民を参加（うばって）行ってほしくないです。細やかな心づかいをお願いします。年間の地域の伝統的な行事のあらかじめを知ってほしい。お願い致します。

差別に関係するかどうかわかりませんが、よく、犯罪をおかした人が、刑事責任能力の有無により、罪に問われない事がありますが。そういう責任能力が無い犯罪をおかした人は、一般社会にもどっているというのは問題なのではないかと思います。

白山市が障害福祉に対して、どのような町づくりを実践したいのか、今後明確なビジョンを示し、ある程度のゴールを目指すよう、また、町民、市民にわかるようにしてほしい。

設問が難解であり、もっとわかり易い方がよい。

身近にいなかったせいか、障害・福祉に関して、ほとんど関心を持たずに来てしまいました。そのため、専門的なことは、分かりませんでした。調査結果を大大的に公表するなど、目や耳にふれる機会を多くする。

私は、遠方に障害者の両親と妹を持ち、自身の子供には不幸があり、３人のうち２人を失っています。障害者のことをもっと理解したいとは思っているのですが、日々の仕事に追われ、できません。内心、困っています。

この様な調査を時々してほしい

質問の目的が理解できないものがありました。

障害についてのアンケート、とてもむずかしかったです。一番近いものに〇をつけて答えましたがよく考えると、回答と本心がちがっているものもあるかも知れません。

２ページ記載の多数の障害郡の解からないものがあり多少の解訳があれば良いのにと感じた。この調査がどれほど効果があるのか？

障害者の目線で考える事と関わっていない第三者が考える事、どちらの立場で考えるかで、回答が変ります。

障害の持った子供の親から国から保障があるから何も心配ないと聞きました。あまりそう言事は言いたがりませんから、私も普通に付き合っています。心は開いてくれません。

障害のある人に対する差別についての問１８が難しかった。このアンケートから何がわかるのかなと思います。

最初の方の質問は学童の指導員として、答えていたので職業をそれと記しましたが、本業は石彫家です。兼業の方も多い昨今、職業の質問は最初でも良かったのでは？

障害に対し、努力していただいて、有難く思います。一人でも多く障害に理解を持つ人が、ふえればと願います。・アンケートとは、一つのボランティアだと思います。ボランティアには、見返りは、無い事だと思います。ただ、アンケートの場合は、一生懸命、真剣に考えていると思います。意見だけ聞いて、結果を報告しないのは、平等、差別の点から、いかがなものかと思います。結果はけっこう気になるものです。

項目が多過（高令者）

考えさせられる問題が多かったです。

この調査であたり前の事でも忘れている事わからない事思い出して考えさせられる事がありました。

・とてもむずかしかったです。（時間がかかりました。）・もう少し簡単だとよかったです。

少しでもお約に立てればよろしいですが？

アンケートが難しすぎる。基本的な言葉の区別がつかない　発達障害、精神障害、知的障害の区別がつく人がとれだけいるのか？（多分、１割もいないと思う）「差別」という語の受け取り方が人によって大きく異なると思う。とてもきつい表現ととる人とさほどでもない人がいる。このアンケートにおける「差別」の定義を書いておけばよかったのでは…

つい最近、障害者支援施設で障害のある人たちと関わる機会がありました。関わる前は障害のある人には不安等を抱いていましたが、関わるととても優しかったです。しかし、自分でできない事も多く、やはり職員の手を貸りなければいけない場面も多くありました。入居者に対し、圧当的に職員の数が少なかったです。職員の方々は体力も使うし、とてもキツい仕事なのに低い給料ということも、この仕事が選ばれない理由かもしれないと言われていました。障害のある方を支える人達を支える事も大切だと思います。

私の考えがお役に立つとは思えませんが…まわりに何人かの障害を持った方がおられます。話とかはよくしますが、何かをしてあげたことはありません。どうしてあげたらいいのかがよくわかりません。そのような人がたくさんいるのではないでしょうか…

段々年になって、字を読む事、字を書く事が“うとく”なってきて意見を書く、これが一番大変。使ってない頭をふりしぼって頑張りました。宝くじも当らないのに、抽選で当った、こんなうれしい事はない。本心は当らないでほしかった。

障害者も自己管理出来る様な世の中、背身のせまい思いをしなくてもよい気持的に平等な世の中になることを望んでいます。

今回本調査に回答して関心がないわけではなかったがわからない言葉など多くもっと地域のつながりの家などに参加できればと思いました。

障害者になろうとしてなる人はいないと思いますので、障害者には、国、県、市の補助は必要だと思いますが、最近障害者？が、小学生をバラバラにした事件がありましたが、同じ小学生の子供をもつ親としては、殺人の罪が、障害者というだけで、とわれないのは殺された側からするといたたまりません。障害者に対する社会的に平等にするよう保護されることは良いのですが、障害者といえども罰っする法改正はすべきかなと思います。本人は罪の意識はないにしても。本当の人としての平等という社会をつくるならそう思います。

子供の中１の時小学校からの友達Ａさんが他の生徒からの心ない言葉で学校に登校できなくなり、Ａさんは娘となら話が出来ると言われたので休み時間などに会いに行っていたのですが、ある日どうしても行けなくて（自分のやりたいことがあって）あとで、先生から「どうして行かなかったの！だめでしょう」って言われ「どうして私だけが注意されないといけないの？」と悩んでいました。後日いっしょに学校に行って「娘をたよるのはどうでしょうか」先生は娘にまかせる様に思うが、それって先生は関わりをさけているとしか思えませんって抗議しました。今でもＡさんのお母さんを訪ねて色々話を聞く事にしています。心身の悩みはここで終わりはないのです。ずっとずっと続くんです。しかしどこかトンネルの出口を見つけて前へ進むかそれをサポートしていきたいと思っています。

障害福祉について無関心でした。これを機会に障害のない家庭である事に感謝させていただきます。又皆様方の御苦労も思いました。

自分の力でどうしようもない人々が少しでも助けられるような、社会になる手助けになるよう祈っています。

自分があまり、障害福祉に興味関心なく無知だということがわかりました。アンケートは、むずかしかったです。

すべての人は１人では生きられないと思います。自分の権利ばかり主張するのではなく、ハンディのある人も、そうでない人も、１歩さがって感謝の気持を持つことができないかなぁ…と思います。

何かと質問に答える部分があり時間がかかった調査でした。

難しい質問ばかりでした…。

今まで生きた年月で障害をもたれる方と全く交流のない当方ではアンケートが無意味か！！アンケートルートを検討すべき。介護関係なら親が大半発生するので詳細データーがとれるかも以上。

かなり長い期間ある民間の施設と関りを持ってきた方だと思います。毎年毎年施設が拡充され、収容人員が増えるにつけ、周辺では、必要以上にそういった施設をあてにしたり、中には生まれてきたら、この施設にへといったとんでもない話まで耳にしました。毎年、関係者の一人としてイベントには必ず参加していますが、最近は実に複雑な心境です。

障害者の実態があまり分からない。障害者への感心が自分にあまりない

これ迄障害者のお子様を連れているお母様を見かけるとお気の毒にと思うだけで障害福祉に関する知識・意識などまったくありませんでした。お恥ずかしい限りです。偶然にもこの様な調査の対象となり初めて知る障害の多さにも驚き同時に自分自身関心を持って広報等にも目を通したいと強く感じている次第です　何の意識も意見も無い自分でしたが障害者に対する福祉等の向上を願います

日頃考えてもいない事に対しての質問なので、とまどいが多少あります。以前も似たようなアンケートに答えたことがある。前回も今回同様に無作為に選んだと書いてあったが、同じ人にアンケートがいっているのではないか。急にこんなものが来て、返答期限が１０日程しかなく正直困ります。

むずかしい質問が多かったです。条件や状況によって回答が変わる気もするし、個人の意見というより社会にあるかどうかというのも判断がむずかしかったです。自分も勉強しないといけないなと感じました。

コンビニエンスストアなど、する事がたくさんあるのに賃金が低かったり、仕事に見合った給料がもらえなかったりするので、仕事によっての最低賃金の見直しをしてほしい。

返答の仕方が難しい。場面場面によって、ｅｘ．障害の等級によって考え方の違いがあると思う。

障害のある人が住みやすく、生活しやすい環境になる様に、このアンケートを役立てて下さい。アンケートに使用している紙も大事なお金が使われています。無駄にならない様、人力を尽くして下さい。

質問の内容がむずかしいので高齢者（７４才）には無理な感じがします。

頭がいたくなった

少しでも楽しい健康生活が送れる様にして下さい。

調査やアンケートで無作為抽出で良くあたるが何故でしょう。その割には宝くじ等がまったくあたりません！

具体的に書くは、やめて欲しい。

意識調査ご苦労さまです。

調査結果を選ばれた方へ教えてほしい。

この調査がムダにならないように、活かして下さい。

長い！！白山市の障害福祉施策づくりがよい方向に進みますように。お疲れ様でした。

貧富の差や生活苦、すべてを政府になんとかしようとしてもらおうとするのは、社会主義国家への道で危険だと思う。一人一人に自助努力の精神を持ってもらうべき。ただ、障害者の方への社会的フォローはあって当然だと思う。

アンケートを通して、自分の無知さを知らされ、も少し世の中のことに目を向けなければと思いました。

人世２／３は主婦で過し今少し後期高齢者と関わっているのですごくむずかしかったです。

ご協力できる回答が出来なくて、申し訳ありませんでした。子供が小さい時などは、周りに障害の方がいなかったことが多かった為目をむけることがなかったのですが、自分にも予裕ができ、仕事をしていると見かけたりすることはあっても協力して何かをすると言うことは、ありませんでした。子供たちの方が、同級生や同じ学校に障害の子がいることで、何かをしてあげたり、一緒に何かをやりとげると言ったことなどあると話をしたりすると聞かされていました。いい大人なので、少し、目をむけていくことができればと思ってます。

悪いなくて、生活が良いをのの望んで、特別な人の群れに関心を持ちます。

ムダなアンケート

・結構、精神的に疲れ、考えさせられる調査でしたしかし、この様なことが無ければ、普段考えている様で案外、意識していない。自己保身の生き方であることに思い到ります。

今回の調査で自分の無知を改めて思い反省しております。そのため、「どちらとも云えない」部分が多くなりました。

・十分な回答が出来なくて申し訳けありません。身内とか近辺に障害を持った方がおいでないのでわかりかねる事が多くすいません。・もう少し障害者又は、家族の方々とのふれ合いたとえば、介護の仕方とか、話しかけの場等々

障害者との仕事したり、会ったりしたことがないのでわからなかった。

質問が多過ぎる。提出するのをやめたくなった。日々の生活で手一杯なのだ。そんな人が多いと思う。自分のことで手一杯。他人のことまで、やってられない。ましてや、面倒な人たちのことなど…というのが世の中だろう。民間、政府がしっかり守ってやらなければ、と思う。思うだけだ。自分でする余裕はない。（介ゴの必要なとしよりを２人かかえている）

誘導尋問のような質問でした。

この様な調査は、もっと回数を増やして積極的に行って下さい。これからも社会福祉への取り組みを頑張って下さい。

質問の内容が分かりにくい。※問２７の未成年は、たとえば、５才と１９才では、答えは、違ってくる。※すべてにおいて、このような、質問がおおい。

白山市の広報やホームページで、今回のアンケート結果（回答数／依頼数）や、分析結果を、必ず、公表すべきと思う。ただ、「福祉」という言葉は、「福祉」を謳う業種、業界では、収入源となるものかも知れないが、その分、「福祉」業界と違い業種の人間からは、税金を投入する支援（＝税支出の増加や、負担）として、自分達の支出した（納入した）税が、総て、有意義なものばかりとは感じ難い違和感もあります。このアンケートを含めて。

サンプリングの対象者はランダムに選ばれているそうですが、年令、性別等により回答が片よると思われます。可能な限り年令、性別を固定したアンケートを取った方が、今後の対応に良くなると思います。

質問が難しかった。

「差別」というのが具体的によくわからなかった。もう少しわかりやすい質問にしてほしい。

質問が多すぎます　質問も難しすぎました。

何気なく過して来た日々が考える事をまた当えてもらった様な気がします。でも私には大変重い課題でもあり、無責任に生きて来たように想いました。ありがとうございました。御苦労様。

障害福祉がより向上することを期待しています。

アンケートの機会を与えられ、私の意見を少し述べたいと思います。私の回りにいわゆる障害者といわれる方はおりません。しかしその生活や現状を目にすると家族の心情は理解することができます。本人にとっても家族にとっても将来安心して生活できる場所が必要だと思うのです。私は生涯施設で暮らせるような施設環境を国が作るべきと考えます。親がいくら子供の事を気にかけても最後まで面倒を見る事ができないからです。私達健常者は努力すれば生活はしていけます。よりよい未来がくることを願っています。

障害と云っても一言でかたづけていましたがいろいろある事がわかりました。私も現役で働いていますが差別、偏見はすこしでも改善されれば良いと思います。又その心を持つ事が大切かと思います　ありがとう。

回答の結果を支障のない範囲で知りたいです。広報の形で是非お願いします。

この調査がどんなところでどう有効に活用された（されている）のか結果・報告がほしいと思います。このアンケートを書いているうちに、自分が「障害者」と言っている呼び方がすでに差別のような気がしてきました。もっとちがった呼び方があるといいなぁと思います。

平等、差別の有無は、その人の心境によって相当の変動があります。天から与えられた生命を感謝して生きている人にとっては、この現象界における多少の不平等はほとんど気になりません。物質的、現象的な豊かさだけを求めていては、いつまでたっても平等にはなりません。心の豊かさを求めることが大事です。ここには精神、心に関する質問が全くなかったのは残念です。人は物質だけで生きているのではないのです。

個人を特定できないかもしれないが絞り込みが可能な質問が気に入らない

しっかりと分析を、お願いします。

障害者の人が失敗するとばかにしてあざ笑いしている人がいます。誰も障害になりたくないのに！私は手がふるえて字があまり上手に書けません　ごめんなさい

今までの質問で、何が、どうなるというのか、わかりません。こんなものではなく、シンポジウムなどで意見交換した方がいいのでは？少なくとも、私に来たのは、ムダなお金だったと思います。

つかれました

回答の集計だけに終らず前向な社会となる様発信してほしいです。

毎年調査したら大変良いと思います

差別の言葉に異和感有り、判談しにくい。たゞたゞ世間知らずの自分が浮きぼりになり、失礼しました。

おくれてすみません

障害のある人について助けるための法律があることをこのアンケートによって初めて知りました。

知らないことが非常に多いことに気付きました。

質問項目が多すぎる。

前半は身体、精神、知的障害者のアンケートでしたね、視野の広い方が沢山いらっしゃいますねとても感心してます。障害者の方もね‥でも私の身近にいなかったのであまり感心がなかった。申し訳ないです。私達夫婦高齢者になるので介護のことなどいろいろ、気なり、講演・研修には行ってます。

調査を通して皆の生活が少しでもより良いものとなりますように

障害福祉に関しては、白山市は、まだまだ底いと思います。年金暮しには住みにくいと思います。田舎と団地の人の社会的に少し、地域てき差がありそうです。障害者に対して普通に接していくこと。女性の希望を抑え込む封建的な体制は戒めるべき

自分は障害の人について、あまりにも分かっていない事を思い知りました。ありがとうございました。

精神障害については、別に考えた方が良いと思われる。

障害をもっておられる方の私達や、社会に対して、どんな事を、感じているのか、思うところは、いろいろあると思いますが、本音を聞かせてほしいです。

今日まで健全でこれましたが、この調査で考えさせられました。障害のある人、係わっている人に協力できればと思います。

とても難しいです。自分にとって近くに障害の方がいないので深く考えた事がありませんし、良くわかりません。最近はイベントなどに家族の方が連れて来られるのを見てオープンにしているのがわかります。少しは出やすくなっているのかもしれませんがまだまだ色々と大変だと思います。そうは思ってもなかなか自分から、手助けになるような事には参加出来てません。

少しでも役立てば良いと思います。

障害福祉に関して、私はもともと知識がありません。そのような機会がなかったからだと思います。知識不足（問１９など）のため、選択肢から選べない質問もありました。選択肢をもう少し増やしてみてはいかがでしょうか？

正直、調査をしてからどうするのか、という目的が今ひとつ分かりませんでした。関係ないのでは、と思う項目や、答えを少し誘導したいのではと感じる質問もありました。番号を選択するのではなく具体的に書かないと答えられない、と思う項目もあり、困りました。以前、金沢市の知人の息子（小学生）が学校で問題を起こした際に、先生から発達障害の検査を受けるよう何度も言われていました。どの管轄から指示を受けたのかは分かりませんが、そういったことのない市であることを心から願います。

自分自身が障害福祉に関して知らない事が多すぎ。質問内容が抽象すぎて理解しづらかった。障害の程度によって答えが変わる問いがいくつかありました。

障害者と云われても目に見える人もいれば、この人がと思うにとがある。区別がわかりません。

貴重なアンケートに参加させて頂き有り難うございました

障害者だけではなく、私は未婚の母ですので、今まで世間から厳しい目で見られ、息子が結婚してやっと普通に生きられました。仕事は頑張って休まずやってきました。社長などに認められ、温かくして頂き感謝しております。やはり、人間関係で良くしてもらうと頑張れるので、会社にも長くいます。障害者の方の良い所出来る事を見つけ、仕事が出来る様にしてあげて下さい。障害者の方の訓練も必要だと思います。差別はどこにでもあります。

お仕事お疲れ様です。障害者も健康な人も共に助け合って住み良い白山市、石川県、日本と輪が広がっていきますように願っております。

設問が多いです。年収の問はいるのでしょうか？

質問の真意について、いまいちわからない問がありました。簡単に、一言で答えられる問題ではないので、答えが選びづらく困りました。

少し項目が多いように思います。高齢の方には難しいと思います。

障害者福祉向上に役立てて下さい。

調査の言葉が（すべてとか〇〇べき）決つけた言い方かたい言い方で記入しにくい所が多かった。この調査も？を感じます　投函するの遅れました　ごめんなさい

アンケートの項目が多すぎるので、もう少し的を絞った方がいい。

少ない年金から介護保険引れ仕事しなくなったら年金少なくなる。ストレッチや体操などして、体に気をつけて、介護受けない人は、保険やすくしてほしい…！！努力した人にもなにか考えてほしい…！！

普段考える事がなくこれを機会に深く考えるようにしたい。

障害福祉に関するアンケートだと思いましたが、それ以外の項目もありこれがどう障害福祉とどう関係するのか疑問に思いました。

健常者が障害のある方の気持ちを理解することはできないと思います。また、障害者の方の気持ちも“障害者の意見”としてくくることもできないと思います。健常者であれ、障害者であれ、１人１人の気持ちを尊重する事が大切なのではないかと思いました。私の力でできることはほんとに小さな事ですが、障害をお持ちの方と会う機会があったらその方の求める事を理解するためにまずはお話をしてみたいです。

少しでも前進して、現在よりも良い状態に進み、そして日々見直し、改善する。ノウハウを高める。そして数多くの意見より、いろんな角度から見て、実行にうつして行っていく事が大事です。自分、障害者、社会、全てに大事です。

ご苦労様です。

健常者でも悪賢い奴もいるし良い人もいる。障害者でもそれを利用して必要以上にゼイ沢をしている人もいる！！どっちもどっち。例えば車椅子！！カーボンなんか必要も無いと思うのに援助金が出ると言うので高額の椅子を作くる。そんな物に援助金が使われる

書面の選択での回答はむずかしいです。もし、公開聞取り調査等あれば、ご協力いたします。散文、誤字等、ようしゃ下さい。

調査内容について、知らない事が多くありまして、自分自身が大変、良い勉強になりました。今後とも、この内容等々について、学んで行ききたいものと思ております。有りがとうございました。

どちらかと言えばいやなアンケートでした。迷惑です。

国が障害のある方に対して、もっと考えてやるべきだ。自分の家族には障害のあるものはいませんが、障害のある方の家族は、本当に大変だと思います。国は家族の方に対しても考える事が必要だと思います。

今までいろんな調査の書類書いてきましたがこれ程真剣に書いた事ございません。大変勉強になりました。

お疲れ様です。

障害福祉及び差別に更なる理解を求めるため、政府、自治体が最大限にバックアップしていく必要があると思います。その場におかれた方の立場になって考えてみると良いのではないでしょうか！

自分が何も知らないことがわかった。

福祉について、考えることが出来、いい勉強になりました。ありがとうございました。

障害福祉について日頃考えてこなかった自分が、質問に応えていいのか疑問です。提出が遅れ申し訳ありません

問３７について　子供夫婦と同居していますので分かりません

むずかしい質問でした。１０／１４までに返送しないですみませんでした

障害者に対しては、子供や親が当事者でないと関心がうすいのではないでしょうか。近所に知的障害の人はいますがそんなに外に出ていないように感じるので普段関わりはうすいです。すべてに答えましたが専門用語が多くてよく分からなかったです。

障害に対して理解してない部分があるので、解答するのに時間がかかりました。高齢者については、近所にいるおじいちゃんおばあちゃんが、施設に入られて、どんどん姿が見えなくなるのが、とても、つらいことだなと思う昨今です。

この調査が有意義なものになることを期待します。

本調査が今後の障害者の生活に役立つ事を願っています

新聞、ＴＶのニュース等よく見る方だが、知らなかった事が多かった。自分と関係ない法律なんて知るわけがない。だが、もし少しでも関係するなら知らないのはおかしいし、知らせるべきだと思う。

障害者にもレベルがあり、どのレベルを想定するかで結果が違うと思いました。ボランティアをしているとの事ですが、会報ｅｔｃに載せるだけでは目を通す人は催かであり、本気で取り組むべきだと思います。

おそくなりました。

むずかしい質問も多く、考えさせられました。また改めて障害者についてじっくりと考える時間がもて、よかったと思いました。

アンケートされる側を無視した、答有りきのアンケート。つまりワクの中への誘導が多い、アンケートに、真実が反映されない。これを元に何をするのか？

本調査の中に知らない事がありましたので障害福祉についての講習会等もあってもいいかなと思いました。高齢者のためインターネット等はむづかしい面もあります。

質問が多い。

収入の程度により社会生活への参加は制限されると思います。自分の事だけを守るのに精一杯です。

身近に障害を持つ方がおらず、あまり関わることがないので、この問題についても深く考えることがありませんでした。質問もよくわからず、どう答えていいのか悩むこともありました。あてはまらないものは、どちらともいえないに〇をつける形に…　これを機会にいろいろと考えてみたいと思います。遅くなって申し訳ありません。

アンケート、参考になれば嬉しいです。ありがとうございました。

調査結果がいつごろどのように公表？活用されるのか興味があります。共生社会、福祉政策推進が加速するよう願っています。

障害と一口に言っても種類や程度にも差があって、自分の考えと選択肢が合わないと感じるところがありました。

お金のある家でも障害のある人がいて、金銭的な援助があるのは、おかしいと思います。どちらともいえないに丸をしましたが、わからないが解答の記入もあります。質問が難かしい。

少しでも、参考、改善につながれば、いいです。

・参考になるかわからず、申し訳ありません。また、投函も遅れてしまいすみませんでした。

身体障害者にも障害にレベルがあり、障害者内にも不平等差があると思うので、平等に保障できるといいと思います。

調査をして、何か変われば良いのですが。

どうして私がアンケートをとることになったのかわかりませんけど、アンケートを書き、読み、少しでも日本とゆう国が暮らしやすくなれば、いいと思います

資料提出が遅く成りましてすみません。日々色々と、急な用事事や、郵便物の確認をする事が。おろそかに成っていまして、申訳有りませんですが参考に成りましたら宜敷お願い致します。

障害のある方とのかかわり、差別などとてもむずかしい長い間の問題だと思います。私の息子も斜視で生まれて手術などもうけましたが小さい時は公園に行ってもきもち悪いとかメガネをかければ“メガネザル”などいろいろ言われて来ました。なかなか人とちがう所がある人にとってはとてもつらい世間だと思います。
若い人達の荷物にならないよう元気ですごしたいと思います。
社会に一言。もっと給料をふやせ！大学生にも一言。今すぐに行動に移るべき。

執筆者紹介

田邊（たなべ）　浩（ひろし）

金沢大学人間社会学域地域創造学類教授

岡本（おかもと）　惇太（あつた）

地域創造学類福祉マネジメントコース３年

窪内（くぼうち）　綾（あや）

地域創造学類福祉マネジメントコース３年

渡辺（わたなべ）　健太郎（けんたろう）

人文学類人間科学コース社会学専門分野３年

杜（と）　林（りん）

人間社会環境研究科地域創造学専攻博士前期課程１年

白山市差別のない街づくり調査報告書

2015 年 3 月 31 日　発行

編集・発行　田邊　浩

〒920-1192　石川県金沢市角間町

TEL・FAX：076-264-6002

http://kudmw.w3.kanazawa-u.ac.jp/index.html

印刷　田中昭文堂印刷株式会社

〒920-0377　金沢市打木町東 1448 番地